

**令和4年度
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
【結果報告書】**

**令和5年3月
大田原市**

目次

I	調査の概要	3
1.	調査の目的	3
2.	調査対象者	3
3.	実施方法	3
4.	回収結果	3
5.	報告書を見る際の留意点	4
II	調査結果の総括	7
III	調査結果 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査	13
問1	あなたのご家族や生活状況について	18
問2.	からだを動かすことについて	26
問3	食べることについて	42
問4	毎日の生活について	52
問5	地域での活動について	72
問6	たすけあいについて	82
問7	健康について	91
問8	認知症にかかる相談窓口の把握について	100
問9	介護保険事業・高齢者施策について	102
問10	在宅医療について	110
問11	成年後見制度について	119
問12	ICT機器の利用状況について	120
IV	生活機能判定結果	127
1.	介護予防のための生活機能判定結果	127
2.	その他の生活機能判定	136
V	資料編（使用した調査票）	145

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査の目的

大田原市では令和6年度から令和8年度までを計画期間とする「大田原市高齢者福祉計画・介護保険事業計画第9期計画」の策定に向けて、高齢者の方の生活状況や支援サービスの必要性等を把握するための基礎調査を実施することにいたしました。

2. 調査対象者

令和4年10月1日現在、市内在住の要支援認定者、一般高齢者を対象として、住民基本台帳等より対象者を抽出いたしました。

調査区分	調査対象者
介護予防・日常生活圏域二一ズ調査	<ul style="list-style-type: none"> ●65歳以上の要介護認定を受けていない高齢者 ●65歳以上の要支援認定者

3. 実施方法

- 調査地域：大田原市全域
- 調査形式：アンケート調査
- 調査方法：郵送配布・郵送回収
- 調査期間：令和4年11月21日～令和4年12月20日

4. 回収結果

調査区分	配布数	回収数	回収率
介護予防・日常生活圏域二一ズ調査	5,000件	3,461件	69.2%

5. 報告書を見る際の留意点

- 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点第2位を四捨五入して小数点第1位までを示しているため、比率が0.05未満の場合には0.0と表記しています。また、合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答の設問の場合、原則として、その項目に対しての有効回答者の数を基数とし、比率算出を行っているため、回答比率の合計は100.0%を超える場合があります。
- 図表中の「n」とは、その設問の回答者数を表しています。
- グラフは、見やすさを確保するため、構成比3.0%未満の数値は割愛している部分があります。
- クロス集計については、属性情報を得られなかった回答があったため、全体の回答数と属性別の回答数の合計が一致しません。
- 本調査の日常生活圏域は、下記の住所で分類しました。

大田原圏域	紫塚圏域	西原圏域	金田北圏域	金田南圏域	親園圏域	野崎圏域
山の手1丁目 城山1丁目 城山2丁目 元町1丁目 元町2丁目 新富町1丁目 新富町2丁目 新富町3丁目 中央1丁目 若松町 富士見1丁目 富士見2丁目 若草1丁目 若草2丁目	山の手2丁目 中央2丁目 住吉町1丁目 住吉町2丁目 紫塚1丁目 紫塚2丁目 紫塚3丁目 紫塚4丁目 本町1丁目 本町2丁目	末広1丁目 末広2丁目 末広3丁目 美原1丁目 美原2丁目 美原3丁目 浅香1丁目 浅香2丁目 浅香3丁目 浅香4丁目 浅香5丁目 加治屋	中田原 町島 荒井 岡 今泉 戸野内 富池 市野沢 練貫 羽田 乙連沢 小滝	北金丸 南金丸 上奥沢 奥沢 鹿畑 倉骨 赤瀬 北大和久	親園 実取 滝沢 滝岡 花園 宇田川 荻野目	上石上 下石上 薄葉 平沢 野崎1丁目 野崎2丁目
佐久山圏域	湯津上圏域	黒羽圏域	川西圏域	両郷圏域	須賀川圏域	
佐久山 藤沢 大神 福原	狭原 小船渡 湯津上 佐良土 蛭畑 蛭田 新宿 片府田	黒羽田町 前田 堀之内 北野上 八塩 北滝 片田 亀久 矢倉	黒羽向町 大豆田 余瀬 蜂巢 桧木沢 寒井	中野内 河原 両郷 寺宿 木佐美 大久保 久野又 大輪 川田	須佐木 須賀川 雲岩寺 川上 南方	

Ⅱ 調査結果の総括

II 調査結果の総括

【家族や生活状況について】

家族構成については、「1人暮らし」は80～84歳で大きく増加し、男性に比べて女性の方が4.3ポイント高くなっています。この背景には寿命差による死別が原因の一つと考えられます。厚生労働省発行の令和3年簡易生命表では、平均寿命は男性が81.47歳、女性が87.57歳となっています。

介護・介助が必要かの設問では、「介護・介助は必要ない」は平成28年度調査・令和元年度調査と段階的に増加しています。本市の介護予防の取り組みの効果が出ていることが伺えます。

現在の暮らしが経済的に苦しいと感じている方が令和元年度調査に比べ6.2ポイント増加しています。影響の一因として昨今の急激な物価上昇やコロナ禍が考えられます。

住まいの種類については、「持家（一戸建て）」が88.8%となっています。総務省統計局の「社会生活統計指標－都道府県の指標－2022」より栃木県内の持ち家率（2018年データ）が69.1%、大田原市内の持ち家率が66.9%となっているため、これらと比較しても対象の高齢者の持ち家率は高くなっています。

【からだを動かすことについて】

運動機能の判定項目については、多くの項目で改善がみられます。本市の介護予防の取り組みの効果が出ていることが伺えます。ただし、転倒に対しては「不安である」と回答している方が増加しており、コロナ禍による外出機会の減少により、歩行数が減ったことなどが背景にあるのではないかと考えます。

外出については、外出を控えている、外出の回数が減少したと回答している方が増加しています。外出を控えている理由についても、「その他」の回答が最も多く、中でも新型コロナウイルス感染症対策を理由にあげる方が非常に多く見られました。

【食べることについて】

栄養状態については、BMI判定でやせ（18.5未満）の増加や6か月間での体重減少がみられる方が増加しているため、低栄養の方が増えているように見受けられます。ただし、一方で肥満（25.0以上）も減少しています。栄養状態については、各個人により目指すべき目標が異なるため、一概に悪化しているとも言えない状況にあります。

口腔機能の判定項目については、多くの項目で悪化がみられます。一方で、歯磨き習慣や入れ歯の手入れなどは令和元年度調査から現状維持となっているため、別の部分に原因があると考えられます。原因の一つとして、コロナ禍のマスク生活による口腔環境の悪化が影響しているのではないかと考えられます。

【毎日の生活について】

認知機能の評価項目については、令和4年度調査と同様の結果となっています。男女差はあまりなく、年齢が上がるほど該当者が増えていることから、加齢による影響が大きいと考えます。

手段的日常生活動作（IADL）の評価項目については、多くの項目で改善がみられます。本市の介護予防の取り組みの効果が出ていることが伺えます。

知的能動性の評価項目については、多くの項目で悪化がみられます。また、健康への関心の低下もみられます。新聞や本・雑誌などを読んでいるかの評価項目については悪化となっているものの、情報源が多様化する社会においてネットニュースやSNSなどからの情報取得も考えられるため、そのような社会背景の影響も考えられます。

趣味については、「思いつかない」が令和元年度調査より3.1ポイント増加しています。背景には、コロナ禍で集まって何かをすることが難しくなっていることも影響していると考えられます。また、「趣味あり」と回答した方の回答結果の項目分類では、「工芸・園芸・手芸」「スポーツ」が高くなっています。具体的な内容としては、男性では、ゴルフやグランドゴルフなどの体を動かす趣味、女性では、手芸やガーデニング、家庭菜園などの何かを作ったり育てたりする趣味が多い回答となっています。

生きがいについては、「思いつかない」が令和元年度調査より3.6ポイント増加しています。また、「生きがいあり」と回答した方の回答結果の項目分類では、「交流」が高くなっています。具体的な内容としては、男性・女性ともに子どもや孫、友人との交流と回答している方が多いため、コロナ禍等により交流が途絶えないようにすることが大切だと考えます。

【地域での活動について】

地域の活動への参加状況については、軒並み減少しています。背景にコロナ禍があるため、参加者減少となっているものの、今後、参加者数の回復・増加に向けた方策を検討することが重要と考えます。

【たすけあいについて】

心配事や愚痴を聞いてくれる人、聞いてあげる人では、「配偶者」「友人」が上位にあがっており、身近な人との交流が高い傾向にあります。ただし、男女間では違いがみられ、男性は配偶者が突出して高いのに比べ、女性は子どもや友人なども配偶者と同程度に高くなっています。

また、病気で数日寝込んだとき、看病や世話をしてくれる人、してあげる人では、「配偶者」「同居の子ども」「別居の子ども」が上位にあがっており、家族が看病や世話をする傾向がうかがえます。

一方、家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手についての設問では、「そのような人はいない」と回答している方が37.6%と最も高くなっており、特に前期高齢者（65～74歳）において、高い傾向がみられます。また、「地域包括センター・市役所」と回答した方は15.1%となっており、困った際の相談窓口として「地域包括センター・市役所」の認知度を上げていく必要があると考えます。

この1か月間、何人の友人・知人と会ったかについては、1か月以上友人・知人と会っていないと回答している方が増加しています。前期高齢者（65～74歳）でも数値が高くなっているため、孤立を防ぐ働きかけが必要と考えます。よく会う友人・知人については、「近所・同じ地域の人」と回答している方が多いため、地域の集まりを活性化することが結果的に孤立を防ぐことになるのではと考えます。

【健康について】

現在の健康状態については、令和元年度調査より『健康状態がよくない』が 0.6 ポイント増加しているものの、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた『健康状態がよい』は 79.0%となっており、多くの方は健康状態がよいと回答している結果となっています。

うつの評価項目については、該当の2項目ともに悪化がみられました。原因については、個人によるところが大きいいため、直接的な原因とは言えないものの、コロナ禍や物価上昇などの影響もあると考えられます。

幸福度は、「5点」～「10点」の合計値が 88.3%を占めており、平均は令和元年度調査より 0.1 点下がって 7.0 点となっており、幸福度は全体的に高い傾向がみられます。また、幸福度は身体的・精神的な健康との関係性がとても高く、うつリスクの該当者は高い数値になっているものの、現状、身体的・精神的に健康な方が多いことがうかがえます。

飲酒状況については、「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」を合わせた『飲む』は令和元年度調査より 1.3 ポイント減少しています。

喫煙状況については、「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせた『吸っている』が令和元年度調査より 0.1 ポイント減少しています。

現在、治療中または後遺症のある病気については、「高血圧」が最も高くなっています。様々な合併症を引き起こすリスクの高まる「高血圧」を予防することは健康寿命を延ばすのに効果があると考えます。

【認知症にかかる相談窓口の把握について】

認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるかの設問では、令和元年度調査より 0.8 ポイント減少して 8.8%が「はい」と回答しています。

認知症に関する相談窓口を知っているかの設問では、「いいえ」が令和元年度調査より 2.2 ポイント増加しており、相談窓口の周知はあまり効果が出ていないように見受けられます。

内閣府より示された平成 29 年版高齢社会白書のなかで、2025 年には 5 人に 1 人は認知症となるという推計データもあるため、認知症が誰にでも起こり得る、より身近な病気であるという認識を共有し、認知症に関する相談窓口の周知をより一層進めていく必要があると考えます。

【介護保険事業・高齢者施策について】

介護予防のために参加してみたい事業については、「運動（筋力向上）」「腰痛・膝痛対策・予防」「認知症予防」が上位にあがっています。また、年齢が若いほど「運動（筋力向上）」のような体づくりに効果がある取り組みに興味があるのに対して、年齢が上がるほど、「腰痛・膝痛対策・予防」「転倒予防」のような対症療法的な取り組みに興味がある傾向がみられます。

今後、本市が取組むべき高齢者施策として、何を優先して充実するべきかの設問については、「在宅高齢者を支える保健福祉サービスの充実」の要望が高まっています。

介護保険料についての設問では、「ほどほどの保険料で、ある程度の介護サービスが受けられればよい」が 58.1%と最も高くなっており、バランスのとれた介護保険料の設定を望む声が多くなっています。

【在宅医療について】

病気やけがで長期の療養が必要になり、通院が困難になった場合に、自宅療養を希望する方が増加しています。また、男性のほうが自宅療養を希望する割合が高い傾向がみられ、一方、女性のほうが、実現は難しいと感じている割合が高くなっています。自宅療養の実現に向けては、「家族に負担がかかること」が男性・女性ともに大きな障害とみられます。

訪問診療については、「聞いたこともない」は令和元年度調査より 3.2 ポイント減少しているため、周知の効果が出ていると考えられます。また、訪問看護についても、「聞いたこともない」は令和元年度調査より 1.9 ポイント減少しているため、同様に周知の効果が出ていると考えられます。

病気やけがで長期の療養が必要になり、通院が困難になった場合、病院や介護事業所が近くにある地域（市内中心部など）に住み替えたいと思うかについての設問では、「そう思わない」が令和元年度調査より 1.3 ポイント増加して 50.0%で最も高くなっています。住み慣れた土地を離れることへの不安が大きいと考えます。

【成年後見制度について】

成年後見制度の認知度については、「制度の内容を理解している」は 9.3%、「制度があることは知っている」は 53.7%となっています。また、「全く知らない」が令和元年度調査より 2.6 ポイント減少して 28.8%となっているため、周知の効果が出ていると考えられます。

【ICT機器の利用状況について】

スマートフォン（スマホ）を持っているかについては、年齢が上がるほど、「持っていない」の割合は増加しており、「持っていて、電話以外の機能（インターネット、メール等）も利用している」は 70～74 歳でも半数以下となっています。

インターネットを使えるかについては、年齢が上がるほど、「使えない」の割合は増加しており、「使える」は 65～69 歳でも約半数となっています。

インターネットに接続できる環境（パソコン、スマートフォン（スマホ）、タブレット等）については、年齢が上がるほど「ない」が高くなっています。また、環境を整備するためには、プロバイダ契約など、高齢者だけでは難しい部分があるため、高齢者世帯にはフォローが必要と考えます。

ICT機器（インターネット、スマートフォン（スマホ）等）を利用するための教室等が開催された場合、参加したいと思うかについては、年齢が上がるほど参加には消極的になるため、特に 80 歳以上の方の ICT 機器利用には課題が多いと考えます。

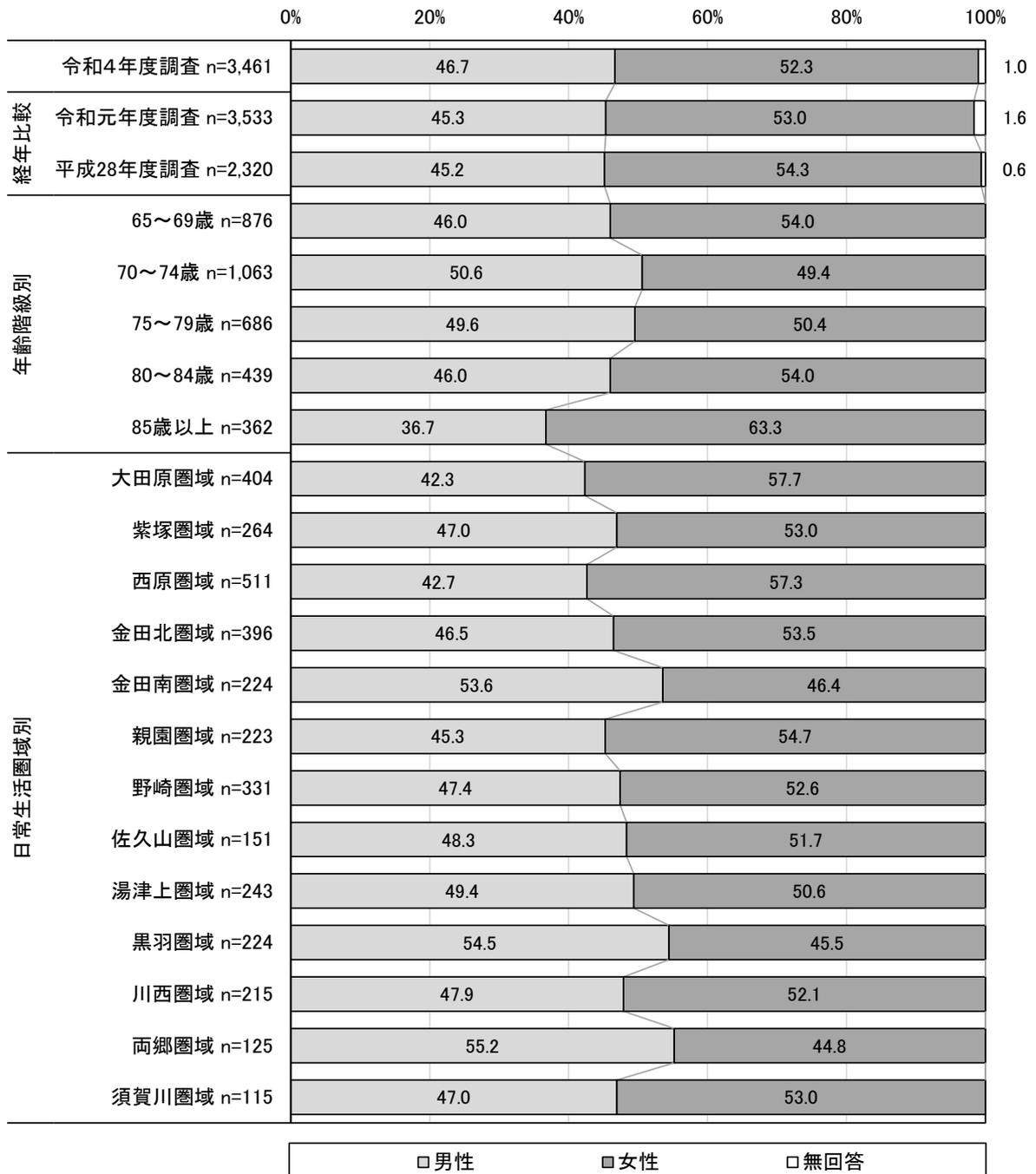
また、デジタル・ディバイド（情報格差）解消のため、高齢者に ICT 利用を促すことは必要ですが、同時に特殊詐欺（ワンクリック詐欺など）に合うリスクが高まる点なども十分に留意したうえで慎重に進める必要があると考えます。

Ⅲ 調査結果 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

Ⅲ 調査結果 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

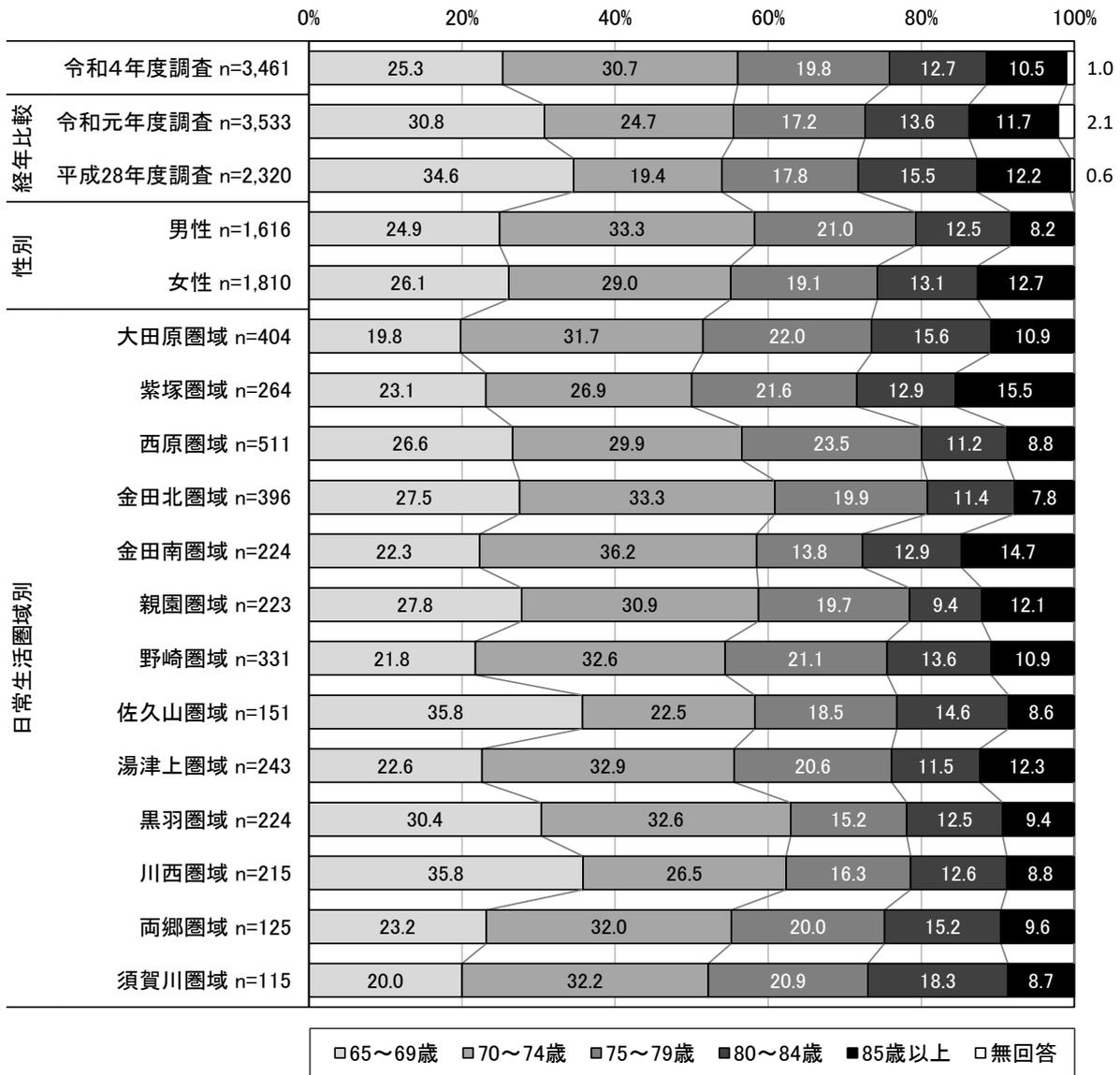
性別

性別については、「男性」が46.7%、「女性」が52.3%で、「女性」が5.6ポイント上回っています。



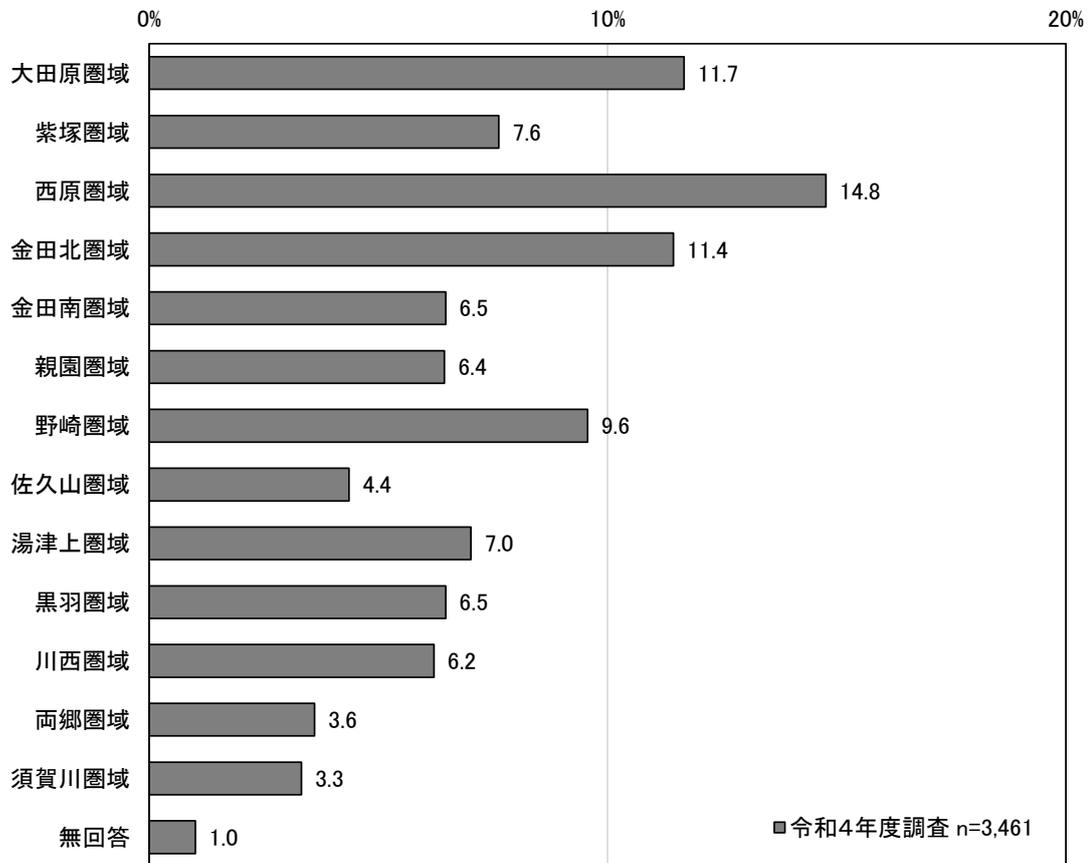
年齢階級

年齢階級については、「70～74 歳」が 30.7%で最も高く、次いで「65～69 歳」が 25.3%、「75～79 歳」が 19.8%となっています。



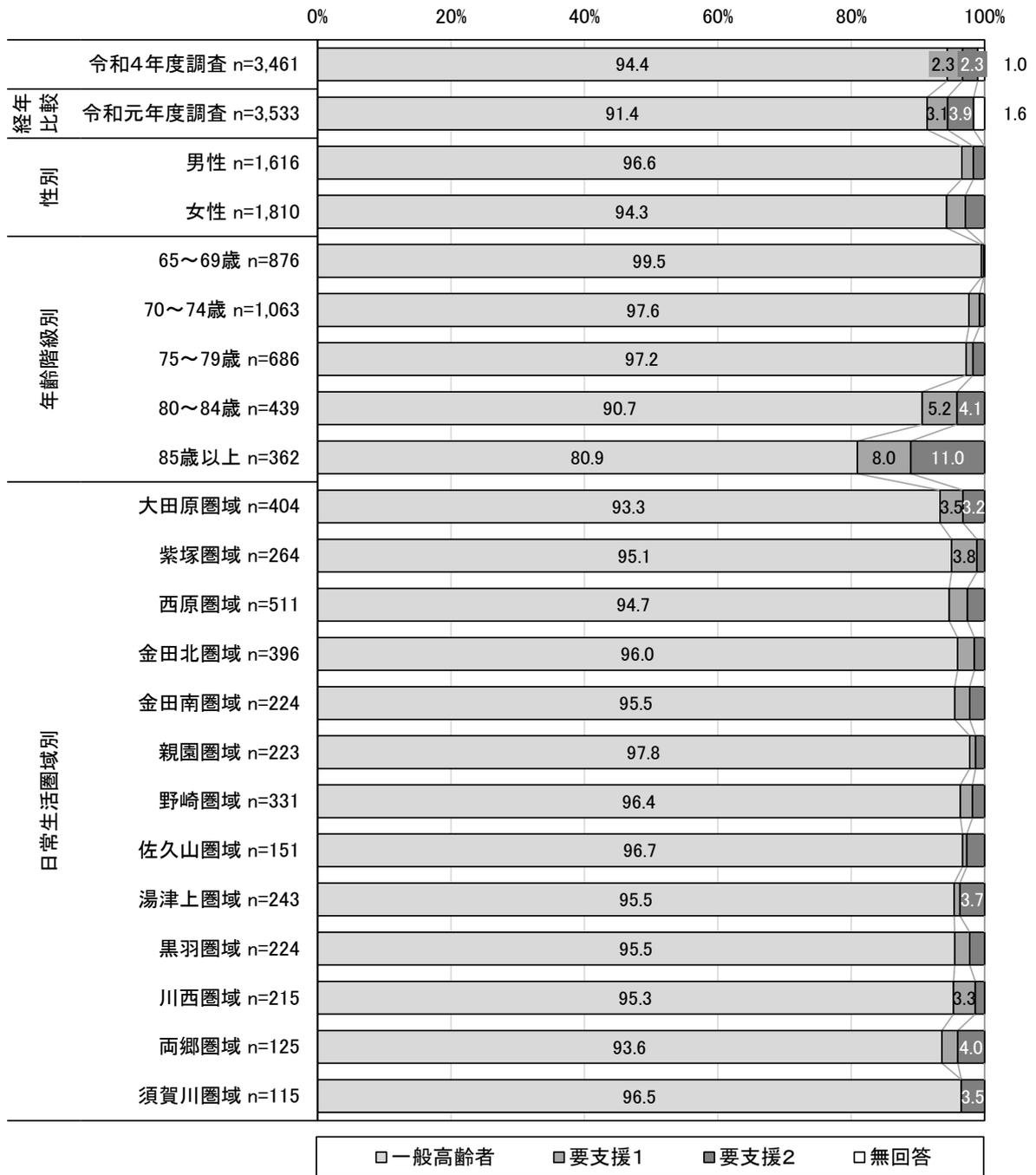
日常生活圏域

日常生活圏域については、「西原圏域」が14.8%で最も高く、次いで「大田原圏域」が11.7%、「金田北圏域」が11.4%となっています。



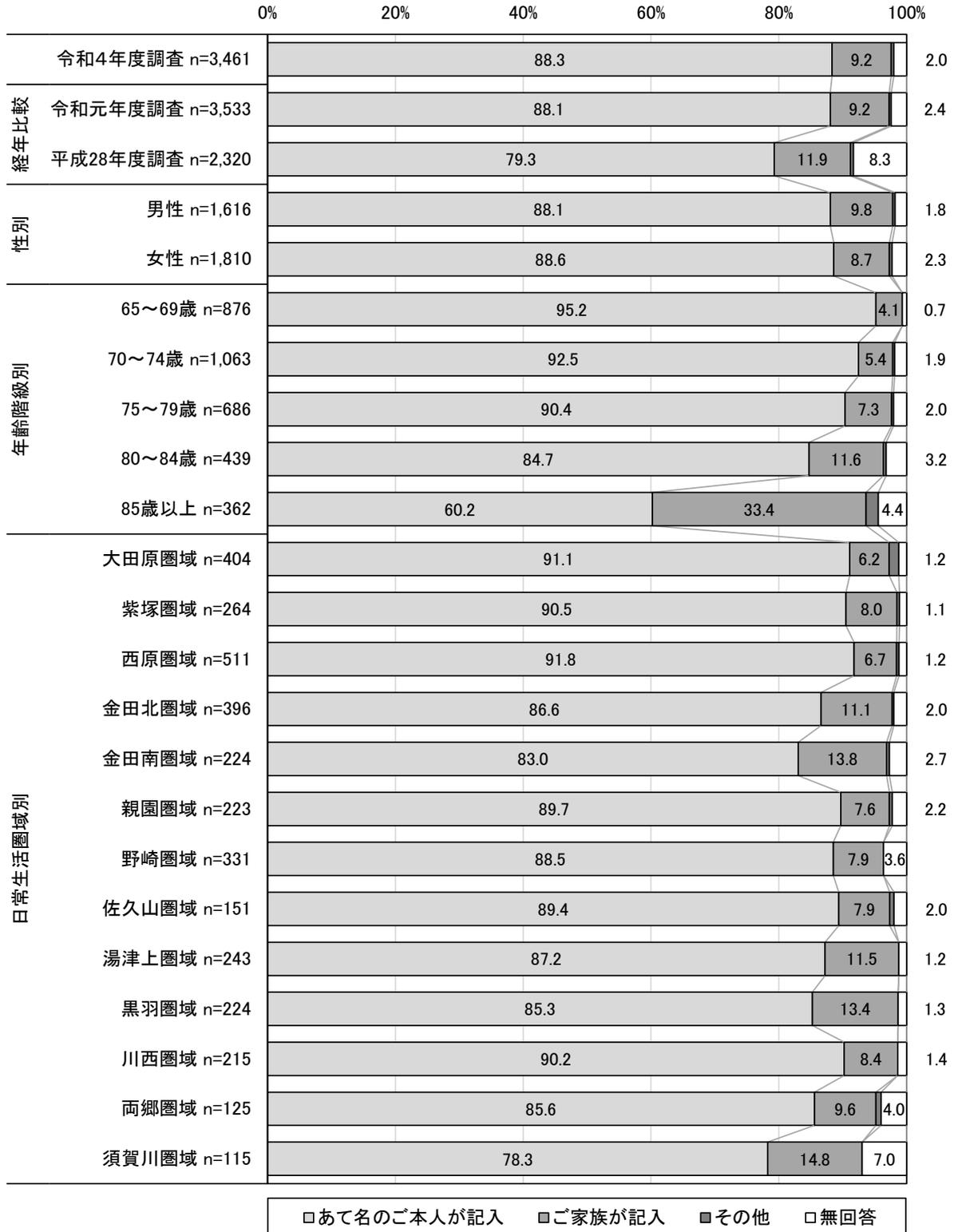
要介護認定状況

要介護認定状況については、「一般高齢者」が94.4%、「要支援1」「要支援2」がともに2.3%となっています。



調査票の記入者

調査票に回答した方については、「あて名のご本人が記入」が 88.3%で最も高くなっています。年齢階級別でみると、年齢が上がるとともに「あて名のご本人が記入」が減少し、「ご家族が記入」が増加しています。



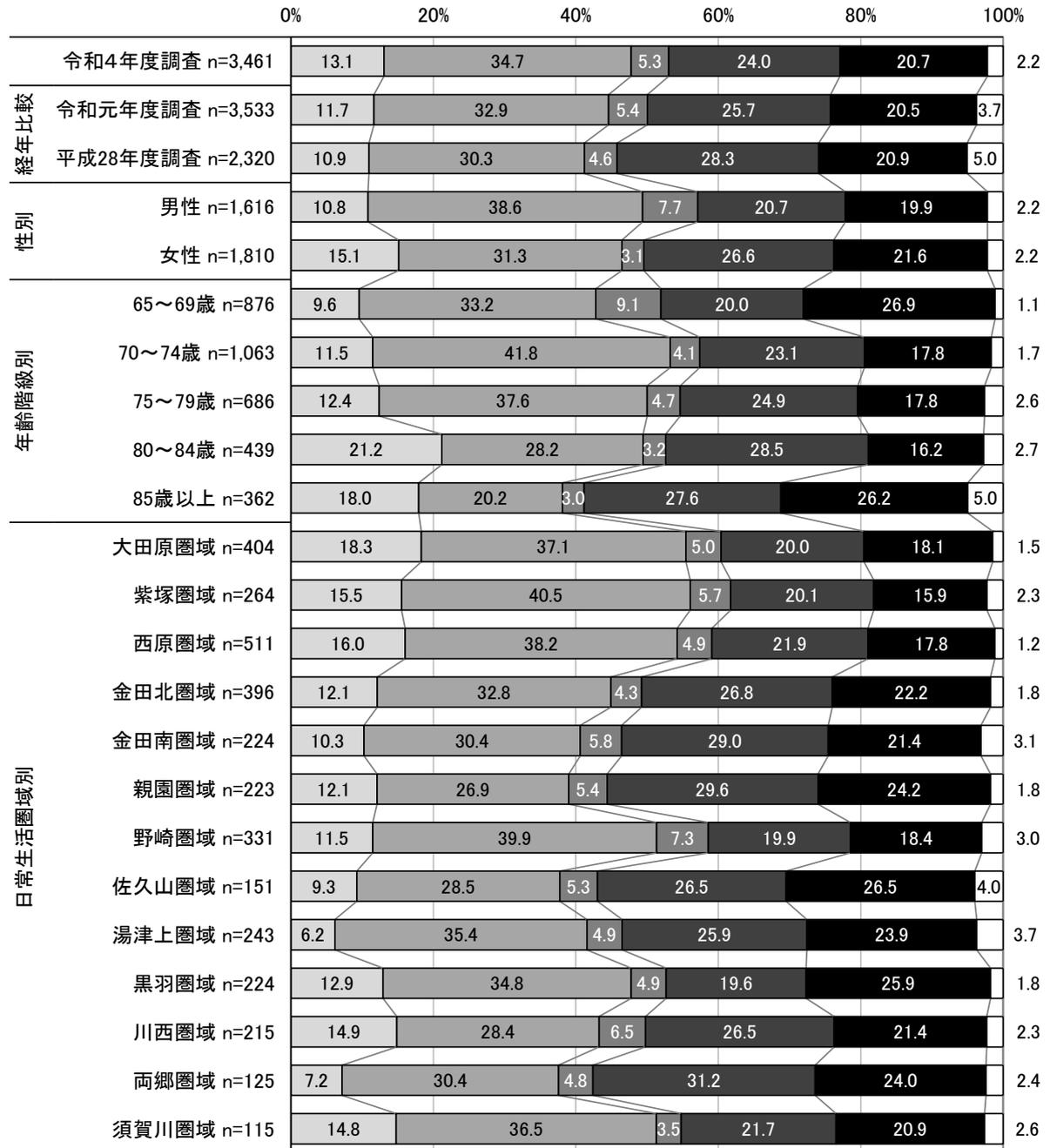
問1 あなたのご家族や生活状況について

(1) 家族構成をお教えてください(回答は1つ)

家族構成については、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が34.7%で最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」が24.0%、「1人暮らし」が13.1%となっています。

性別でみると、「1人暮らし」は、男性に比べ女性のほうが4.3ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、80~84歳で「1人暮らし」の割合が最も高くなっています。



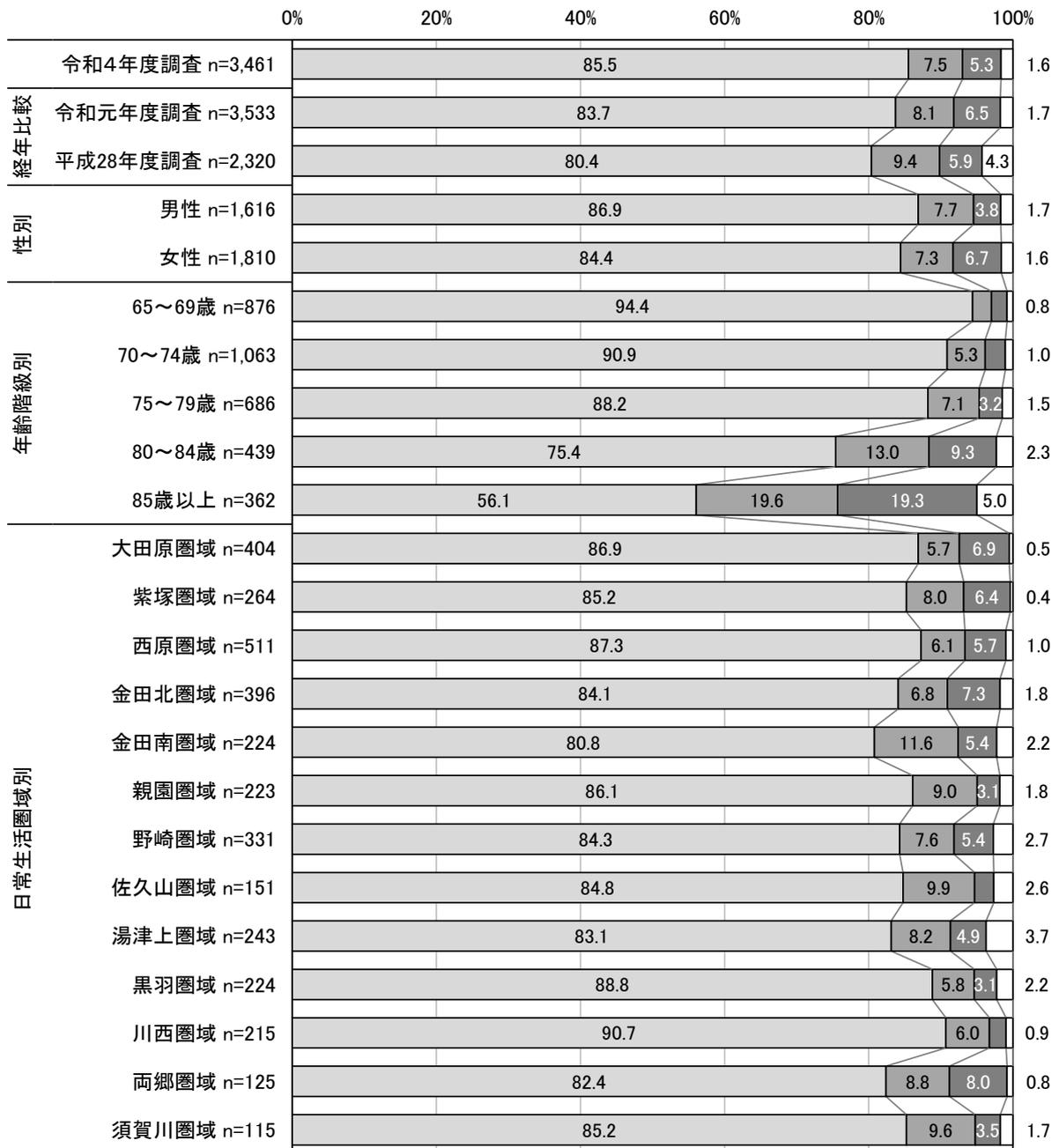
1人暮らし
 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)
 その他
 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)
 息子・娘との2世帯
 無回答

(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか（回答は1つ）

普段の生活での介護・介助の必要性については、「介護・介助は必要ない」が85.5%で最も高く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が7.5%、「現在、何らかの介護を受けている」が5.3%となっています。

性別でみると、「現在、何らかの介護を受けている」は、男性に比べ女性のほうが2.9ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、年齢が上がるとともに「現在、何らかの介護を受けている」が増加する傾向となっています。特に、80歳以上で大きく増加しています。



- 介護・介助は必要ない
- ▣ 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
- 現在、何らかの介護を受けている
- 無回答

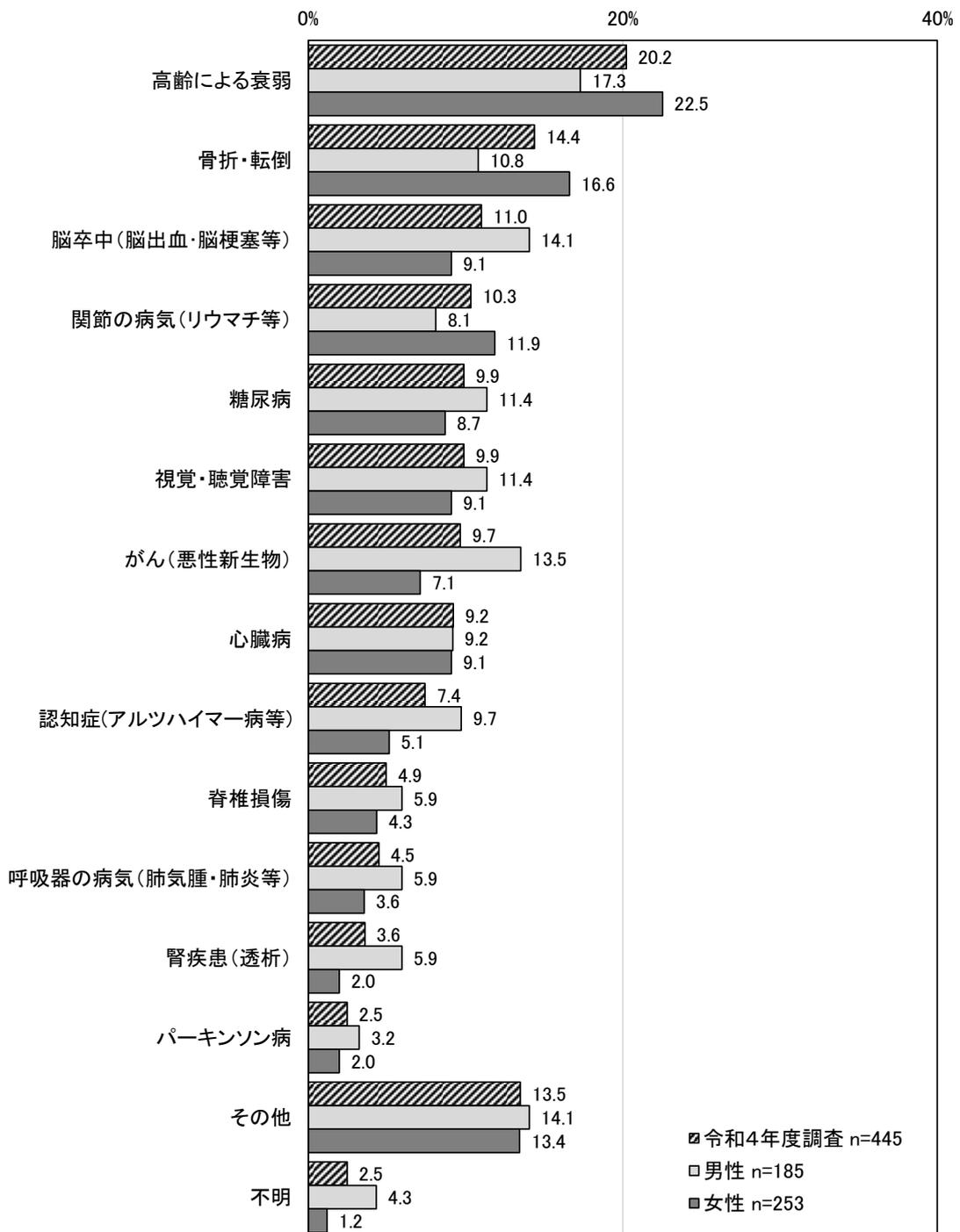
【(2) において「介護・介助は必要ない」以外の方のみ】

①介護・介助が必要になった主な原因はなんですか（あてはまるものすべてに回答）

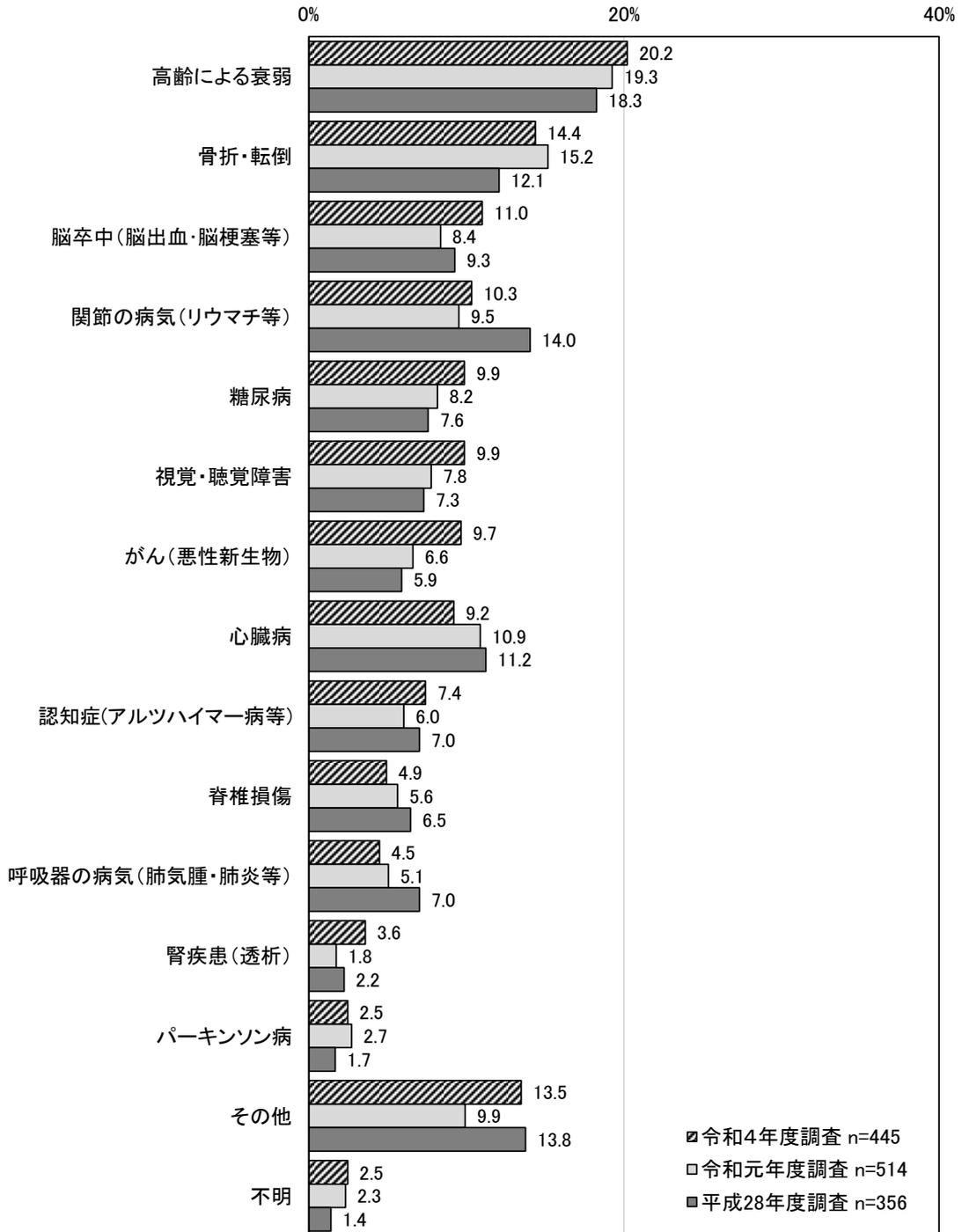
介護・介助が必要になった主な原因については、「高齢による衰弱」が20.2%で最も高く、次いで「骨折・転倒」が14.4%、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が11.0%となっています。

性別でみると、男性では、「高齢による衰弱」が17.3%で最も高く、次いで「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が14.1%、「がん（悪性新生物）」が13.5%となっています。女性では、「高齢による衰弱」が22.5%で最も高く、次いで「骨折・転倒」が16.6%、「関節の病気（リウマチ等）」が11.9%となっています。

【性別】



【経年比較】



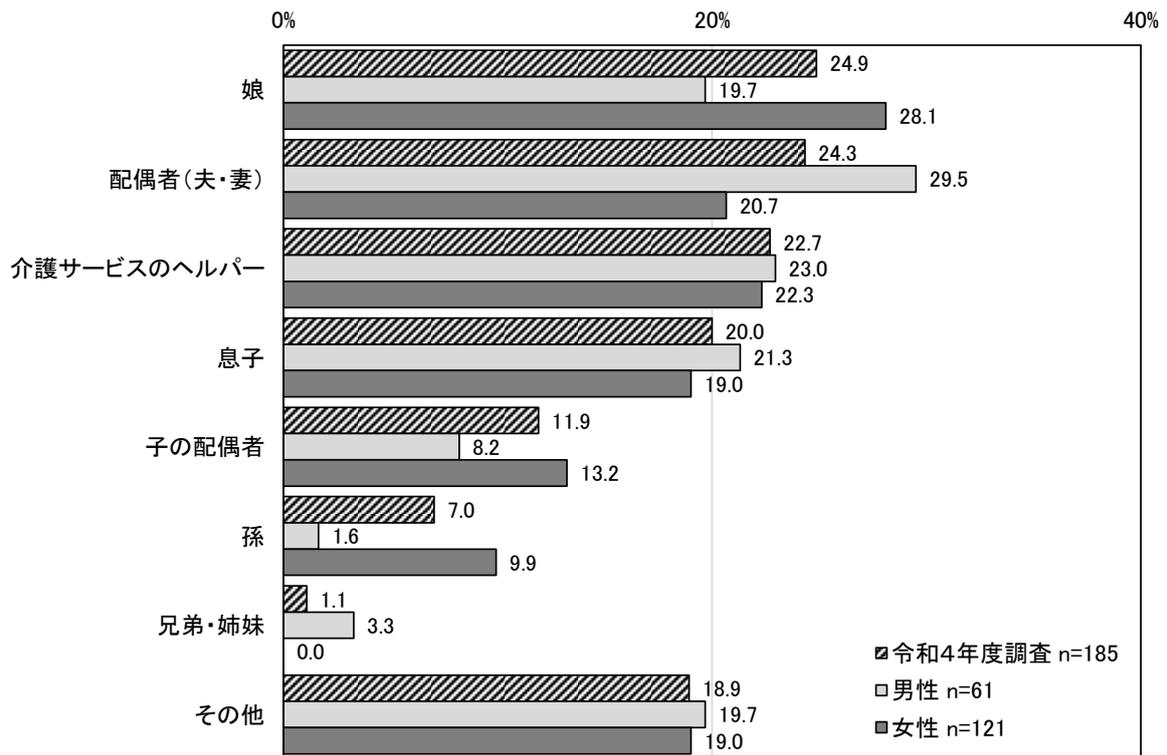
【(2) において「現在、何らかの介護を受けている」の方のみ】

②主にどなたの介護・介助を受けていますか（あてはまるものすべてに回答）

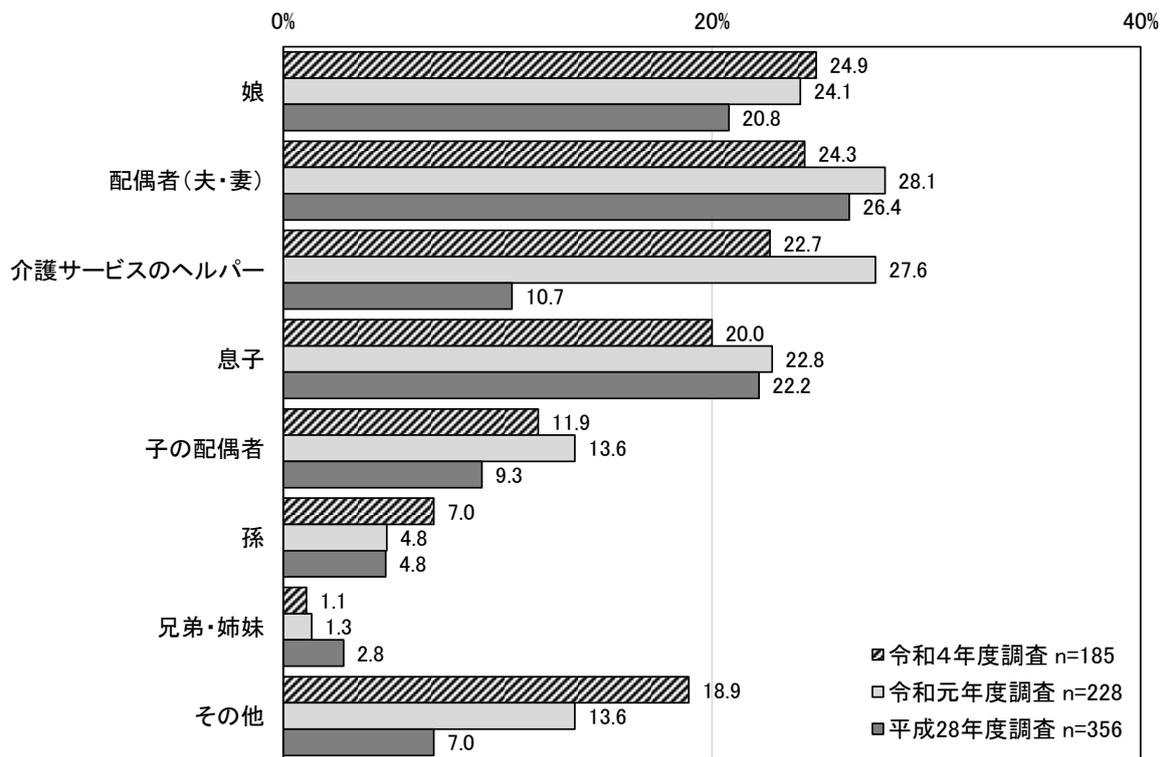
主にどなたの介護・介助を受けているかについては、「娘」が24.9%で最も高く、次いで「配偶者（夫・妻）」が24.3%、「介護サービスのヘルパー」が22.7%となっています。

性別でみると、男性では「配偶者（夫・妻）」の割合が29.5%で最も高く、次いで「介護サービスのヘルパー」が23.0%、「息子」が21.3%となっています。女性では、「娘」が28.1%で最も高く、次いで「介護サービスのヘルパー」が22.3%、「配偶者（夫・妻）」が20.7%となっています。

【性別】



【経年比較】

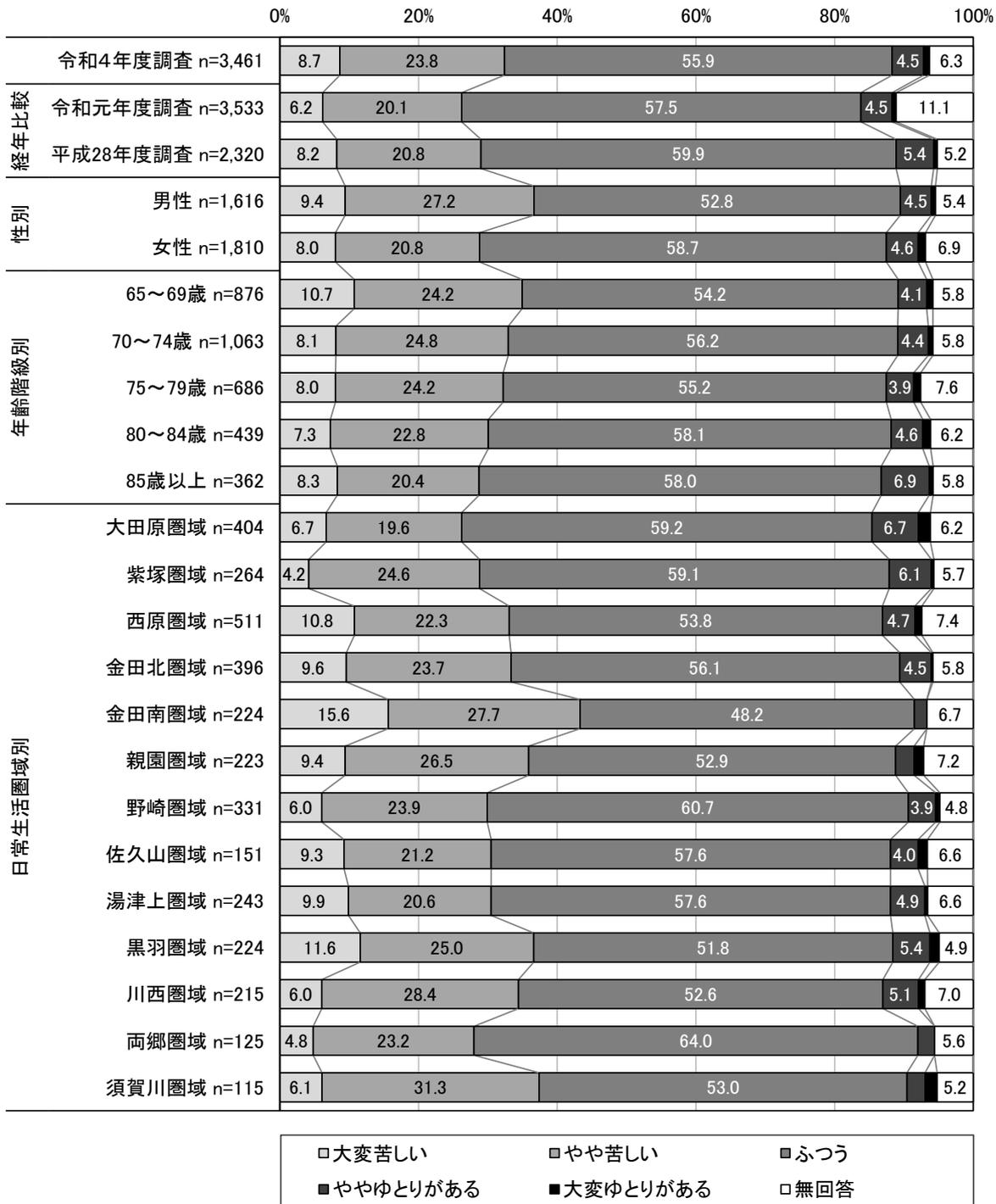


※平成 28 年度調査は、回答条件が異なります。

(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか（回答は1つ）

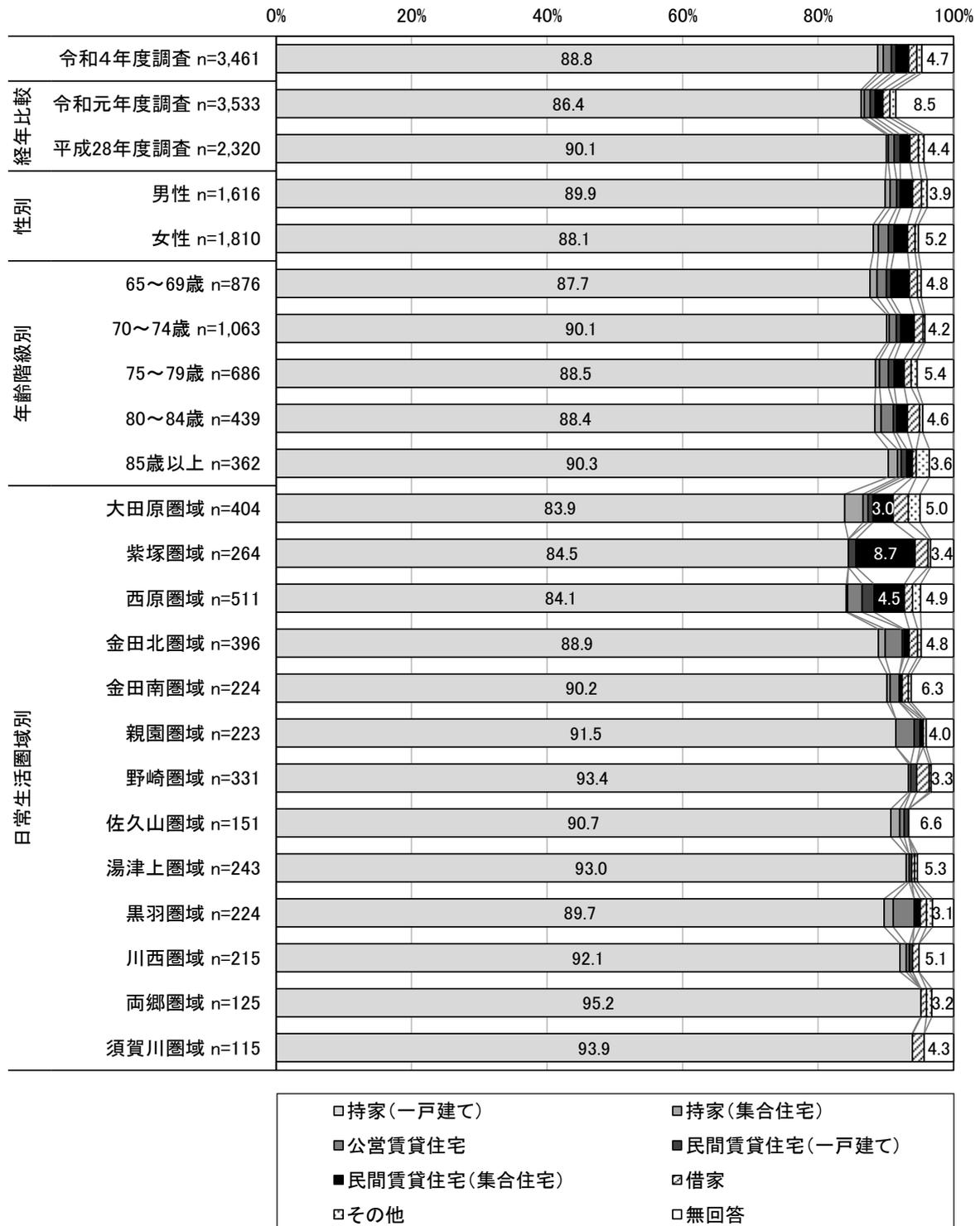
現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じているかについては、「ふつう」が 55.9%で最も高く、次いで「やや苦しい」が23.8%、「大変苦しい」が8.7%となっています。

令和元年度調査と比較して、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』が26.3%から32.5%へ6.2ポイント増加しています。



(4) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか (回答は1つ)

住まいの種類については、「持家(一戸建て)」が88.8%となっています。
 属性別でも、すべての属性で「持家(一戸建て)」が最も高い割合となっています。



問2. からだを動かすことについて

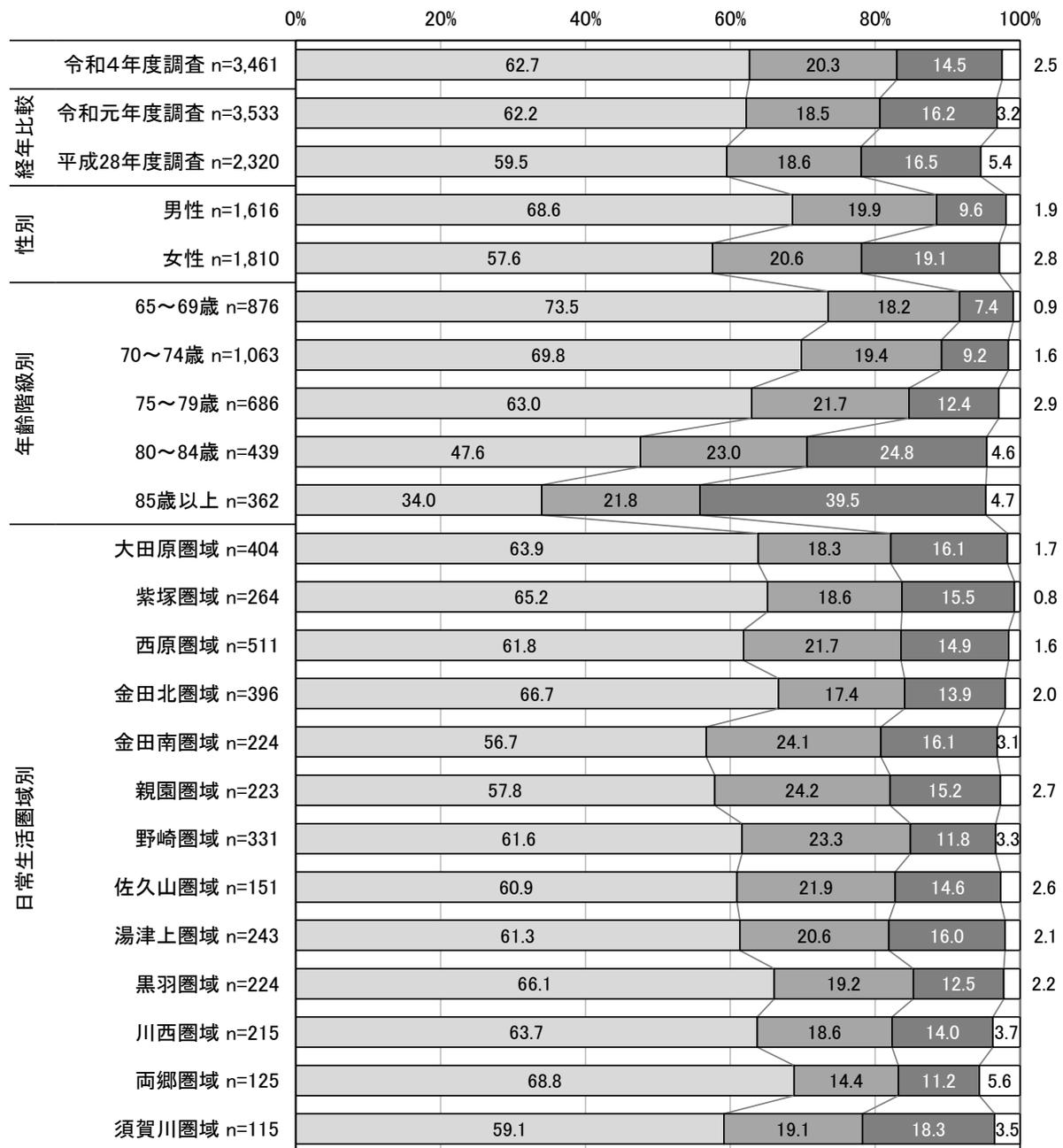
(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか（回答は1つ）

階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかについては、「できるし、している」が62.7%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が20.3%、「できない」が14.5%となっています。

性別でみると、「できない」は、男性に比べ女性のほうが9.5ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「できない」は、85歳以上が39.5%で最も高く、次いで80～84歳が24.8%、75～79歳が12.4%となっています。

令和元年度調査と比較して、「できない」が16.2%から14.5%へ1.7ポイント減少しています。



□できるし、している ■できるけどしていない ■できない □無回答

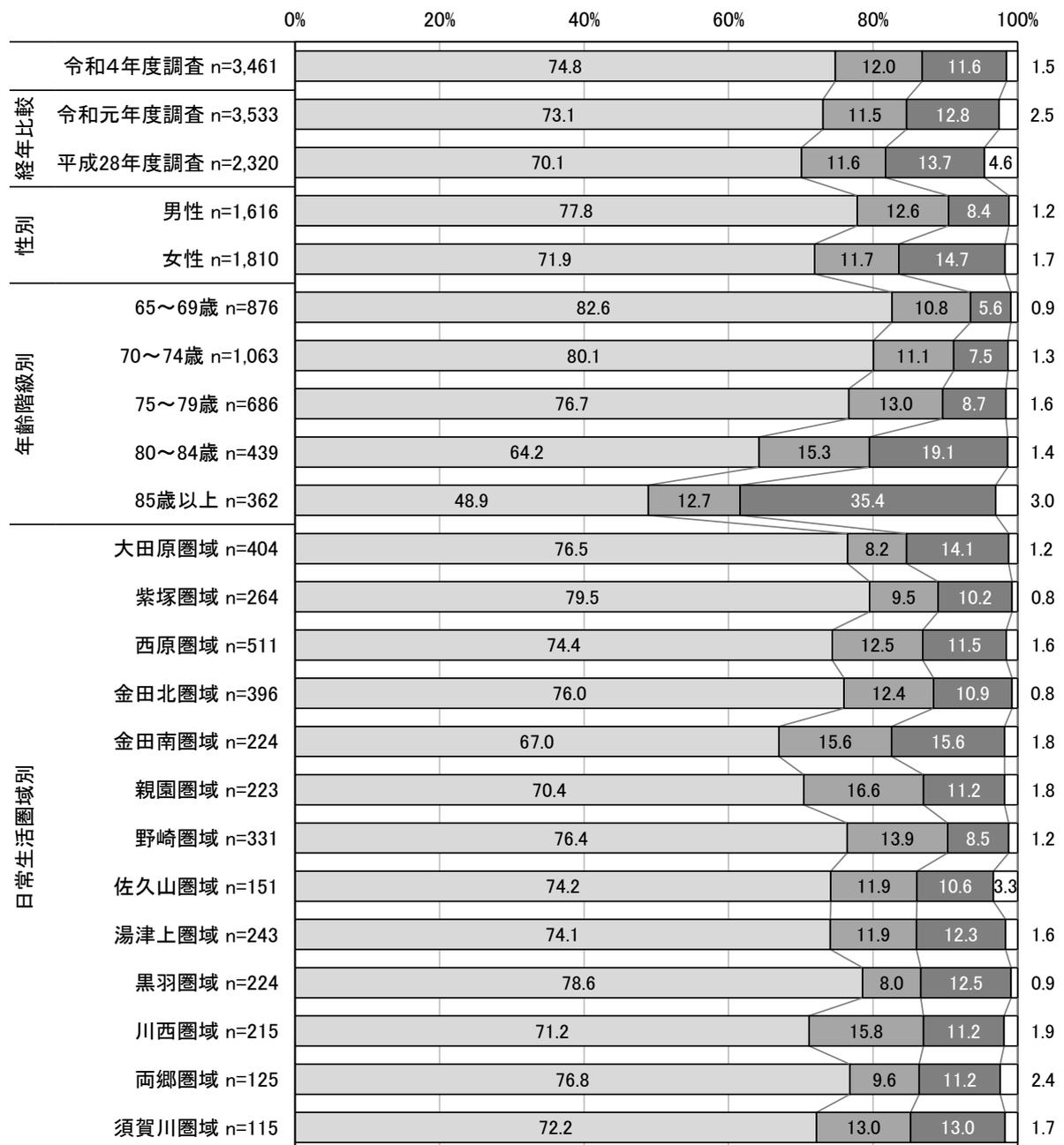
(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか（回答は1つ）

椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているかについては、「できるし、している」が74.8%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が12.0%、「できない」が11.6%となっています。

性別でみると、「できない」は、男性に比べ女性のほうが6.3ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「できない」は、85歳以上が35.4%で最も高く、次いで80～84歳が19.1%、75～79歳が8.7%となっています。

令和元年度調査と比較して、「できない」が12.8%から11.6%へ1.2ポイント減少しています。



□できるし、している □できるけどしていない ■できない □無回答

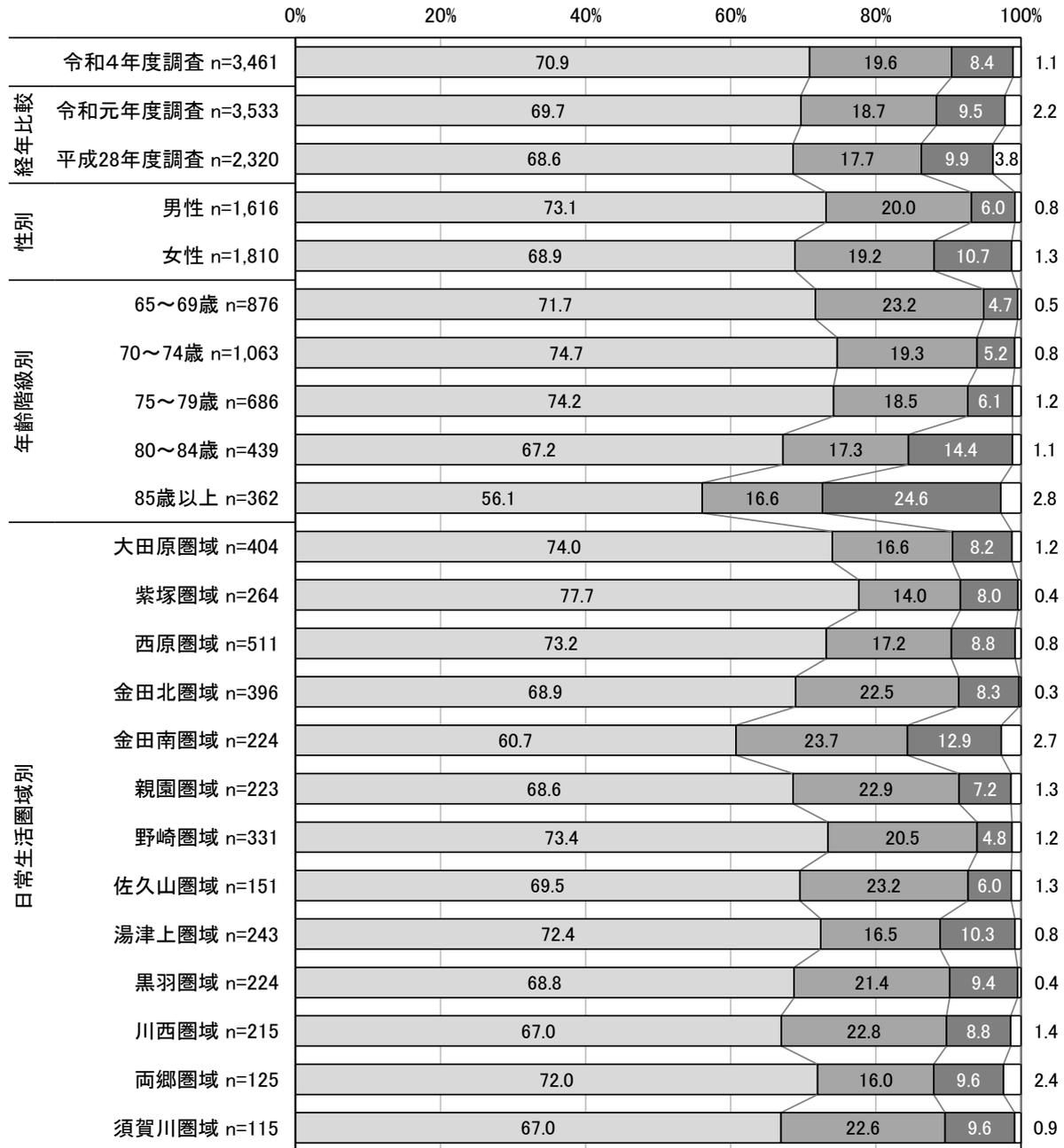
(3) 15分位続けて歩いていますか(回答は1つ)

15分位続けて歩いているかについては、「できるし、している」が70.9%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が19.6%、「できない」が8.4%となっています。

性別でみると、「できない」は、男性に比べ女性のほうが4.7ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「できない」は、85歳以上が24.6%で最も高く、次いで80～84歳が14.4%、75～79歳が6.1%となっています。

令和元年度調査と比較して、「できない」が9.5%から8.4%へ1.1ポイント減少しています。



□できるし、している □できるけどしていない ■できない □無回答

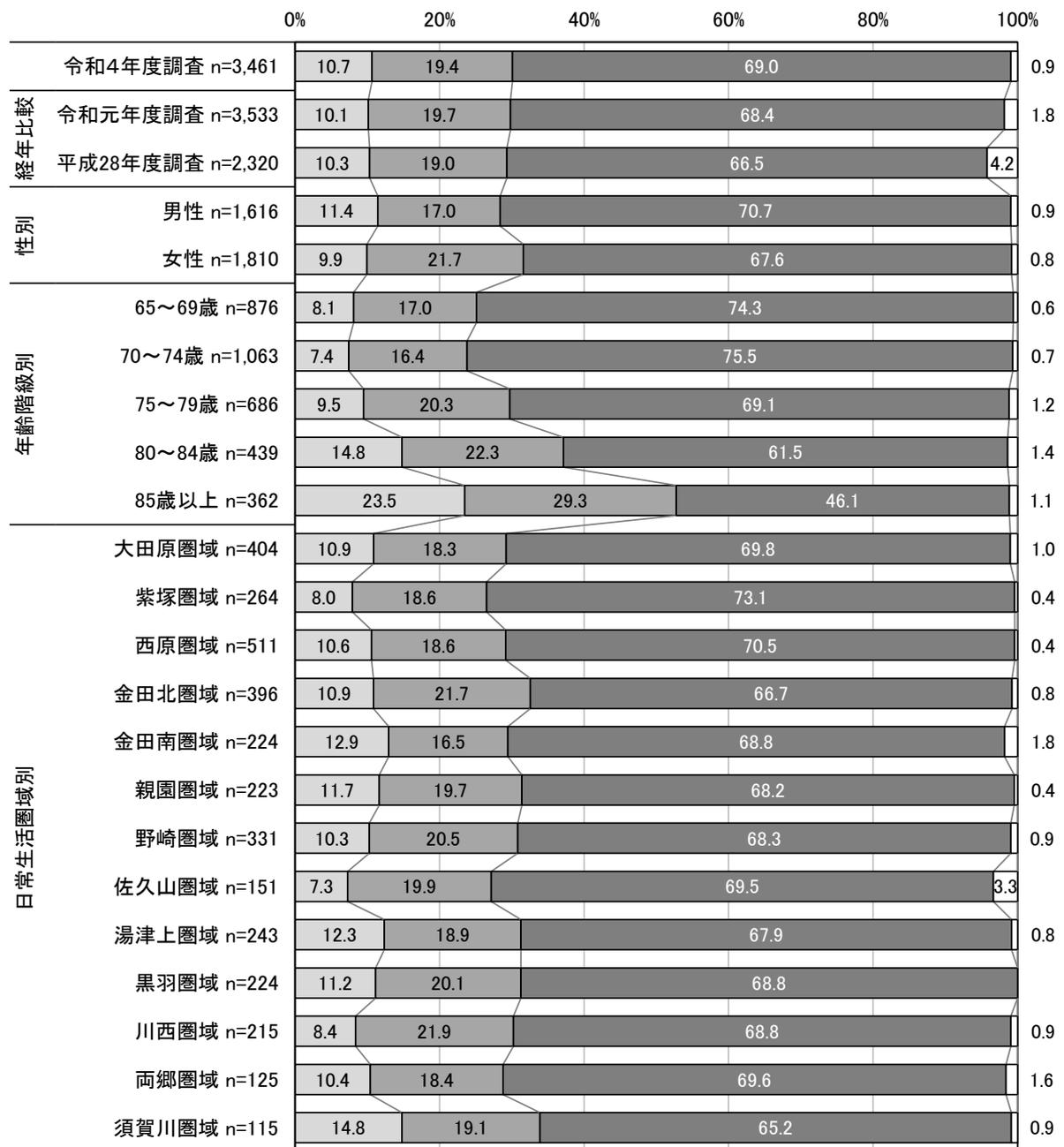
(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか(回答は1つ)

過去1年間に転んだ経験があるかについては、「ない」が69.0%で最も高く、次いで「1度ある」が19.4%、「何度もある」が10.7%となっています。

性別でみると、「何度もある」と「1度ある」を合わせた『ある』は、男性に比べ女性のほうが3.2ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『ある』は、85歳以上が52.8%で最も高く、次いで80～84歳が37.1%、75～79歳が29.8%となっています。

令和元年度調査と比較して、『ある』が29.8%から30.1%へ0.3ポイント増加しています。



□何度もある □1度ある □ない □無回答

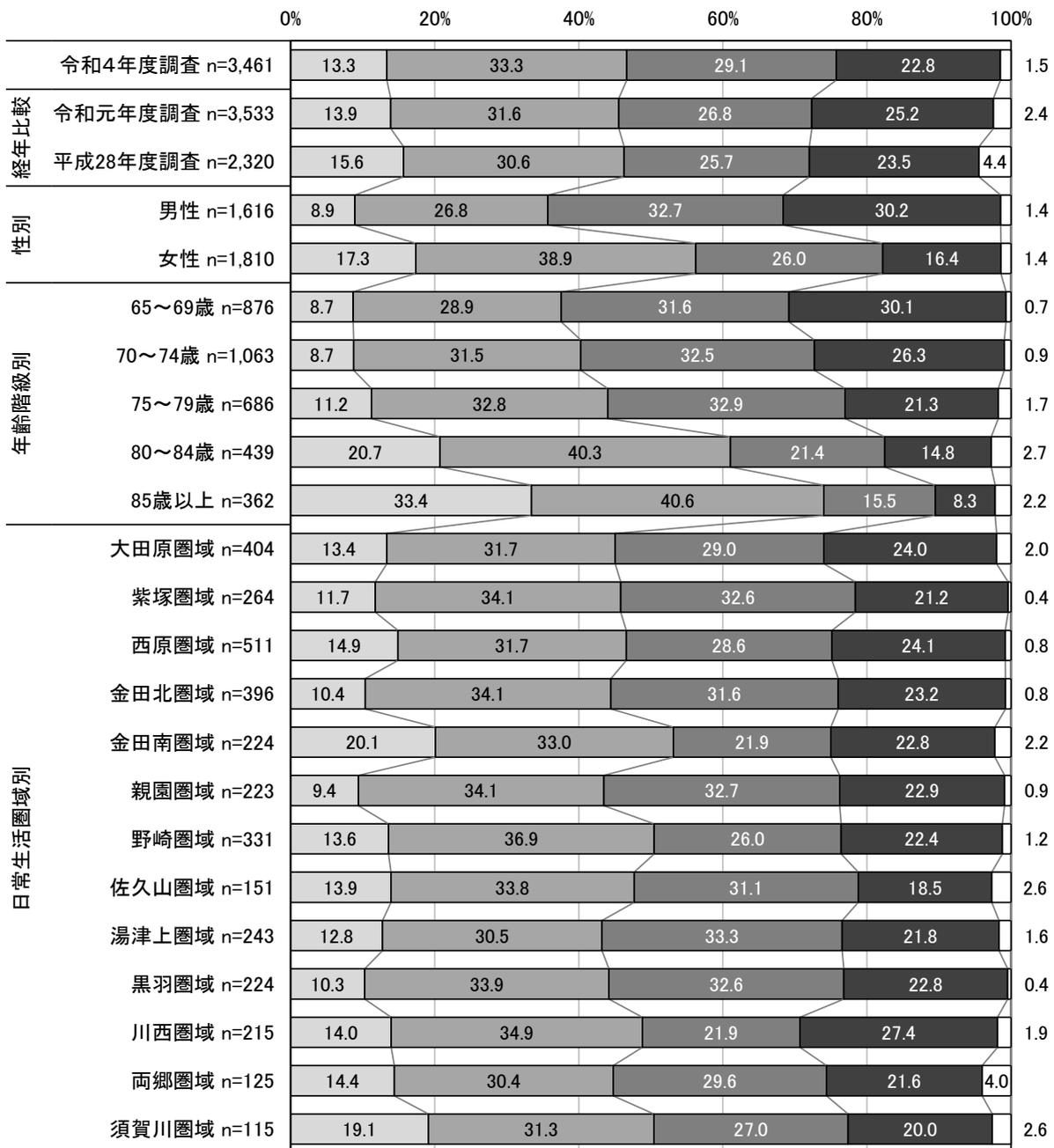
(5) 転倒に対する不安は大きいですか (回答は1つ)

転倒に対する不安は大きいかについては、「やや不安である」が 33.3%で最も高く、次いで「あまり不安でない」が 29.1%、「不安でない」が 22.8%となっています。

性別でみると、「とても不安である」と「やや不安である」を合わせた『不安である』は、男性に比べ女性のほうが 20.5 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『不安である』は、85歳以上が 74.0%で最も高く、次いで 80~84歳が 61.0%、75~79歳が 44.0%となっています。

令和元年度調査と比較して、『不安である』が 45.5%から 46.6%へ 1.1 ポイント増加しています。



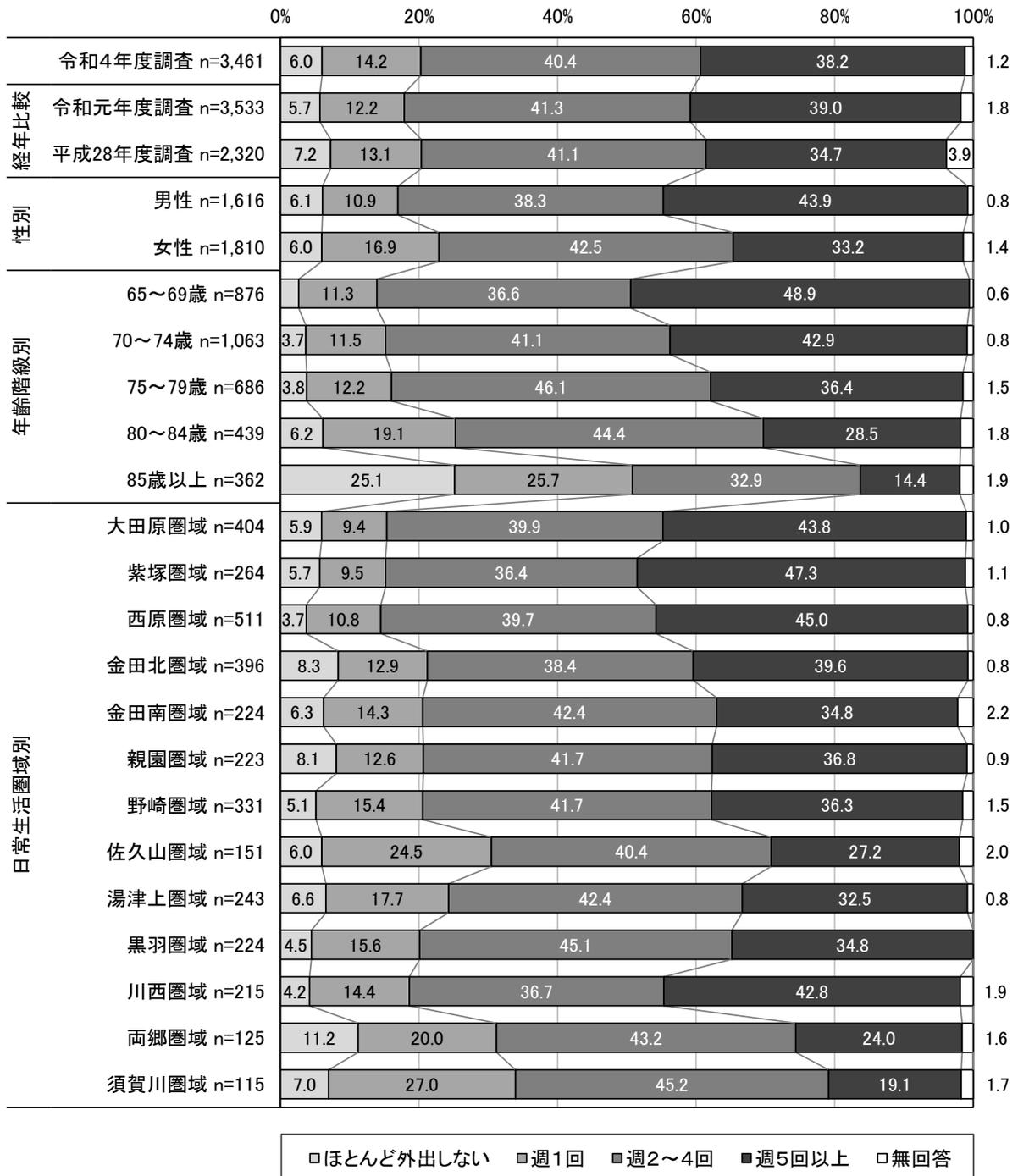
□とても不安である □やや不安である □あまり不安でない ■不安でない □無回答

(6) 週に1回以上は外出していますか(回答は1つ)

週に1回以上は外出しているかについては、「週2~4回」が40.4%で最も高く、次いで「週5回以上」が38.2%、「週1回」が14.2%となっています。

年齢階級別でみると、「ほとんど外出しない」は、85歳以上が25.1%で最も高く、次いで80~84歳が6.2%、75~79歳が3.8%となっています。

令和元年度調査と比較して、「ほとんど外出しない」が5.7%から6.0%へ0.3ポイント増加しています。



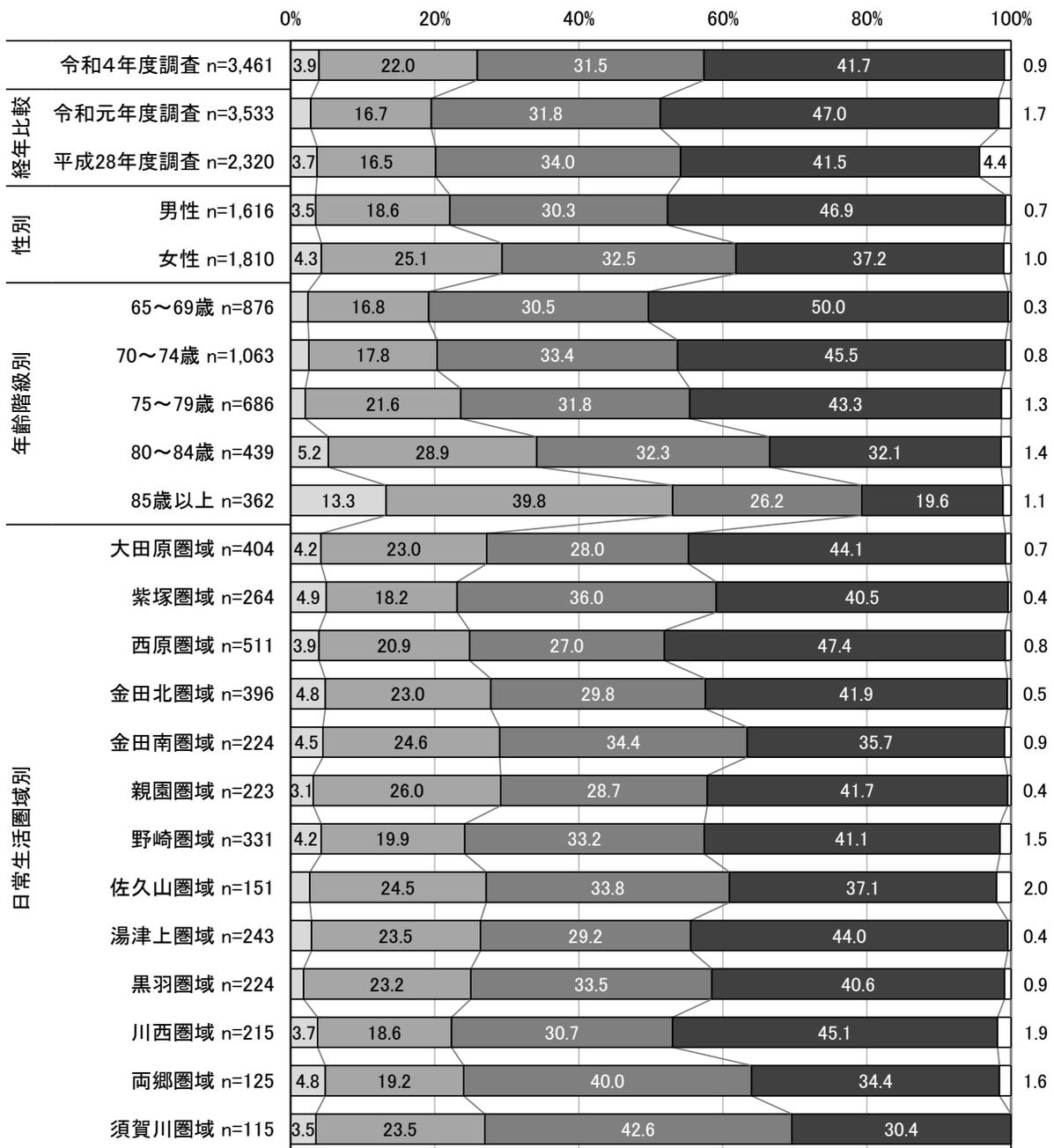
(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか(回答は1つ)

昨年と比べて外出の回数が減っているかについては、「減っていない」が41.7%で最も高く、次いで「あまり減っていない」が31.5%、「減っている」が22.0%となっています。

性別でみると、「とても減っている」と「減っている」を合わせた『外出が減っている』は、男性に比べ女性のほうが7.3ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『外出が減っている』は、85歳以上が53.1%で最も高く、次いで80~84歳が34.1%、75~79歳が23.6%となっています。

令和元年度調査と比較して、『外出が減っている』が19.5%から25.9%へ6.4ポイント増加しています。



□とても減っている □減っている □あまり減っていない ■減っていない □無回答

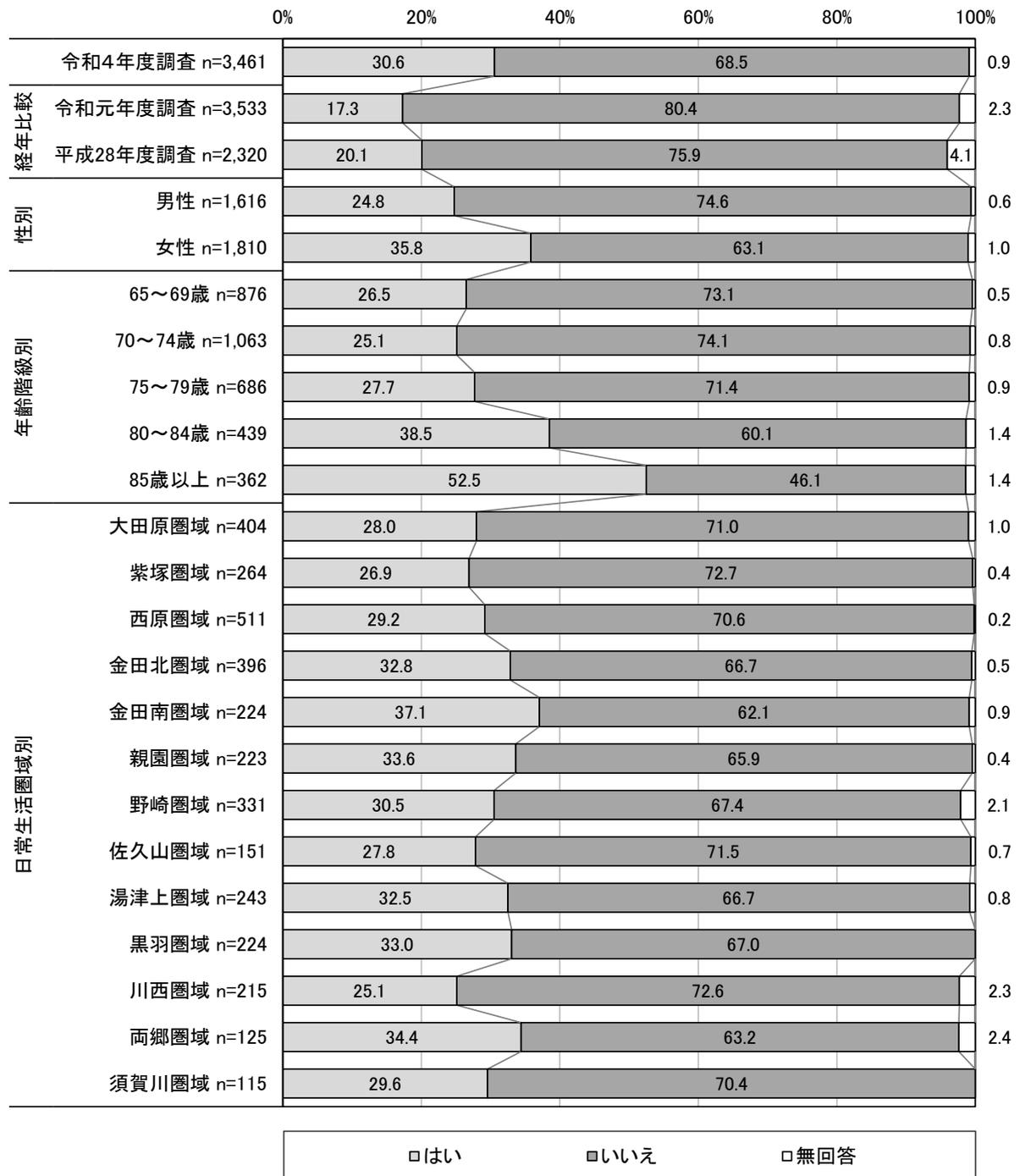
(8) 外出を控えていますか(回答は1つ)

外出を控えているかについては、「はい」が30.6%、「いいえ」が68.5%で、「いいえ」が37.9ポイント上回っています。

性別でみると、「はい」は、男性に比べ女性のほうが11.0ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「はい」は、85歳以上が52.5%で最も高く、次いで80~84歳が38.5%、75~79歳が27.7%となっています。

令和元年度調査と比較して、「はい」が17.3%から30.6%へ13.3ポイント増加しています。



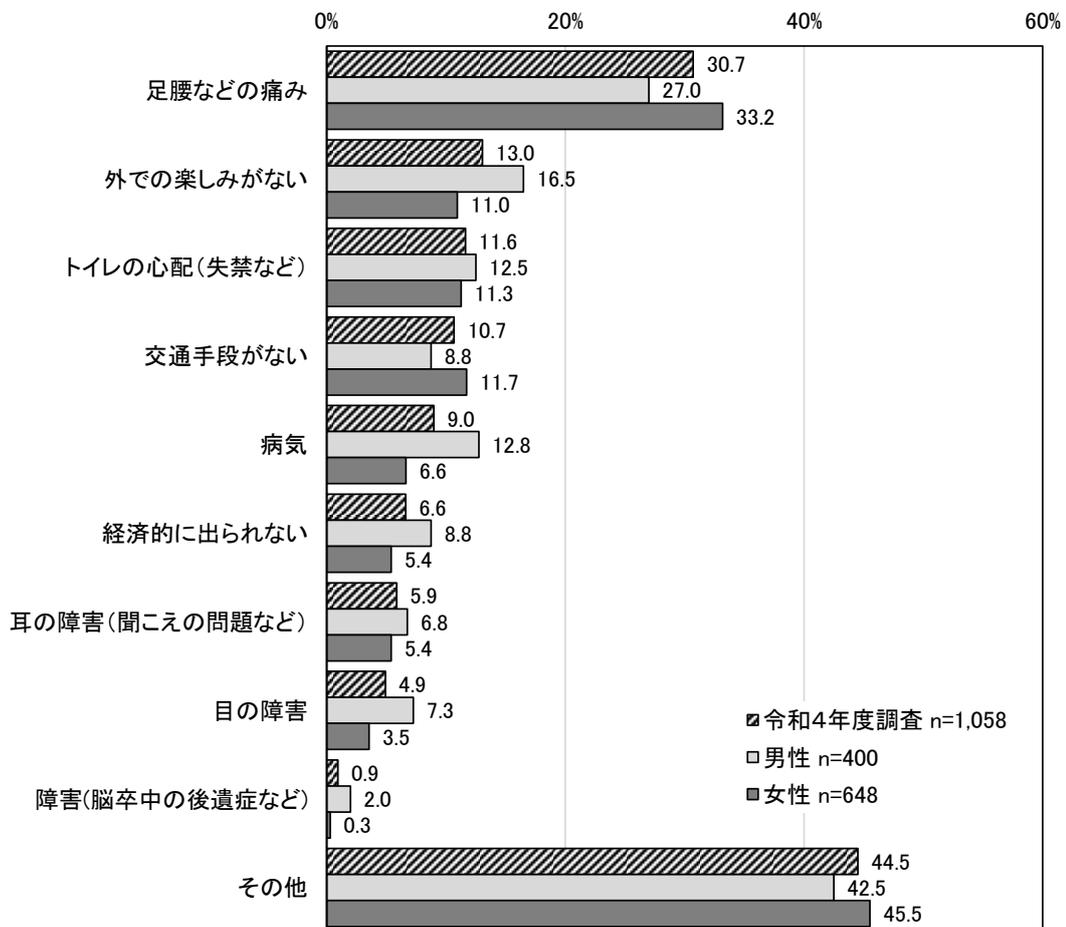
【(8) において「はい」(外出を控えている)の方のみ】

①外出を控えている理由は、次のどれですか(あてはまるものすべてに回答)

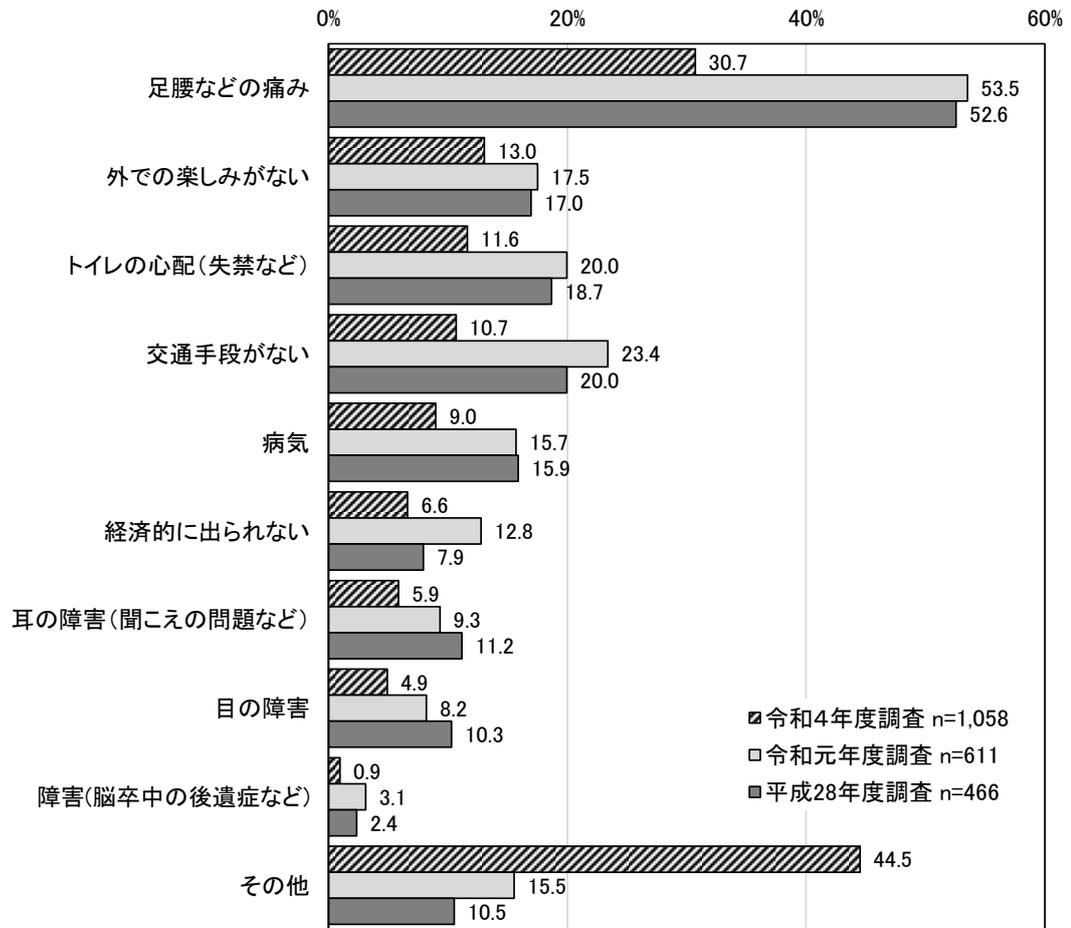
外出を控えている理由については、「足腰などの痛み」が30.7%で最も高く、次いで「外での楽しみがない」が13.0%、「トイレの心配(失禁など)」が11.6%となっています。また、コロナ禍による影響により「その他」が44.5%と突出して高くなっています。

性別で見ると、男性・女性ともに「足腰などの痛み」の割合が最も高く、次いで男性では、「外での楽しみがない」が16.5%、「病気」が12.8%となっています。女性では、「交通手段がない」が11.7%、「トイレの心配(失禁など)」が11.3%となっています。

【性別】

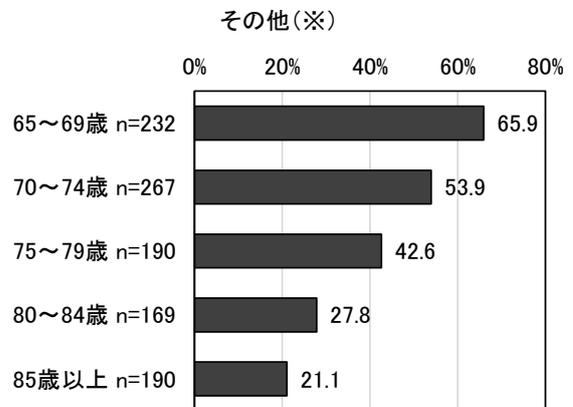
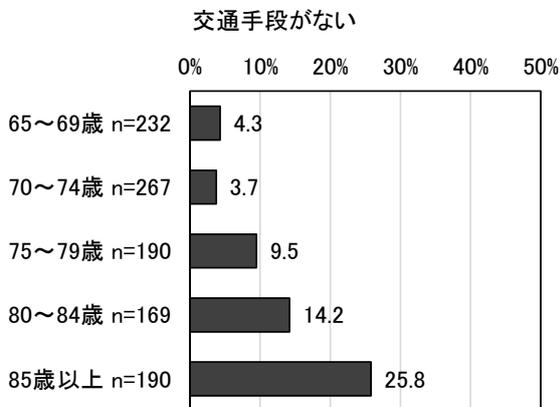
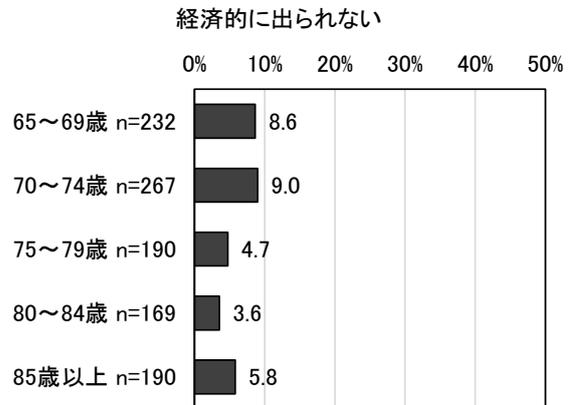
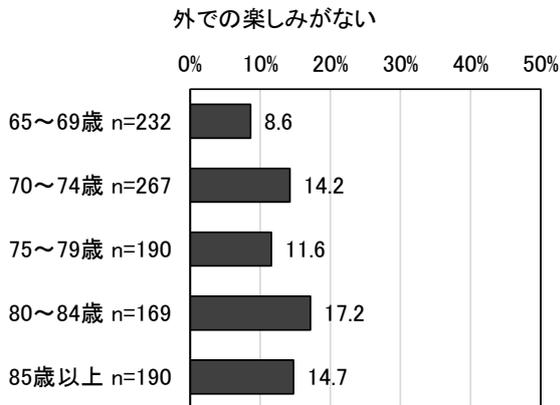


【経年比較】



【年齢階級別】※選択肢から4つを抜粋

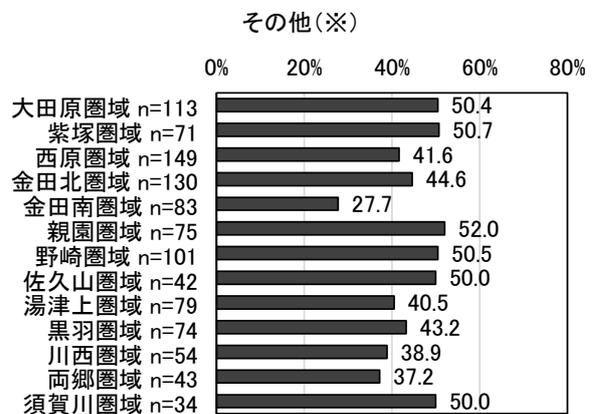
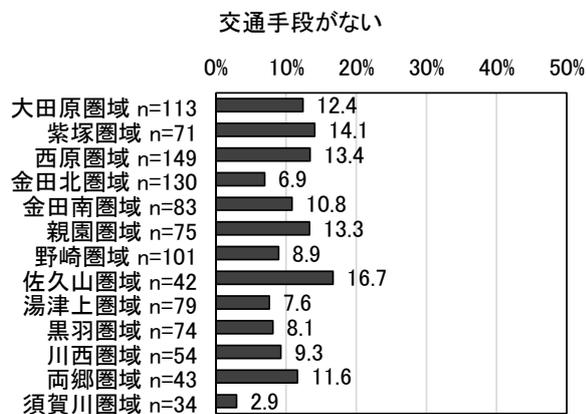
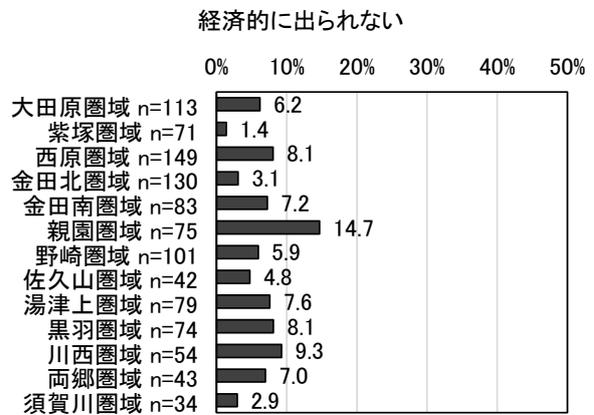
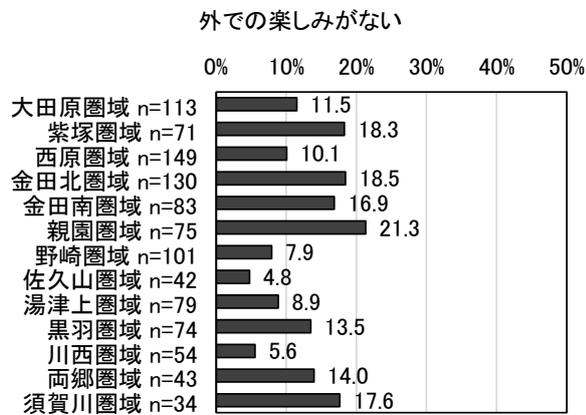
「その他」は、年齢が上がるにつれて減少する傾向がみられます。一方、「交通手段がない」は、年齢が上がるにつれて増加する傾向がみられます。



※その他は、全 471 件中 370 件が「新型コロナウイルス感染対策」を理由とする意見であったため、参考に掲載します。

【日常生活圏域別】※選択肢から4つを抜粋

「外での楽しみがない」は、紫塚圏域、金田北圏域、親園圏域で高くなっています。「経済的に出られない」は親園圏域で高くなっています。「交通手段がない」は紫塚圏域、佐久山圏域で高くなっています。



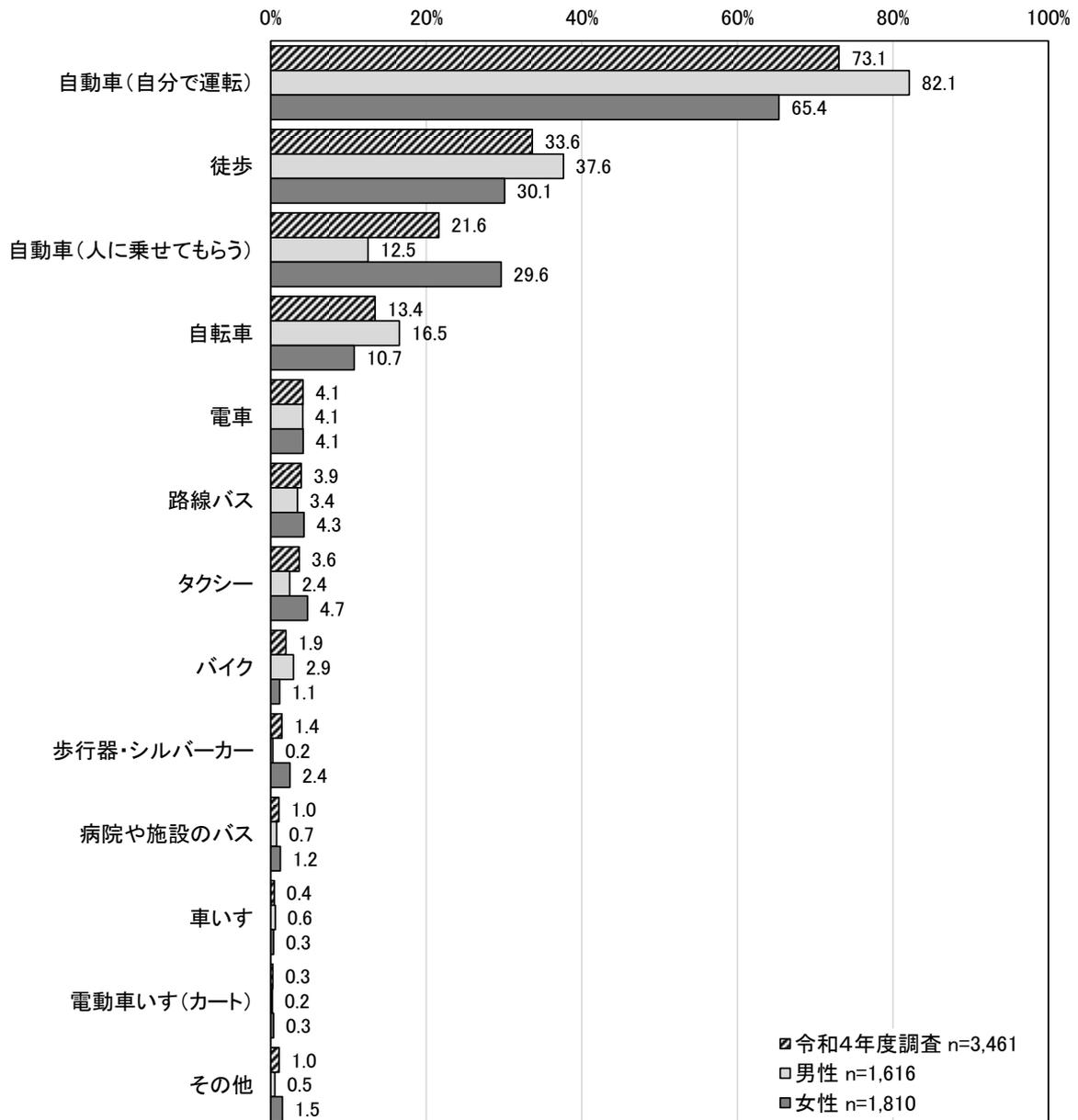
※その他は、全 471 件中 370 件が「新型コロナウイルス感染対策」を理由とする意見であったため、参考に掲載します。

(9) 外出する際の移動手段は何ですか（あてはまるものすべてに回答）

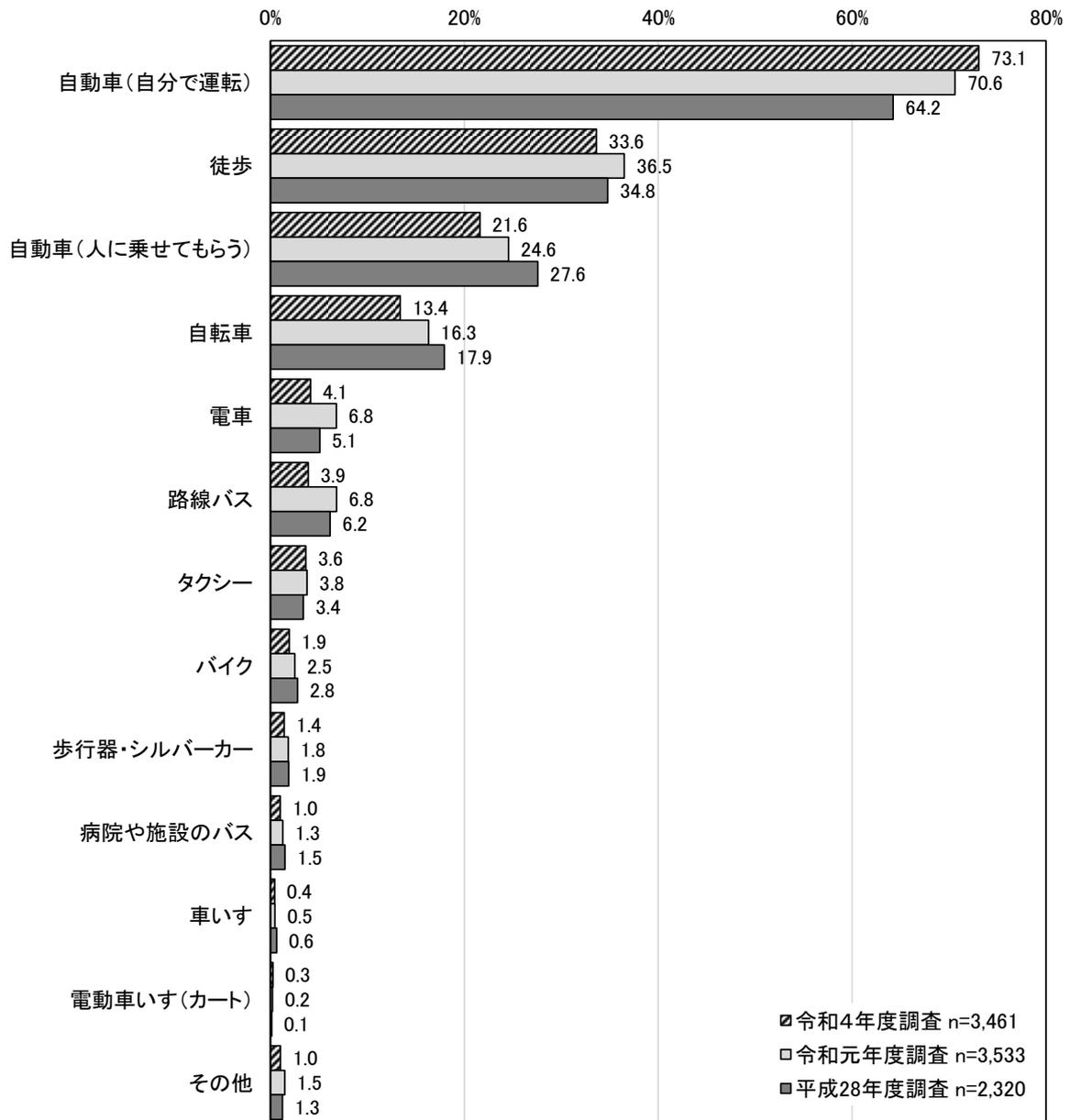
外出する際の移動手段については、「自動車（自分で運転）」が73.1%で最も高く、次いで「徒歩」が33.6%、「自動車（人に乗せてもらう）」が21.6%となっています。

性別でみると、男性・女性ともに「自動車（自分で運転）」の割合が最も高く、次いで男性では、「徒歩」が37.6%、「自転車」が16.5%となっています。女性では、「徒歩」が30.1%、「自動車（人に乗せてもらう）」が29.6%となっています。

【性別】

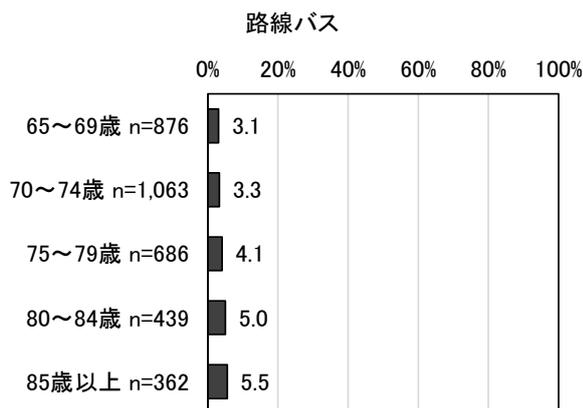
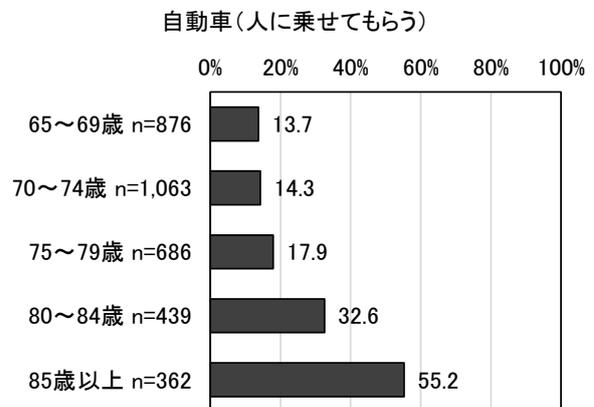
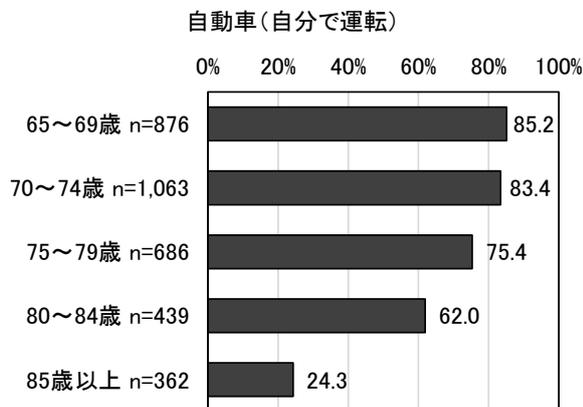
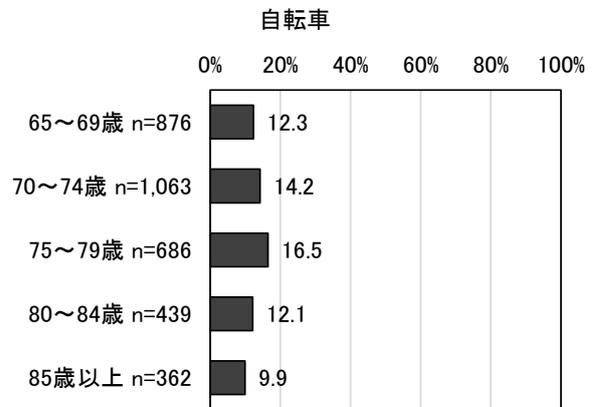
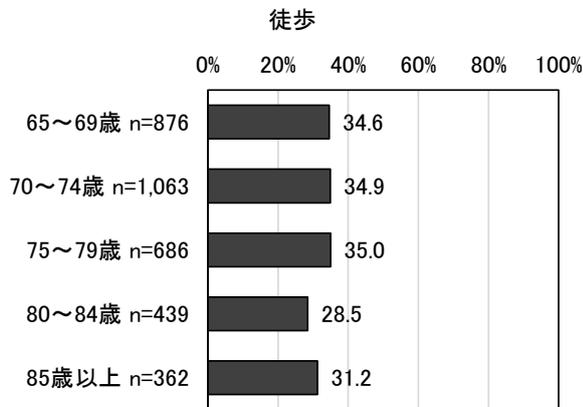


【経年比較】



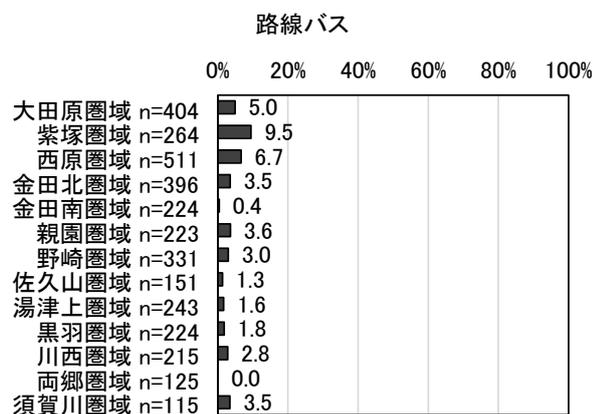
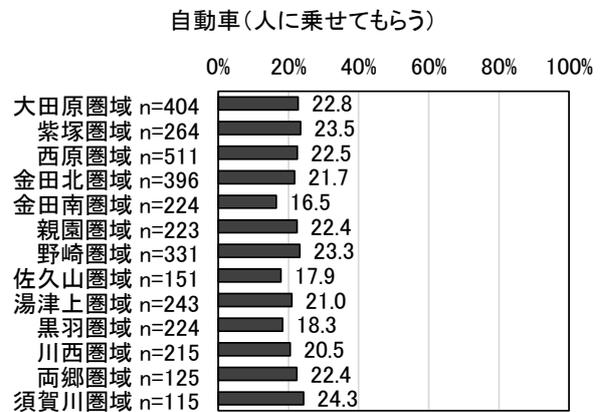
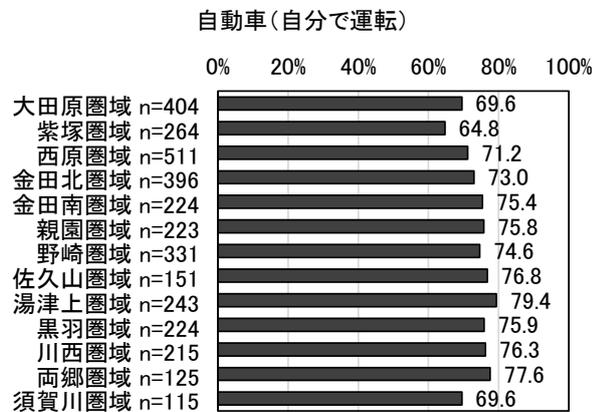
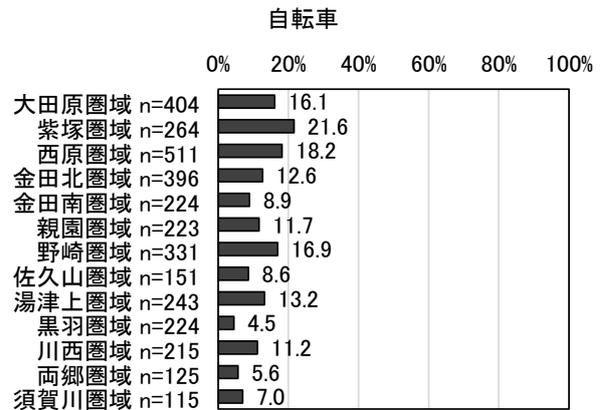
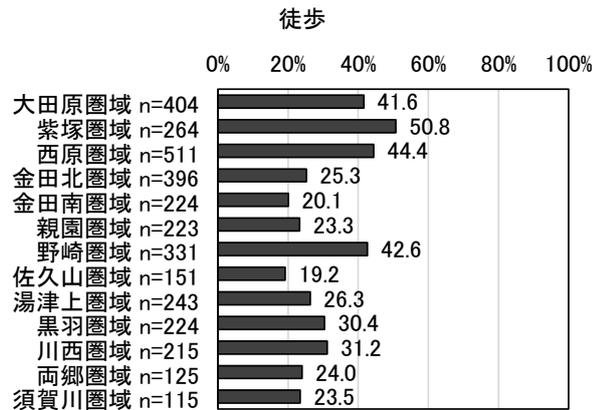
【年齢階級別】※選択肢から5つを抜粋

84歳以下では「自動車（自分で運転）」が最も高くなっていますが、年齢が上がるにつれて割合は減少する傾向がみられます。一方、「自動車（人に乗せてもらう）」は、年齢が上がるにつれて増加する傾向がみられます。



【日常生活圏域別】※選択肢から5つを抜粋

大田原圏域、紫塚圏域、西原圏域、野崎圏域において「徒歩」「自転車」が他の日常生活圏域と比較して高くなっています。



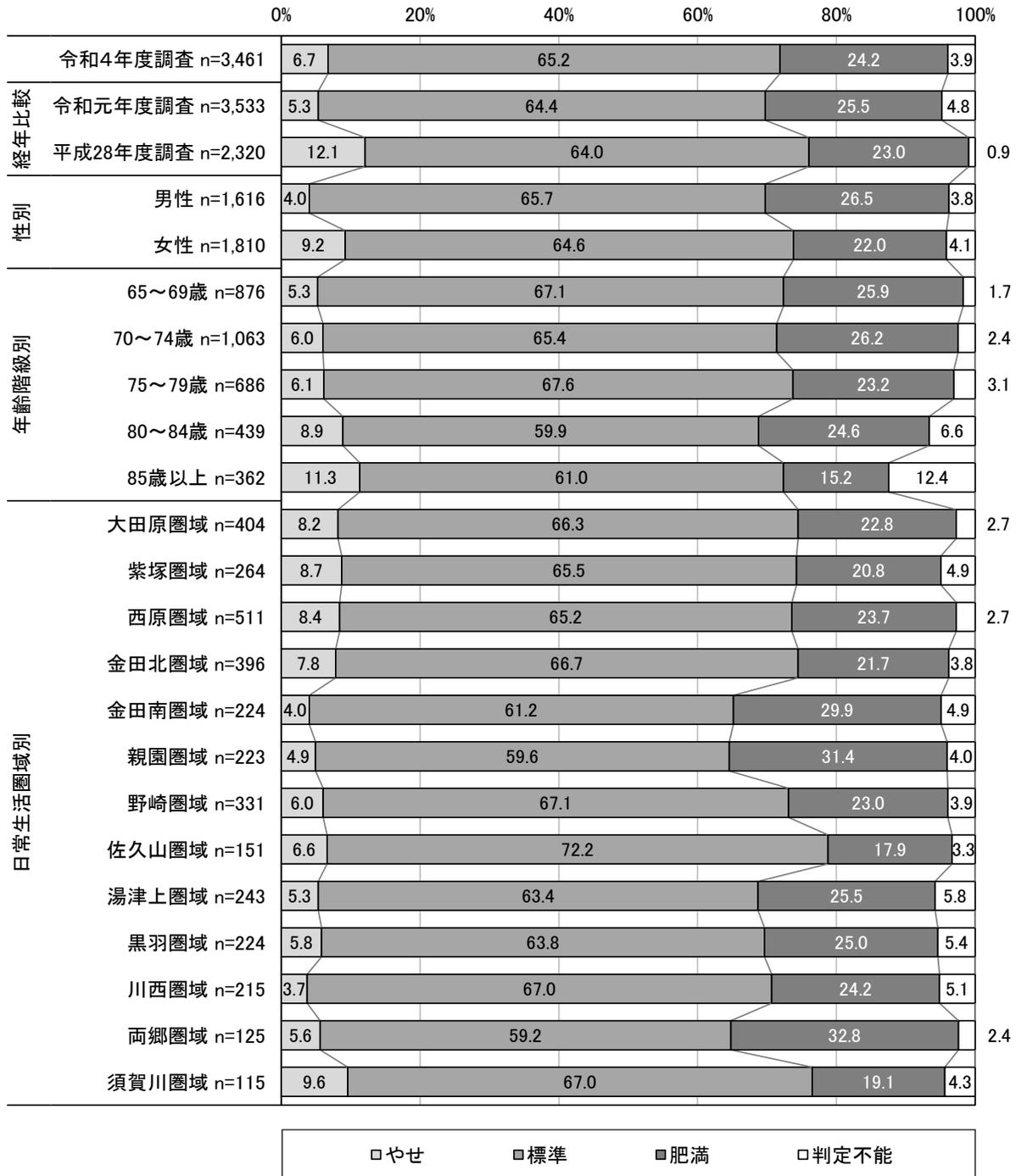
問3 食べることについて

(1) 身長・体重

身長・体重から算出されるBMIについてみると、「標準」が65.2%で最も高く、次いで「肥満」が24.2%、「やせ」が6.7%となっています。

年齢階級別でみると、「やせ」は、85歳以上が11.3%で最も高く、次いで80～84歳が8.9%、75～79歳が6.1%となっています。

令和元年度調査と比較して、「やせ」が5.3%から6.7%へ1.4ポイント増加しています。



※BMI = 体重 (kg) ÷ 身長 (m) ² で算出

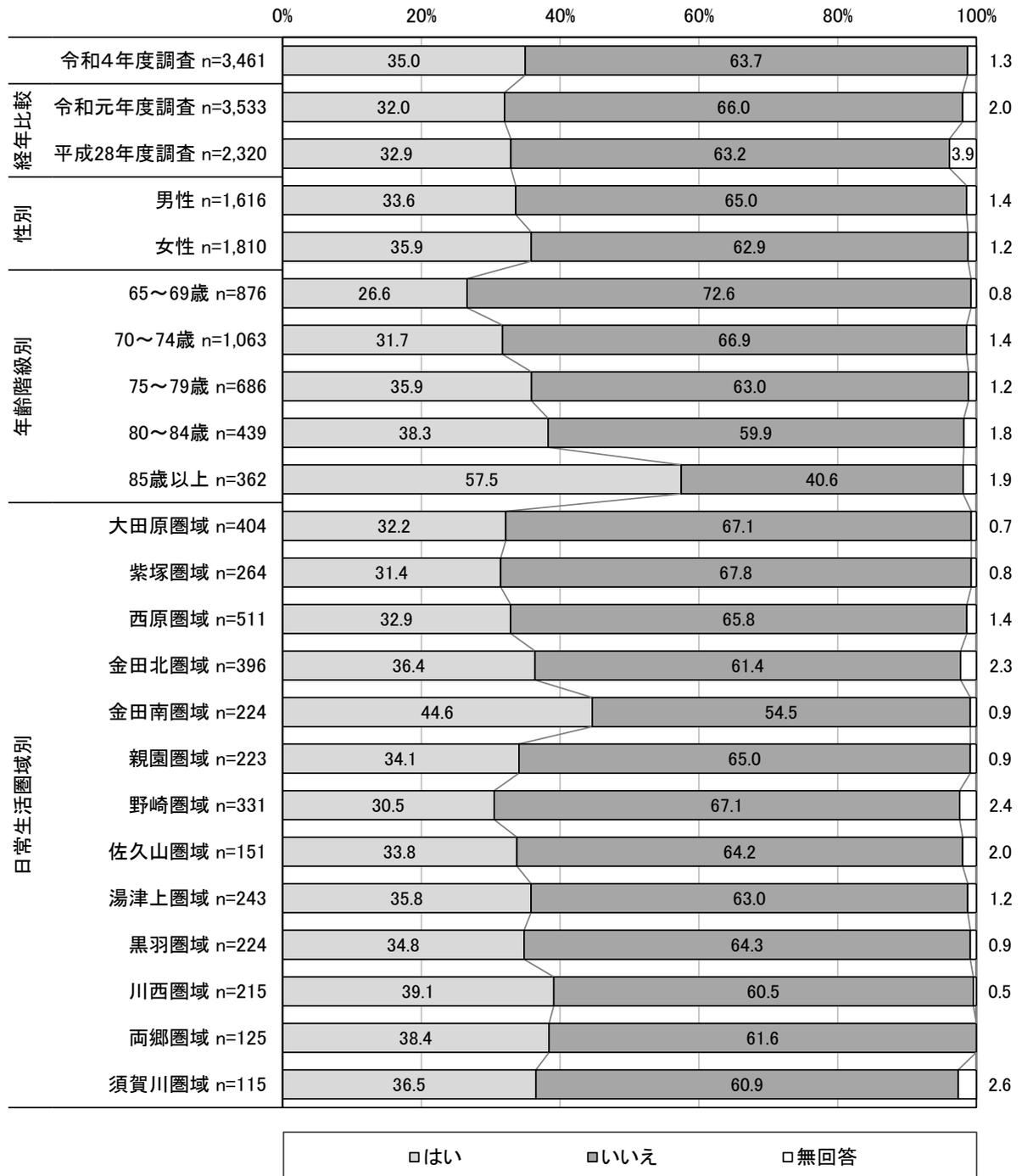
やせ：18.5未満、標準：18.5以上25.0未満、肥満：25.0以上

(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか(回答は1つ)

半年前に比べて固いものが食べにくくなったかについては、「はい」が35.0%、「いいえ」が63.7%で、「いいえ」が28.7ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「はい」は、85歳以上が57.5%で最も高く、次いで80~84歳が38.3%、75~79歳が35.9%となっています。

令和元年度調査と比較して、「はい」が32.0%から35.0%へ3.0ポイント増加しています。

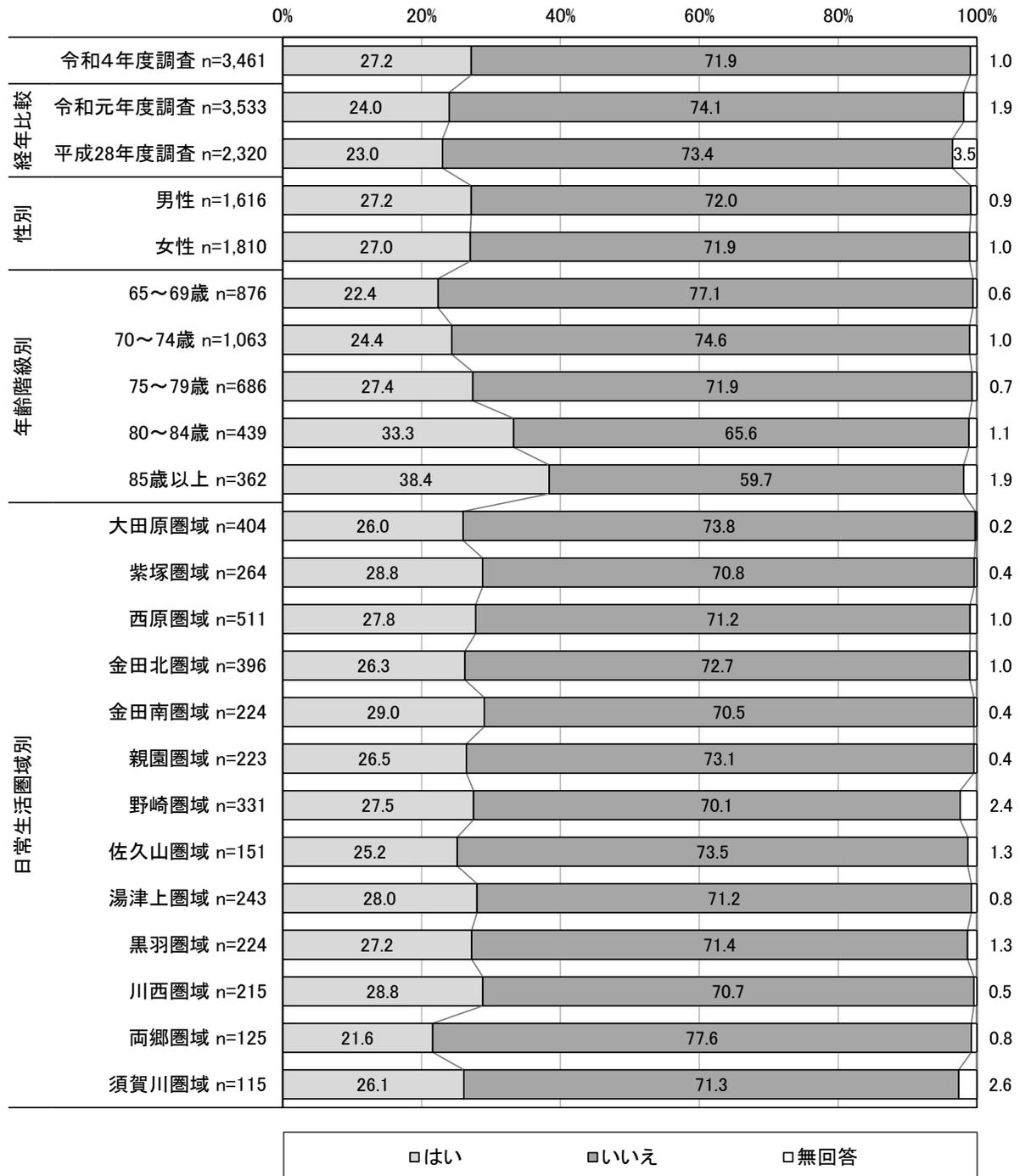


(3) お茶や汁物等でむせることがありますか(回答は1つ)

お茶や汁物等でむせることがあるかについては、「はい」が27.2%、「いいえ」が71.9%で、「いいえ」が44.7ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「はい」は、85歳以上が38.4%で最も高く、次いで80~84歳が33.3%、75~79歳が27.4%となっています。

令和元年度調査と比較して、「はい」が24.0%から27.2%へ3.2ポイント増加しています。

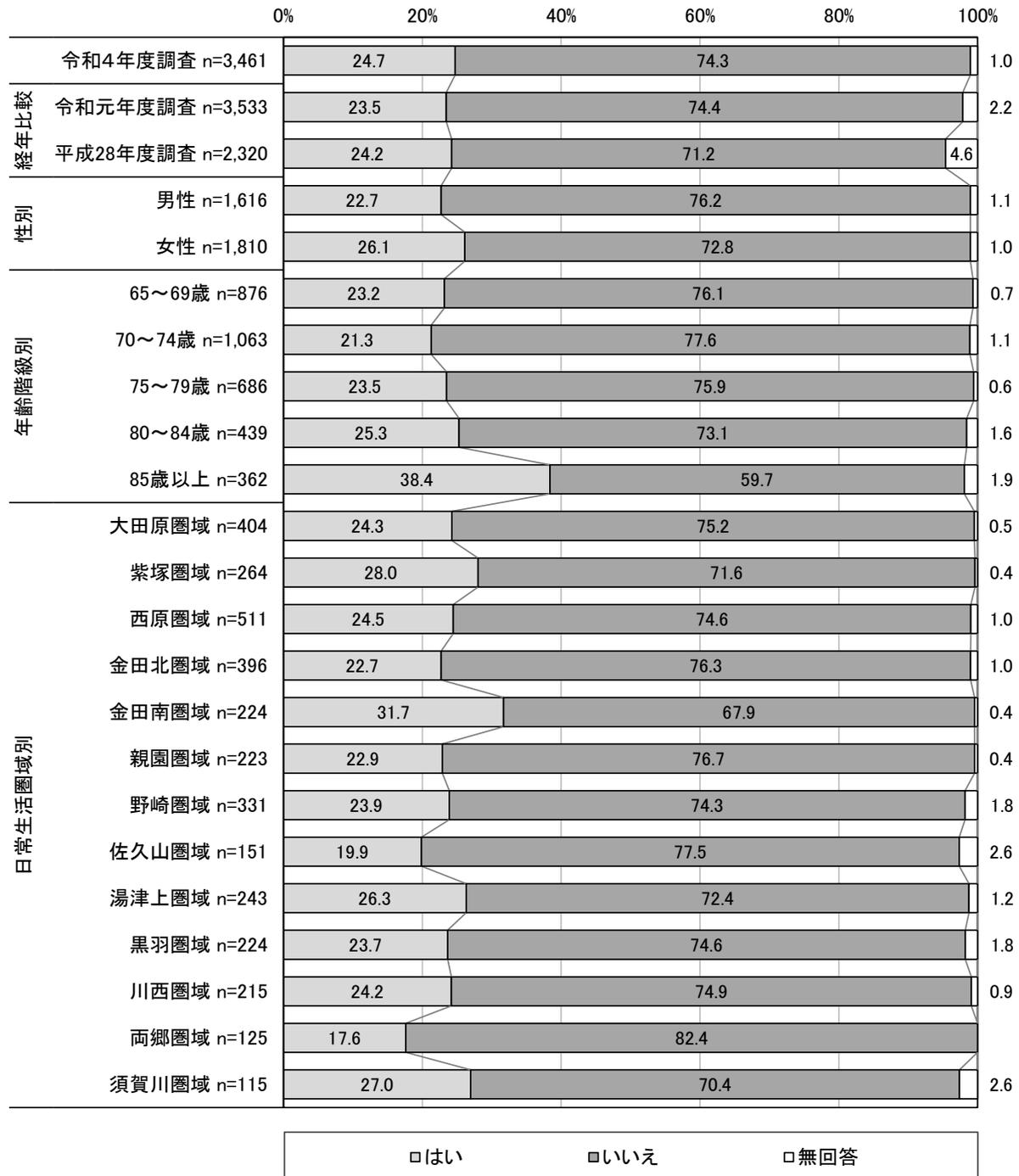


(4) 口の渇きが気になりますか(回答は1つ)

口の渇きが気になるかについては、「はい」が24.7%、「いいえ」が74.3%で、「いいえ」が49.6ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「はい」は、85歳以上が38.4%で最も高く、次いで80~84歳が25.3%、75~79歳が23.5%となっています。

令和元年度調査と比較して、「はい」が23.5%から24.7%へ1.2ポイント増加しています。



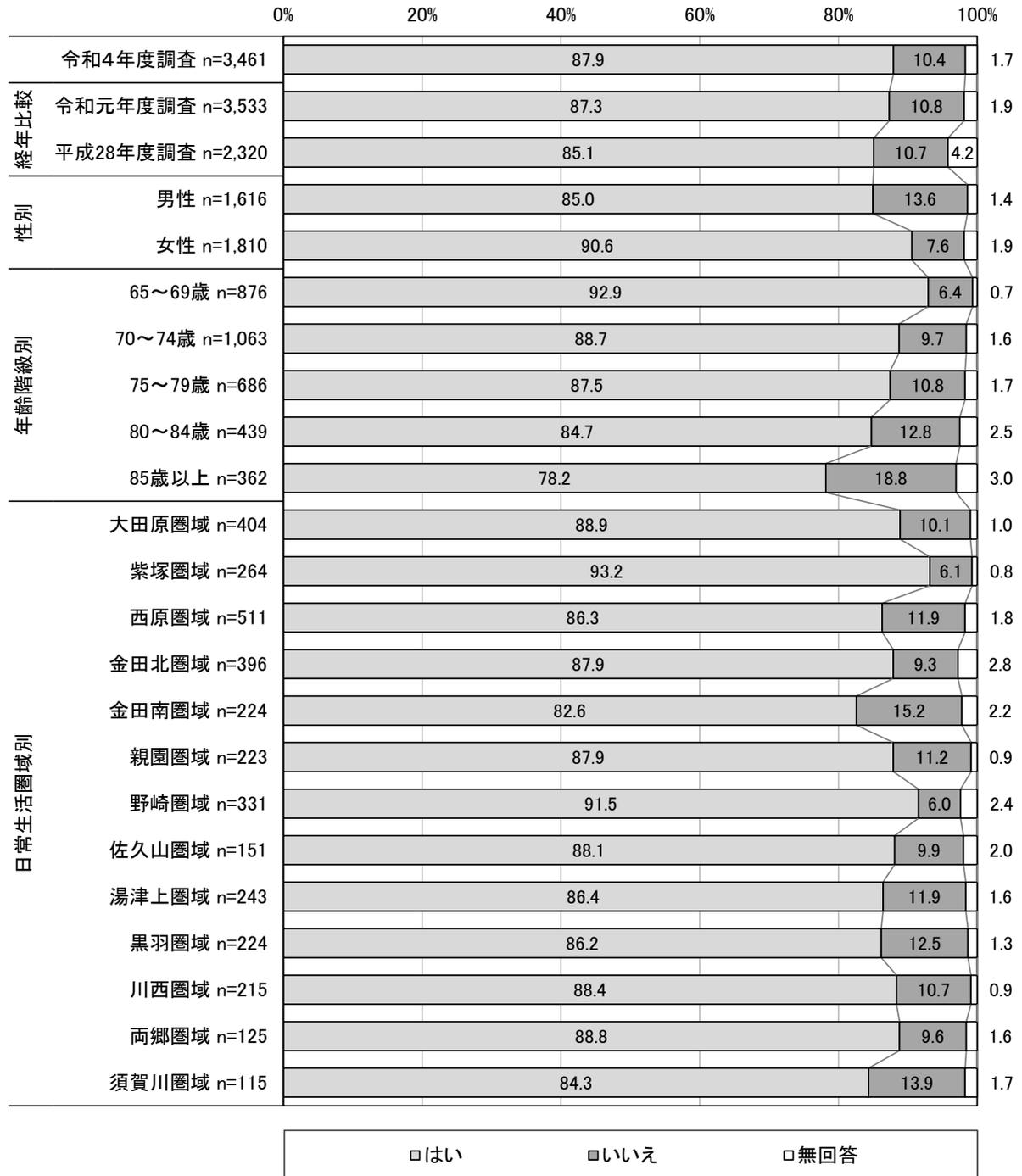
(5) 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか(回答は1つ)

歯磨きを毎日しているかについては、「はい」が87.9%、「いいえ」が10.4%で、「はい」が77.5ポイント上回っています。

性別でみると、「いいえ」は、女性に比べ男性のほうが6.0ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、85歳以上が18.8%で最も高く、次いで80~84歳が12.8%、75~79歳が10.8%となっています。

令和元年度調査と比較して、「いいえ」が10.8%から10.4%へ0.4ポイント減少しています。

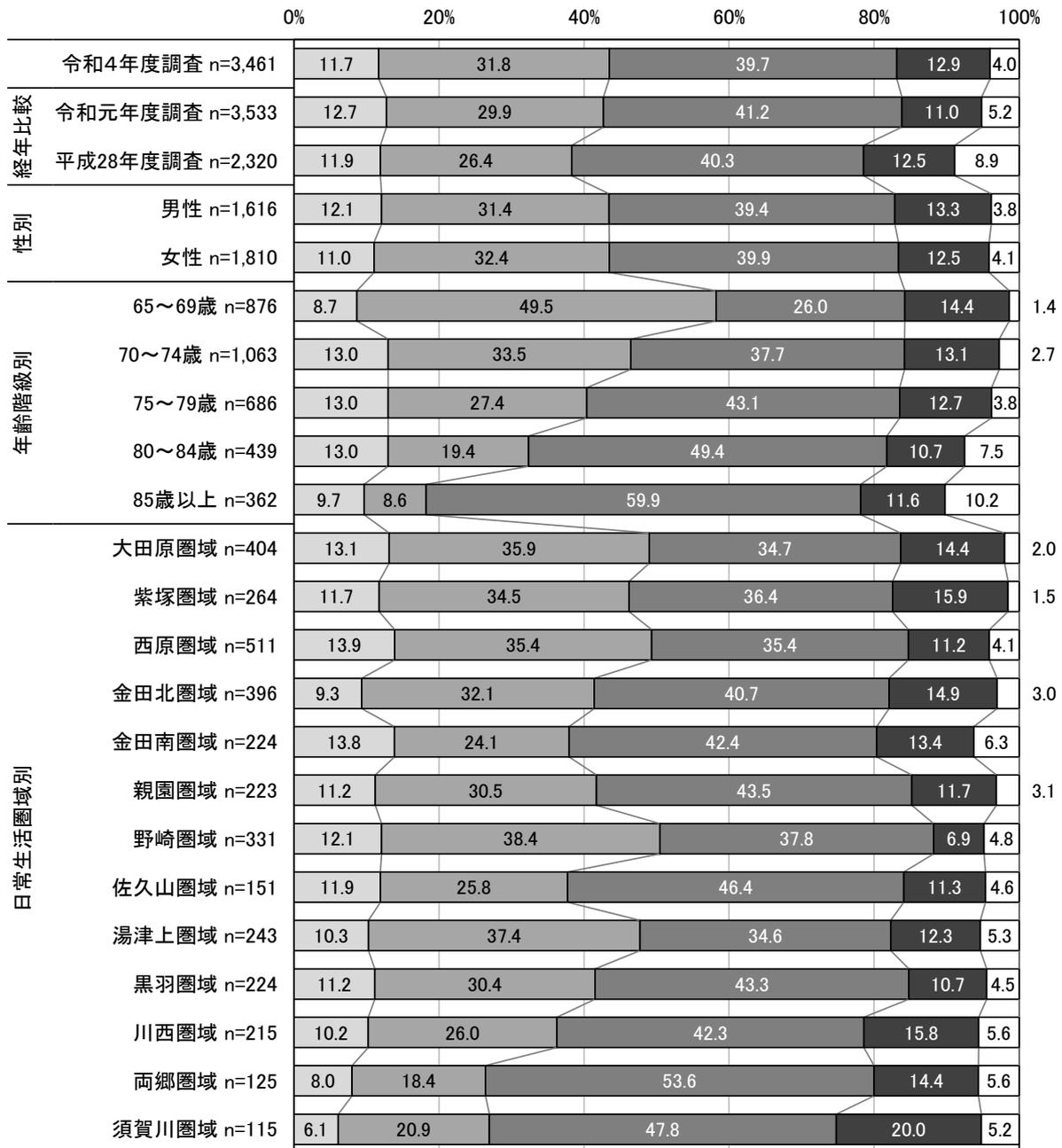


(6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください(回答は1つ)

(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)

歯の数と入れ歯の利用状況については、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が39.7%で最も高く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が31.8%、「自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし」が12.9%となっています。

「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」と「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」を合わせた『自分の歯が20本以上』は、80~84歳では32.4%、85歳以上では18.3%となっています。



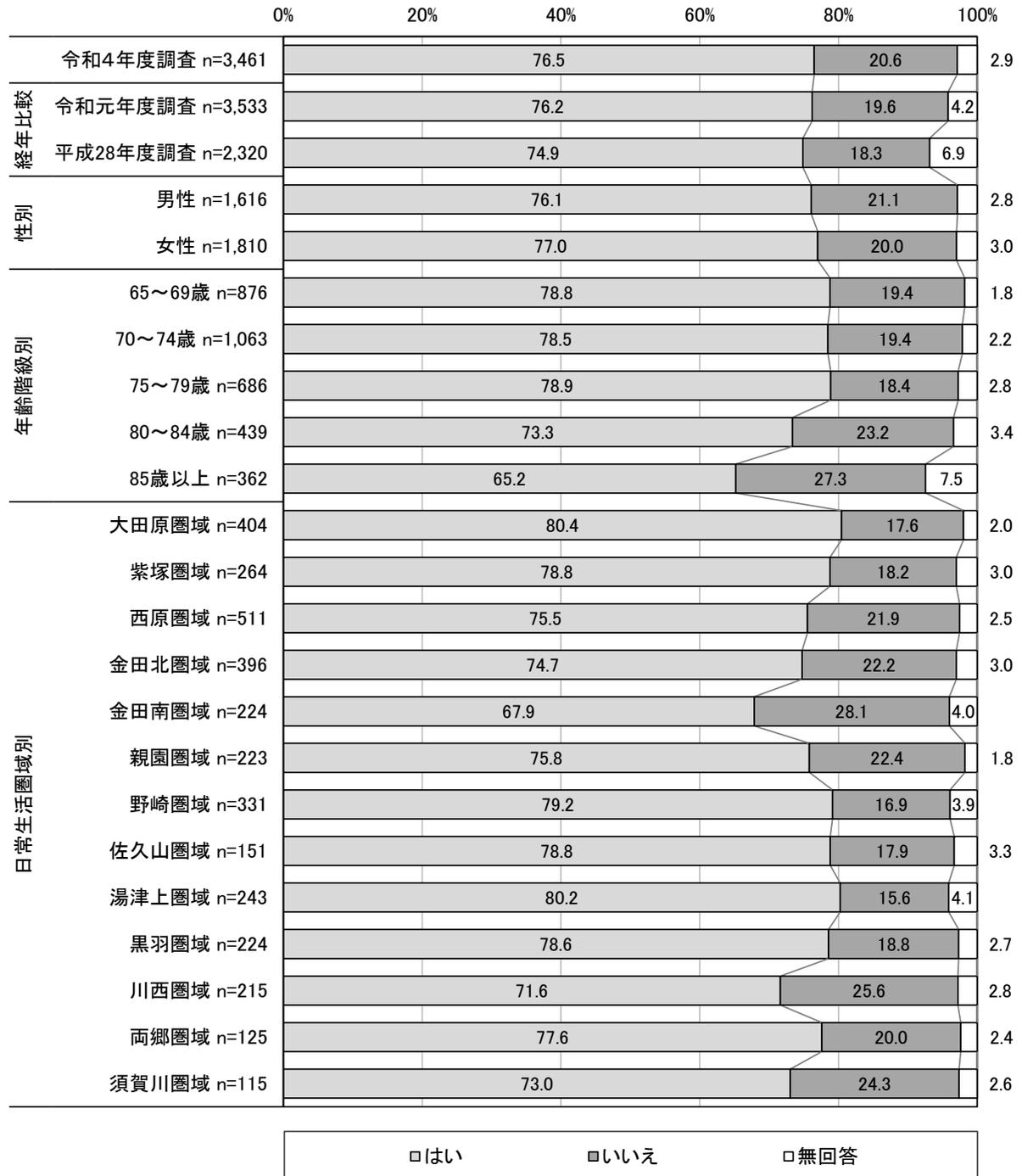
- 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用
- ▣ 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし
- ▤ 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用
- 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし
- 無回答

①噛み合わせは良いですか（回答は1つ）

噛み合わせは良いかについては、「はい」が76.5%、「いいえ」が20.6%で、「はい」が55.9ポイント上回っています。

性別でみると、「いいえ」は、女性に比べ男性のほうが1.1ポイント上回っています。

令和元年度調査と比較して、「いいえ」が19.6%から20.6%へ1.0ポイント増加しています。

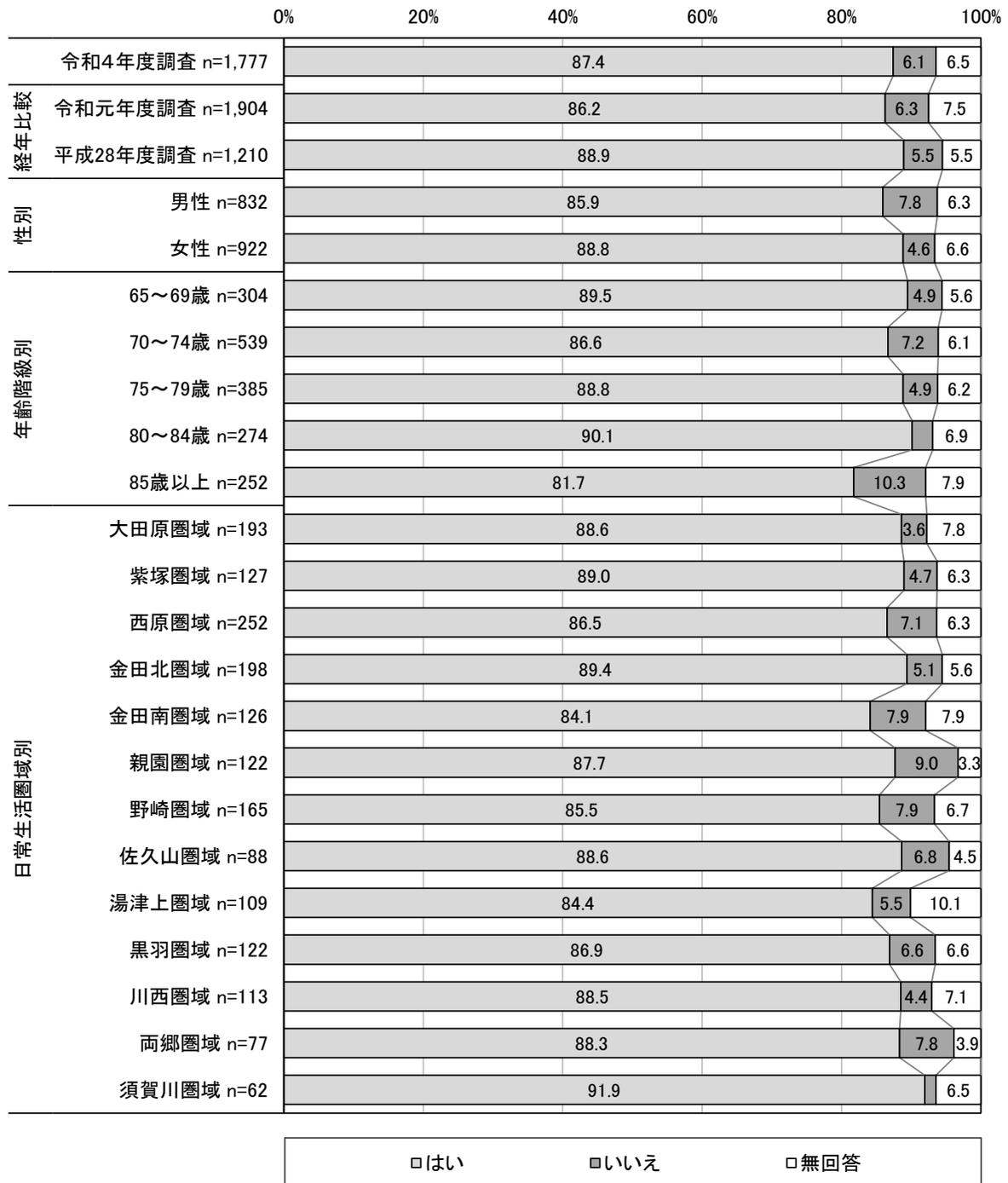


【(6) において「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」の方のみ】

②毎日入れ歯の手入れをしていますか（回答は1つ）

毎日入れ歯の手入れをしているかについては、「はい」が87.4%、「いいえ」が6.1%で、「はい」が81.3ポイント上回っています。

令和元年度調査と比較して、「いいえ」が6.3%から6.1%へ0.2ポイント減少しています。

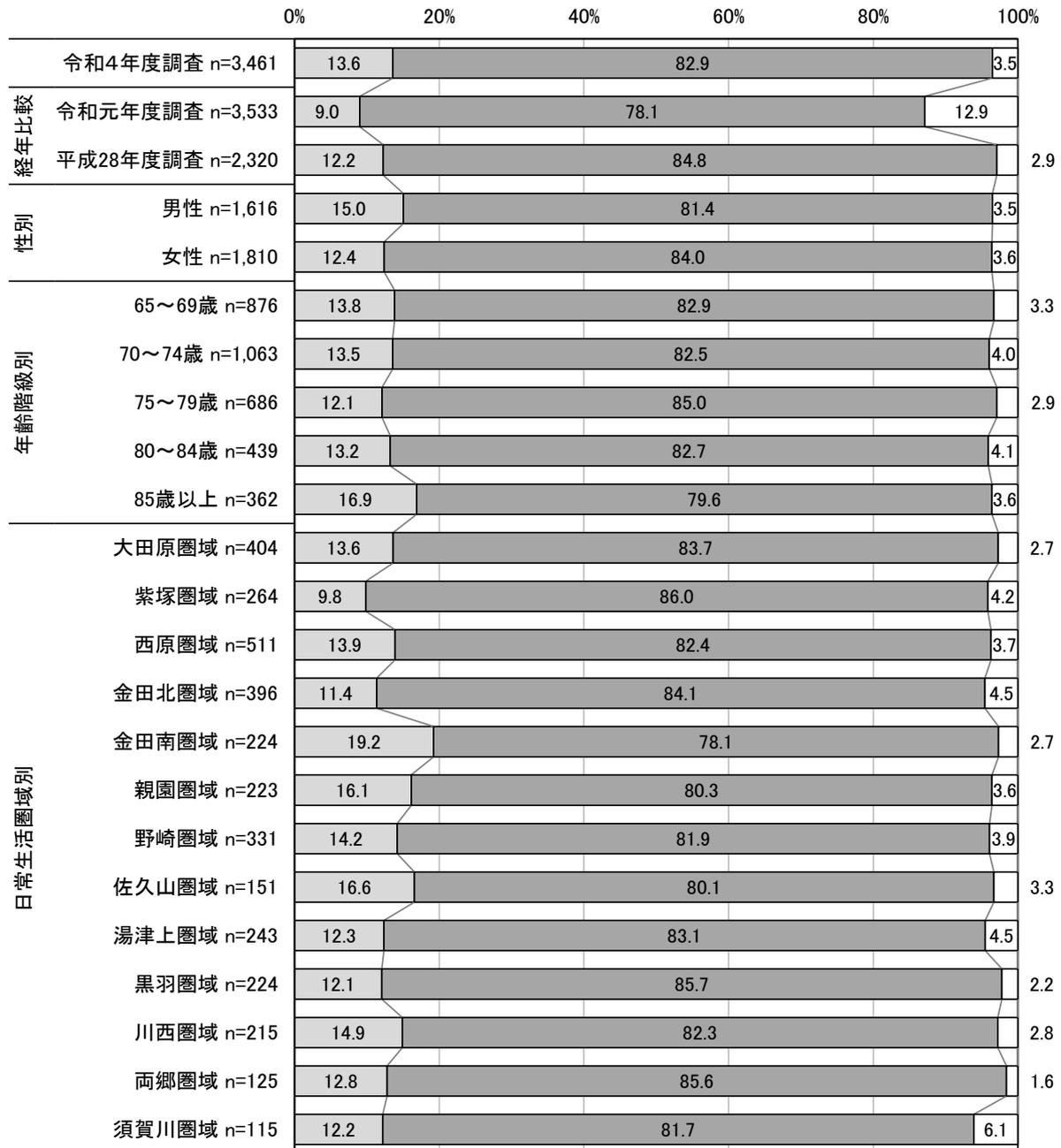


(7) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか(回答は1つ)

6か月間で2～3kg以上の体重減少があったかについては、「はい」が13.6%、「いいえ」が82.9%で、「いいえ」が69.3ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「はい」は、85歳以上が16.9%で最も高く、次いで65～69歳が13.8%、70～74歳が13.5%となっています。

令和元年度調査と比較して、「はい」が9.0%から13.6%へ4.6ポイント増加しています。



□はい □いいえ □無回答

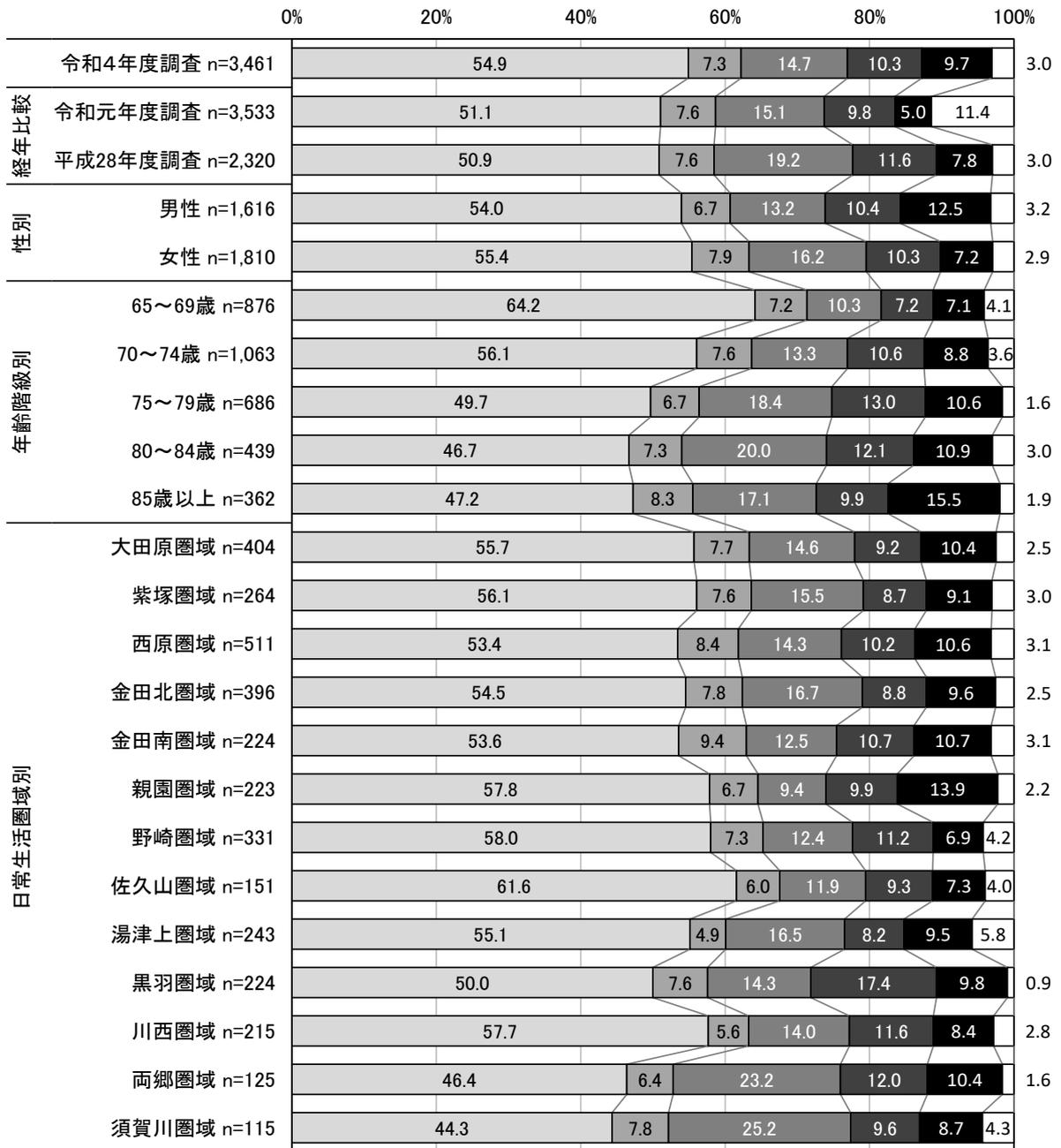
(8) どなたかと食事をとにもする機会がありますか(回答は1つ)

どなたかと食事をとにもする機会があるかについては、「毎日ある」が54.9%で最も高く、次いで「月に何度かある」が14.7%、「年に何度かある」が10.3%となっています。

性別でみると、「年に何度かある」と「ほとんどない」を合わせた『あまりない』は、女性に比べ男性のほうが5.4ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『あまりない』は、85歳以上が25.4%で最も高く、次いで75～79歳が23.6%、80～84歳が23.0%となっています。

令和元年度調査と比較して、『あまりない』が14.8%から20.0%へ5.2ポイント増加しています。



□毎日ある □週に何度かある □月に何度かある
 ■年に何度かある ■ほとんどない □無回答

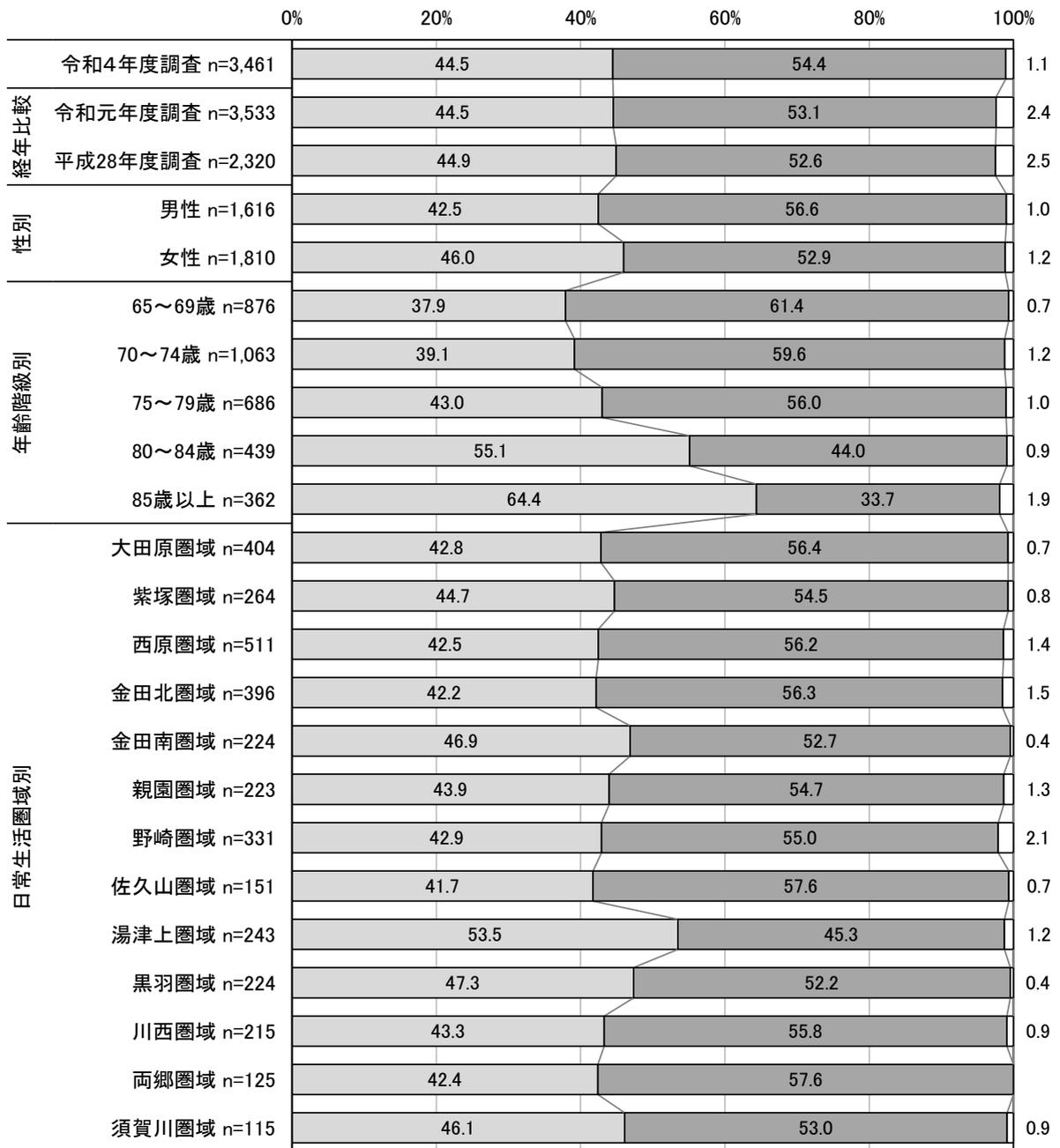
問4 毎日の生活について

(1) 物忘れが多いと感じますか（回答は1つ）

物忘れが多いと感じるかについては、「はい」が44.5%、「いいえ」が54.4%で、「いいえ」が9.9ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「はい」は、85歳以上が64.4%で最も高く、次いで80～84歳が55.1%、75～79歳が43.0%となっています。

令和元年度調査と比較して、「はい」が44.5%で同じ割合となっています。



□はい □いいえ □無回答

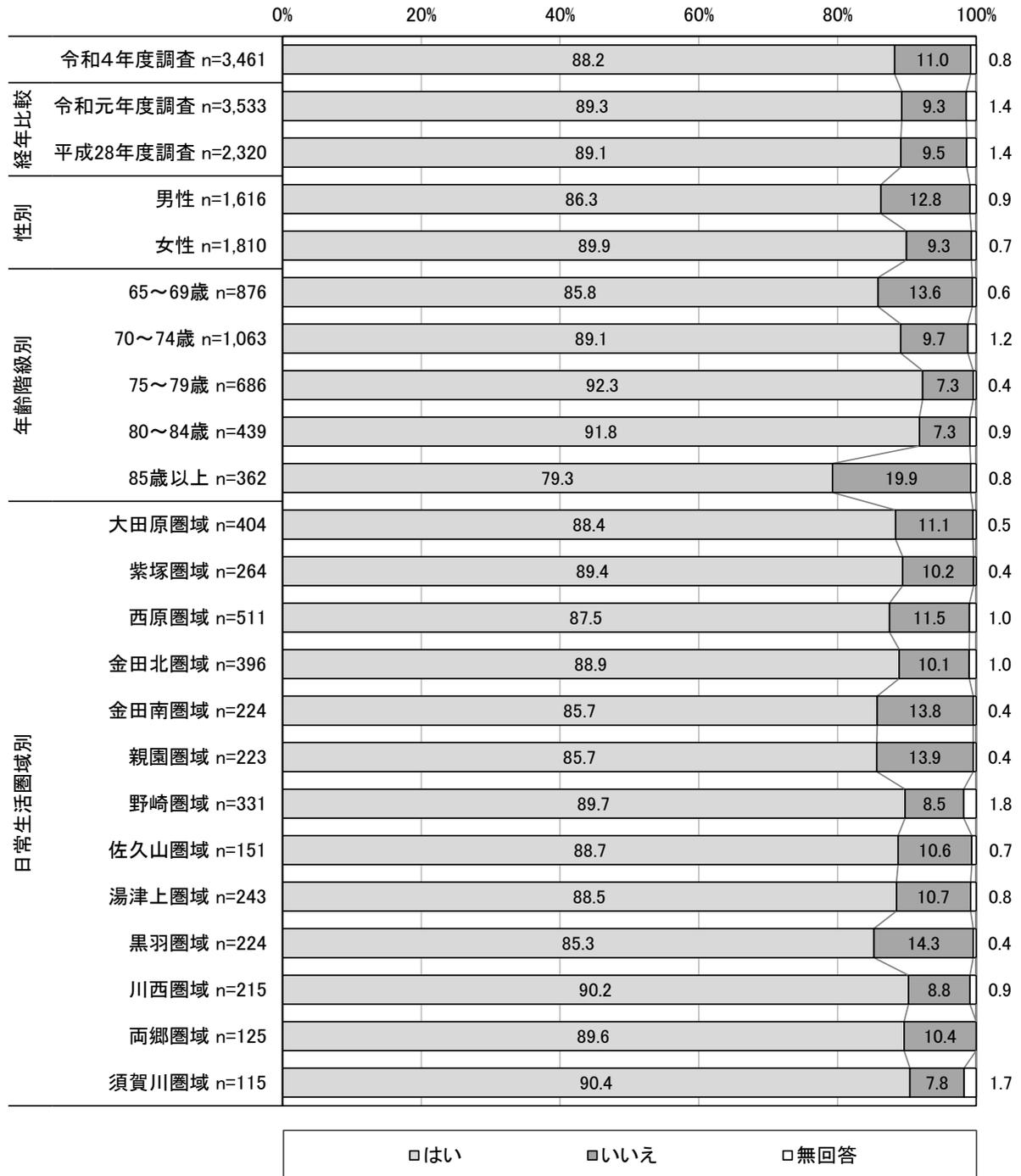
(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか(回答は1つ)

自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしているかについては、「はい」が88.2%、「いいえ」が11.0%で、「はい」が77.2ポイント上回っています。

性別でみると、「いいえ」は、女性に比べ男性のほうが3.5ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、85歳以上が19.9%で最も高く、次いで65～69歳が13.6%、70～74歳が9.7%となっています。

令和元年度調査と比較して、「いいえ」が9.3%から11.0%へ1.7ポイント増加しています。

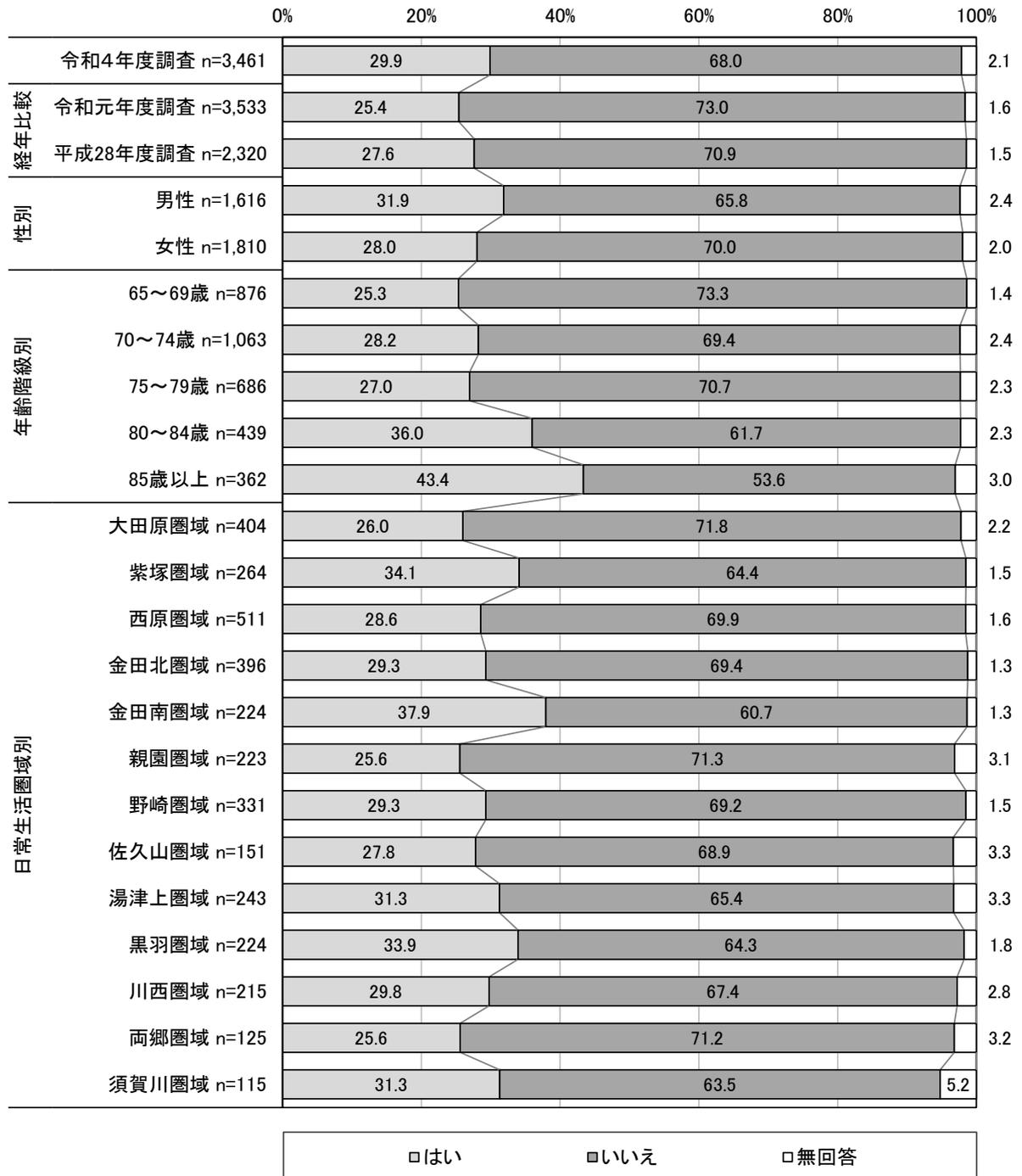


(3) 今日が何月何日かわからないときがありますか(回答は1つ)

今日が何月何日かわからないときがあるかについては、「はい」が29.9%、「いいえ」が68.0%で、「いいえ」が38.1ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「はい」は、85歳以上が43.4%で最も高く、次いで80~84歳が36.0%、70~74歳が28.2%となっています。

令和元年度調査と比較して、「はい」が25.4%から29.9%へ4.5ポイント増加しています。



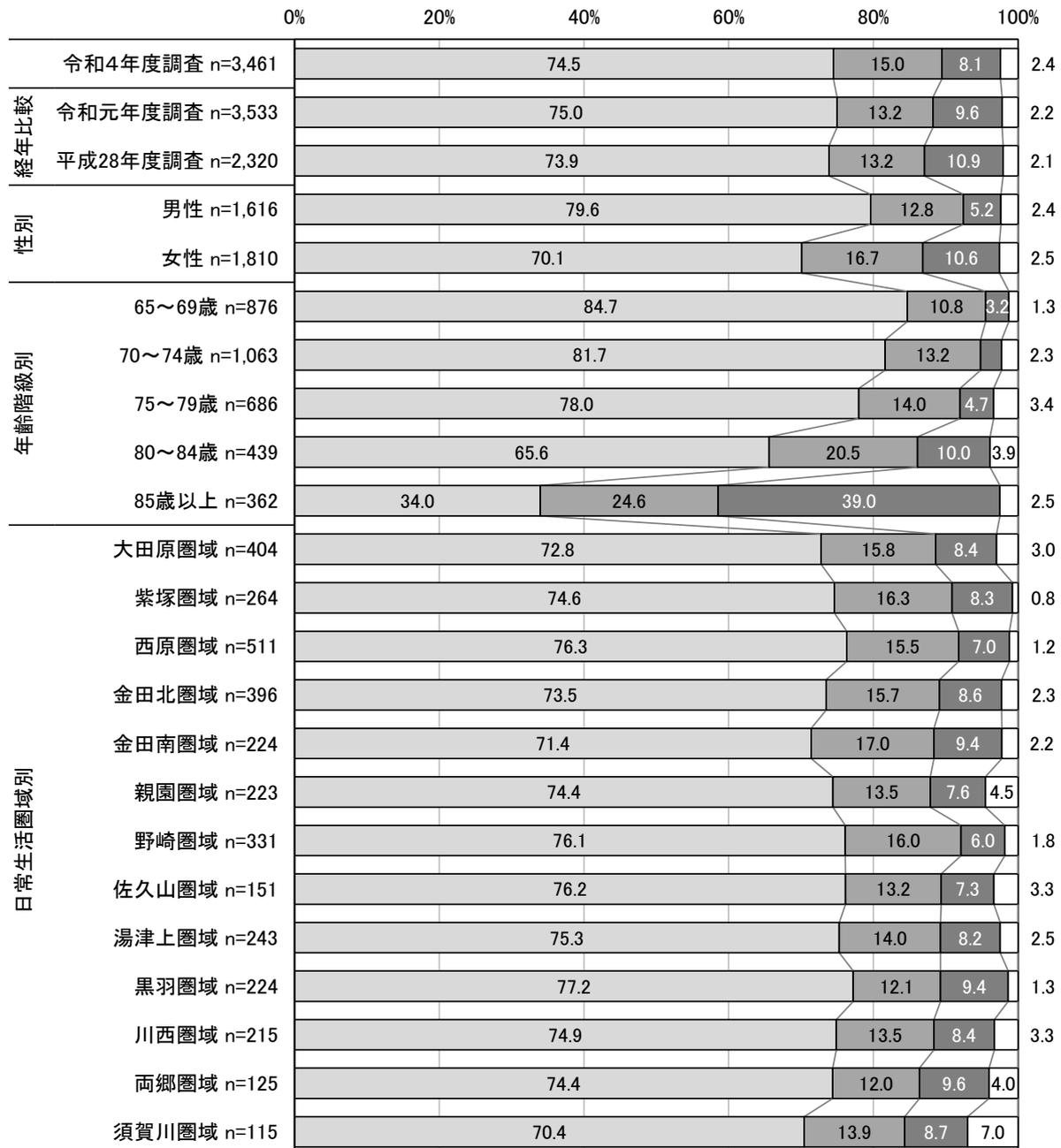
(4) バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)(回答は1つ)

バスや電車を使って1人で外出しているかについては、「できるし、している」が74.5%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が15.0%、「できない」が8.1%となっています。

性別でみると、「できない」は、男性に比べ女性のほうが5.4ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「できない」は、85歳以上が39.0%で最も高く、次いで80~84歳が10.0%、75~79歳が4.7%となっています。

令和元年度調査と比較して、「できない」が9.6%から8.1%へ1.5ポイント減少しています。



□できるし、している □できるけどしていない ■できない □無回答

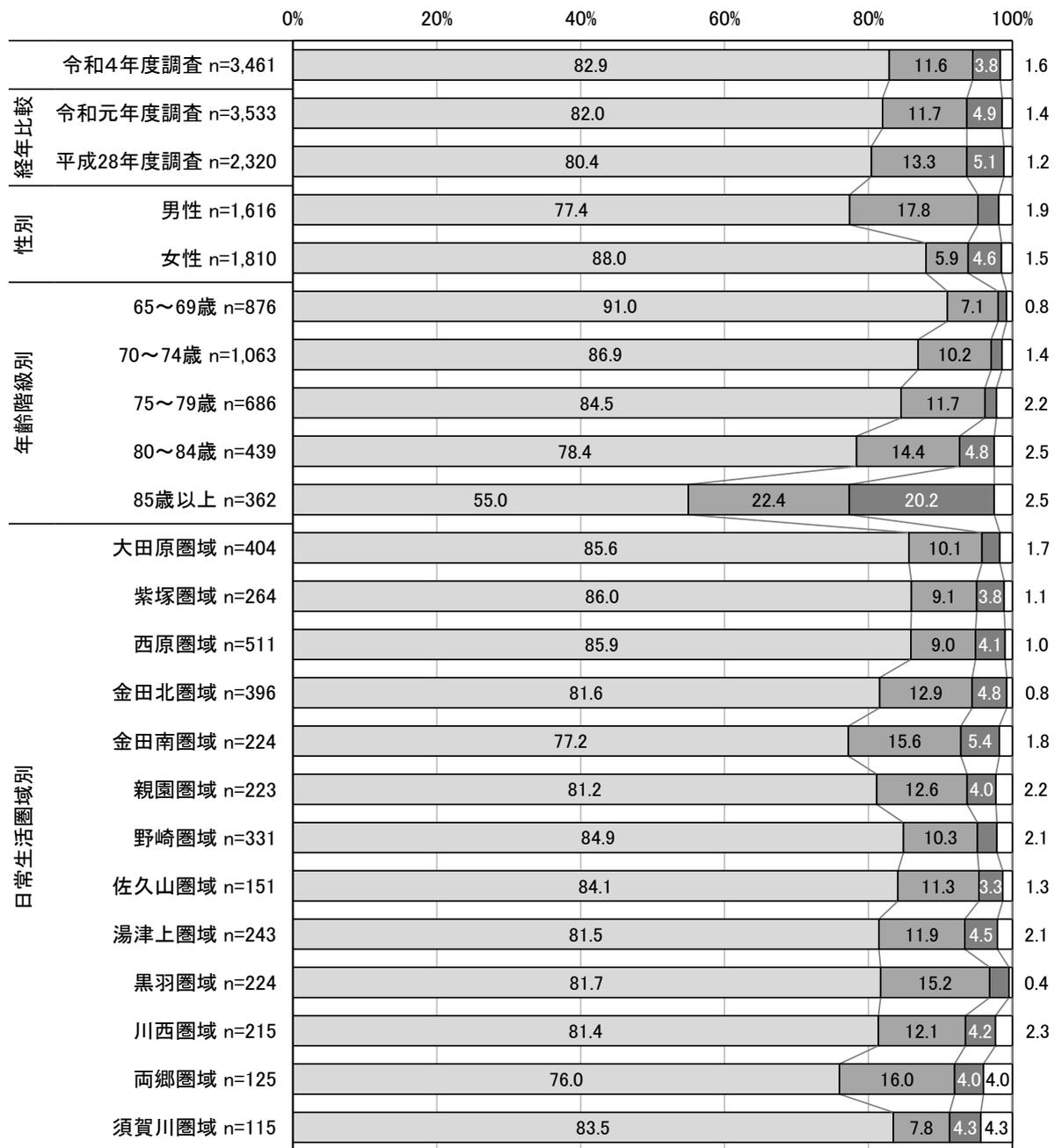
(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか(回答は1つ)

自分で食品・日用品の買い物をしているかについては、「できるし、している」が 82.9%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が 11.6%、「できない」が 3.8%となっています。

性別でみると、「できるけどしていない」は、女性に比べ男性のほうが 11.9 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「できない」は、85 歳以上が 20.2%で最も高く、次いで 80～84 歳が 4.8%、75～79 歳が 1.6%となっています。

令和元年度調査と比較して、「できるけどしていない」と「できない」を合わせた『自分で買い物をしない』が 16.6%から 15.4%へ 1.2 ポイント減少しています。



□できるし、している □できるけどしていない □できない □無回答

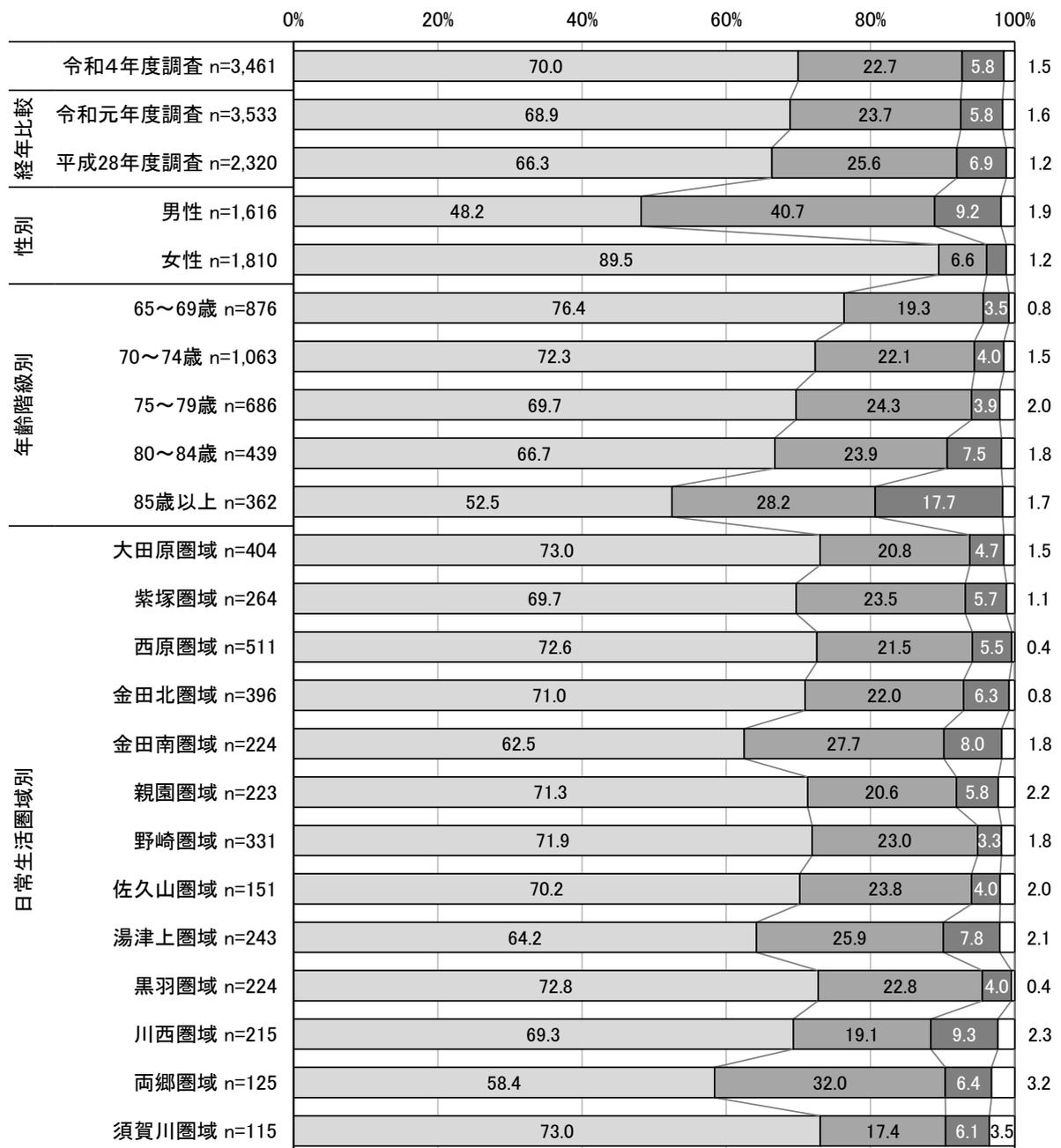
(6) 自分で食事の用意をしていますか(回答は1つ)

自分で食事の用意をしているかについては、「できるし、している」が70.0%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が22.7%、「できない」が5.8%となっています。

性別でみると、「できるけどしていない」は、女性に比べ男性のほうが34.1ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「できない」は、85歳以上が17.7%で最も高く、次いで80～84歳が7.5%、70～74歳が4.0%となっています。

令和元年度調査と比較して、「できない」が5.8%で同じ割合となっています。



□できるし、している □できるけどしていない □できない □無回答

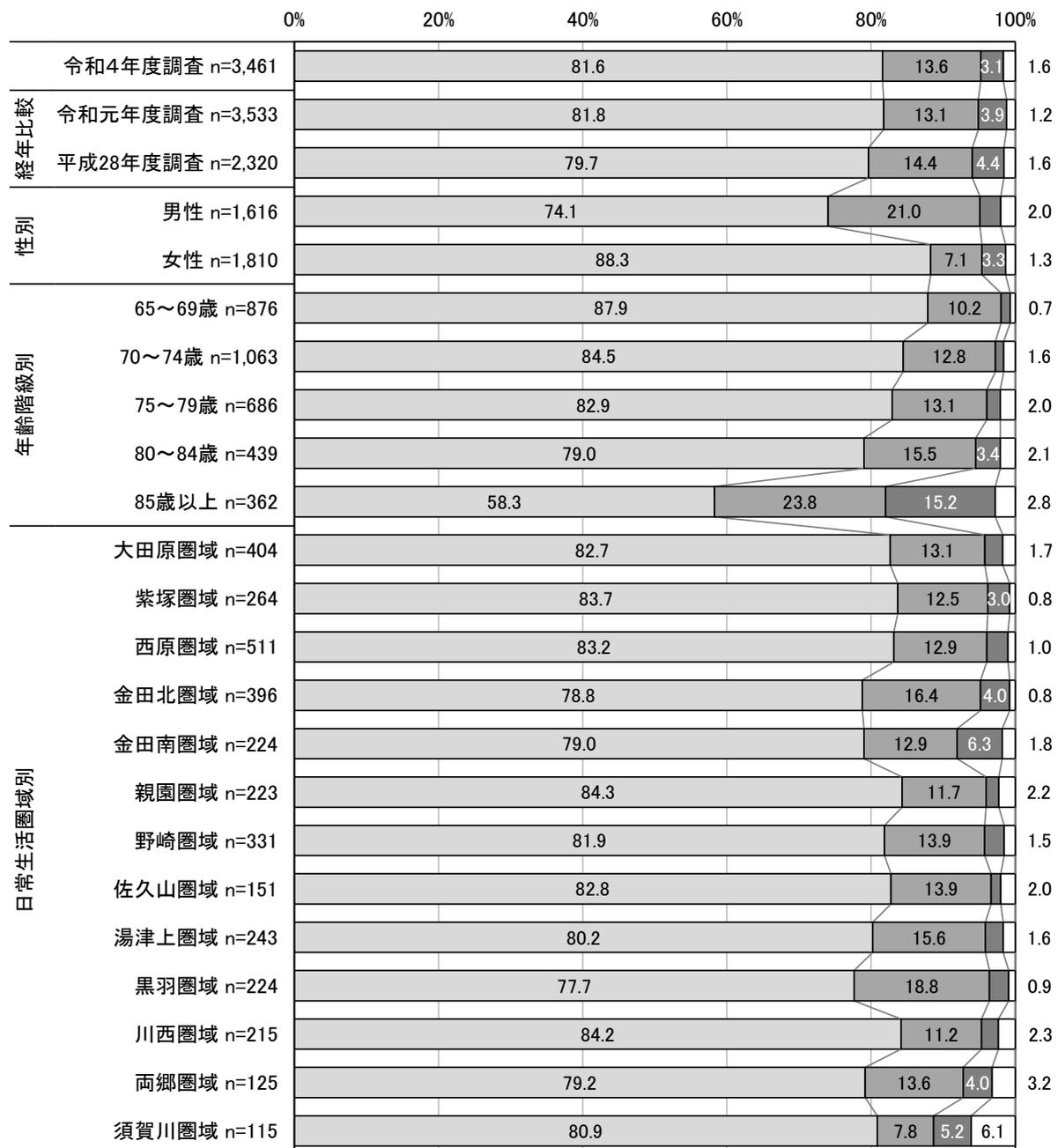
(7) 自分で請求書の支払いをしていますか(回答は1つ)

自分で請求書の支払いをしているかについては、「できるし、している」が81.6%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が13.6%、「できない」が3.1%となっています。

性別でみると、「できるけどしていない」は、女性に比べ男性のほうが13.9ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「できない」は、85歳以上が15.2%で最も高く、次いで80~84歳が3.4%、75~79歳が1.9%となっています。

令和元年度調査と比較して、「できない」が3.9%から3.1%へ0.8ポイント減少しています。



□できるし、している □できるけどしていない □できない □無回答

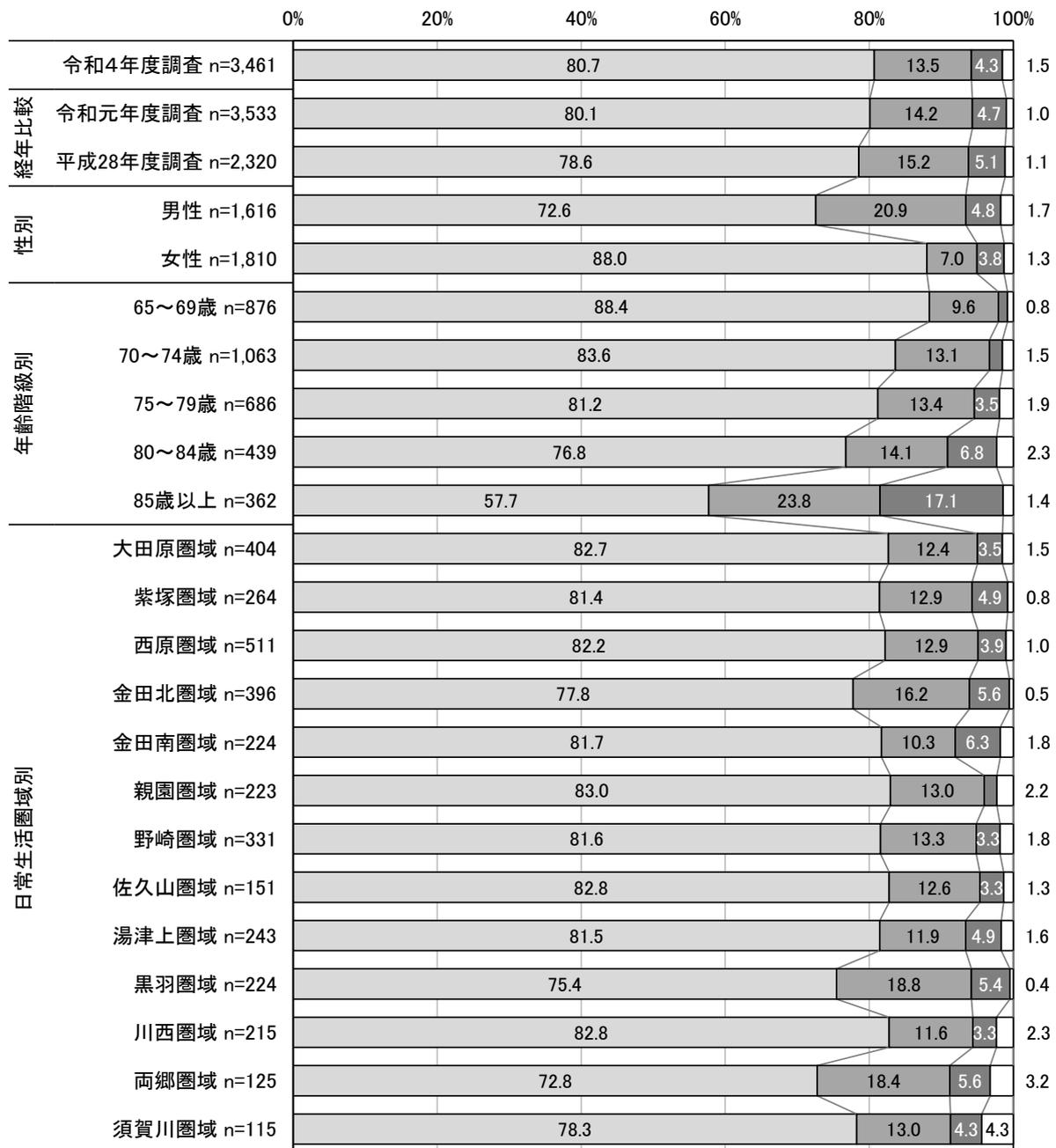
(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか(回答は1つ)

自分で預貯金の出し入れをしているかについては、「できるし、している」が80.7%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が13.5%、「できない」が4.3%となっています。

性別でみると、「できるけどしていない」は、女性に比べ男性のほうが13.9ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「できない」は、85歳以上が17.1%で最も高く、次いで80～84歳が6.8%、75～79歳が3.5%となっています。

令和元年度調査と比較して、「できるけどしていない」と「できない」を合わせた『自分で預貯金の出し入れをしない』が18.9%から17.8%へ1.1ポイント減少しています。



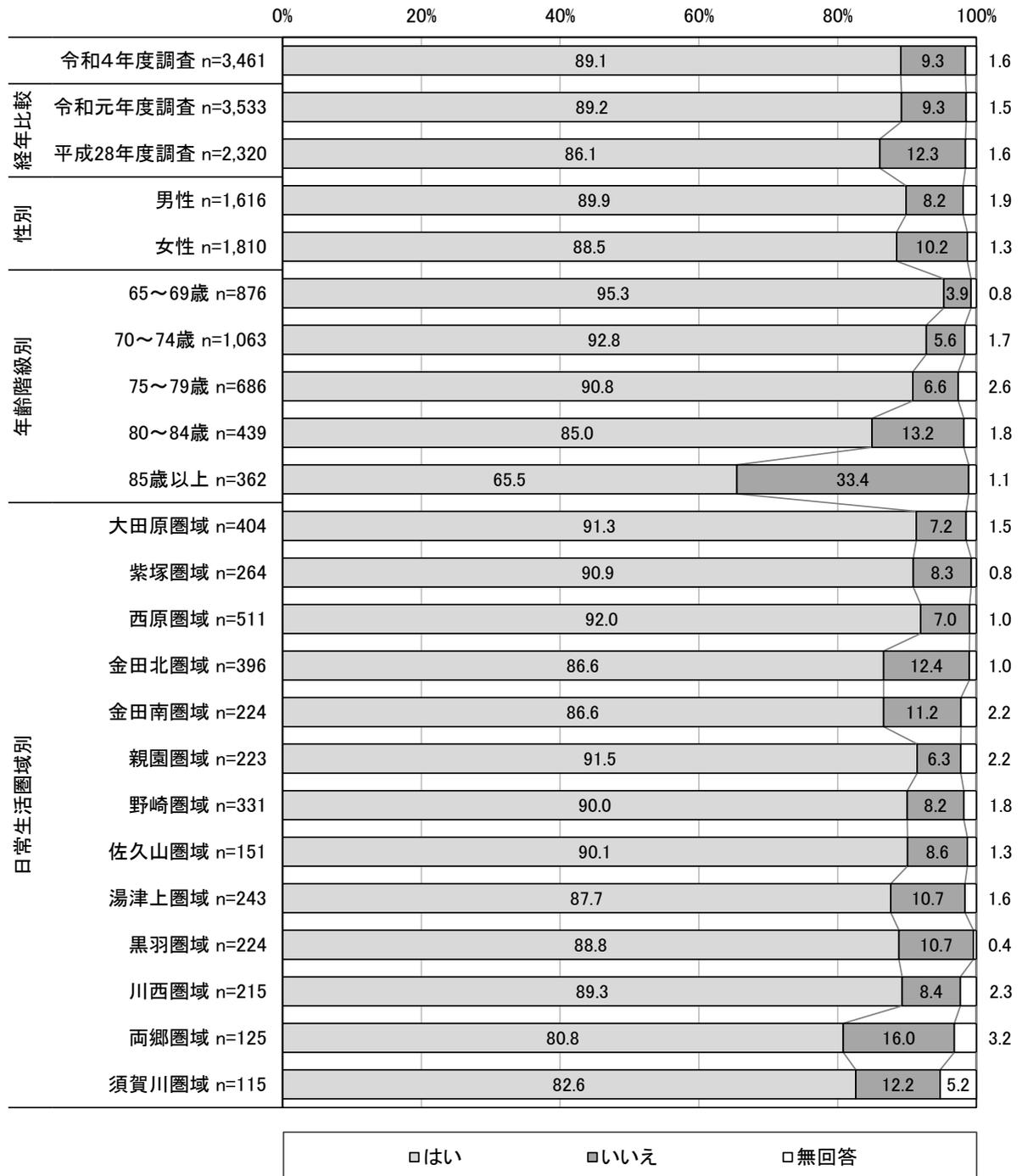
□できるし、している □できるけどしていない □できない □無回答

(9) 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか（回答は1つ）

年金などの書類が書けるかについては、「はい」が89.1%、「いいえ」が9.3%で、「はい」が79.8ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、85歳以上が33.4%で最も高く、次いで80～84歳が13.2%、75～79歳が6.6%となっています。

令和元年度調査と比較して、「いいえ」が9.3%で同じ割合となっています。



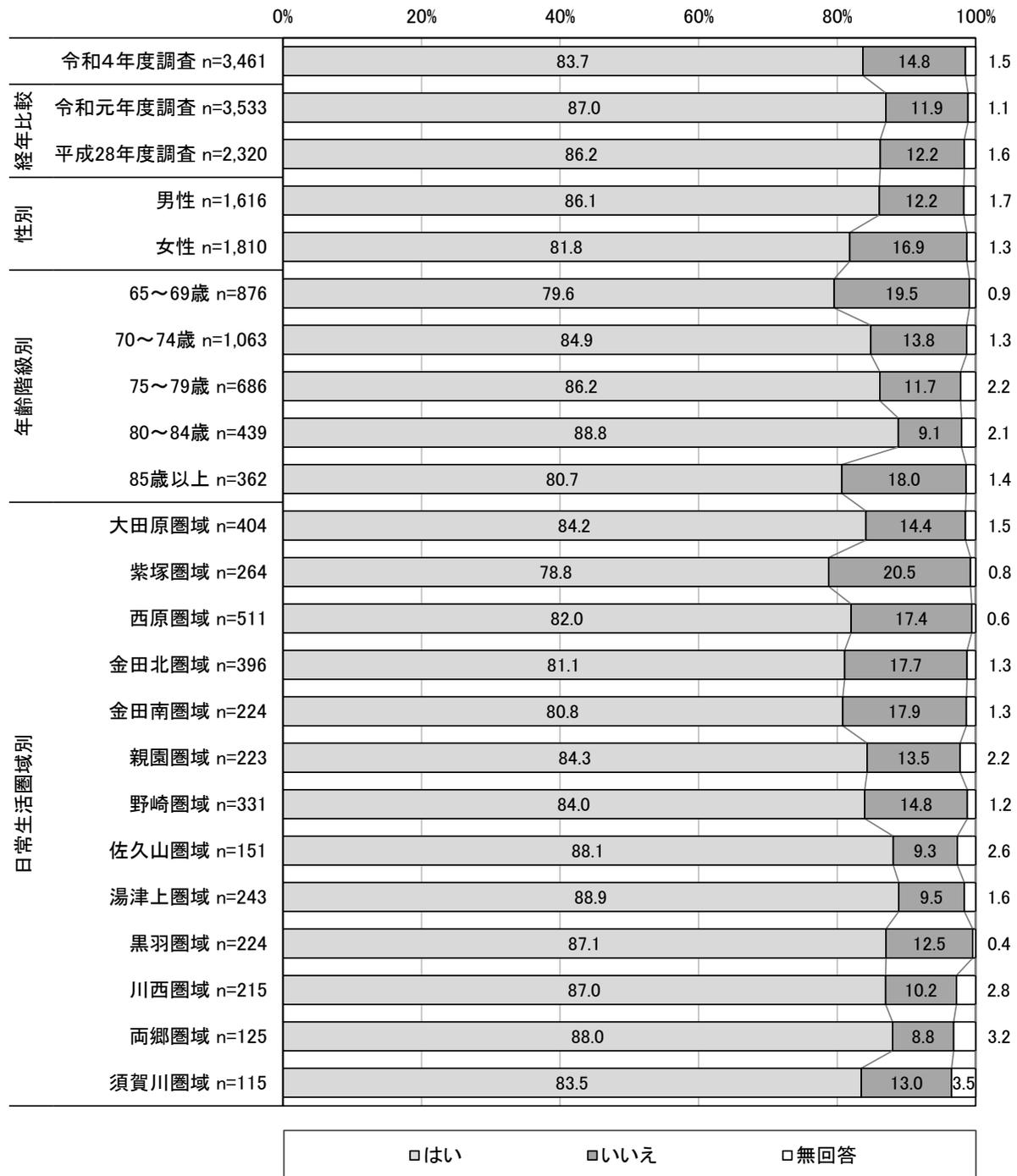
(10) 新聞を読んでいますか (回答は1つ)

新聞を読んでいるかについては、「はい」が83.7%、「いいえ」が14.8%で、「はい」が68.9ポイント上回っています。

性別でみると、「いいえ」は、男性に比べ女性のほうが4.7ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、65～69歳が19.5%で最も高く、次いで85歳以上が18.0%、70～74歳が13.8%となっています。

令和元年度調査と比較して、「いいえ」が11.9%から14.8%へ2.9ポイント増加しています。



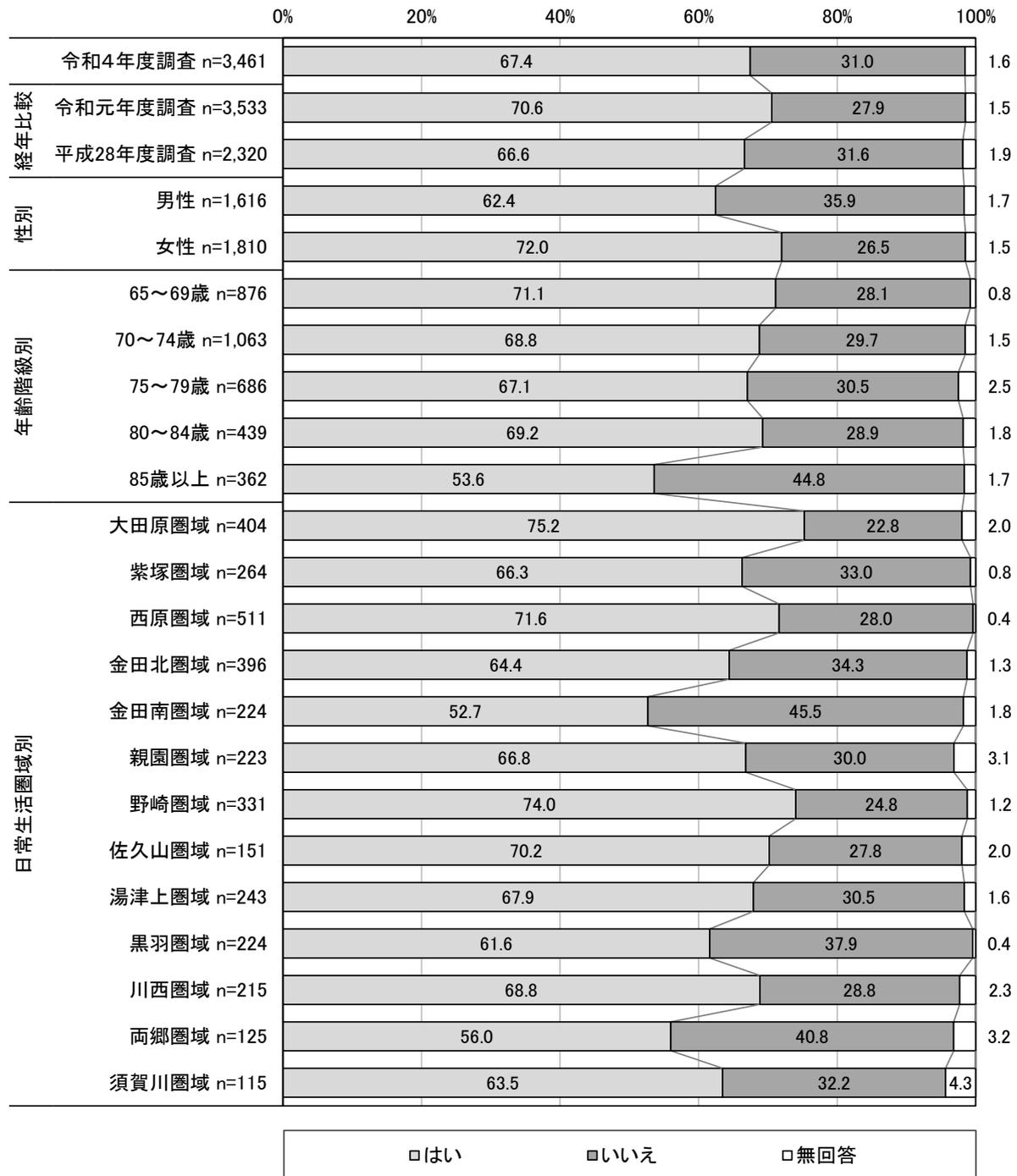
(11) 本や雑誌を読んでいますか（回答は1つ）

本や雑誌を読んでいるかについては、「はい」が67.4%、「いいえ」が31.0%で、「はい」が36.4ポイント上回っています。

性別でみると、「いいえ」は、女性に比べ男性のほうが9.4ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、85歳以上が44.8%で最も高く、次いで75～79歳が30.5%、70～74歳が29.7%となっています。

令和元年度調査と比較して、「いいえ」が27.9%から31.0%へ3.1ポイント増加しています。



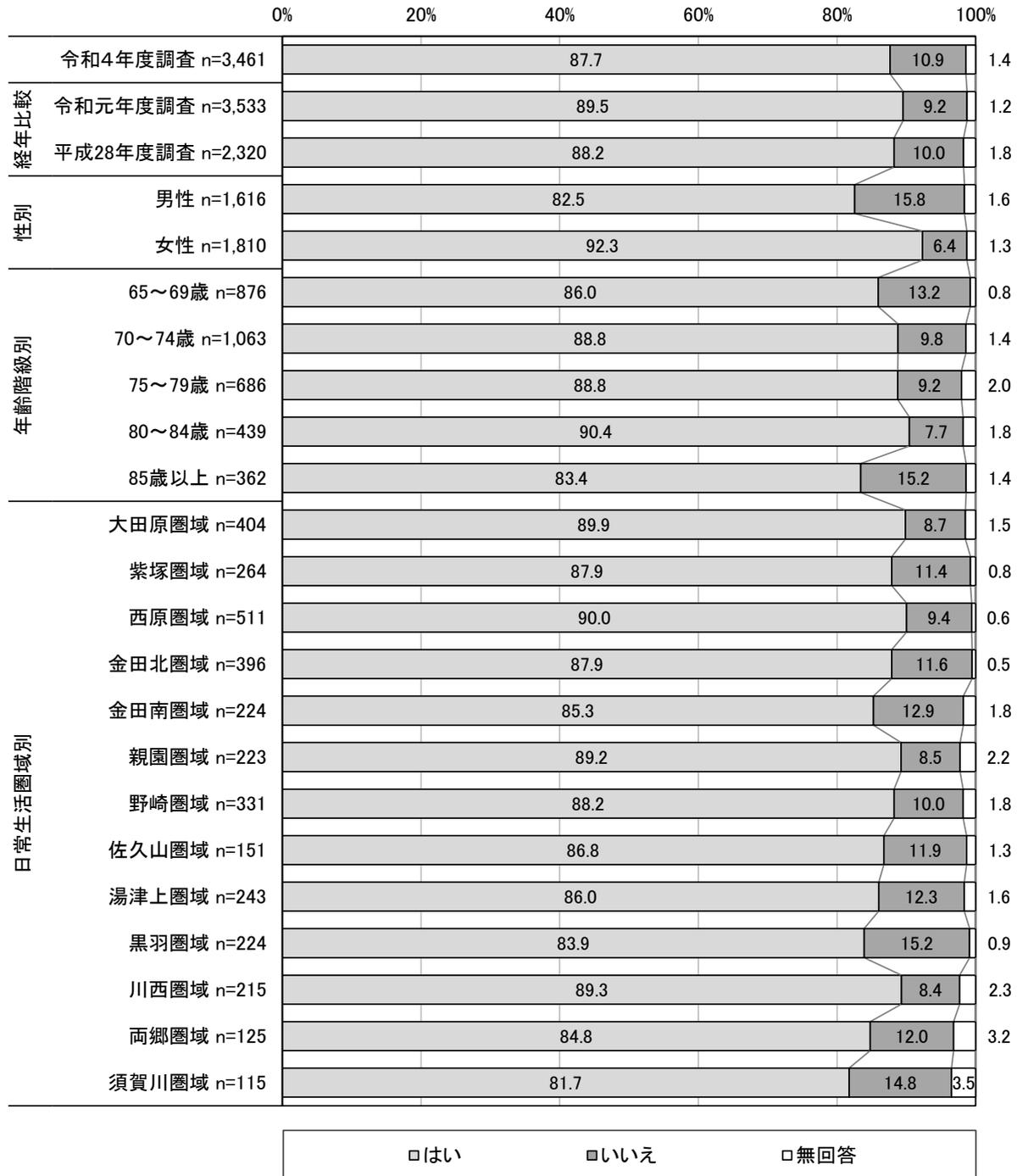
(12) 健康についての記事や番組に関心がありますか（回答は1つ）

健康についての記事や番組に関心があるかについては、「はい」が87.7%、「いいえ」が10.9%で、「はい」が76.8ポイント上回っています。

性別でみると、「いいえ」は、女性に比べ男性のほうが9.4ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、85歳以上が15.2%で最も高く、次いで65～69歳が13.2%、70～74歳が9.8%となっています。

令和元年度調査と比較して、「いいえ」が9.2%から10.9%へ1.7ポイント増加しています。



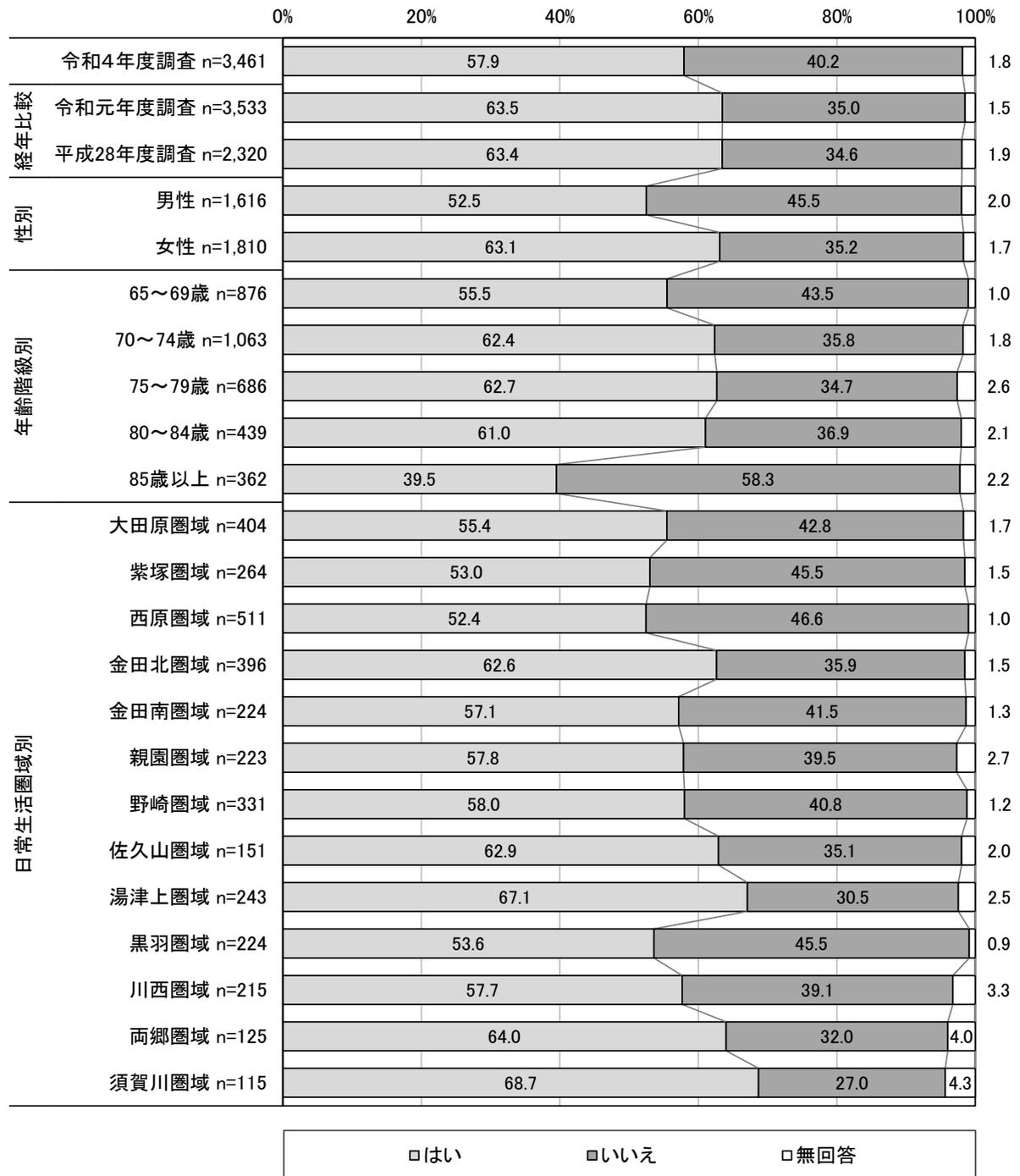
(13) 友人の家を訪ねていますか（回答は1つ）

友人の家を訪ねているかについては、「はい」が57.9%、「いいえ」が40.2%で、「はい」が17.7ポイント上回っています。

性別でみると、「いいえ」は、女性に比べ男性のほうが10.3ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、85歳以上が58.3%で最も高く、次いで65～69歳が43.5%、80～84歳が36.9%となっています。

令和元年度調査と比較して、「いいえ」が35.0%から40.2%へ5.2ポイント増加しています。



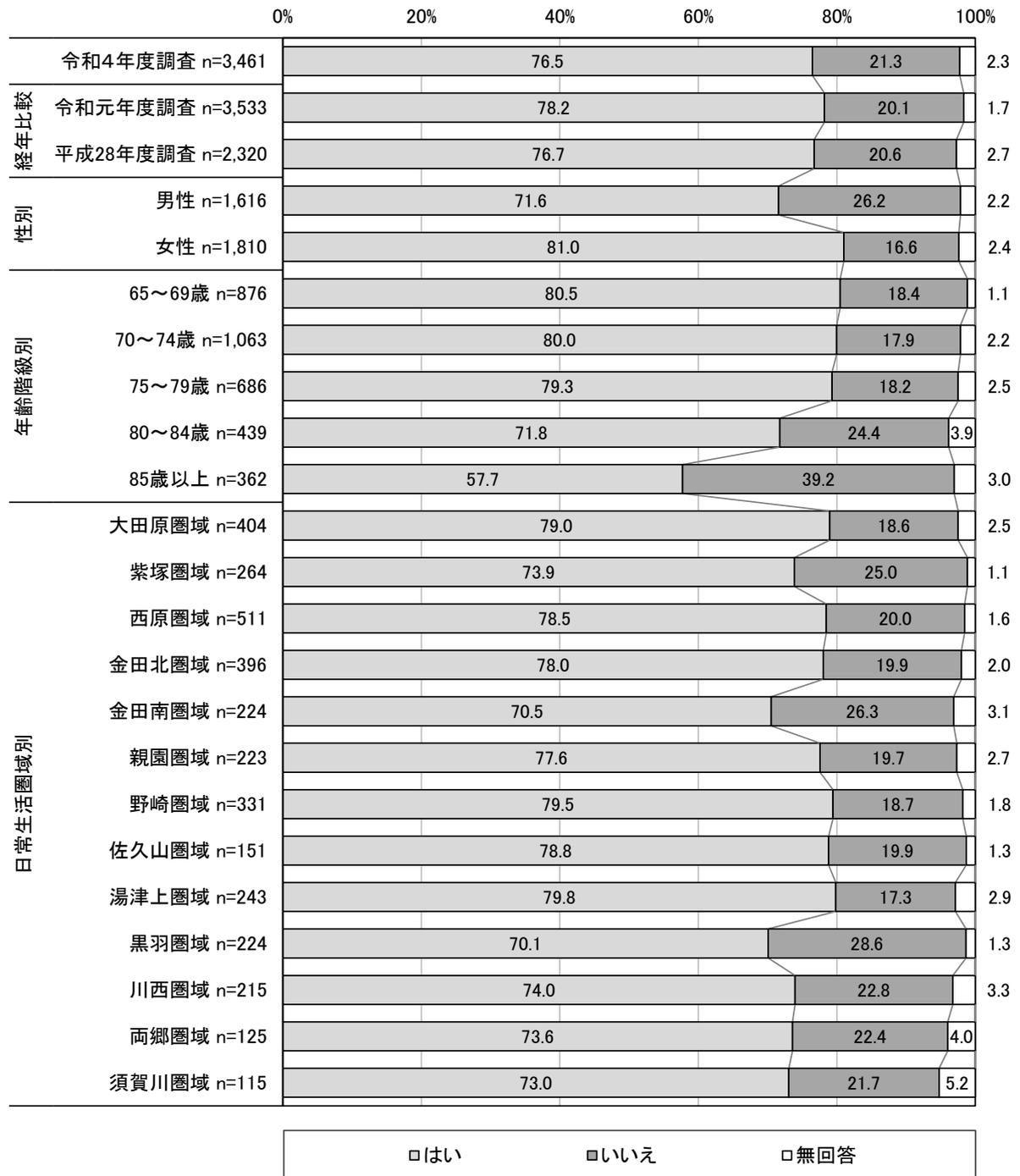
(14) 家族や友人の相談にのっていますか（回答は1つ）

家族や友人の相談にのっているかについては、「はい」が76.5%、「いいえ」が21.3%で、「はい」が55.2ポイント上回っています。

性別でみると、「いいえ」は、女性に比べ男性のほうが9.6ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、85歳以上が39.2%で最も高く、次いで80～84歳が24.4%、65～69歳が18.4%となっています。

令和元年度調査と比較して、「いいえ」が20.1%から21.3%へ1.2ポイント増加しています。

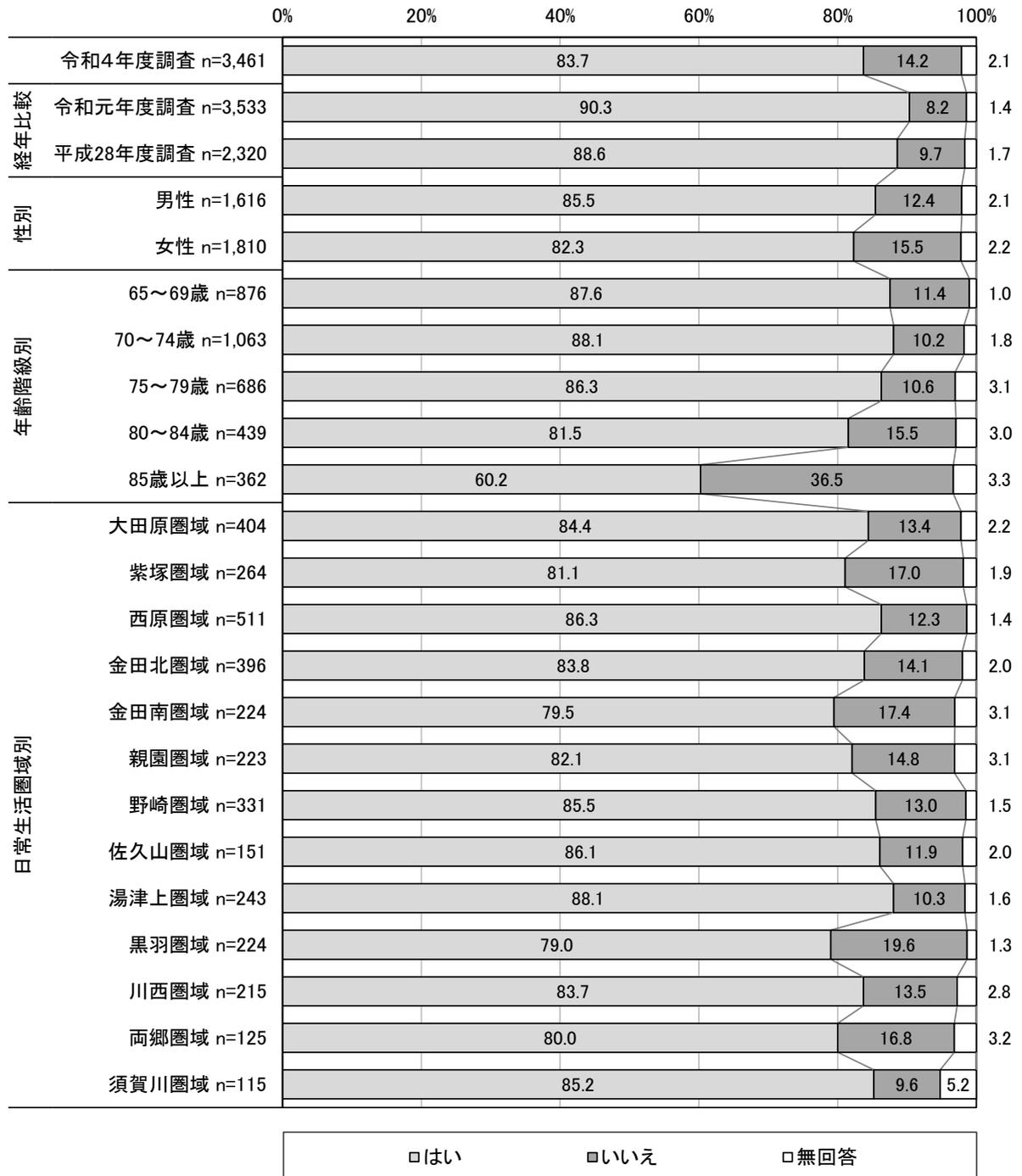


(15) 病人を見舞うことができますか(回答は1つ)

病人を見舞うことができるかについては、「はい」が83.7%、「いいえ」が14.2%で、「はい」が69.5ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、85歳以上が36.5%で最も高く、次いで80~84歳が15.5%、65~69歳が11.4%となっています。

令和元年度調査と比較して、「いいえ」が8.2%から14.2%へ6.0ポイント増加しています。



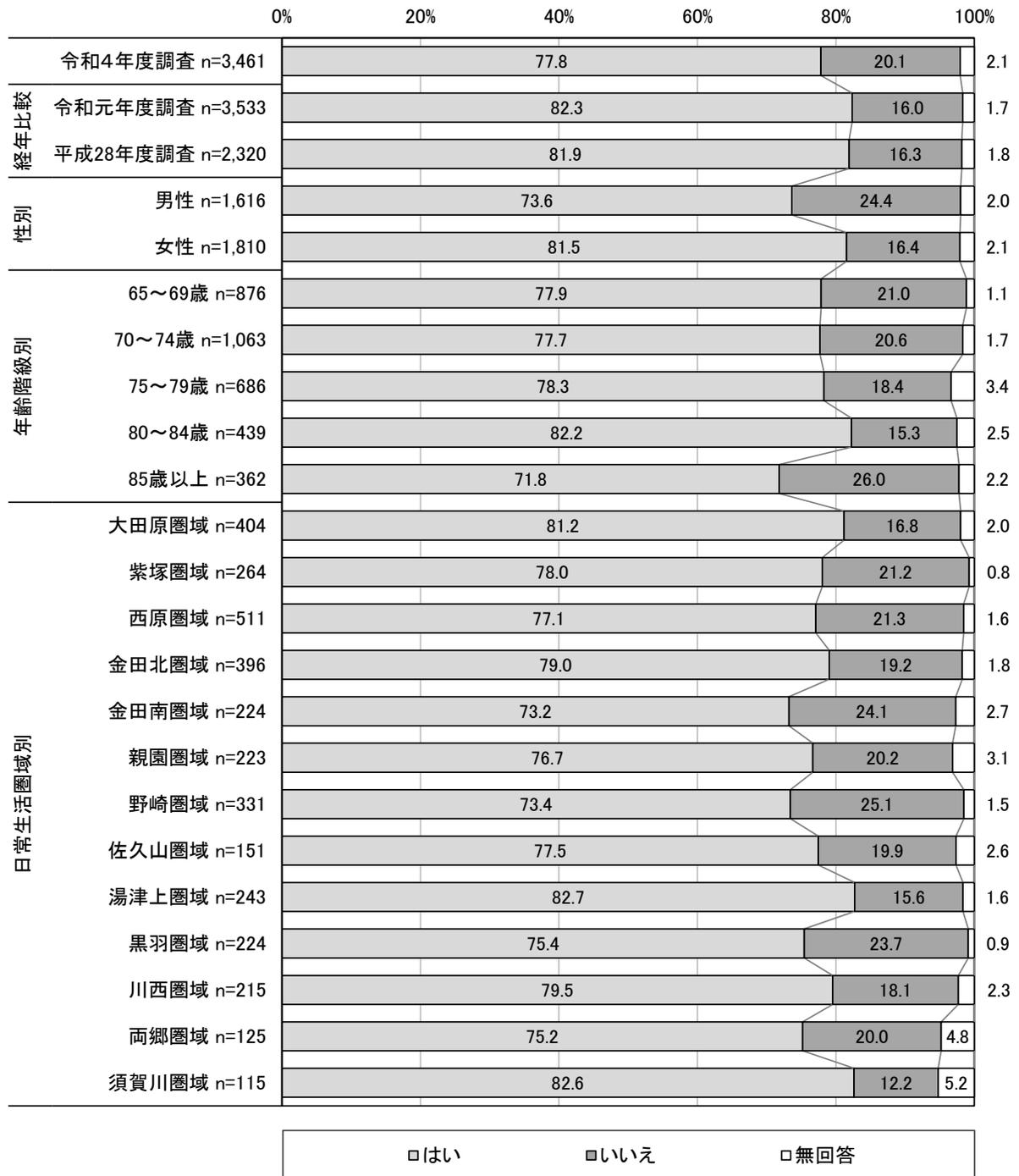
(16) 若い人に自分から話しかけることがありますか（回答は1つ）

若い人に自分から話しかけることがあるかについては、「はい」が77.8%、「いいえ」が20.1%で、「はい」が57.7ポイント上回っています。

性別でみると、「いいえ」は、女性に比べ男性のほうが8.0ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、85歳以上が26.0%で最も高く、次いで65～69歳が21.0%、70～74歳が20.6%となっています。

令和元年度調査と比較して、「いいえ」が16.0%から20.1%へ4.1ポイント増加しています。

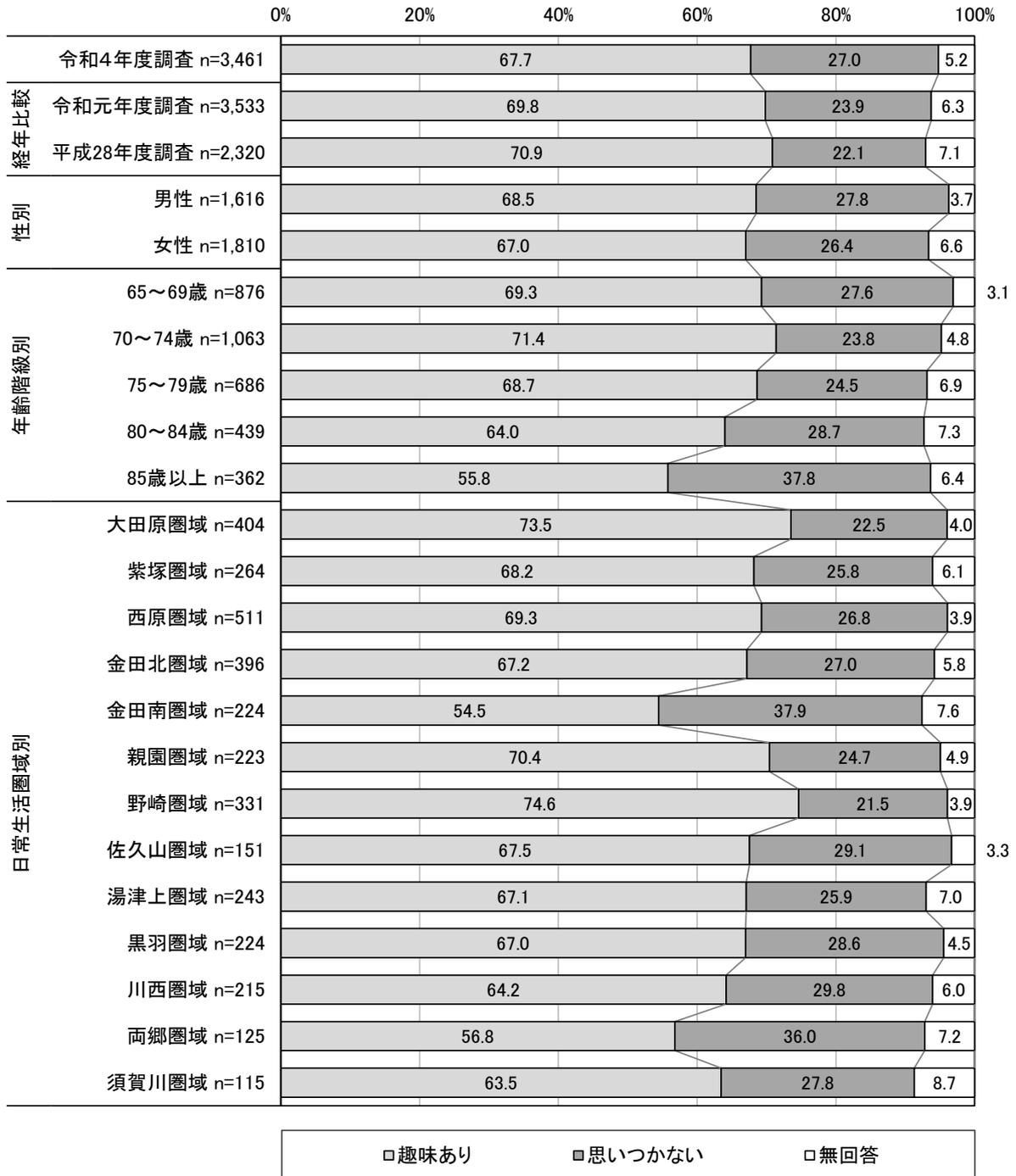


(17) 趣味はありますか(回答は1つ)

趣味はあるかについては、「趣味あり」が67.7%、「思いつかない」が27.0%で、「趣味あり」が40.7ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「思いつかない」は、85歳以上が37.8%で最も高く、次いで80~84歳が28.7%、65~69歳が27.6%となっています。

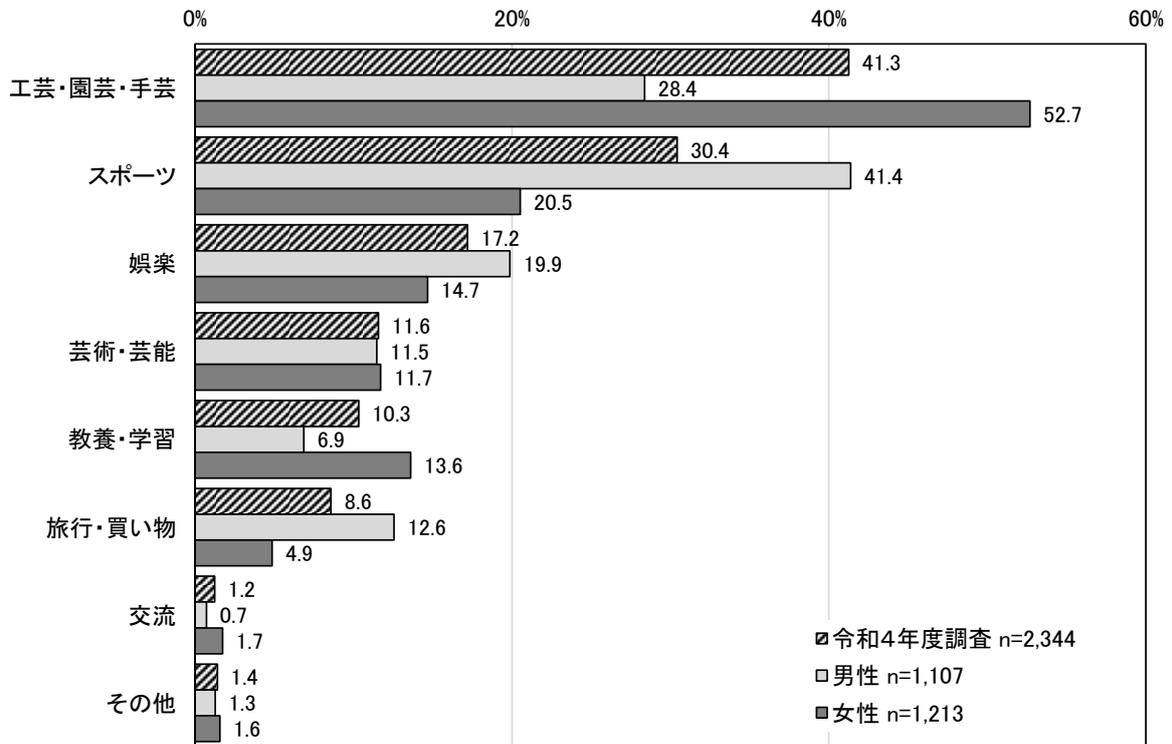
令和元年度調査と比較して、「思いつかない」が23.9%から27.0%へ3.1ポイント増加しています。



「趣味あり」と回答した方の回答結果を項目分類すると、「工芸・園芸・手芸」が41.3%で最も高く、次いで「スポーツ」が30.4%、「娯楽」が17.2%となっています。

性別でみると、男性では「スポーツ」が41.4%で最も高く、次いで「工芸・園芸・手芸」が28.4%、「娯楽」が19.9%となっています。女性では、「工芸・園芸・手芸」が52.7%で最も高く、次いで「スポーツ」が20.5%、「娯楽」が14.7%となっています。

【回答結果の項目分類】



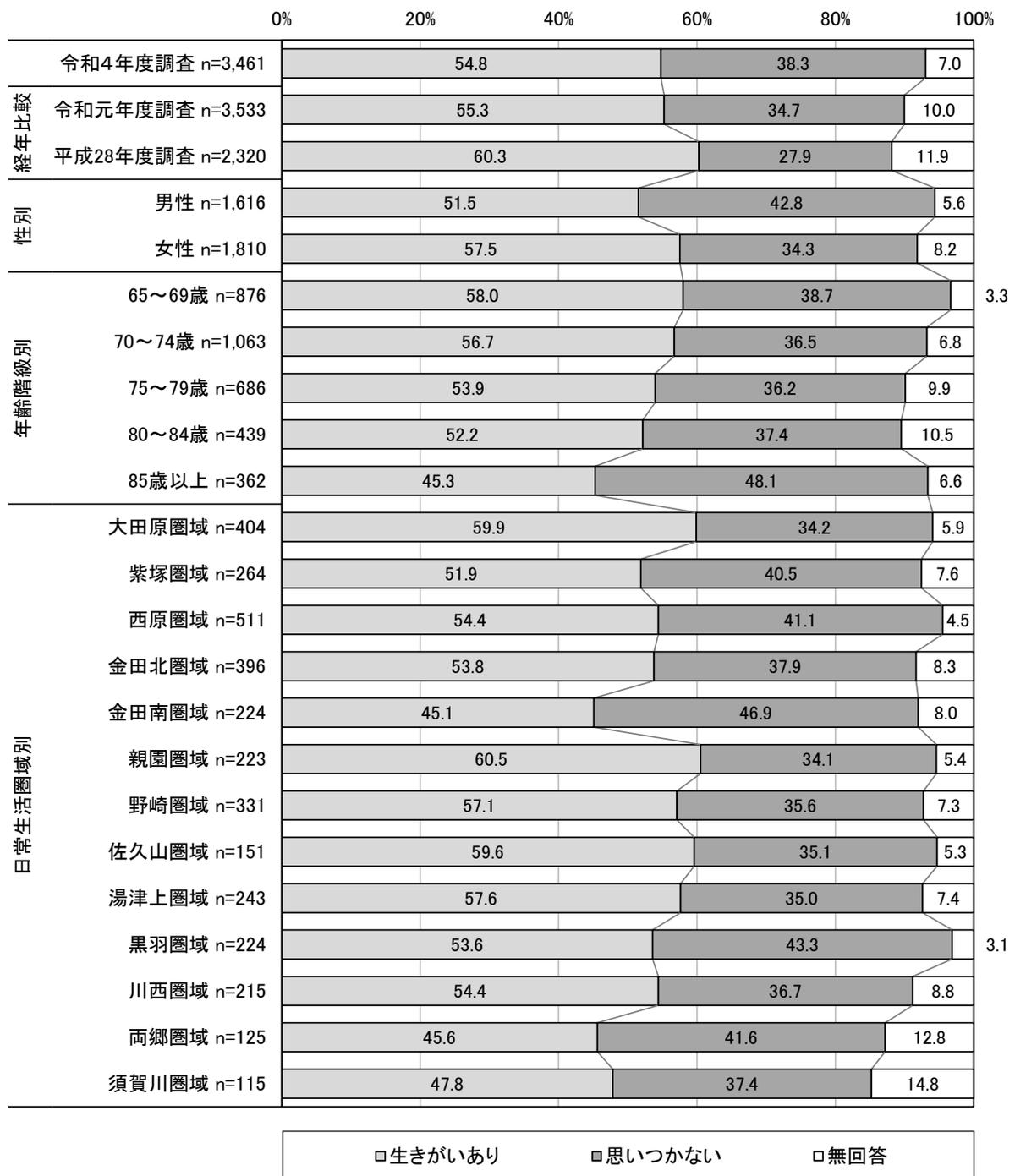
(18) 生きがいがありますか（回答は1つ）

生きがいはあるかについては、「生きがいあり」が54.8%、「思いつかない」が38.3%で、「生きがいあり」が16.5ポイント上回っています。

性別でみると、「思いつかない」は、女性に比べ男性のほうが8.5ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「思いつかない」は、85歳以上が48.1%で最も高く、次いで65～69歳が38.7%、80～84歳が37.4%となっています。

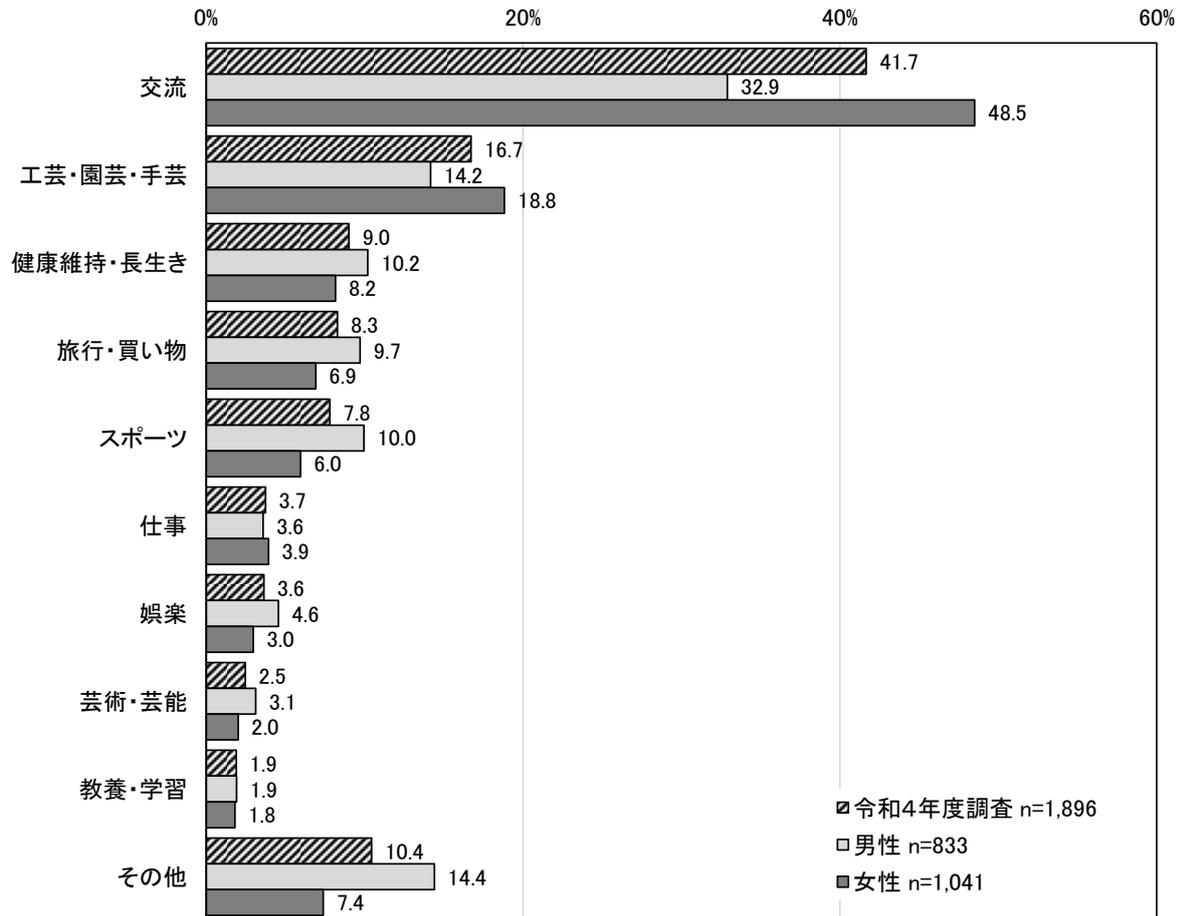
令和元年度調査と比較して、「思いつかない」が34.7%から38.3%へ3.6ポイント増加しています。



「生きがいあり」と回答した方の回答結果を項目分類すると、「交流」が41.7%で最も高く、次いで「工芸・園芸・手芸」が16.7%、「健康維持・長生き」が9.0%となっています。

性別でみると、男性・女性ともに「交流」が最も高く、次いで「工芸・園芸・手芸」、「健康維持・長生き」となっています。

【回答結果の項目分類】



問5 地域での活動について

(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか

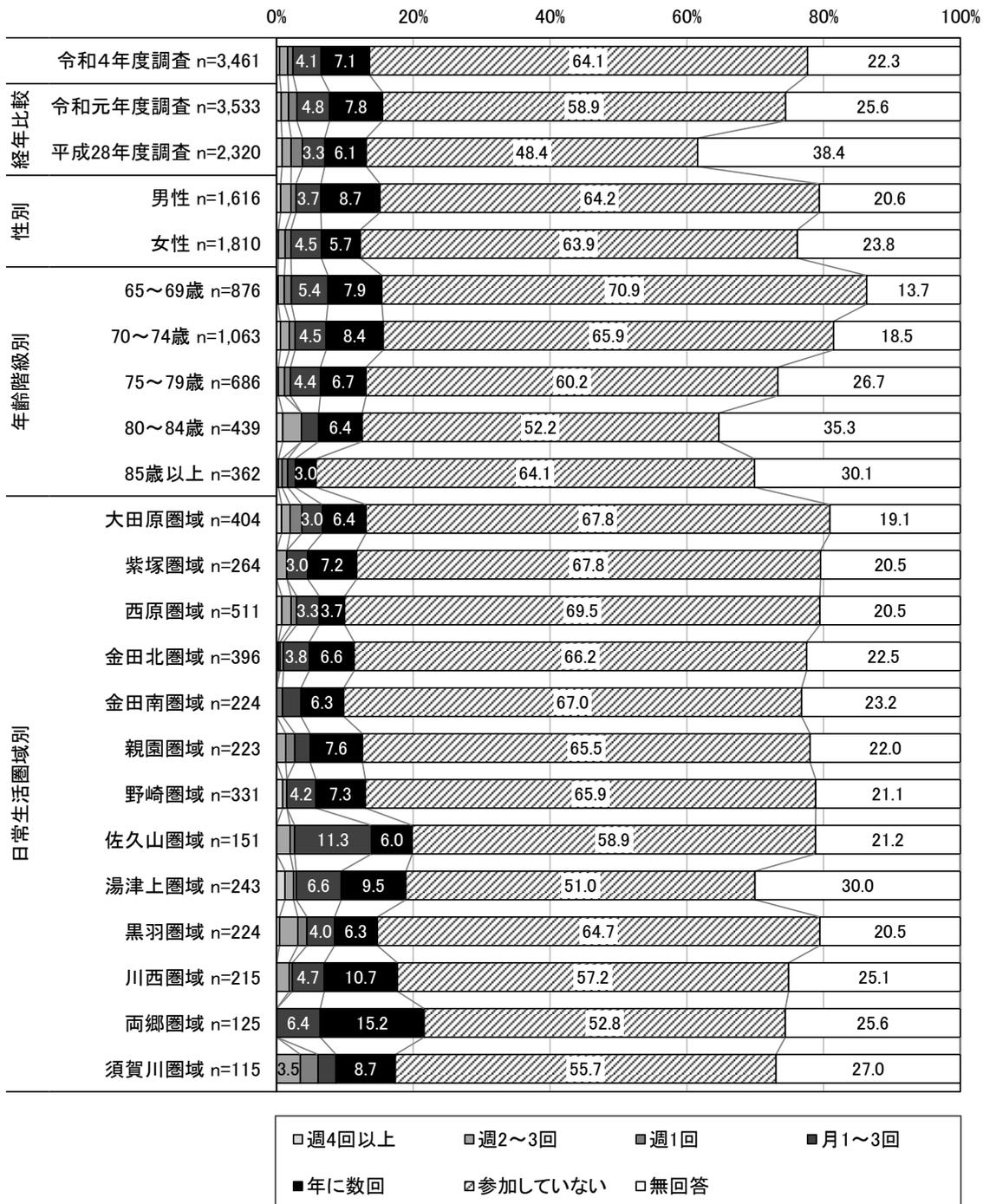
① ボランティアのグループ

ボランティアのグループへの参加状況については、「参加していない」が64.1%で最も高く、次いで「年に数回」が7.1%、「月1～3回」が4.1%となっています。

性別で見ると、「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」を合わせた『参加している』の割合は、女性に比べ男性のほうが上回っています。

年齢階級別で見ると、『参加している』の割合は、70～74歳が最も高く、次いで65～69歳、75～79歳となっています。

令和元年度調査と比較して、『参加している』が15.6%から13.6%へ2.0ポイント減少しています。



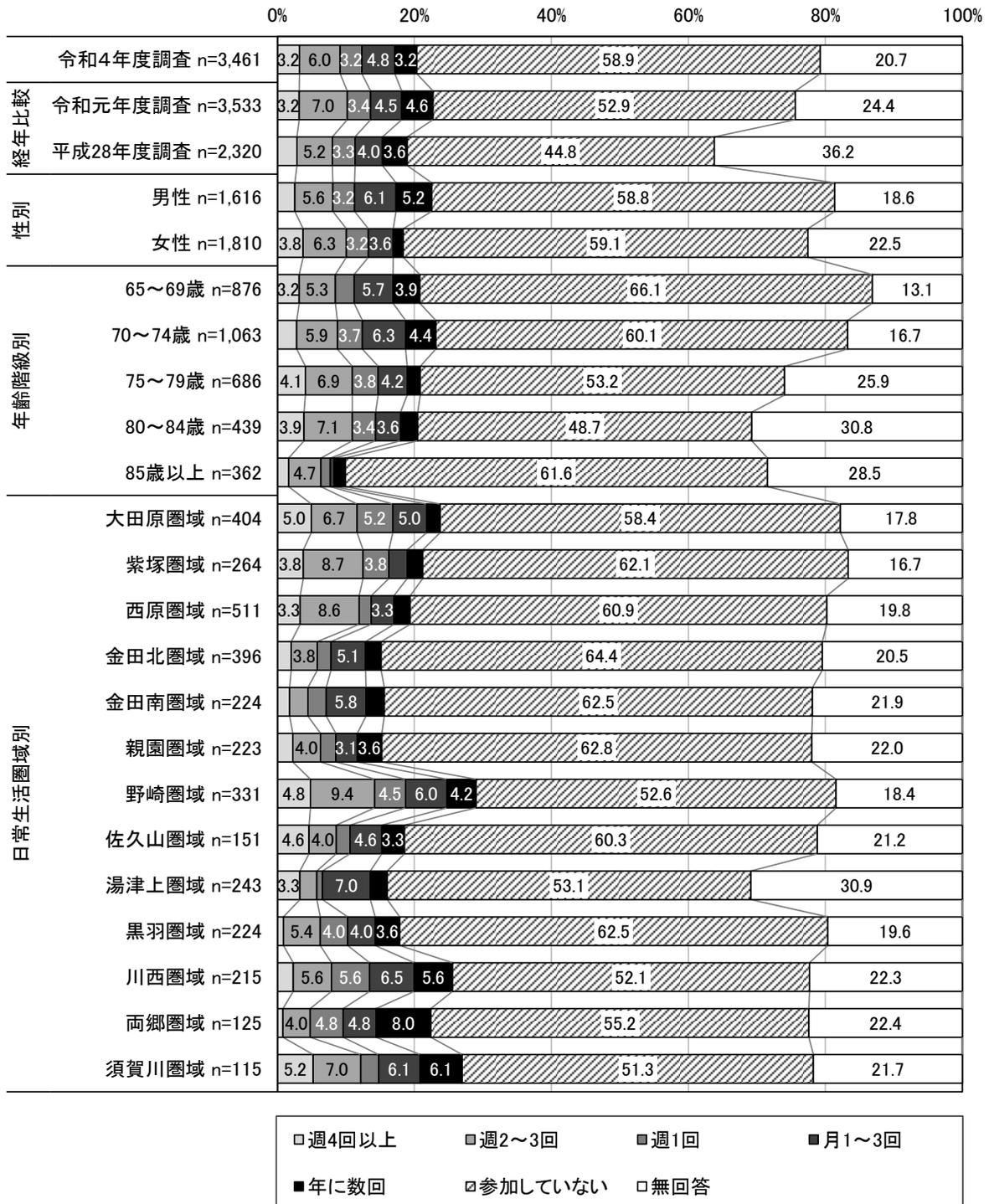
②スポーツ関係のグループやクラブ

スポーツ関係のグループやクラブへの参加状況については、「参加していない」が 58.9%で最も高く、次いで「週2～3回」が6.0%、「月1～3回」が4.8%となっています。

性別でみると、「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」を合わせた『参加している』の割合は、女性に比べ男性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、『参加している』の割合は、70～74歳が最も高く、次いで65～69歳、75～79歳となっています。

令和元年度調査と比較して、『参加している』が22.7%から20.4%へ2.3ポイント減少しています。



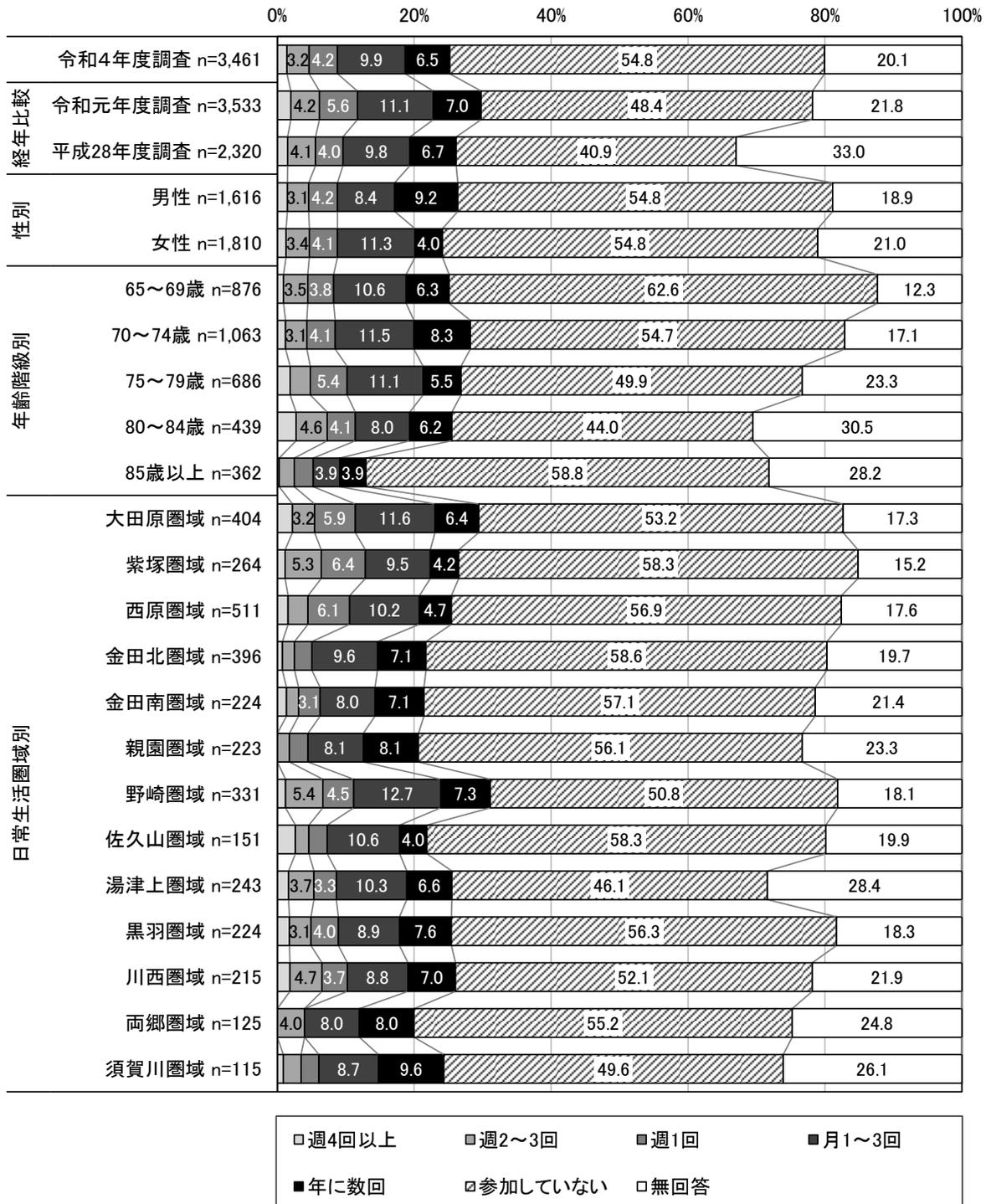
③趣味関係のグループ

趣味関係のグループへの参加状況については、「参加していない」が54.8%で最も高く、次いで「月1～3回」が9.9%、「年に数回」が6.5%となっています。

性別でみると、「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」を合わせた『参加している』の割合は、女性に比べ男性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、『参加している』の割合は、70～74歳が最も高く、次いで75～79歳、80～84歳となっています。

令和元年度調査と比較して、『参加している』が29.9%から25.2%へ4.7ポイント減少しています。



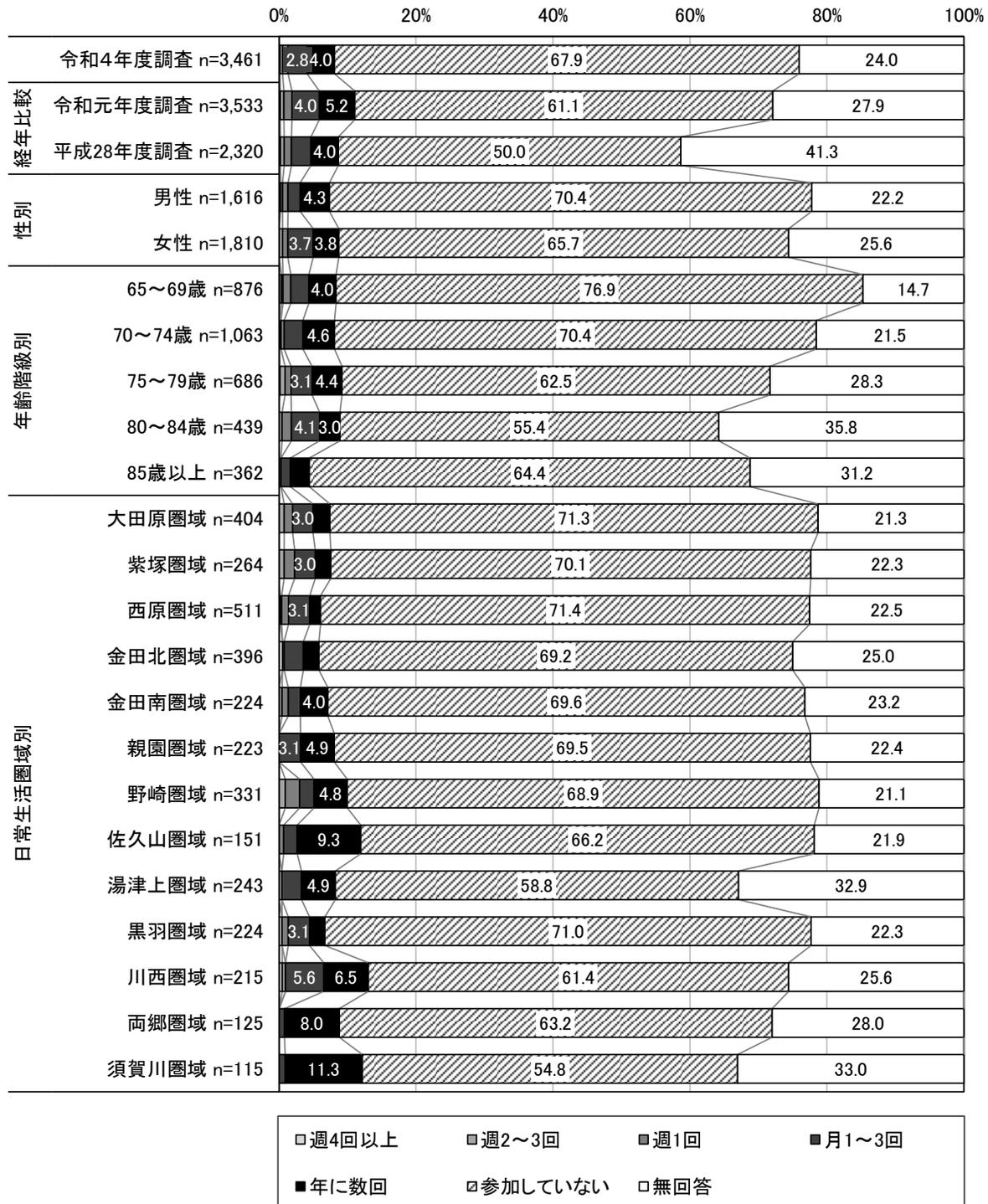
④学習・教養サークル

学習・教養サークルへの参加状況については、「参加していない」が67.9%で最も高く、次いで「年に数回」が4.0%、「月1～3回」が2.8%となっています。

性別でみると、「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」を合わせた『参加している』の割合は、男性に比べ女性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、『参加している』の割合は、75～79歳が最も高く、次いで80～84歳、65～69歳となっています。

令和元年度調査と比較して、『参加している』が11.1%から8.1%へ3.0ポイント減少しています。



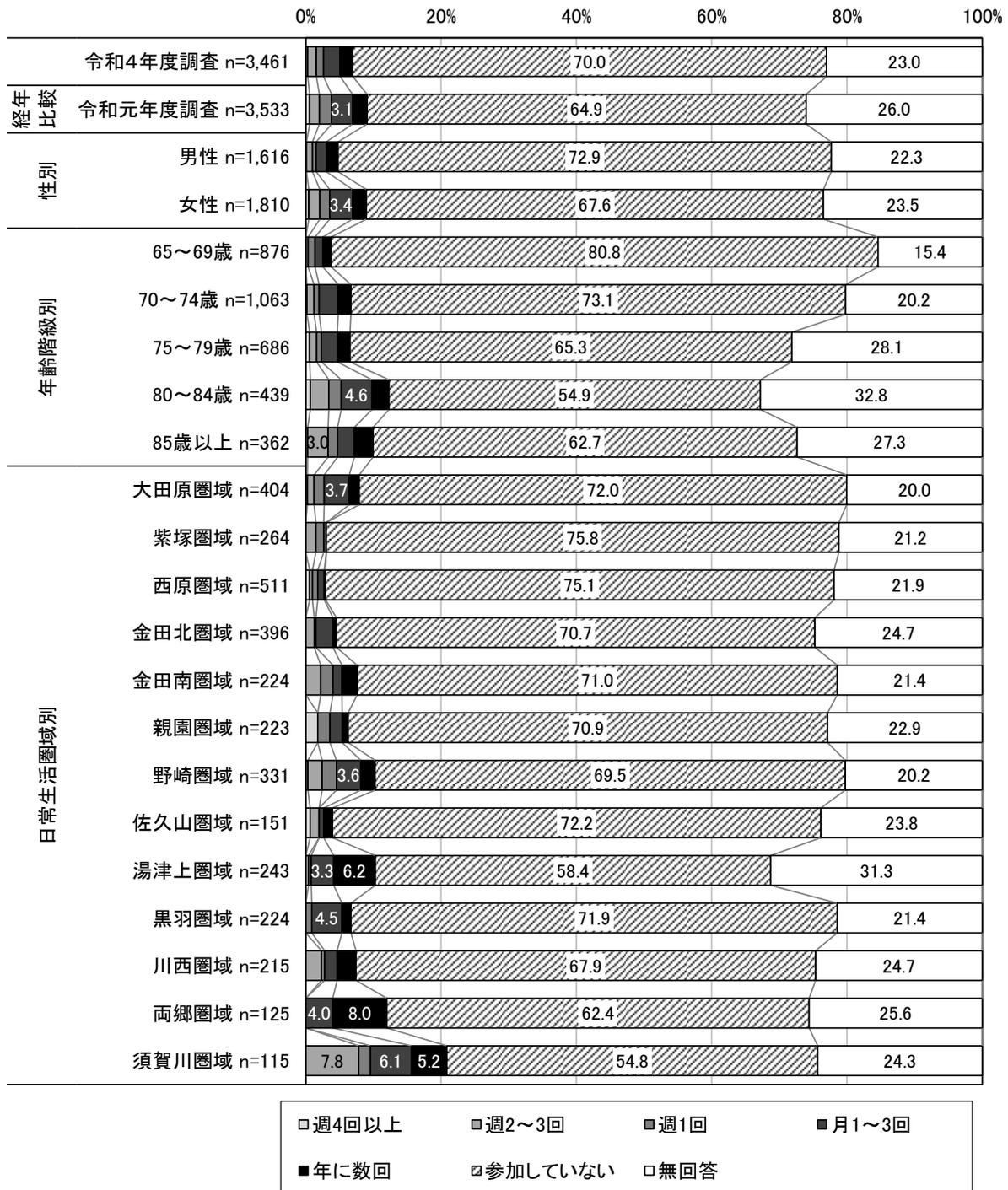
⑤ほほえみセンター・ささえ愛サロン

介護予防のための通いの場への参加状況については、「参加していない」が70.0%で最も高く、次いで「月1～3回」が23.0%、「年に数回」が1.9%となっています。

性別でみると、「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」を合わせた『参加している』の割合は、男性に比べ女性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、『参加している』の割合は、80～84歳が最も高く、次いで85歳以上、70～74歳となっています。

令和元年度調査と比較して、『参加している』が9.1%から7.0%へ2.1ポイント減少しています。



※令和元年度調査からの設問になります。

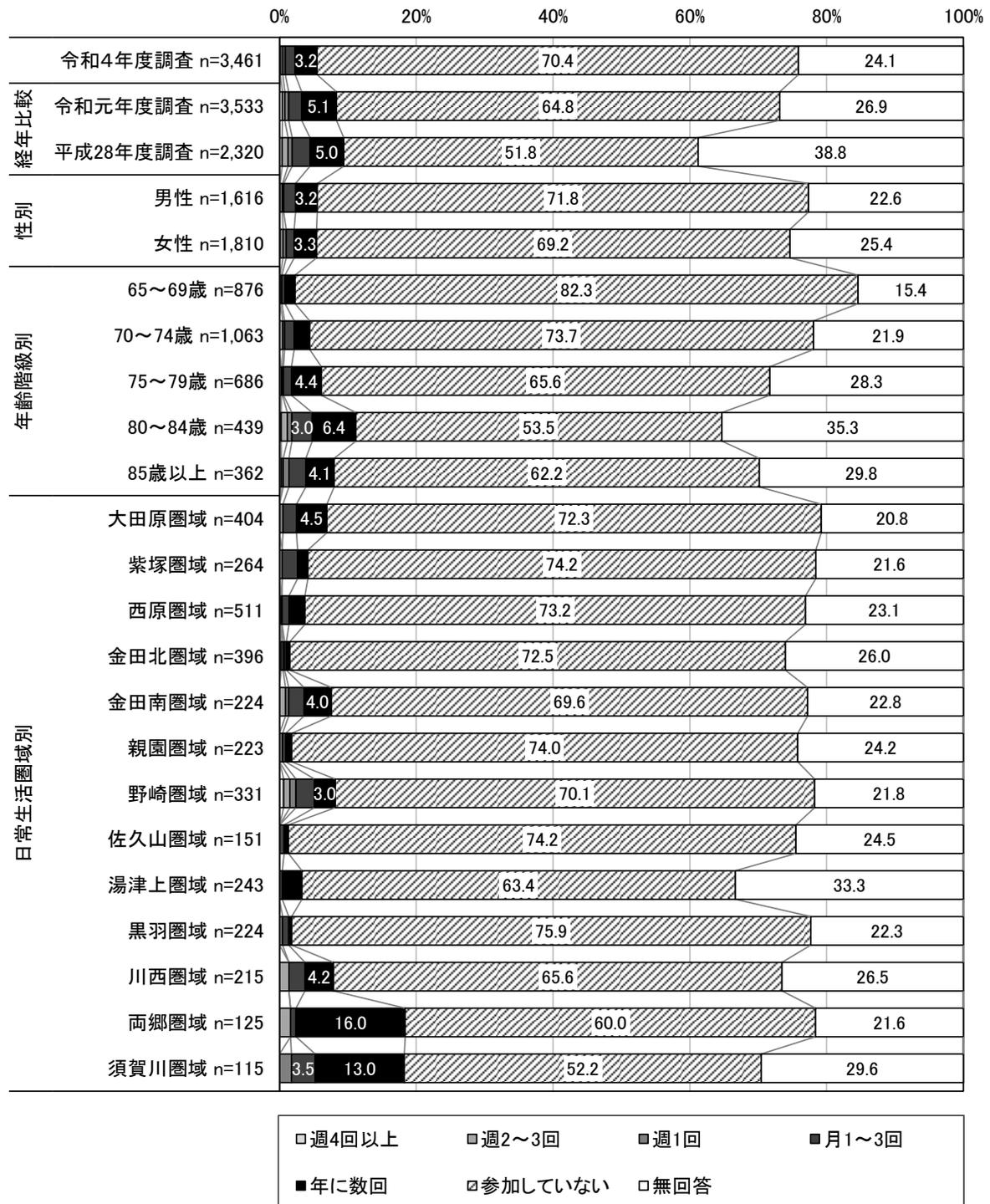
⑥老人クラブ

老人クラブへの参加状況については、「参加していない」が70.4%で最も高く、次いで「年に数回」が3.2%、「月1～3回」が1.4%となっています。

性別でみると、「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」を合わせた『参加している』の割合は、女性に比べ男性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、『参加している』の割合は、80～84歳が最も高く、次いで85歳以上、75～79歳となっています。

令和元年度調査と比較して、『参加している』が8.3%から5.5%へ2.8ポイント減少しています。



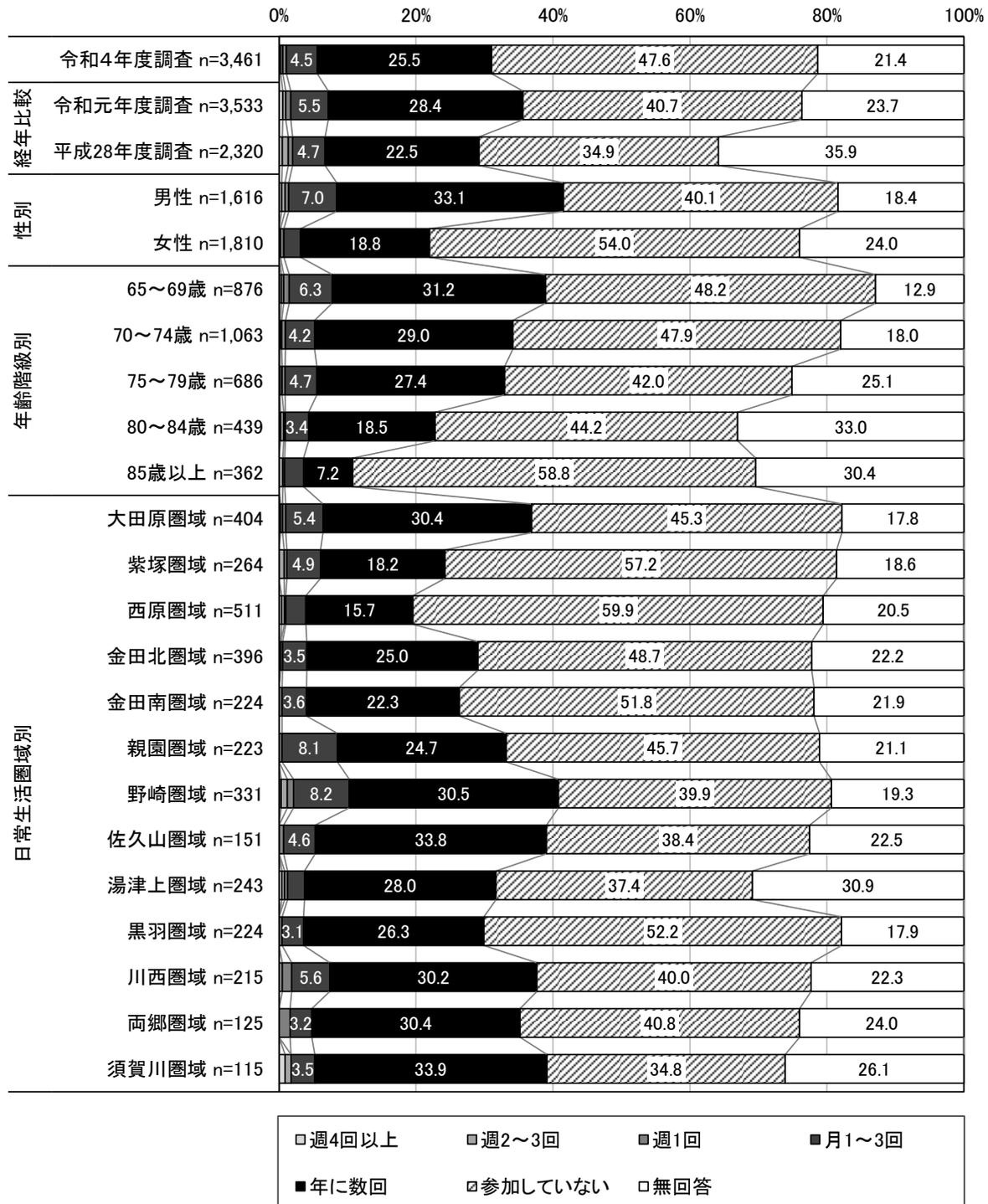
⑦町内会・自治会

町内会・自治会への参加状況については、「参加していない」が47.6%で最も高く、次いで「年に数回」が25.5%、「月1～3回」が4.5%となっています。

性別でみると、「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」を合わせた『参加している』の割合は、女性に比べ男性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、『参加している』の割合は、65～69歳が最も高く、次いで70～74歳、75～79歳となっています。

令和元年度調査と比較して、『参加している』が35.6%から31.0%へ4.6ポイント減少しています。



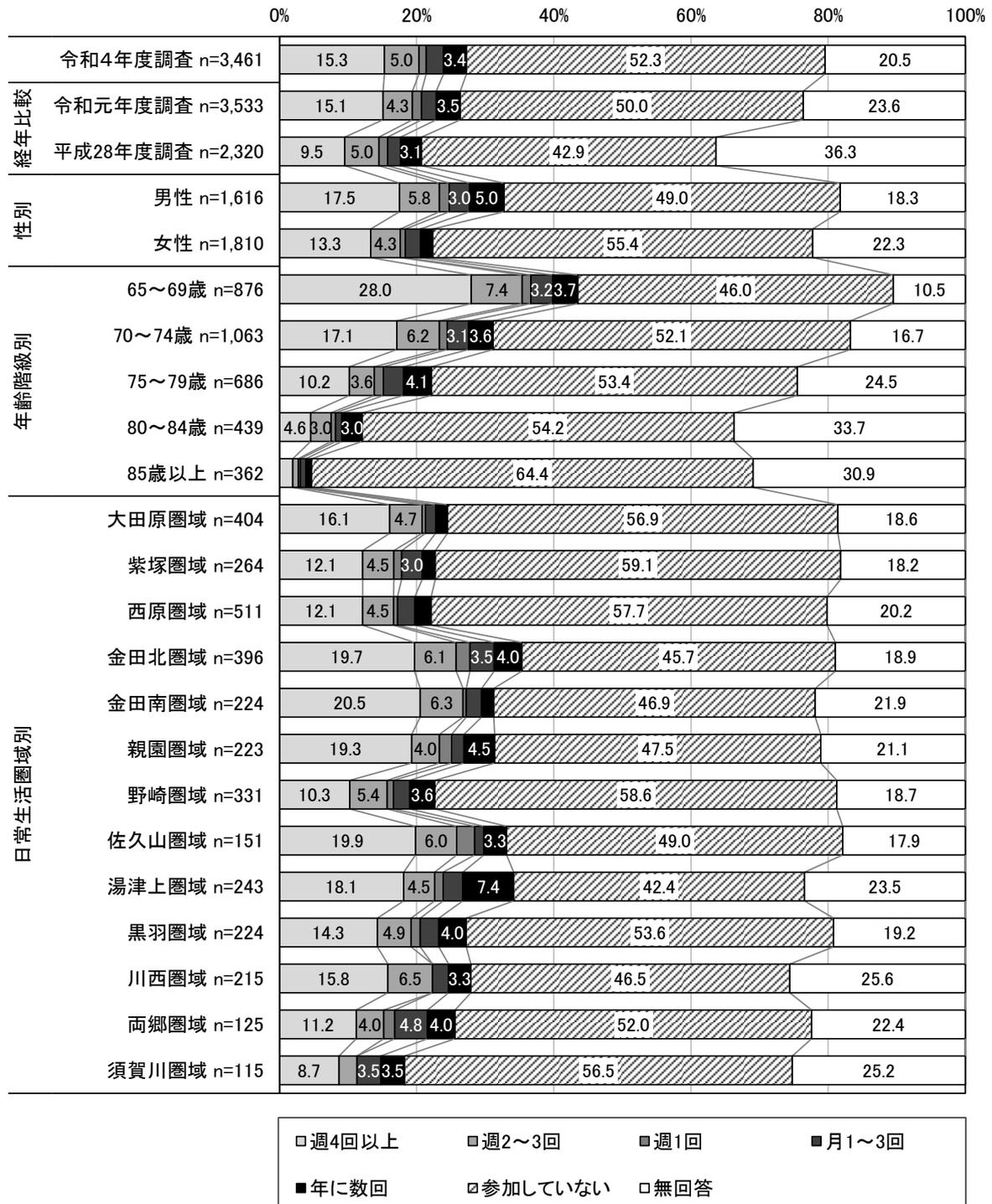
⑨収入のある仕事

収入のある仕事への参加状況については、「参加していない」が52.3%で最も高く、次いで「週4回以上」が15.3%、「週2～3回」が5.0%となっています。

性別でみると、「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」を合わせた『参加している』の割合は、女性に比べ男性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、『参加している』の割合は、65～69歳が最も高く、次いで70～74歳、75～79歳となっています。

令和元年度調査と比較して、『参加している』が26.4%から27.2%へ0.8ポイント増加しています。

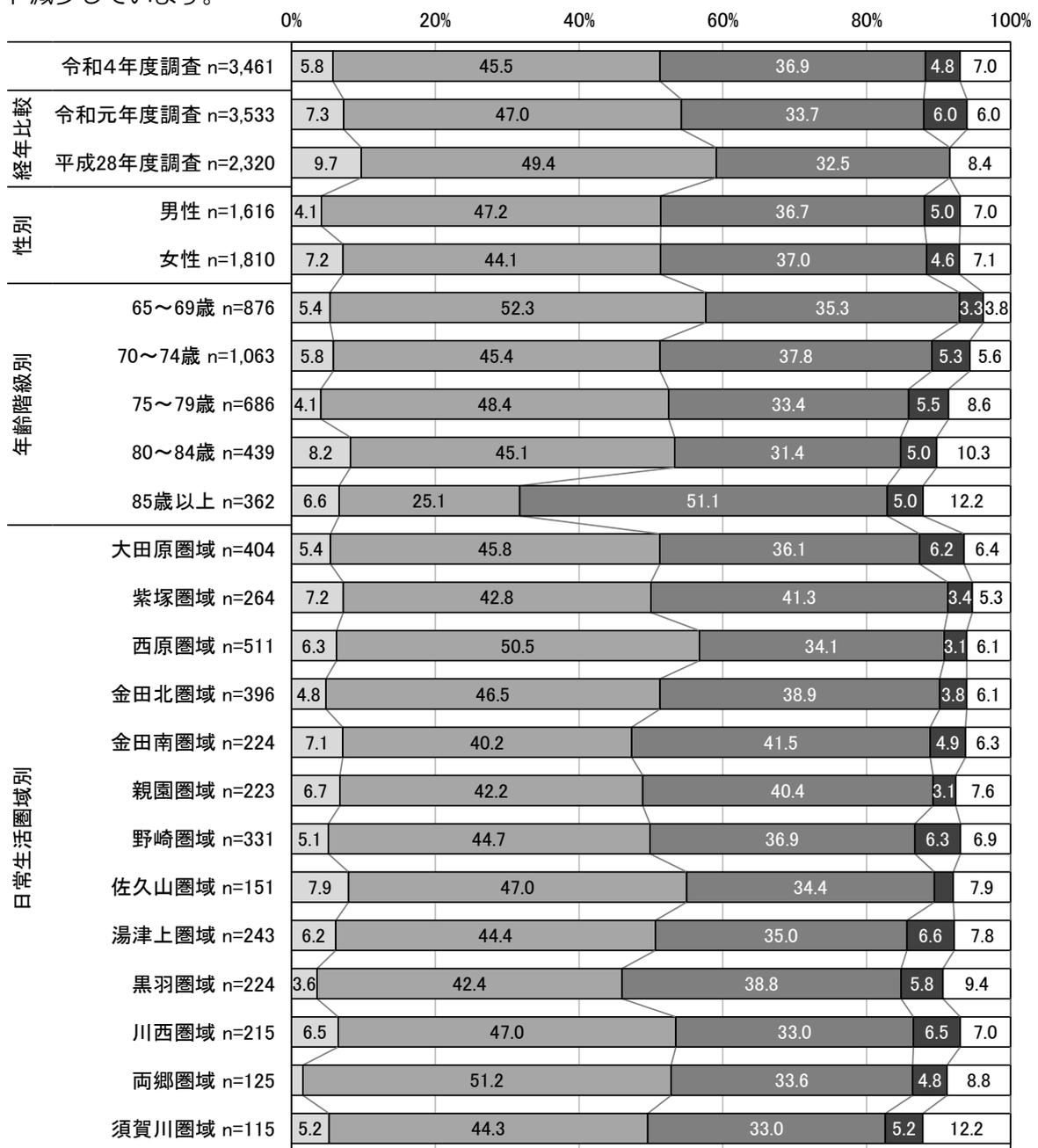


(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか
(回答は1つ)

健康づくり活動や趣味等のグループ活動に参加者として参加してみたいと思うかについては、「参加してもよい」が45.5%で最も高く、次いで「参加したくない」が36.9%、「是非参加したい」が5.8%となっています。

年齢階級別でみると、「是非参加したい」「参加してもよい」を合わせた『参加者として参加してもよい』の割合は、65～69歳が57.7%で最も高く、次いで80～84歳が53.3%、75～79歳が52.5%となっています。

令和元年度調査と比較して、『参加者として参加してもよい』が54.3%から51.3%へ3.0ポイント減少しています。



□是非参加したい □参加してもよい □参加したくない ■既に参加している □無回答

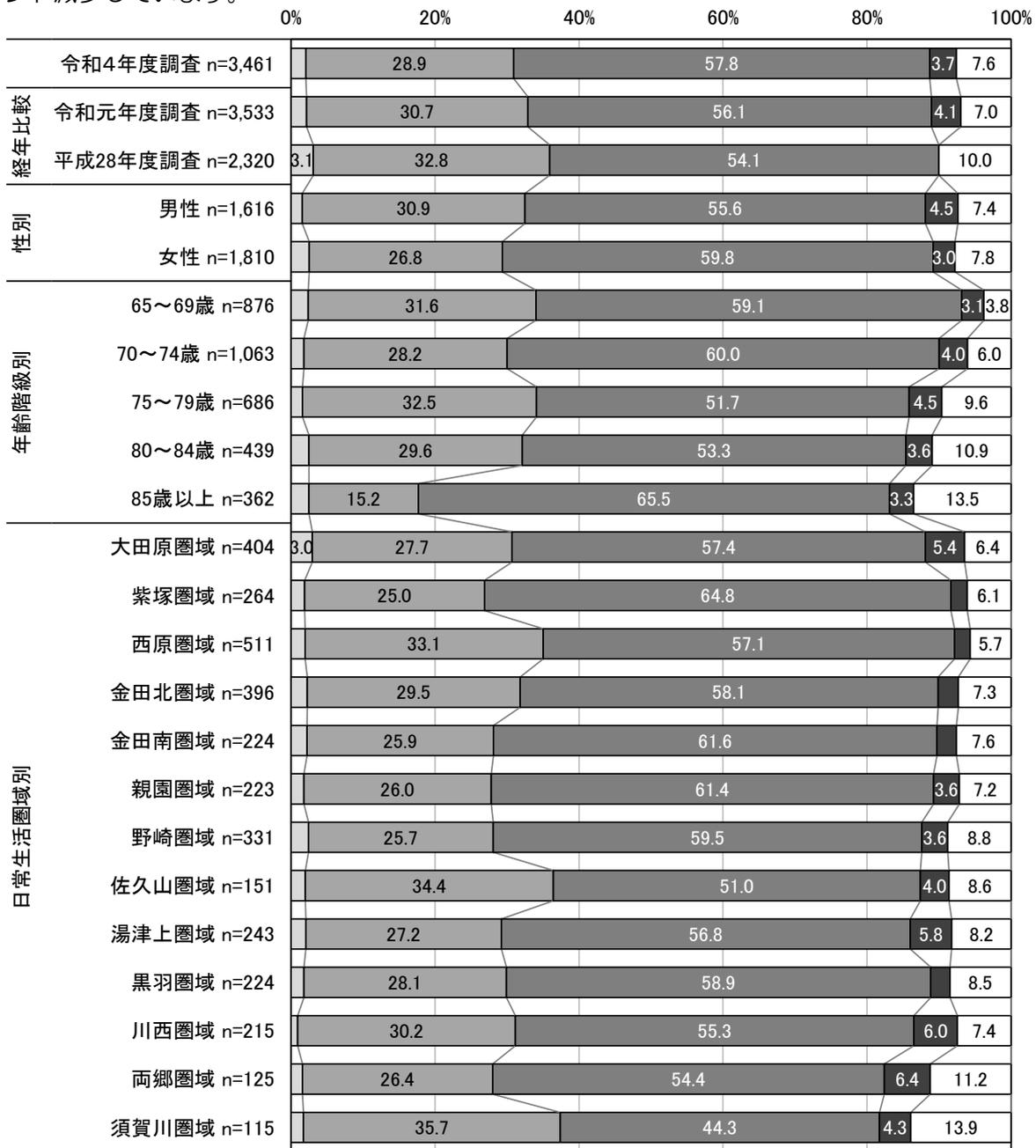
※令和元年度調査より、選択肢に「既に参加している」が追加されました。

(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか(回答は1つ)

健康づくり活動や趣味等のグループ活動に企画・運営として参加してみたいと思うかについては、「参加したくない」が57.8%で最も高く、次いで「参加してもよい」が28.9%、「既に参加している」が3.7%となっています。

年齢階級別でみると、「是非参加したい」「参加してもよい」を合わせた『企画・運営として参加してもよい』の割合は、75～79歳が34.1%で最も高く、次いで65～69歳が34.0%、80～84歳が32.1%となっています。

令和元年度調査と比較して、『企画・運営として参加してもよい』が32.9%から31.0%へ1.9ポイント減少しています。



□是非参加したい □参加してもよい □参加したくない ■既に参加している □無回答

※令和元年度調査より、選択肢に「既に参加している」が追加されました。

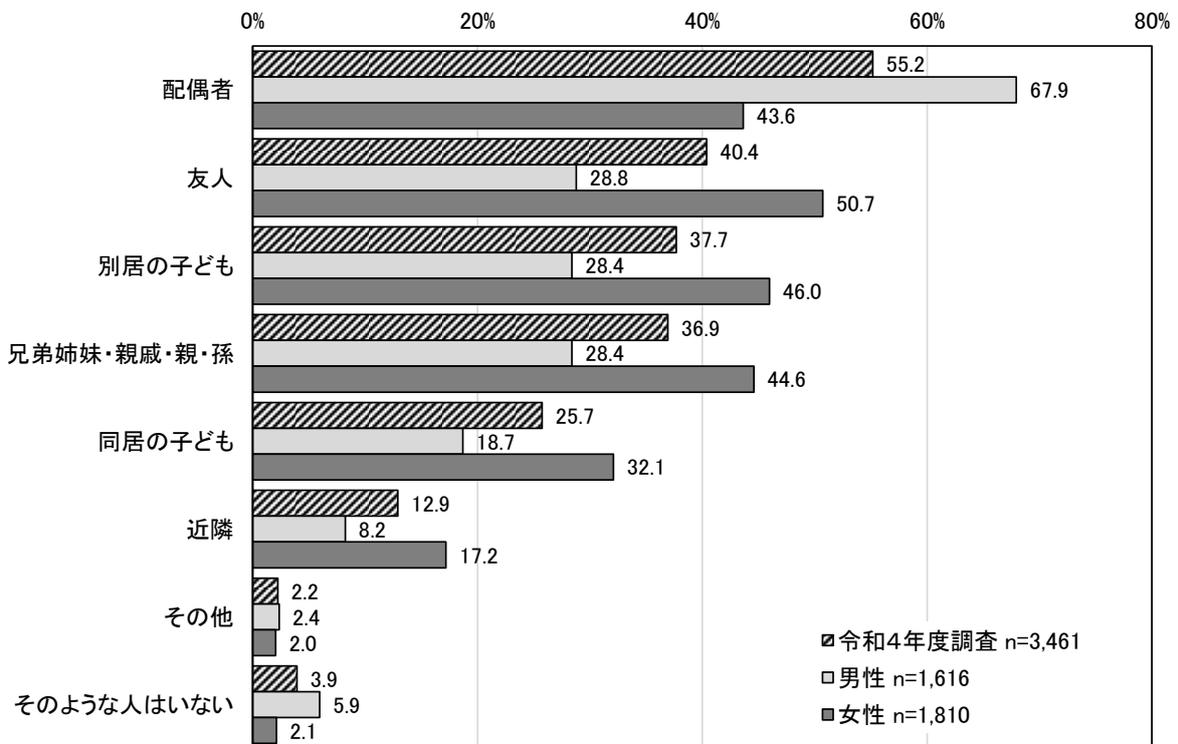
問6 たすけあいについて

(1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(あてはまるものすべてに回答)

あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人については、「配偶者」が55.2%で最も高く、次いで「友人」が40.4%、「別居の子ども」が37.7%となっています。

性別で見ると、男性では、「配偶者」が67.9%で最も高く、次いで「友人」が28.8%、「別居の子ども」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」がともに28.4%となっています。女性では、「友人」が50.7%で最も高く、次いで「別居の子ども」が46.0%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が44.6%となっています。

【性別】

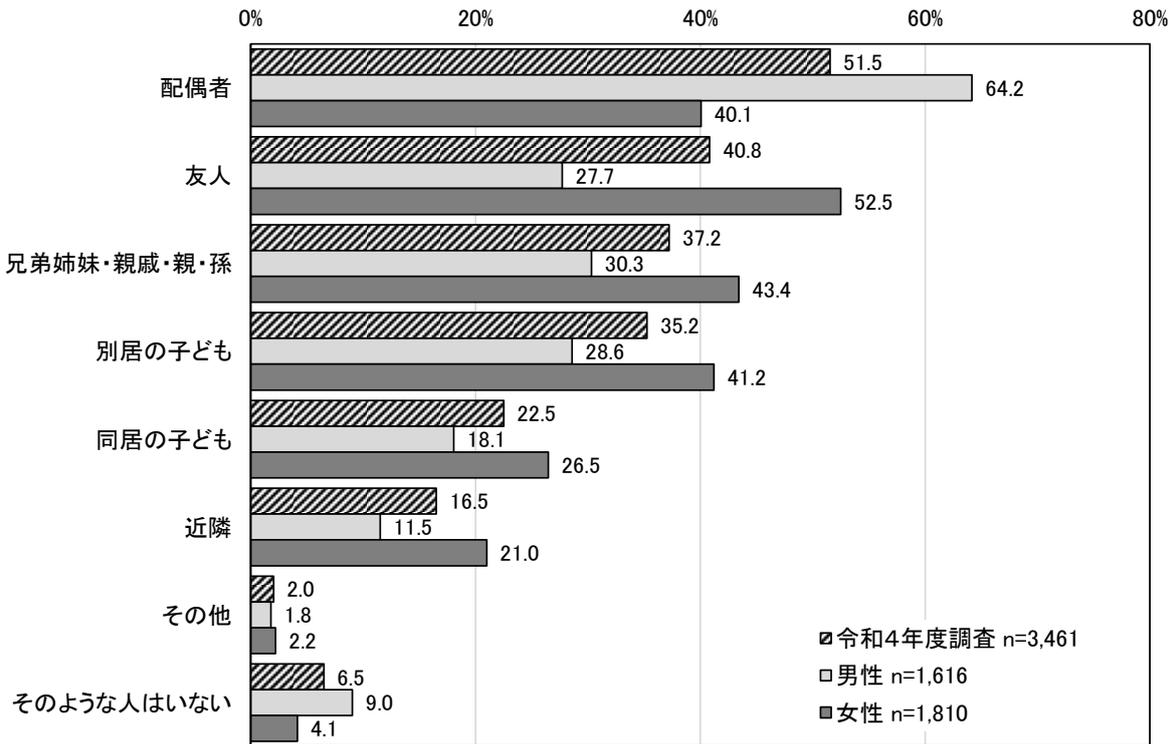


(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(あてはまるものすべてに回答)

あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人については、「配偶者」が51.5%で最も高く、次いで「友人」が40.8%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が37.2%となっています。

性別でみると、男性では、「配偶者」が64.2%で最も高く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が30.3%、「別居の子ども」が28.6%となっています。女性では、「友人」が52.5%で最も高く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が43.4%、「別居の子ども」が41.2%となっています。

【性別】

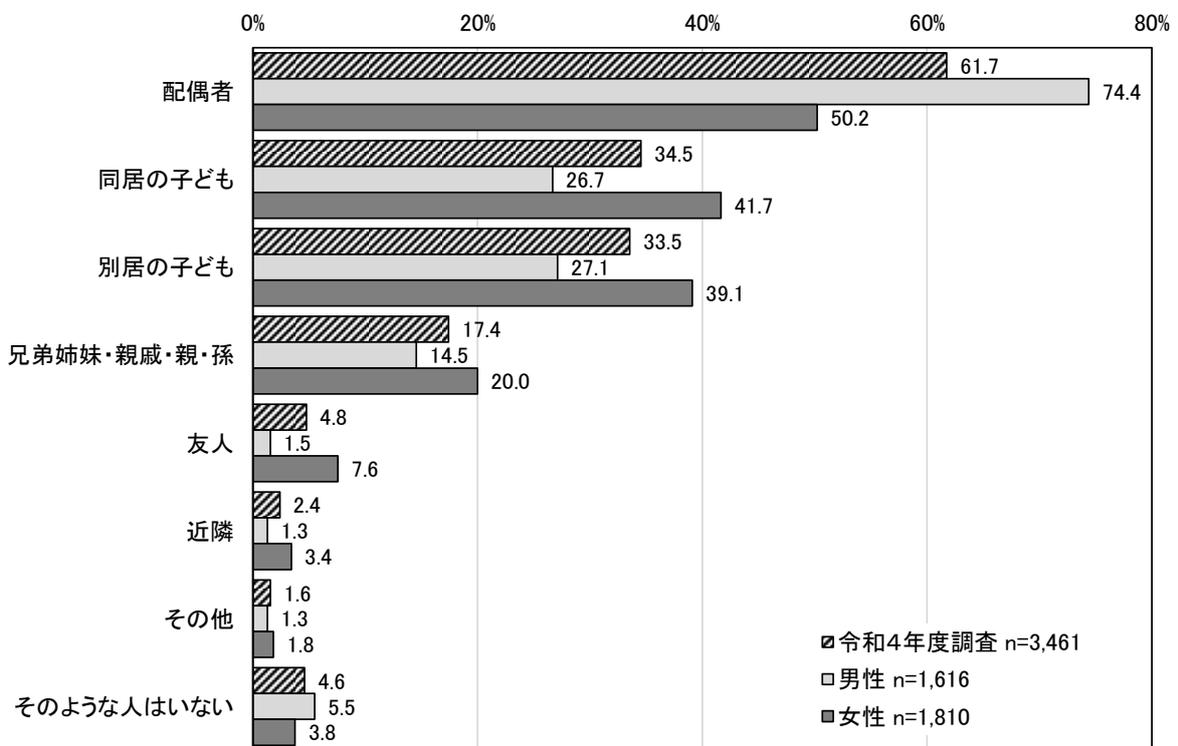


**(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人
(あてはまるものすべてに回答)**

あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人については、「配偶者」が61.7%で最も高く、次いで「同居の子ども」が34.5%、「別居の子ども」が33.5%となっています。

性別でみると、男性では「配偶者」が74.4%で最も高く、次いで「別居の子ども」が27.1%、「同居の子ども」が26.7%となっています。女性では「配偶者」が50.2%で最も高く、次いで「同居の子ども」が41.7%、「別居の子ども」が39.1%となっています。

【性別】

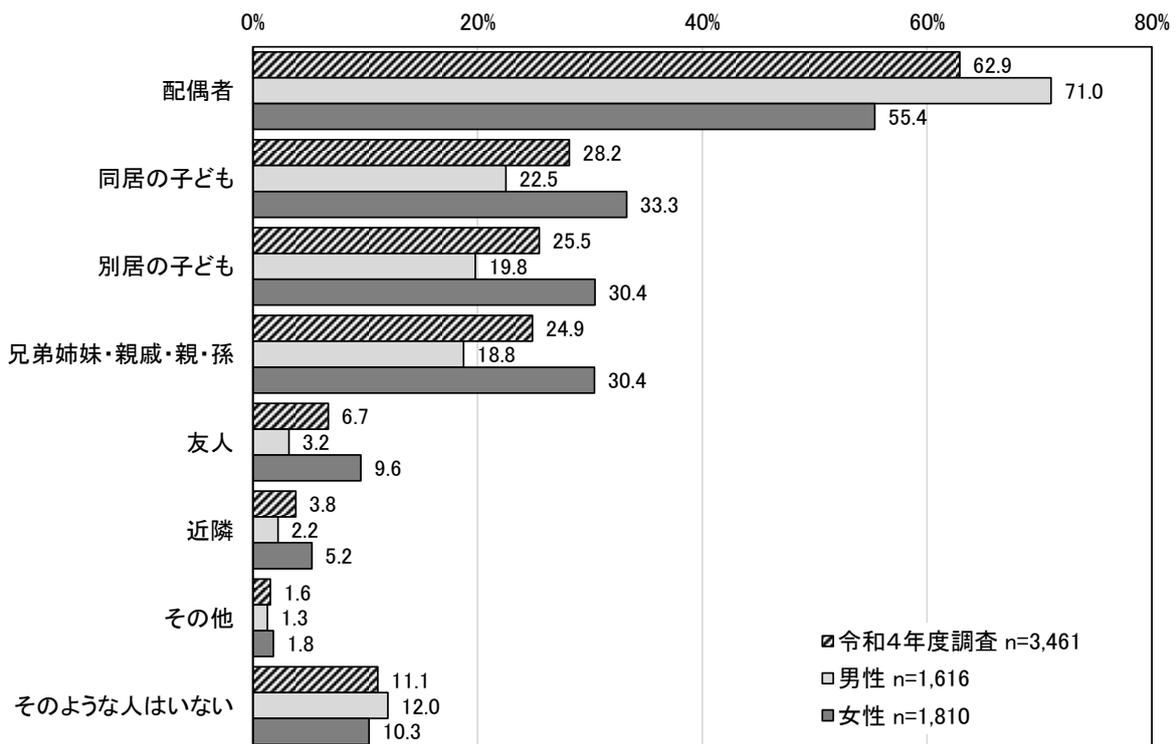


(4) 反対に、看病や世話をしあける人（あてはまるものすべてに回答）

あなたが看病や世話をしあける人については、「配偶者」が 62.9%で最も高く、次いで「同居の子ども」が 28.2%、「別居の子ども」が 25.5%となっています。

性別でみると、男性では「配偶者」が 71.0%で最も高く、次いで「同居の子ども」が 22.5%、「別居の子ども」が 19.8%となっています。女性では「配偶者」が 55.4%で最も高く、次いで「同居の子ども」が 33.3%、「別居の子ども」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」がともに 30.4%となっています。

【性別】

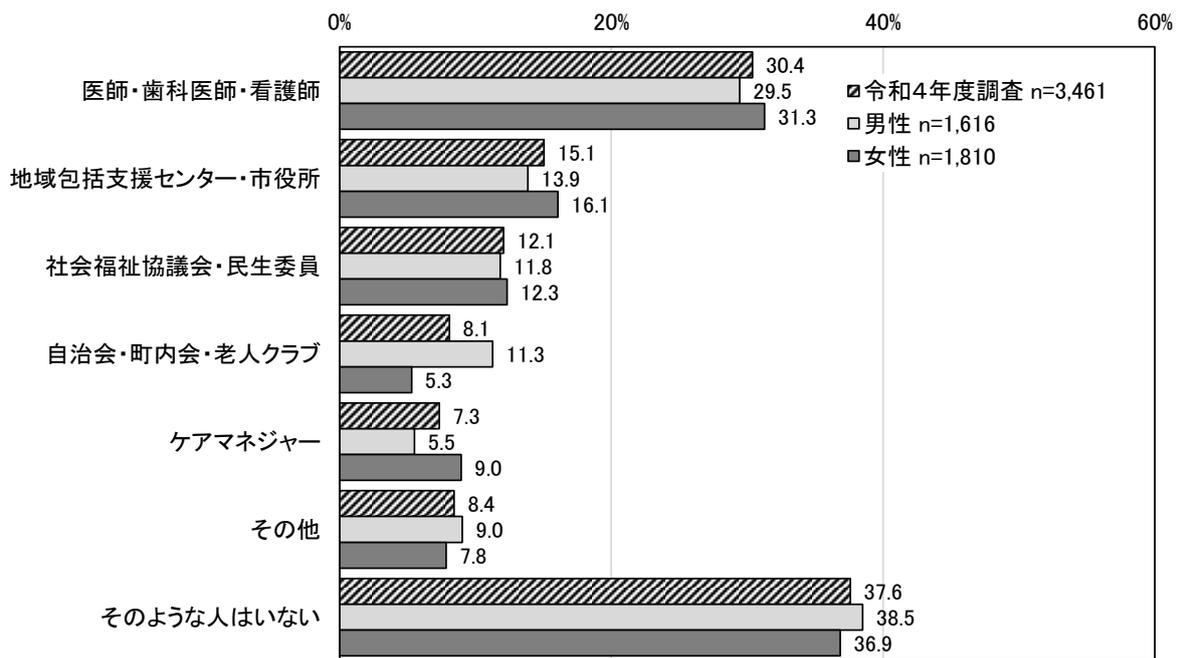


(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください
(あてはまるものすべてに回答)

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手については、「そのような人はいない」が37.6%で最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」が30.4%、「地域包括支援センター・市役所」が15.1%となっています。

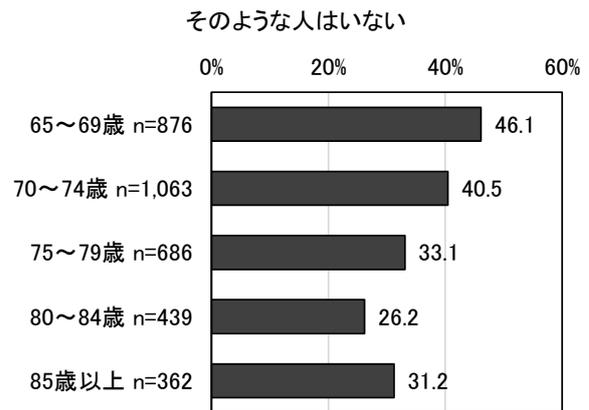
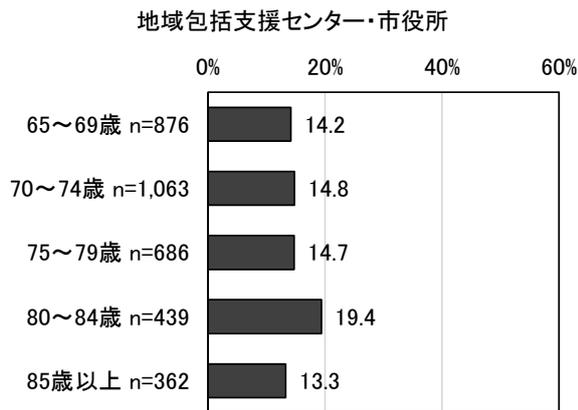
性別でみると、全体結果と同じく、男性・女性ともに、「そのような人はいない」「医師・歯科医師・看護師」「地域包括支援センター・市役所」の順で割合が高くなっています。

【性別】



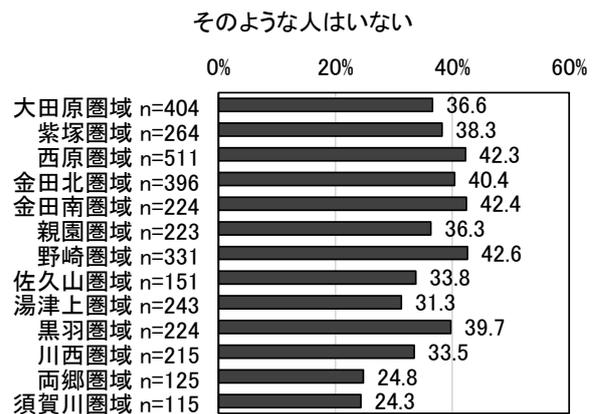
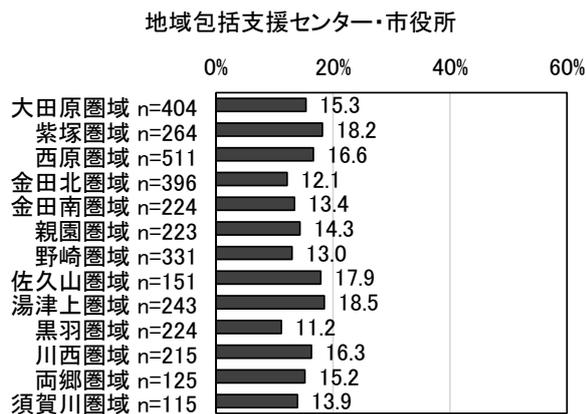
【年齢階級別】※選択肢から2つを抜粋

「そのような人はいない」は、前期高齢者（65～74歳）の回答が多くなっています。



【日常生活圏域別】※選択肢から2つを抜粋

西原圏域、金田南圏域、野崎圏域において、「そのような人はいない」の回答が多く、両郷圏域、須賀川圏域では少なくなっています。



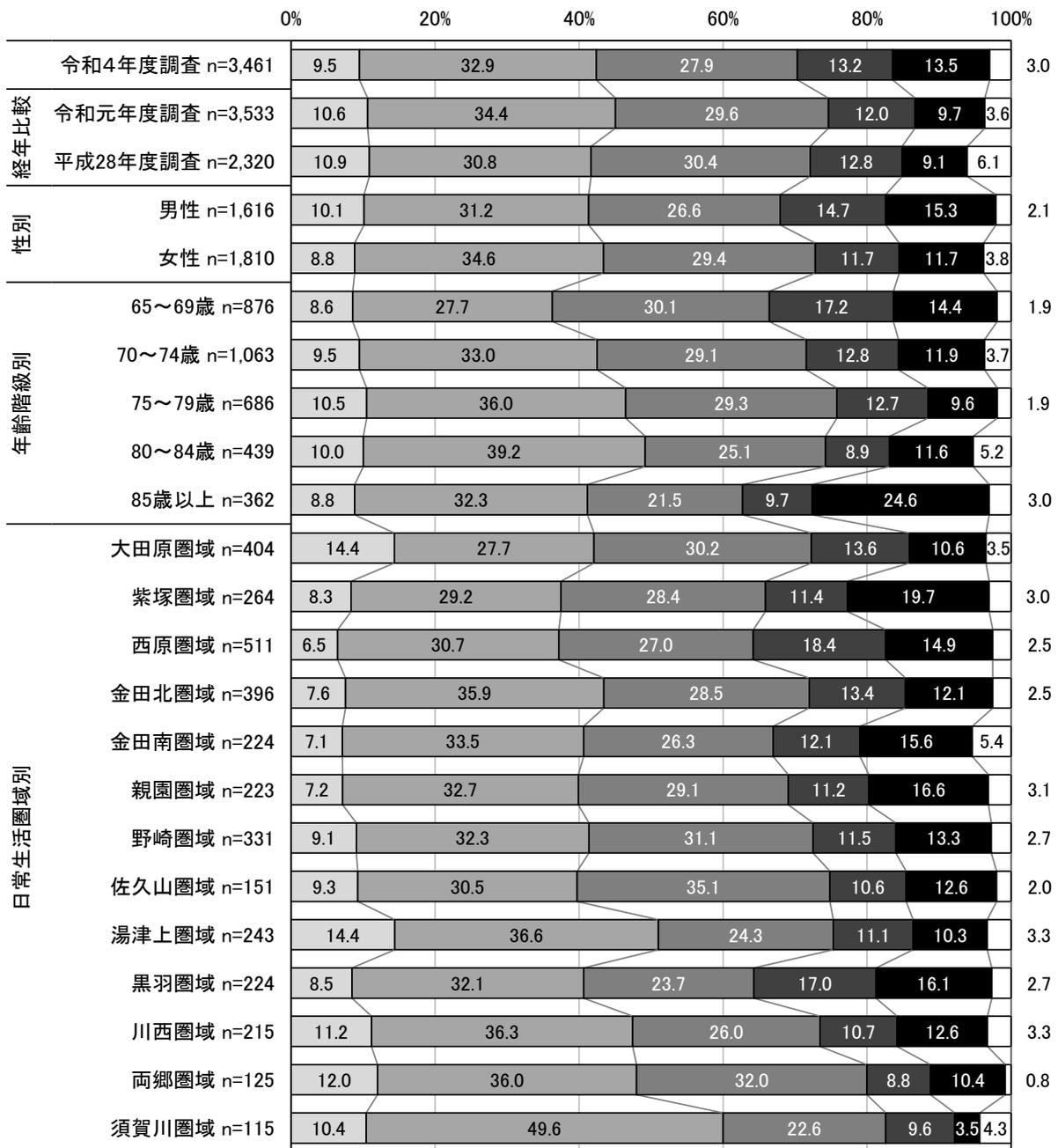
(6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか（回答は1つ）

友人・知人と会う頻度については、「週に何度かある」が32.9%で最も高く、次いで「月に何度かある」が27.9%、「ほとんどない」が13.5%となっています。

性別でみると、「毎日ある」「週に何度かある」を合わせた『よく会っている』の割合は、男性に比べ女性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、『よく会っている』の割合は、80～84歳が最も高く、次いで75～79歳、70～74歳となっています。

令和元年度調査と比較して、『よく会っている』が45.0%から42.4%へ2.6ポイント減少しています。



□毎日ある □週に何度かある □月に何度かある
 ■年に何度かある ■ほとんどない □無回答

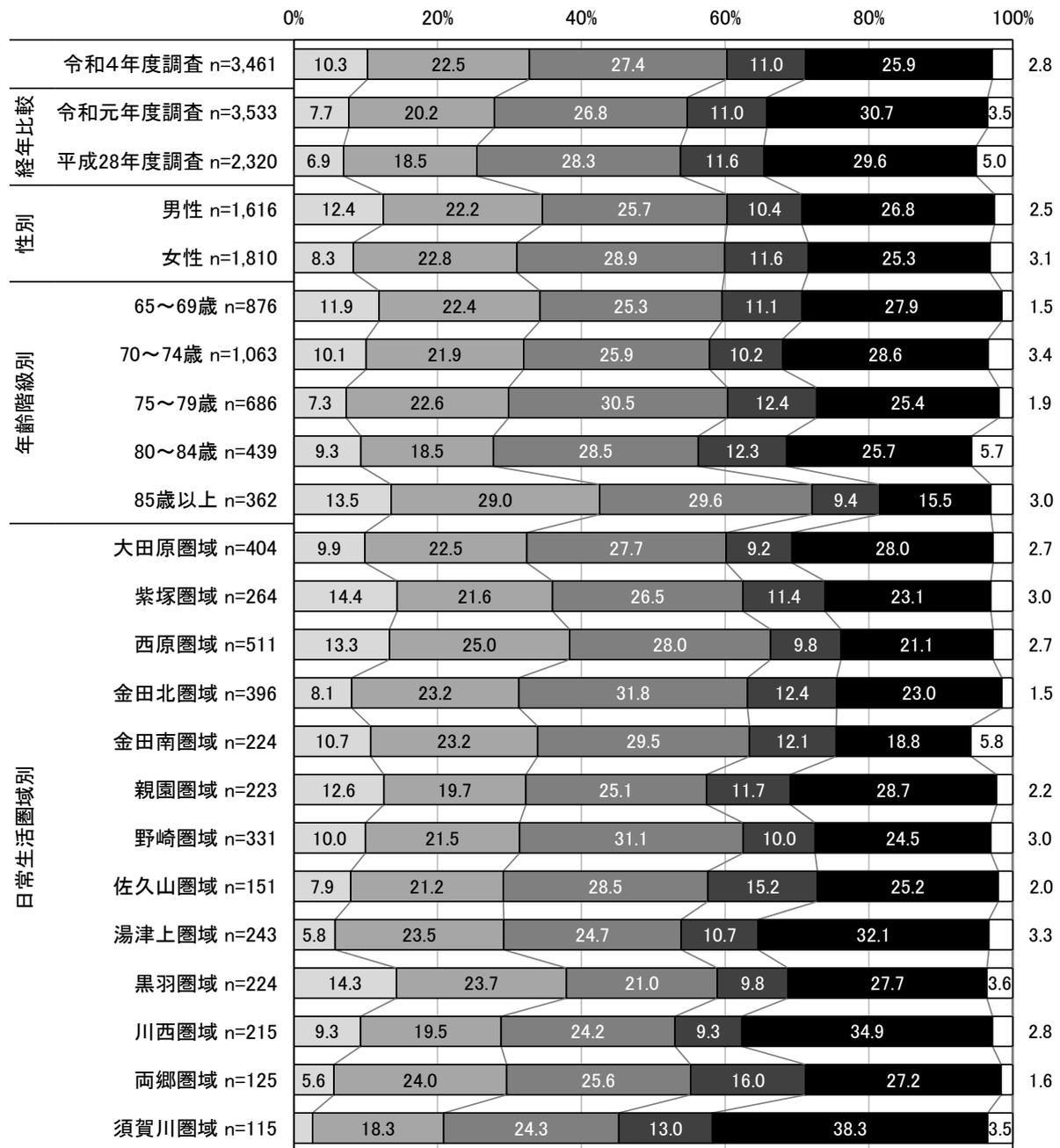
(7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか(回答は1つ)

この1か月間、何人の友人・知人と会ったかについては、「3～5人」が27.4%で最も高く、次いで「10人以上」が25.9%、「1～2人」が22.5%となっています。

性別でみると、「0人(いない)」は、女性に比べ男性のほうが4.1ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「0人(いない)」は、85歳以上が13.5%で最も高く、次いで65～69歳が11.9%、70～74歳が10.1%となっています。

令和元年度調査と比較して、「0人(いない)」が7.7%から10.3%へ2.6ポイント増加しています。



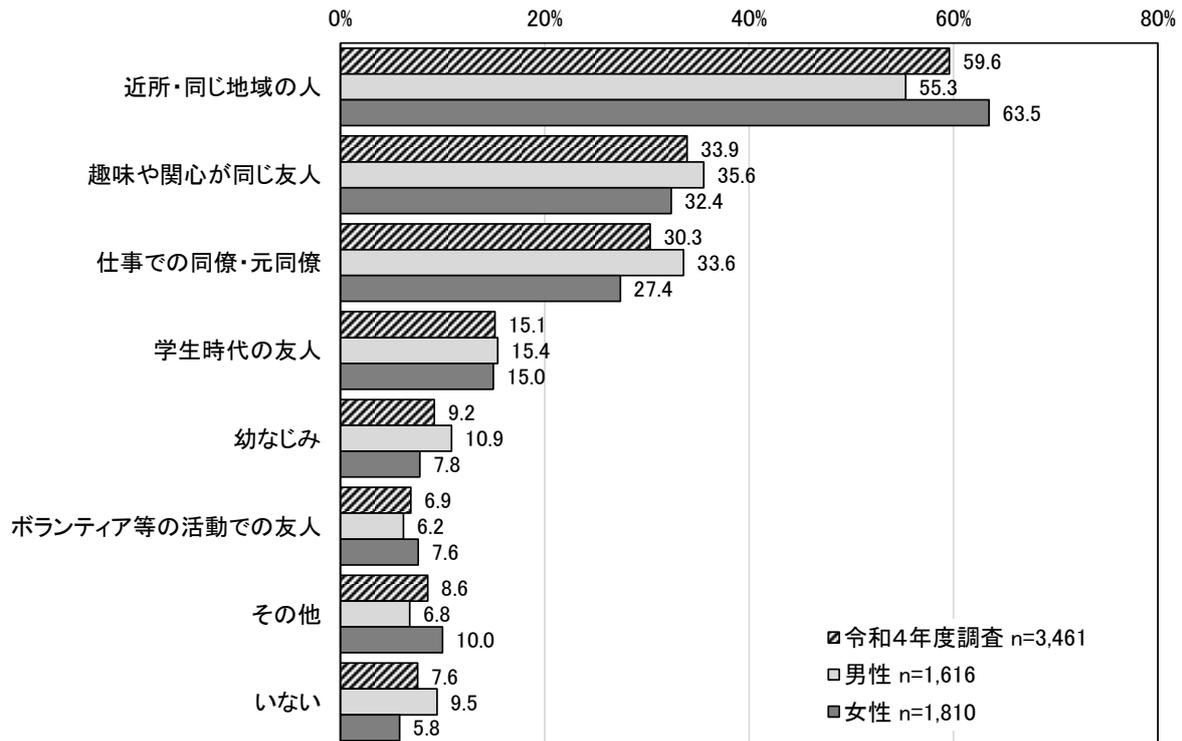
□0人(いない) □1～2人 ■3～5人 ■6～9人 ■10人以上 □無回答

(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか（あてはまるものすべてに回答）

よく会う友人・知人の関係性については、「近所・同じ地域の人」が 59.6%で最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」が 33.9%、「仕事での同僚・元同僚」が 30.3%となっています。

性別でみると、全体結果と同じく、男性・女性ともに「近所・同じ地域の人」「趣味や関心が同じ友人」「仕事での同僚・元同僚」の順で割合が高くなっています。

【性別】



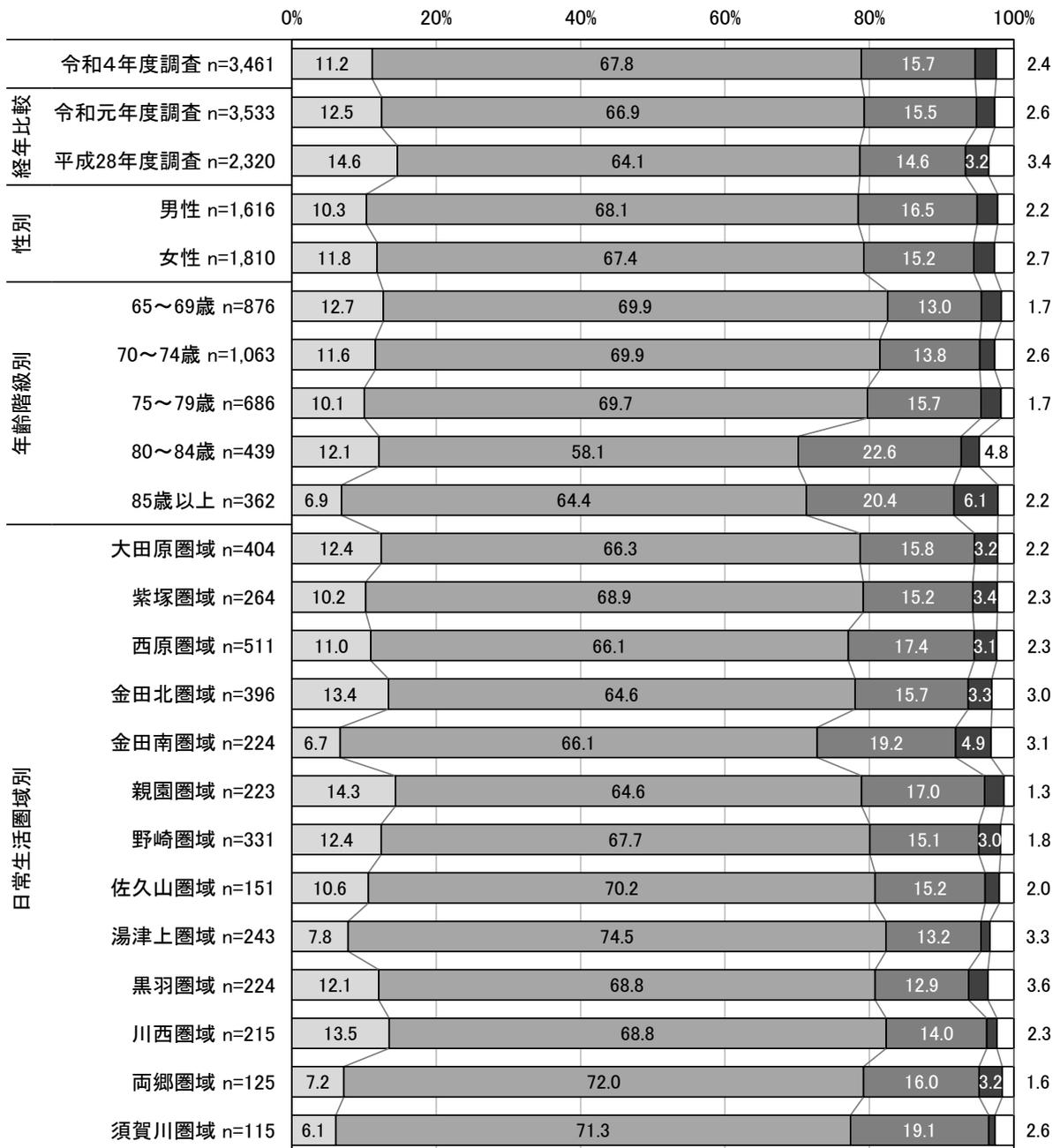
問7 健康について

(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか（回答は1つ）

現在の健康状態については、「まあよい」が67.8%で最も高く、次いで「あまりよくない」が15.7%、「とてもよい」が11.2%となっています。

年齢階級別でみると、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた『健康状態がよくない』は、85歳以上が26.5%で最も高く、次いで80～84歳が25.1%、75～79歳が18.5%となっています。

令和元年度調査と比較して、『健康状態がよくない』が18.0%から18.6%へ0.6ポイント増加しています。



□とてもよい □まあよい □あまりよくない □よくない □無回答

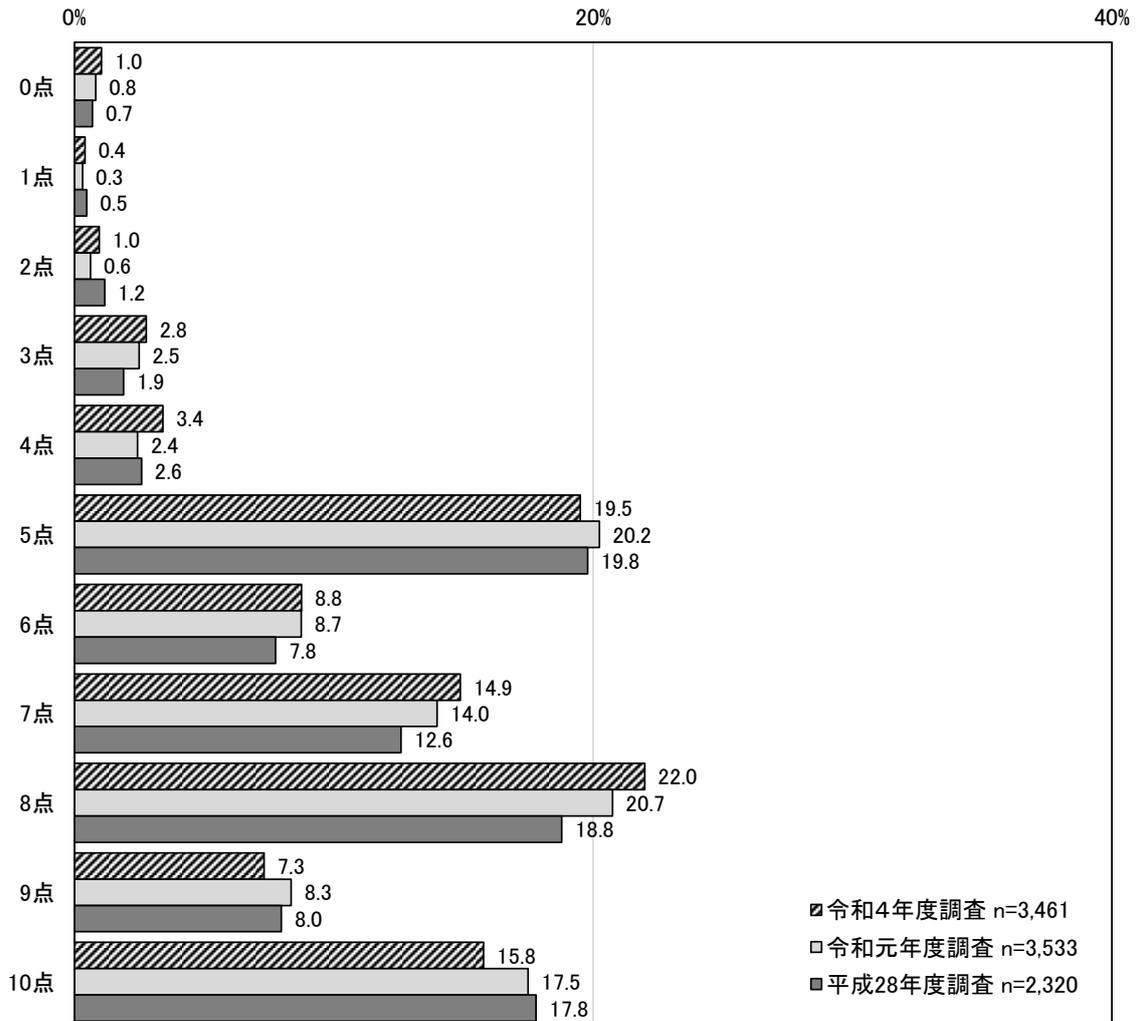
(2) あなたは、現在どの程度幸せですか（回答は1つ）

（「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください）

現在の幸福感については、「8点」が22.0%で最も高く、次いで「5点」が19.5%、「10点」が15.8%となっています。「5点」～「10点」の合計値は88.3%を占めています。

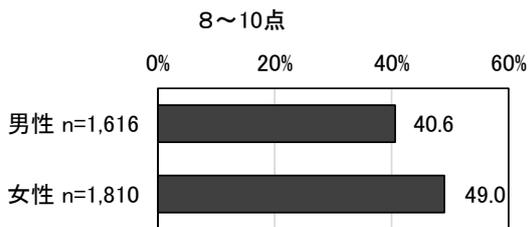
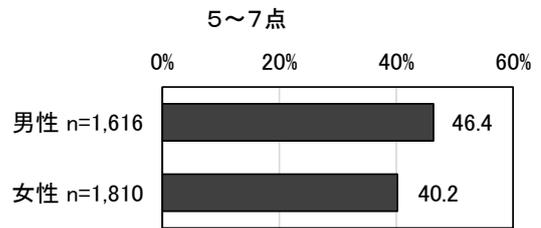
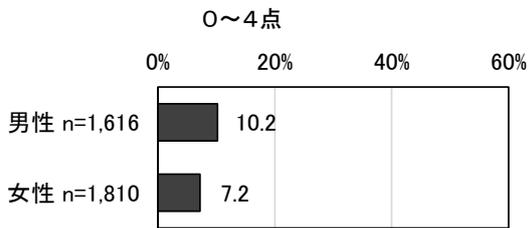
令和元年度調査と比較して、平均点は7.1点から7.0点へ0.1点下がっています。

【経年比較】



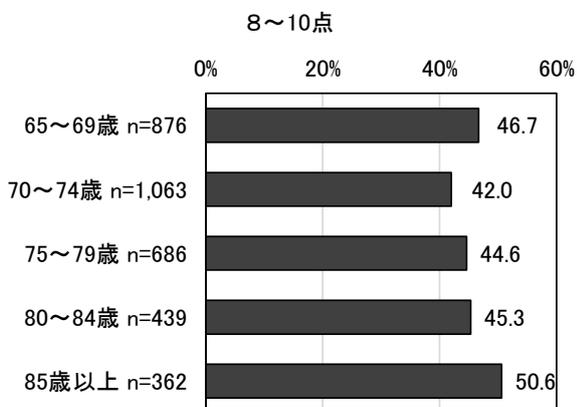
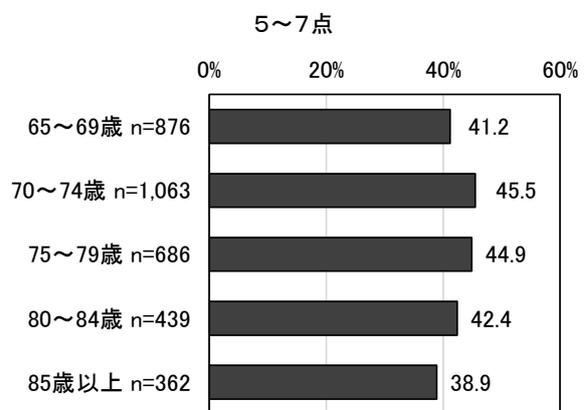
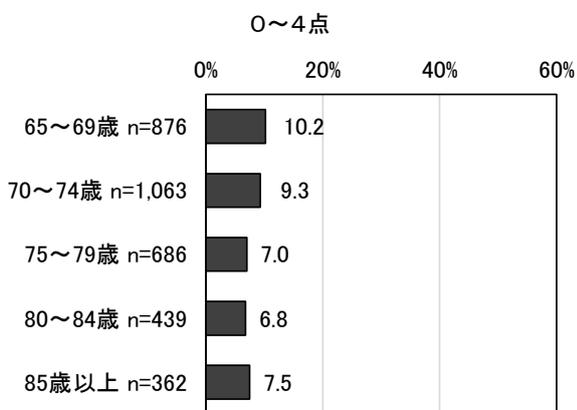
【性別】※幸福度3区分

『0～4点』『5～7点』では男性の割合が高く、『8～10点』では女性の割合が高くなっています。



【年齢階級別】※幸福度3区分

年齢階級別では、前期高齢者（65～74歳）の『0～4点』が後期高齢者（75歳以上）と比較して高くなっています。



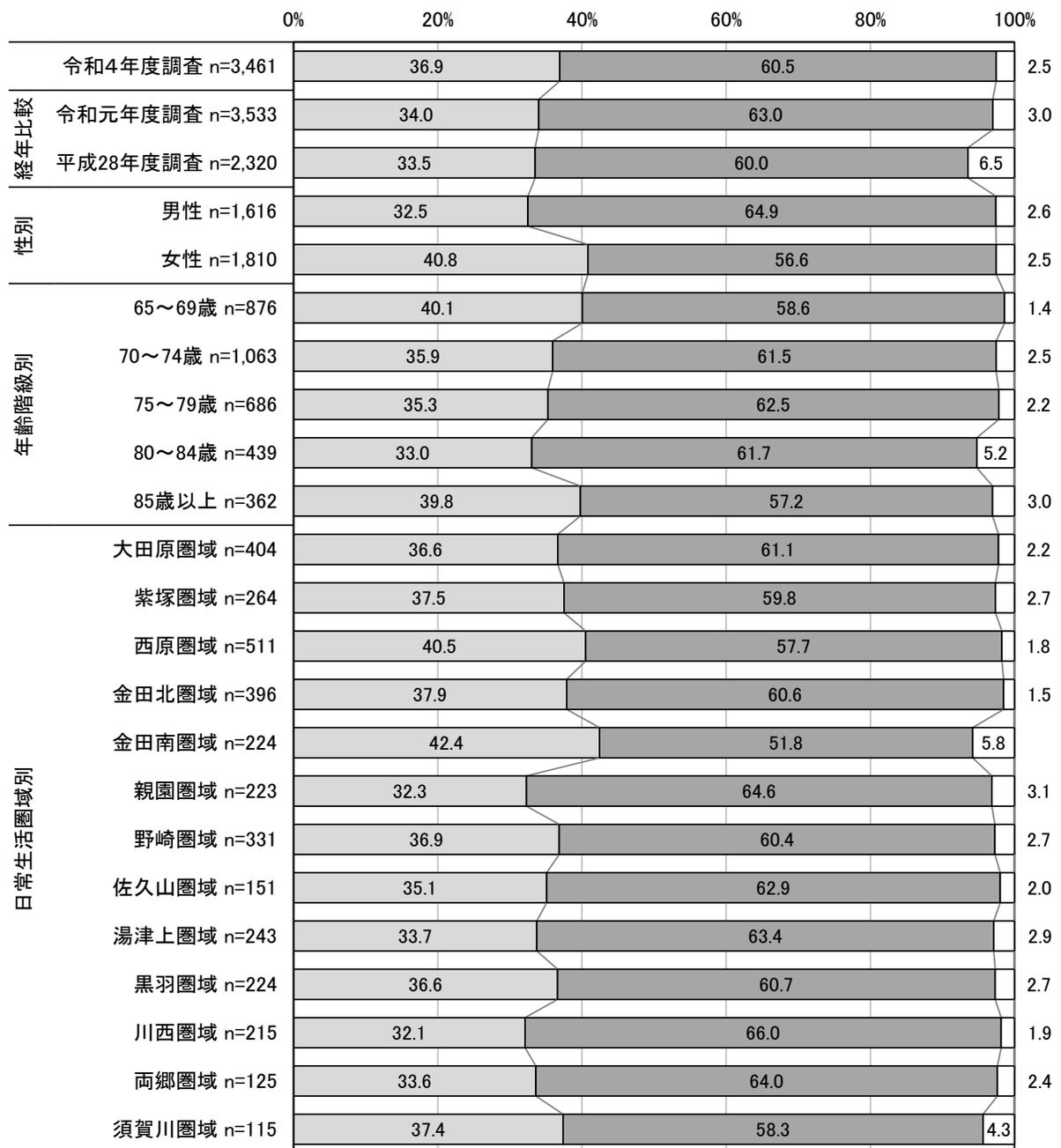
(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか
(回答は1つ)

この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかについては、「はい」が36.9%、「いいえ」が60.5%で、「いいえ」が23.6ポイント上回っています。

性別でみると、「はい」は、男性に比べ女性のほうが8.3ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「はい」は、65～69歳が40.1%で最も高く、次いで85歳以上が39.8%、70～74歳が35.9%となっています。

令和元年度調査と比較して、「はい」が34.0%から36.9%へ2.9ポイント増加しています。



□はい □いいえ □無回答

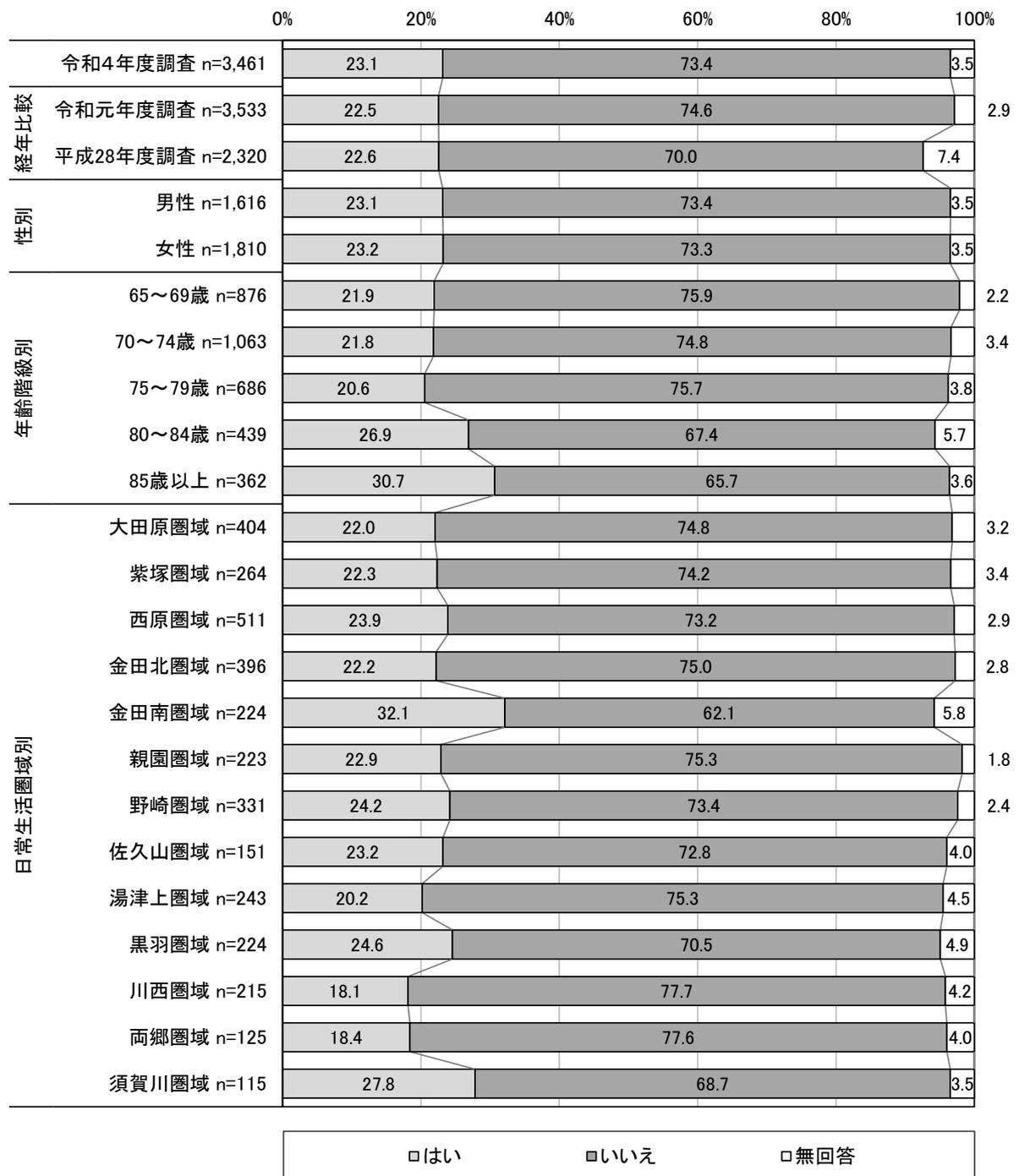
(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか（回答は1つ）

この1か月間、物事に対して興味がわかない、楽しめない感じがあったかについては、「はい」が23.1%、「いいえ」が73.4%で、「いいえ」が50.3ポイント上回っています。

性別でみると、「はい」は、男性に比べ女性のほうが0.1ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「はい」は、85歳以上が30.7%で最も高く、次いで80～84歳が26.9%、65～69歳が21.9%となっています。

令和元年度調査と比較して、「はい」が22.5%から23.1%へ0.6ポイント増加しています。



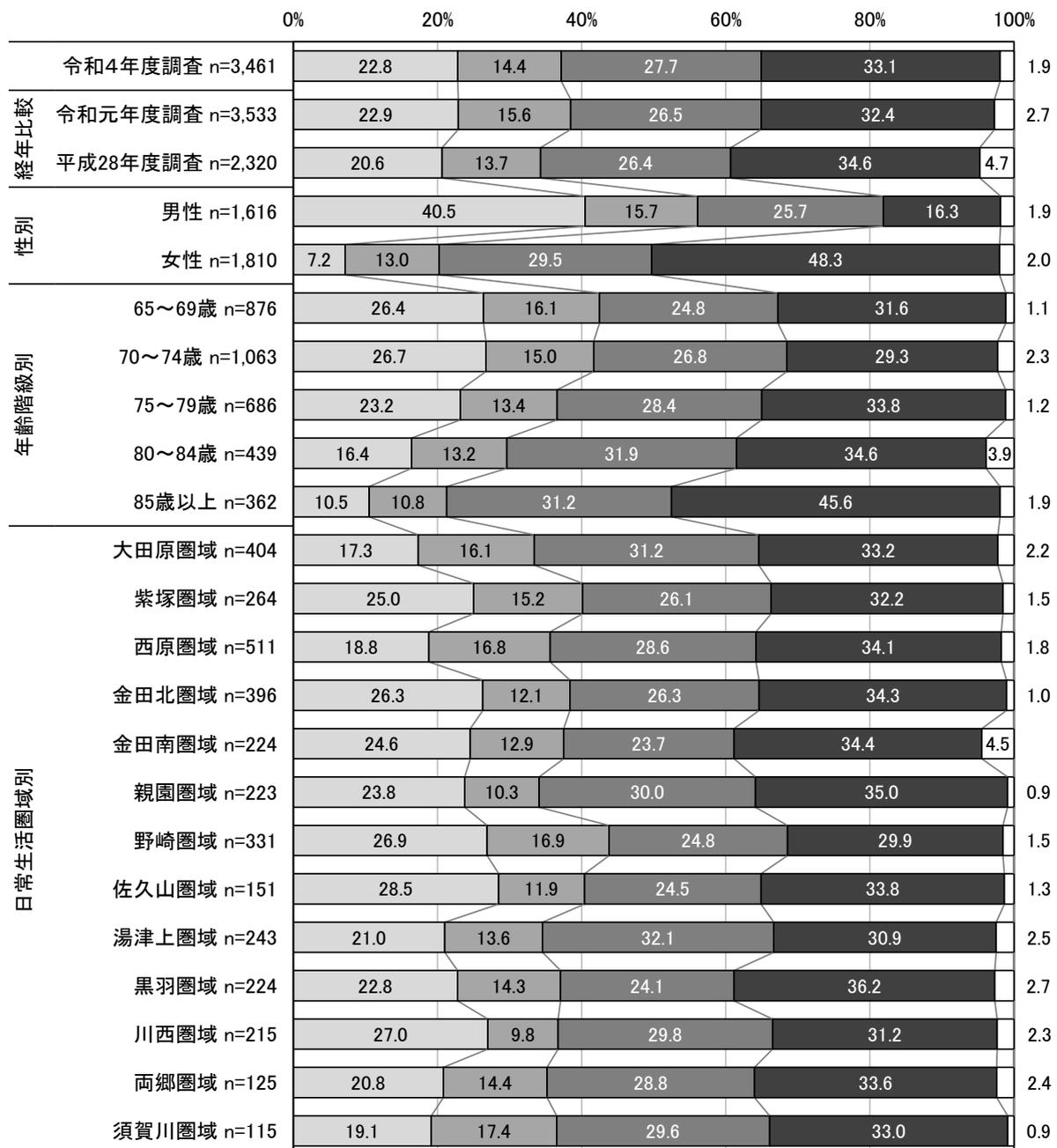
(5) お酒は飲みますか(回答は1つ)

飲酒状況については、「もともと飲まない」が33.1%で最も高く、次いで「ほとんど飲まない」が27.7%、「ほぼ毎日飲む」が22.8%となっています。

性別でみると、「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」を合わせた『飲む』では、女性に比べ男性のほうが36.0ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『飲む』は、65～69歳が42.5%で最も高く、次いで70～74歳が41.7%、75～79歳が36.6%となっています。

令和元年度調査と比較して、『飲む』が38.5%から37.2%へ1.3ポイント減少しています。



□ほぼ毎日飲む □時々飲む □ほとんど飲まない ■もともと飲まない □無回答

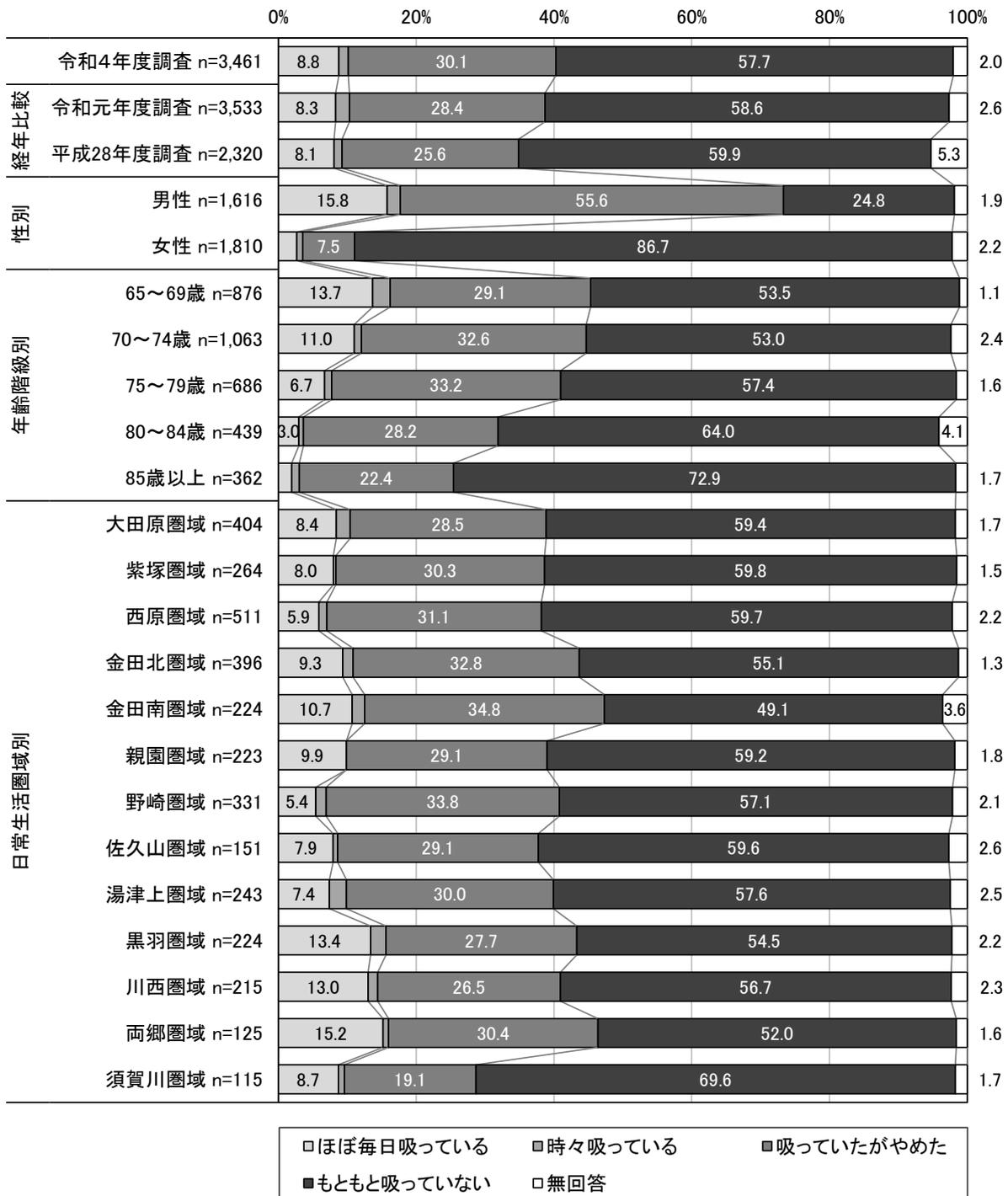
(6) タバコは吸っていますか (回答は1つ)

喫煙状況については、「もともと吸っていない」が 57.7%で最も高く、次いで「吸っていたがやめた」が 30.1%、「ほぼ毎日吸っている」が 8.8%となっています。

性別でみると、「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせた『吸っている』では、女性に比べ男性のほうが 14.1 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、『吸っている』の割合は、65～69 歳が 16.2%で最も高く、次いで 70～74 歳が 12.0%、75～79 歳が 7.7%となっています。

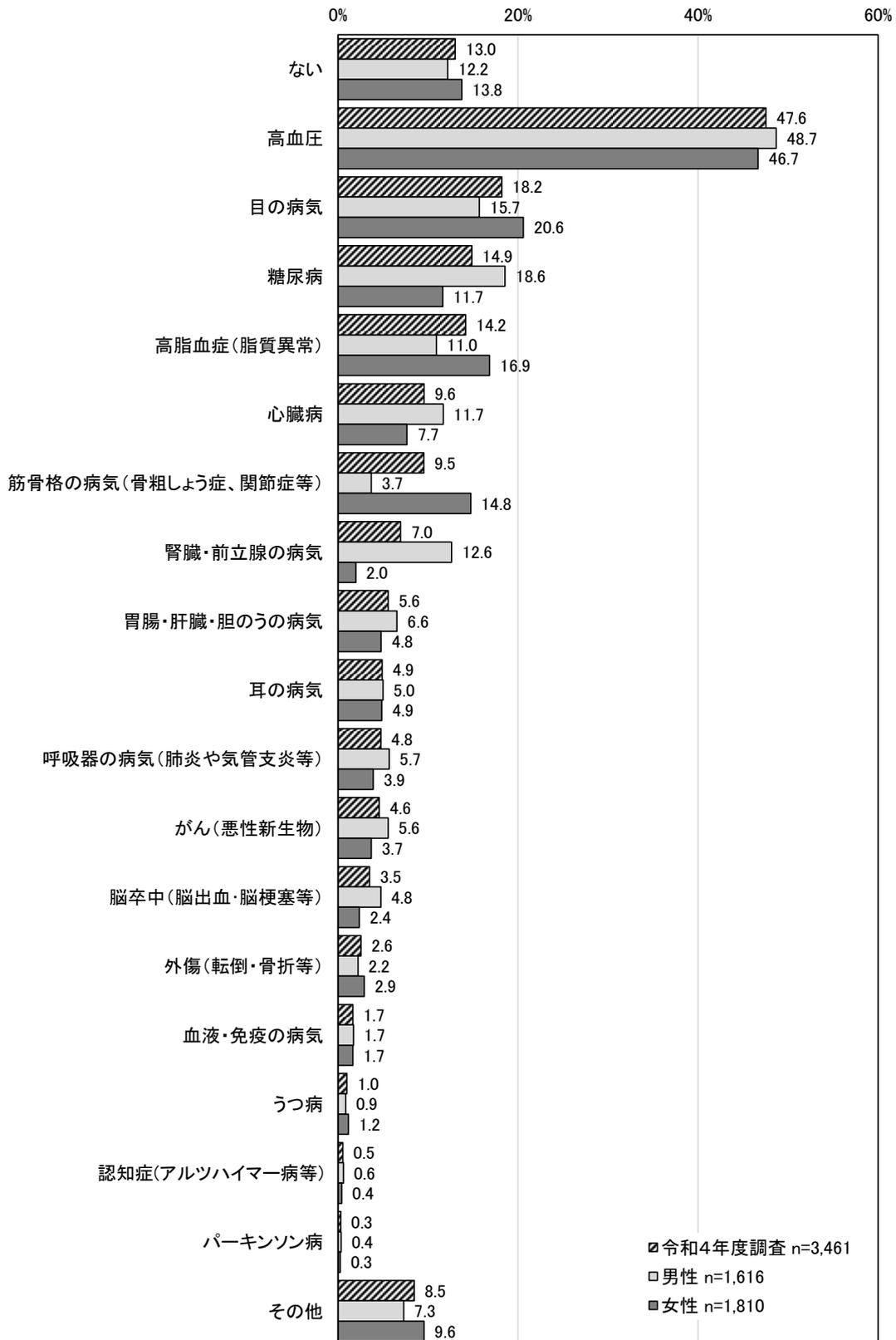
令和元年度調査と比較して、『吸っている』が 10.3%から 10.2%へ 0.1 ポイント減少しています。



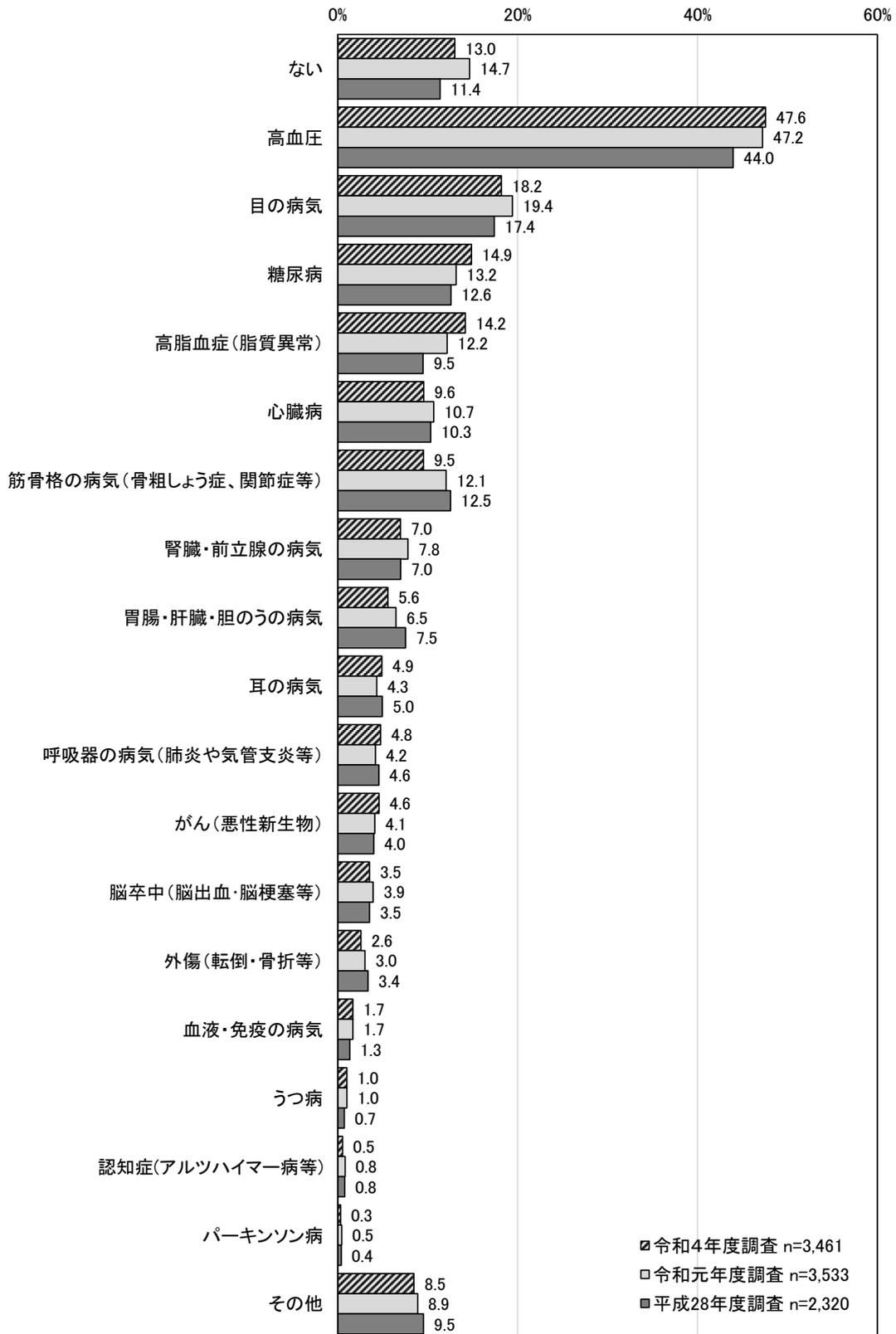
(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (あてはまるものすべてに回答)

現在治療中、または後遺症のある病気があるかについては、「高血圧」が47.6%で最も高く、次いで「目の病気」が18.2%、「糖尿病」が14.9%となっています。

【性別】



【経年比較】



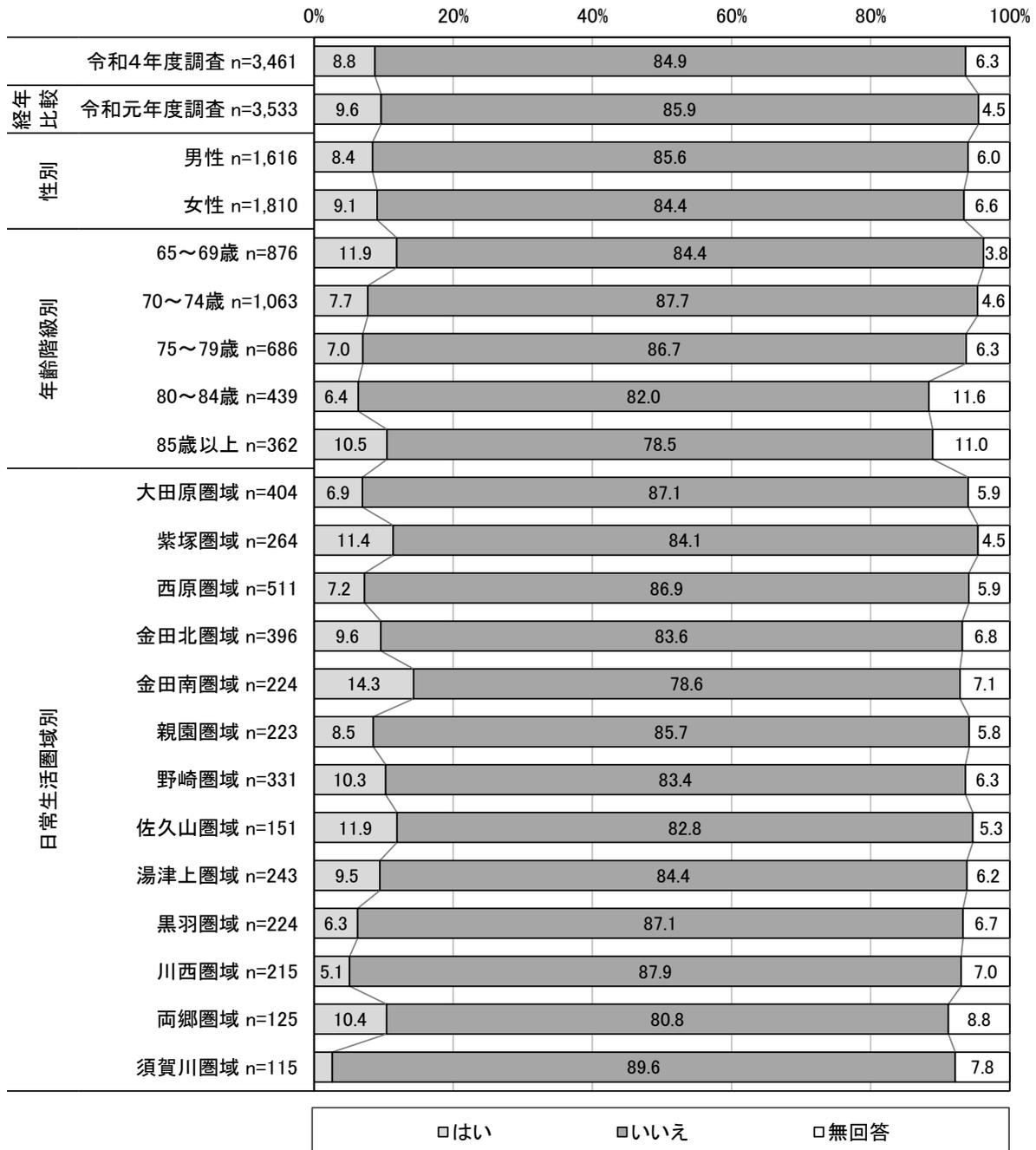
問8 認知症にかかる相談窓口の把握について

(1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか（回答は1つ）

認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人がいるかについては、「はい」が8.8%、「いいえ」が84.9%で、「いいえ」が76.1ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「はい」は、65～69歳が11.9%で最も高く、次いで85歳以上が10.5%、70～74歳が7.7%となっています。

令和元年度調査と比較して、「はい」が9.6%から8.8%へ0.8ポイント減少しています。



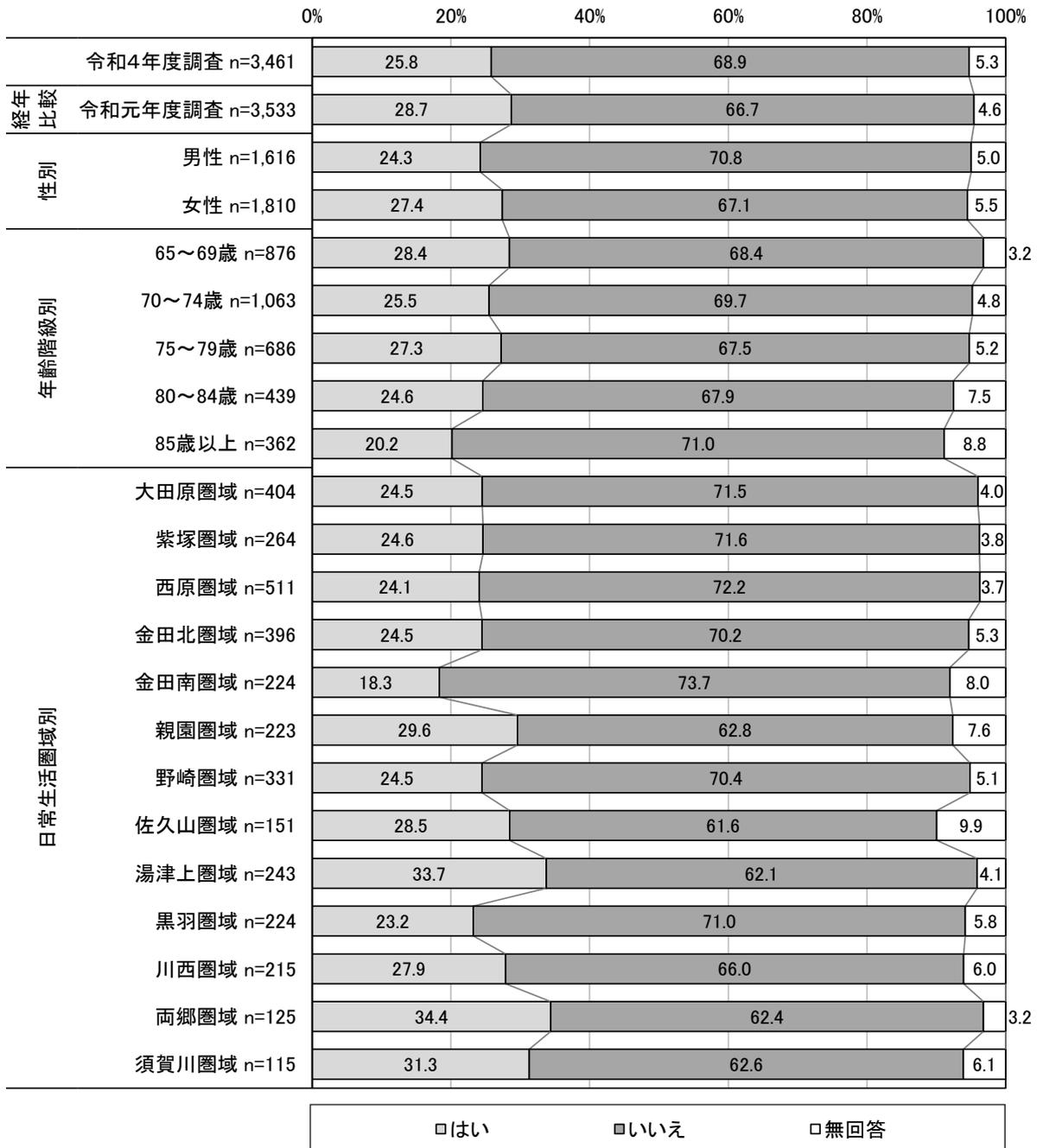
※令和元年度調査からの設問になります。

(2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか(回答は1つ)

認知症に関する相談窓口を知っているかについては、「はい」が25.8%、「いいえ」が68.9%で、「いいえ」が43.1ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、85歳以上が71.0%で最も高く、次いで70~74歳が69.7%、65~69歳が68.4%となっています。

令和元年度調査と比較して、「いいえ」が66.7%から68.9%へ2.2ポイント増加しています。



※令和元年度調査からの設問になります。

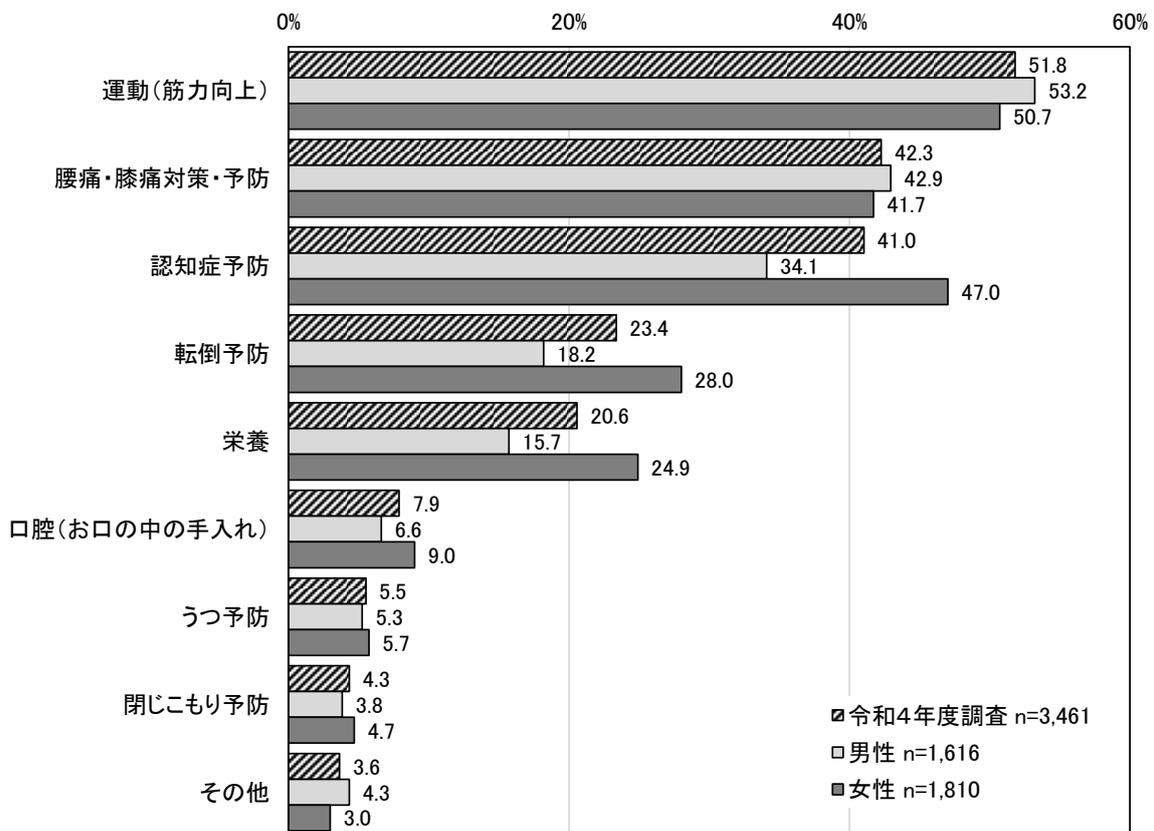
問9 介護保険事業・高齢者施策について

(1) 介護予防のために以下のような事業への参加を紹介された場合、どれに参加したいですか
(あてはまるものすべてに回答)

介護予防のために以下のような事業への参加を紹介された場合、どれに参加したいかについては、「運動（筋力向上）」が51.8%で最も高く、次いで「腰痛・膝痛対策・予防」が42.3%、「認知症予防」が41.0%となっています。

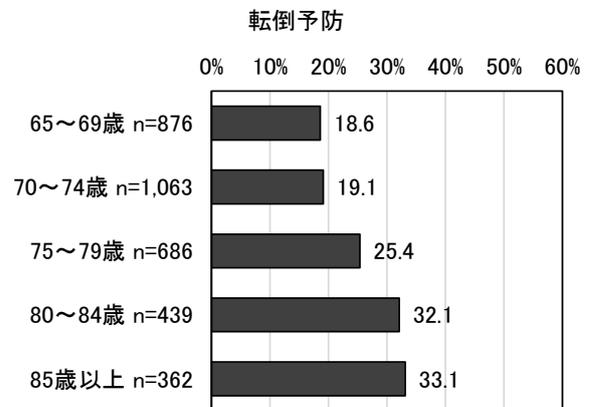
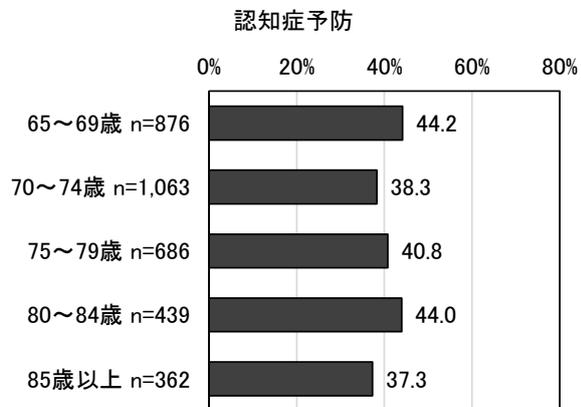
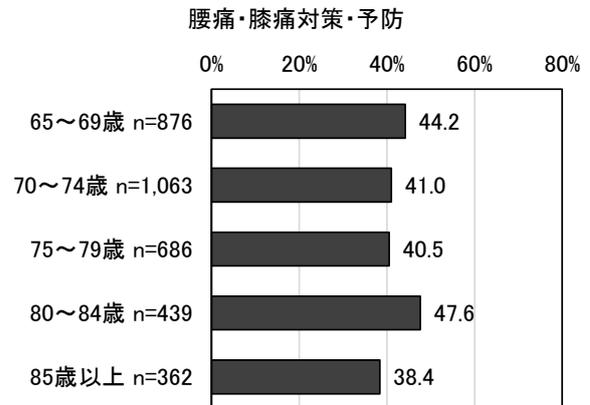
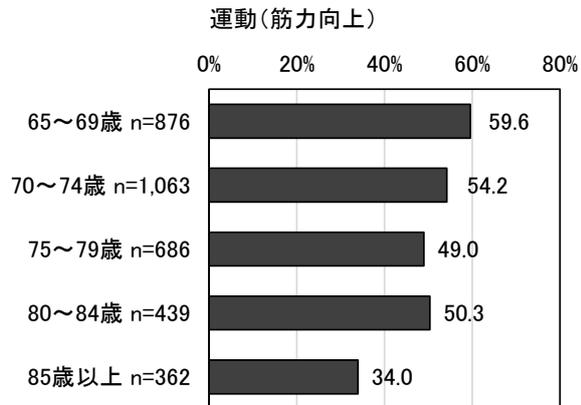
性別でみると、男性では「運動（筋力向上）」が53.2%で最も高く、次いで「腰痛・膝痛対策・予防」が42.9%、「認知症予防」34.1%となっています。女性では、「運動（筋力向上）」が50.7%で最も高く、次いで「認知症予防」が47.0%、「腰痛・膝痛対策・予防」が41.7%となっています。

【性別】



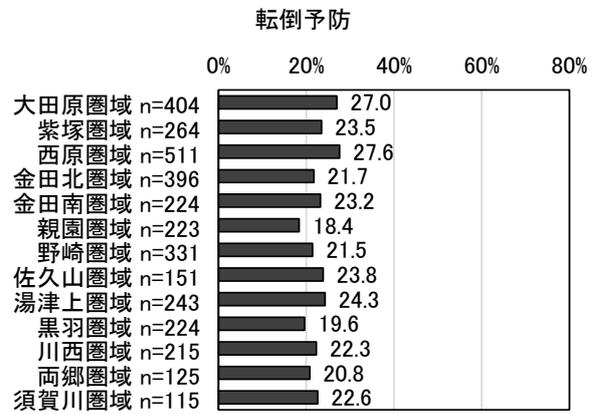
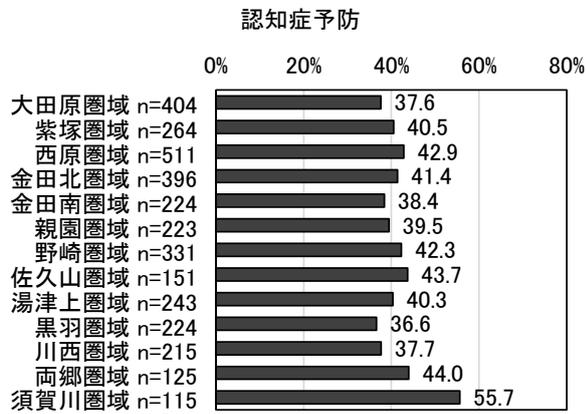
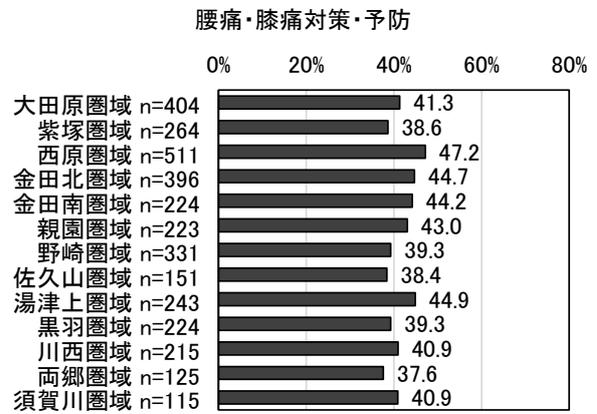
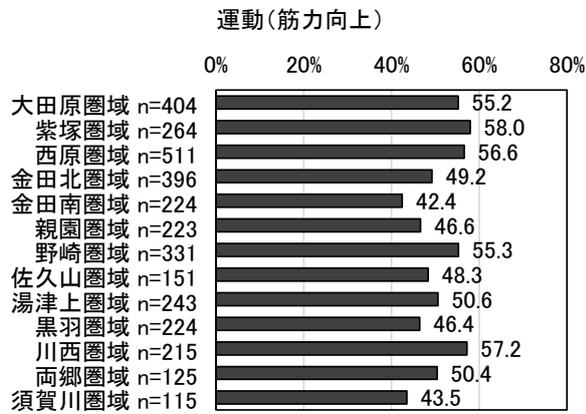
【年齢階級別】※選択肢から4つを抜粋

「運動（筋力向上）」は、年齢が上がるにつれて減少する傾向がみられます。一方、「転倒予防」は、年齢が上がるにつれて増加する傾向がみられます。



【日常生活圏域別】※選択肢から4つを抜粋

「運動（筋力向上）」は、大田原圏域、紫塚圏域、西原圏域、野崎圏域、川西圏域で高くなっています。「腰痛・膝痛対策・予防」は、西原圏域で高くなっています。「認知症予防」は、須賀川圏域で高くなっています。「転倒予防」は、大田原圏域、西原圏域で高くなっています。

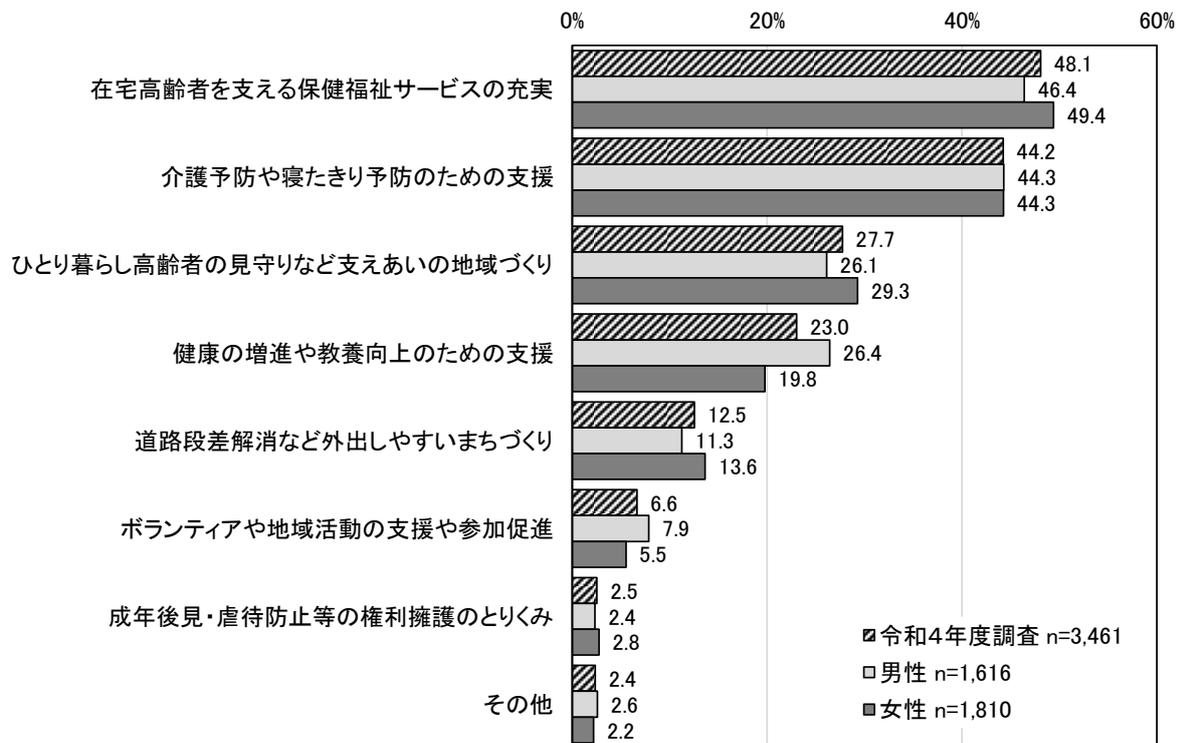


(2) 今後、本市が取組むべき高齢者施策として、次のうちどれを優先して充実するべきだとお考えですか（回答は2つまで）

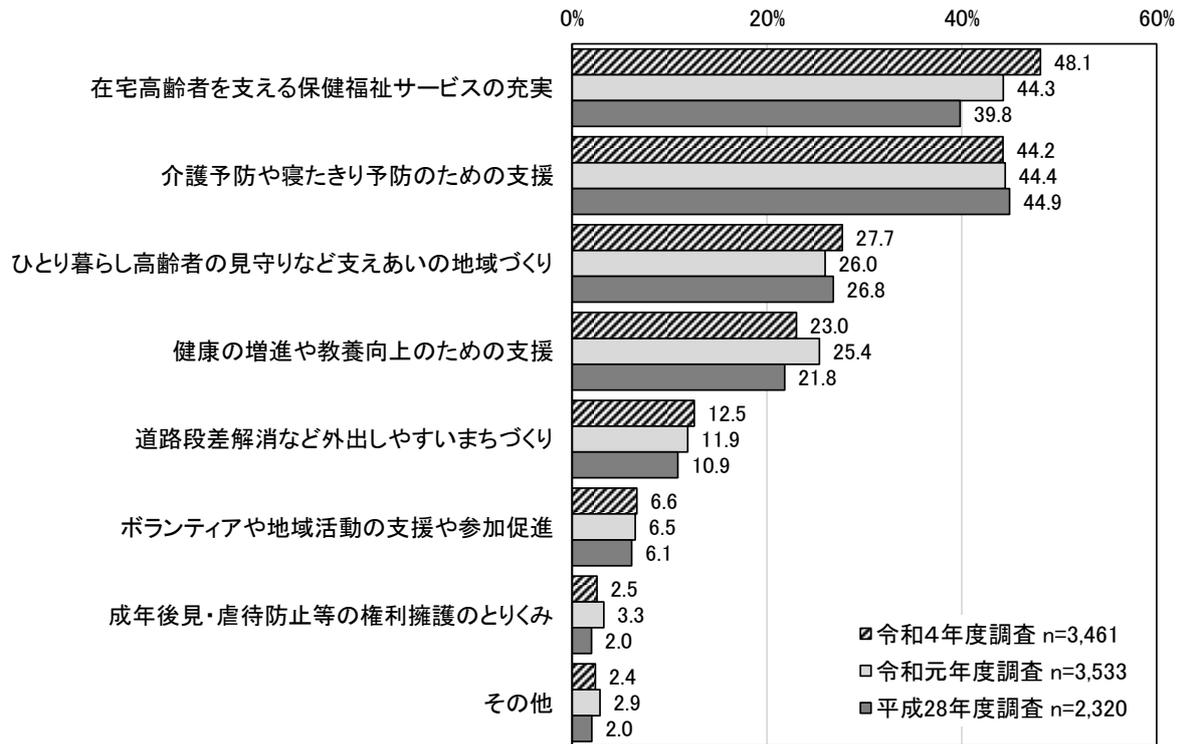
今後、本市が取組むべき高齢者施策として、次のうちどれを優先して充実するべきかについては、「在宅高齢者を支える保健福祉サービスの充実」が48.1%で最も高く、次いで「介護予防や寝たきり予防のための支援」が44.2%、「ひとり暮らし高齢者の見守りなど支えあいの地域づくり」が27.7%となっています。

性別でみると、男性では「在宅高齢者を支える保健福祉サービスの充実」が46.4%で最も高く、次いで「介護予防や寝たきり予防のための支援」が44.3%、「健康の増進や教養向上のための支援」が26.4%となっています。女性では「在宅高齢者を支える保健福祉サービスの充実」が49.4%で最も高く、次いで「介護予防や寝たきり予防のための支援」が44.3%、「ひとり暮らし高齢者の見守りなど支えあいの地域づくり」が29.3%となっています。

【性別】



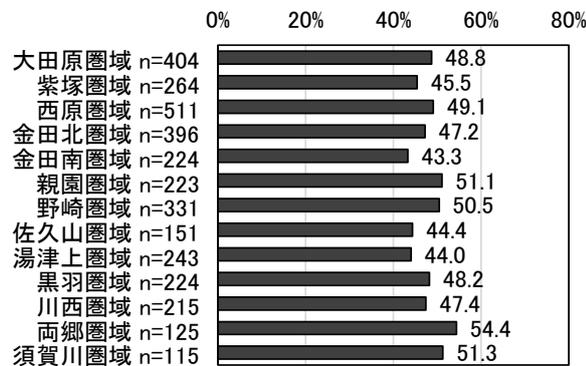
【経年比較】



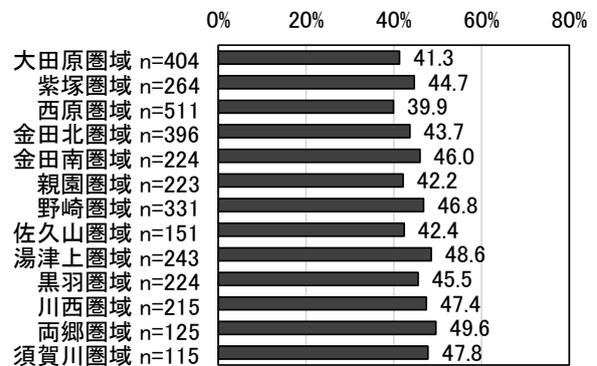
【日常生活圏域別】

「介護予防や寝たきり予防のための支援」は、湯津上圏域、両郷圏域で高くなっています。また、「在宅高齢者を支える保健福祉サービスの充実」は、両郷圏域で高くなっています。

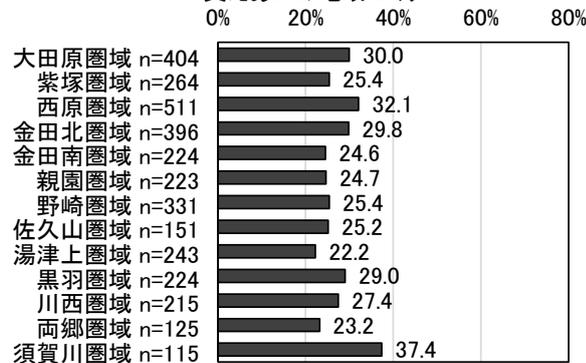
在宅高齢者を支える保健福祉サービスの充実



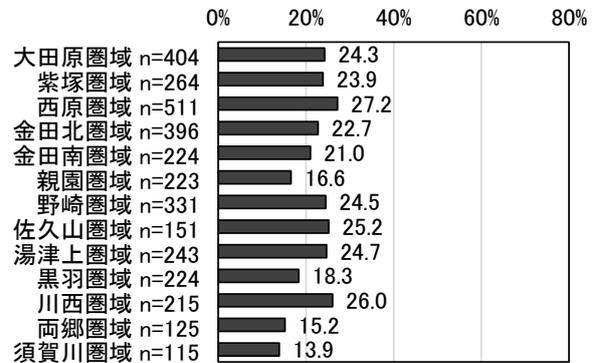
介護予防や寝たきり予防のための支援



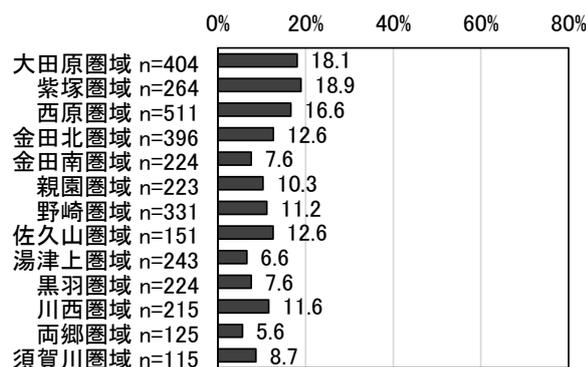
ひとり暮らし高齢者の見守りなど
支えあいの地域づくり



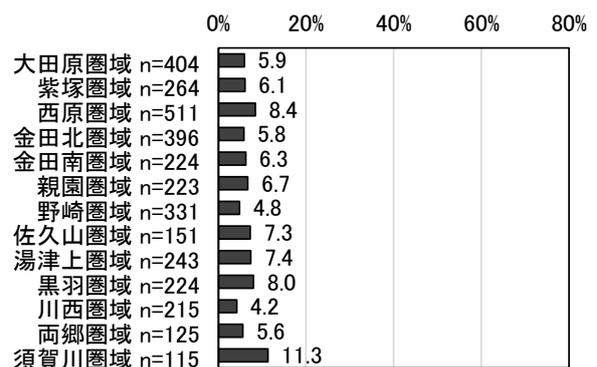
健康の増進や教養向上のための支援



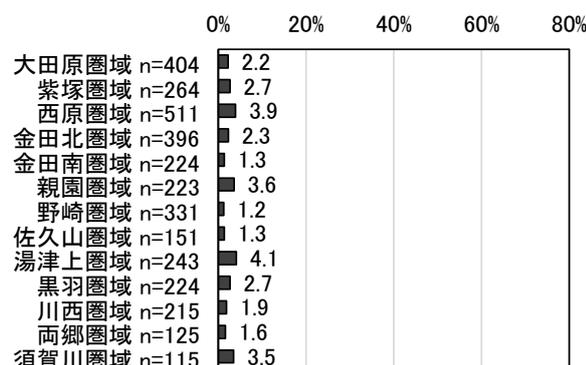
道路段差解消など外出しやすいまちづくり



ボランティアや地域活動の支援や参加促進



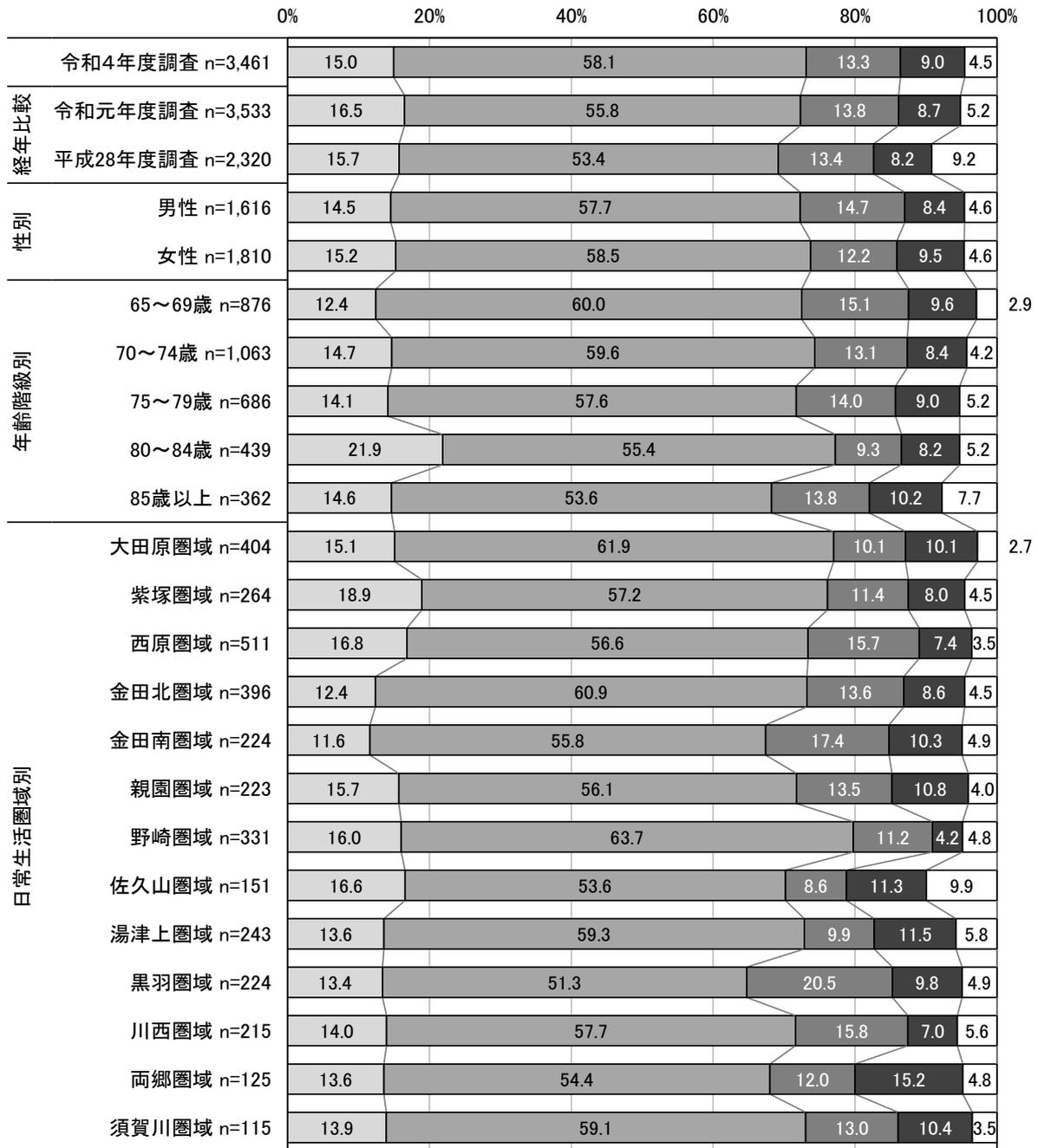
成年後見・虐待防止等の権利擁護のとりくみ



(3) 介護保険料について、あなたのお考えに近いものはどれですか（回答は1つ）

介護保険料について、あなたの考えに近いものはどれかについては、「ほどほどの保険料で、ある程度の介護サービスが受けられればよい」が58.1%で最も高く、次いで「保険料が多少高くても介護サービスが充実している方がよい」が15.0%、「介護サービスが多少抑えられても、保険料が安い方がよい」が13.3%となっています。

令和元年度調査と比較して、「保険料が多少高くても介護サービスが充実している方がよい」が16.5%から15.0%へ1.5ポイント減少しています。



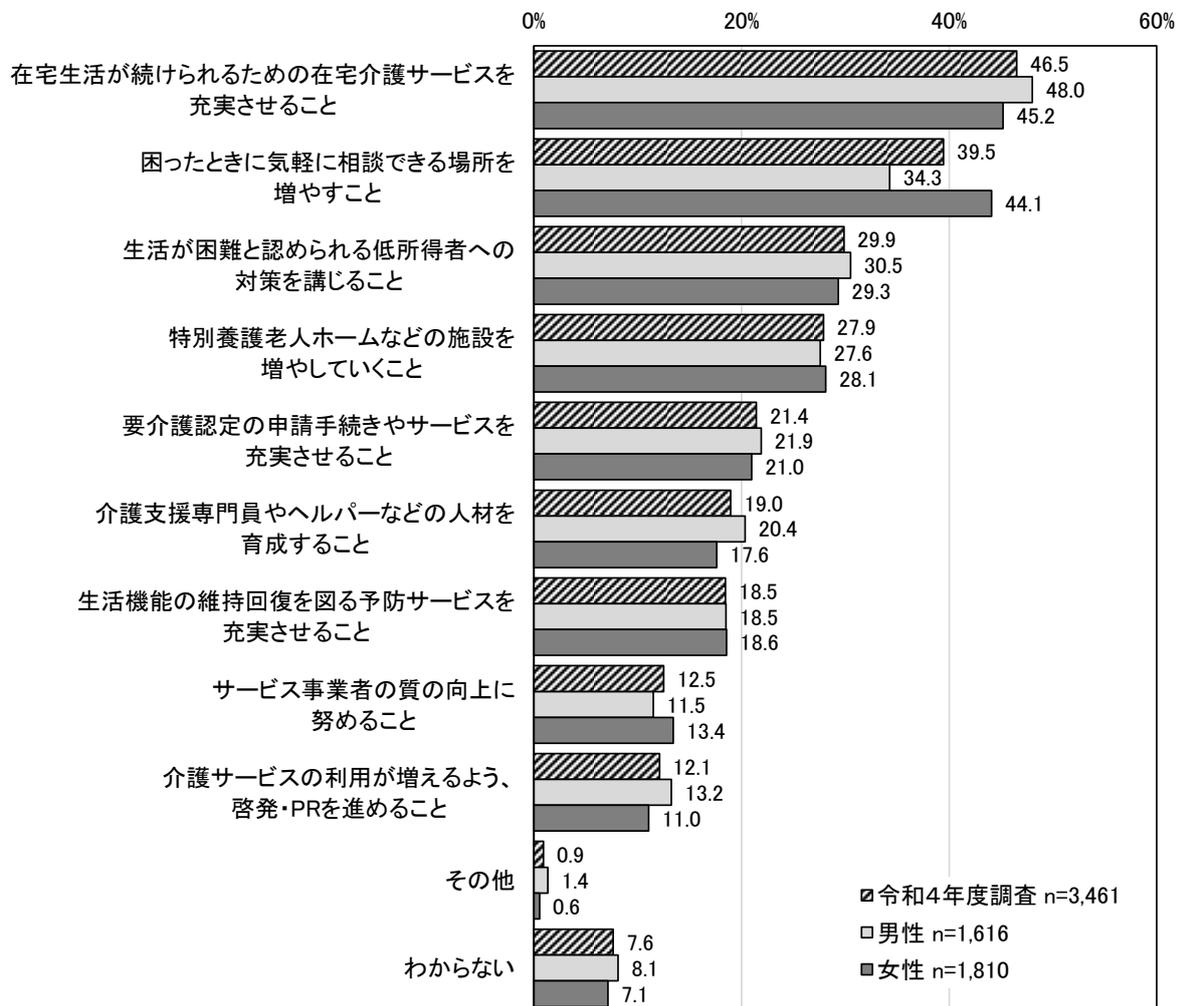
- 保険料が多少高くても介護サービスが充実している方がよい
- ほどほどの保険料で、ある程度の介護サービスが受けられればよい
- 介護サービスが多少抑えられても、保険料が安い方がよい
- わからない
- 無回答

**(4) 介護保険制度をよくするため、あなたは次のうちどれに力を入れるべきだとお考えですか
(回答は3つまで)**

介護保険制度をよくするため、次のうちどれに力を入れるべきかについては、「在宅生活が続けられるための在宅介護サービスを充実させること」が46.5%で最も高く、次いで「困ったときに気軽に相談できる場所を増やすこと」が39.5%、「生活が困難と認められる低所得者への対策を講じること」が29.9%となっています。

性別でみると、全体結果と同じく、男性・女性ともに「在宅生活が続けられるための在宅介護サービスを充実させること」「困ったときに気軽に相談できる場所を増やすこと」「生活が困難と認められる低所得者への対策を講じること」の順で割合が高くなっています。

【性別】



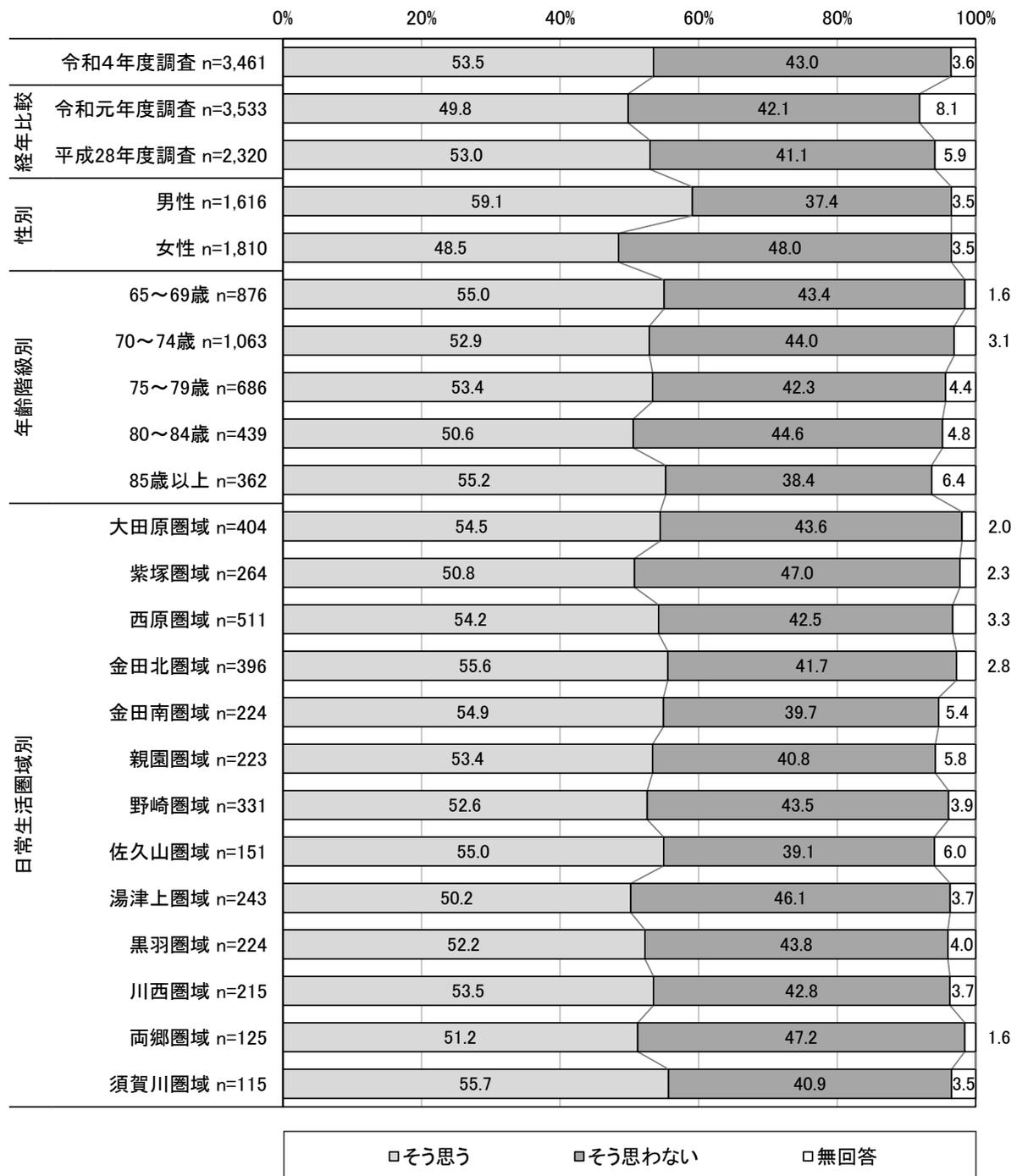
問 10 在宅医療について

(1) あなたが病気やけがで長期の療養が必要になり、通院が困難になった場合、自宅で療養したいと思いますか（回答は1つ）

病気やけがで長期の療養が必要になり、通院が困難になった場合、自宅で療養したいかについては、「そう思う」が53.5%、「そう思わない」が43.0%で、「そう思う」が10.5ポイント上回っています。

性別でみると、「そう思う」は、女性に比べ男性のほうが10.6ポイント上回っています。

令和元年度調査と比較して、「そう思う」が49.8%から53.5%へ3.7ポイント増加しています。



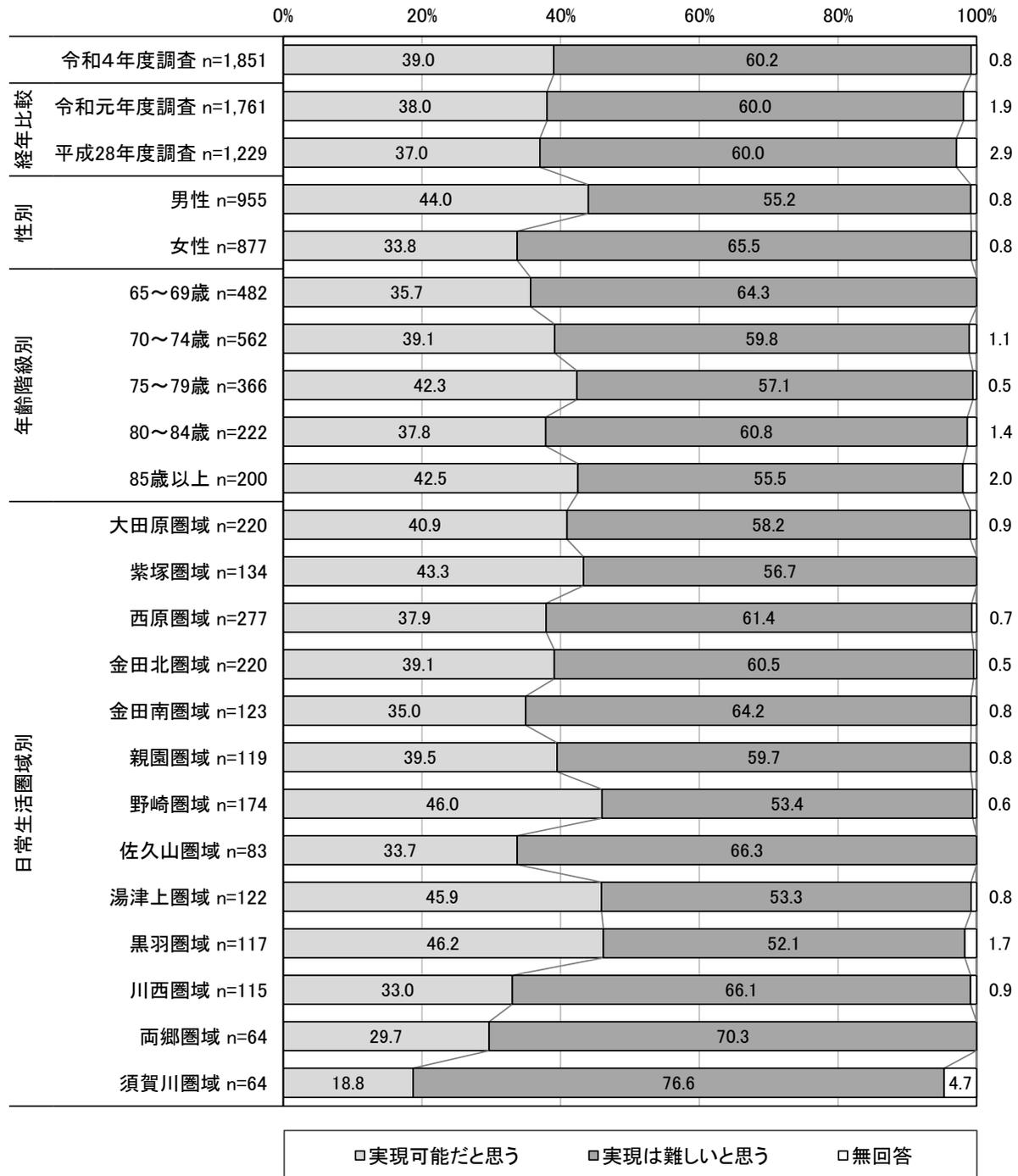
【(1) において「そう思う」の方のみ】

①自宅での療養は可能だと思いますか (回答は1つ)

自宅での療養は可能だと思うかについては、「実現可能だと思う」が39.0%、「実現は難しいと思う」が60.2%で、「実現は難しいと思う」が21.2ポイント上回っています。

性別でみると、「実現は難しいと思う」は男性に比べ女性のほうが10.3ポイント上回っています。

令和元年度調査と比較して、「実現は難しいと思う」が60.0%から60.2%へ0.2ポイント増加しています。



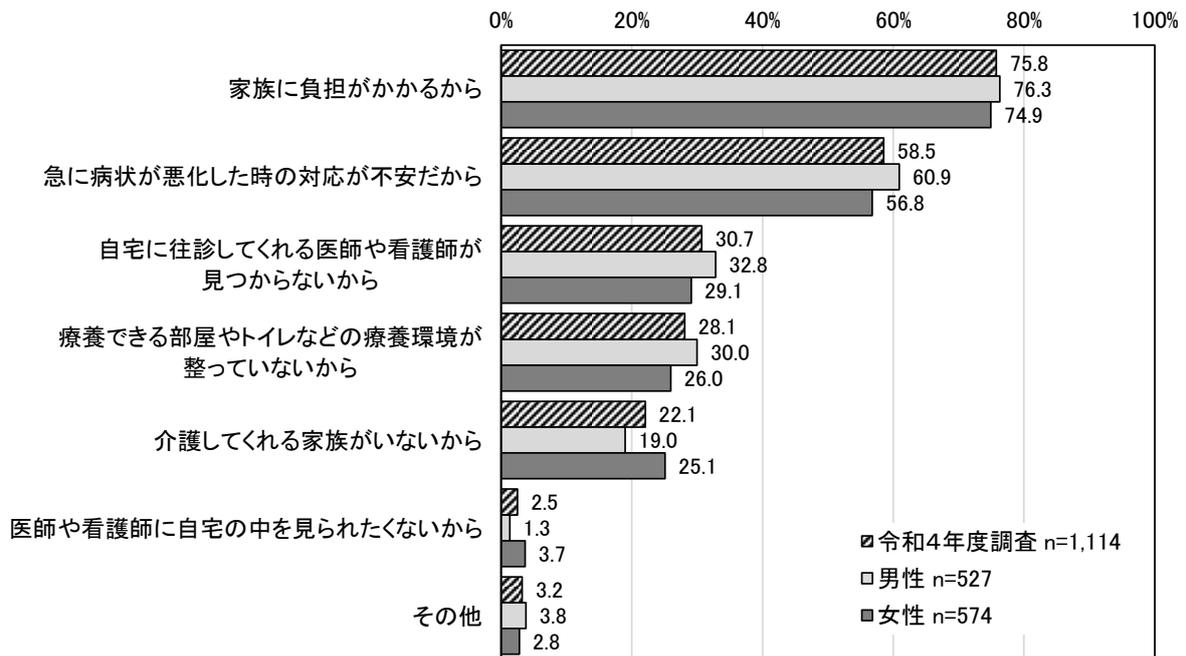
【①において「実現は難しいと思う」の方のみ】

②自宅での療養が難しいと思う理由は何ですか（回答は3つまで）

自宅での療養が難しいと思う理由は何かについては、「家族に負担がかかるから」が75.8%で最も高く、次いで「急に病状が悪化した時の対応が不安だから」が58.5%、「自宅に往診してくれる医師や看護師が見つからないから」が30.7%となっています。

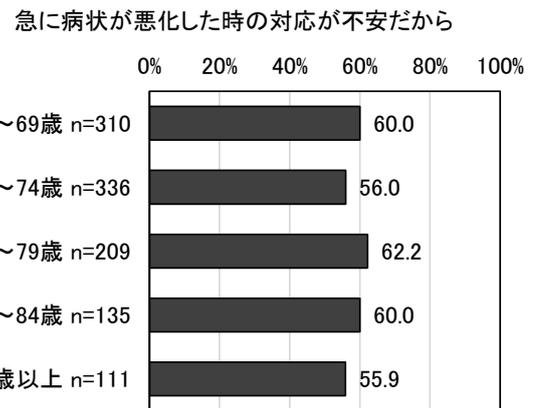
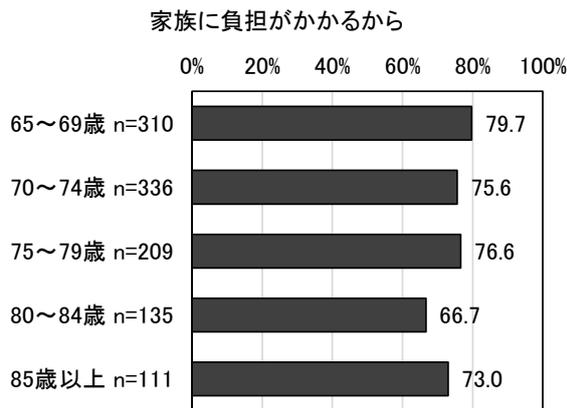
性別でみると、「介護してくれる家族がないから」は男性に比べ女性のほうが6.1ポイント上回っています。

【性別】



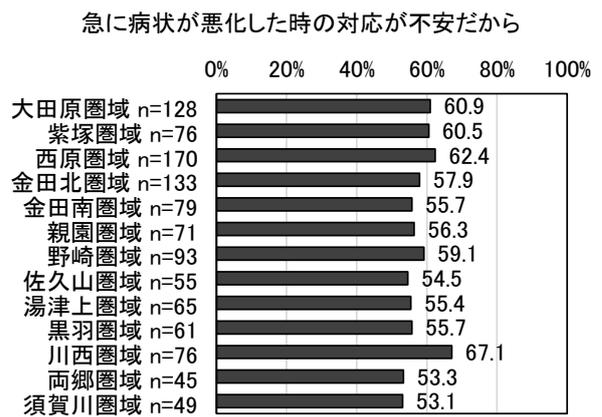
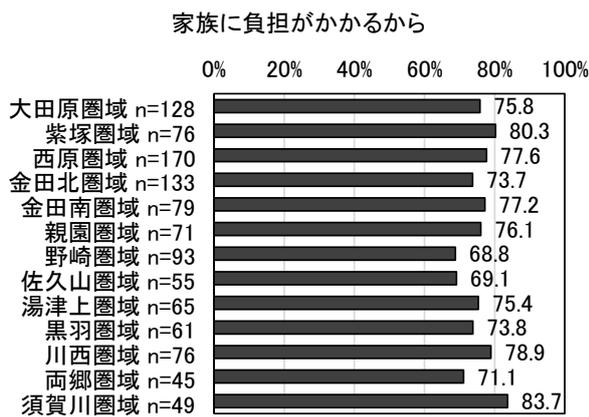
【年齢階級別】※選択肢から2つを抜粋

「家族に負担がかかるから」は、65～69歳で最も高くなっています。



【日常生活圏域別】※選択肢から2つを抜粋

「家族に負担がかかるから」は、紫塚圏域、須賀川圏域で高くなっています。また、「急に病状が悪化した時の対応が不安だから」は、川西圏域で高くなっています。



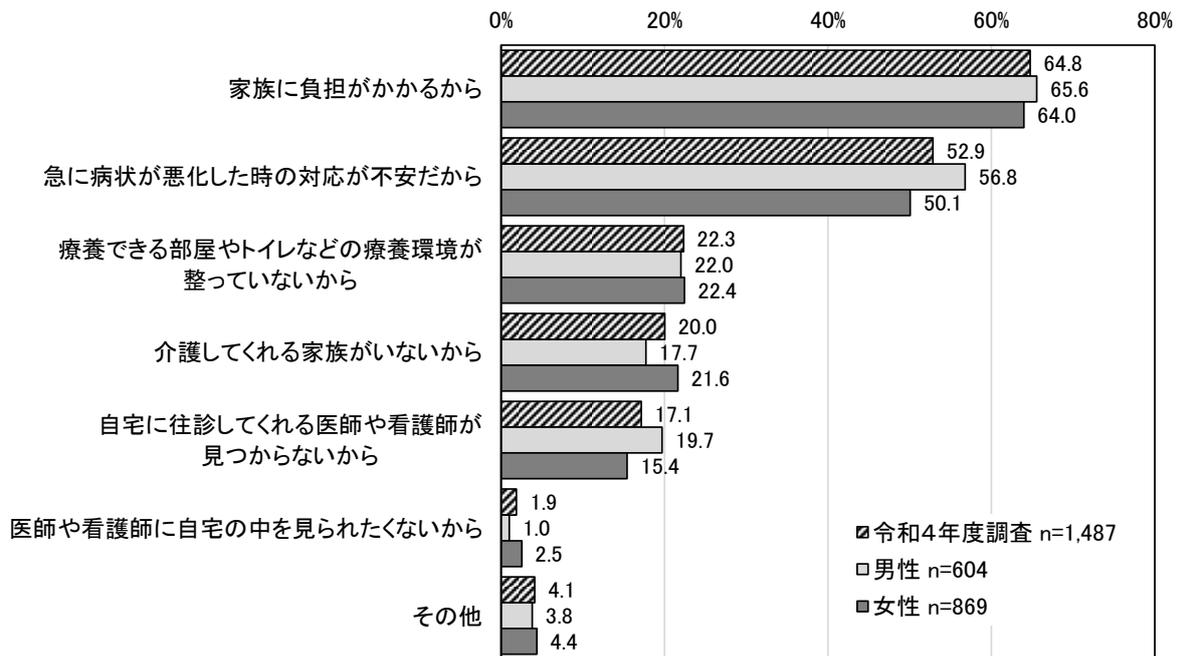
【(1) において「そう思わない」の方のみ】

③自宅での療養を希望しない理由は何ですか（回答は3つまで）

自宅での療養を希望しない理由については、「家族に負担がかかるから」が64.8%で最も高く、次いで「急に病状が悪化した時の対応が不安だから」が52.9%、「療養できる部屋やトイレなどの療養環境が整っていないから」が22.3%となっています。

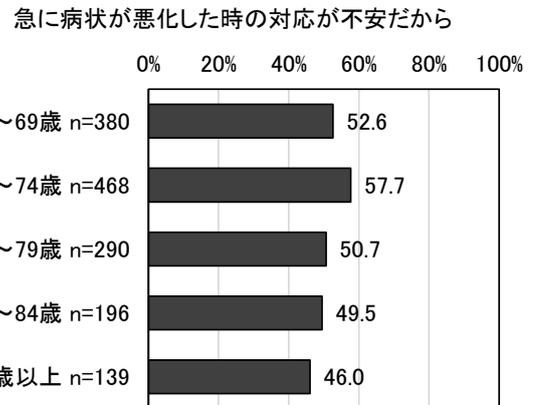
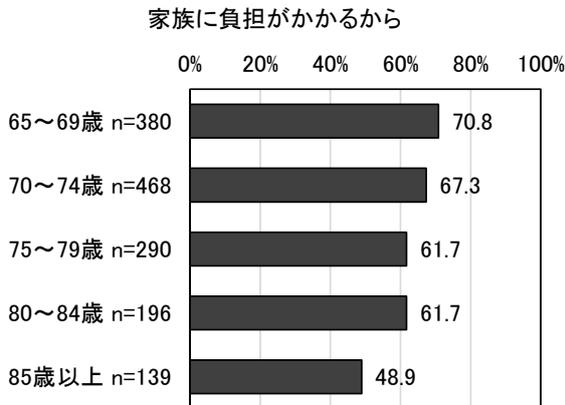
性別でみると、「介護してくれる家族がないから」は男性に比べ女性のほうが3.9ポイント上回っています。

【性別】



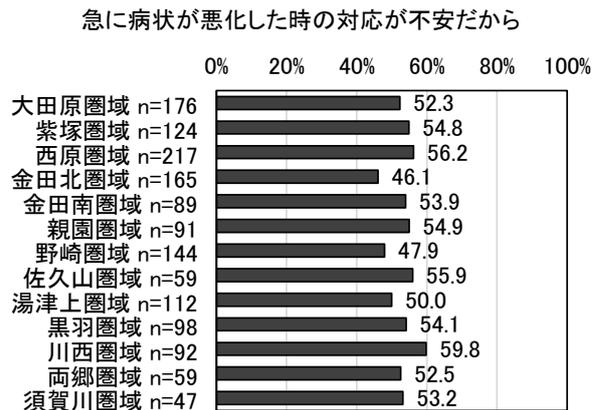
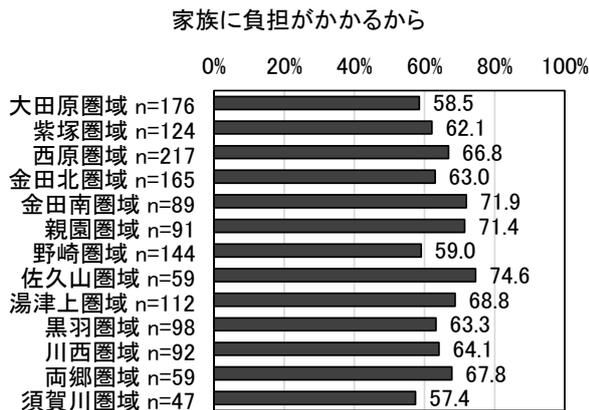
【年齢階級別】※選択肢から2つを抜粋

「家族に負担がかかるから」は、65～69歳で最も高くなっています。また、年齢が上がるにつれて「家族に負担がかかるから」は減少する傾向がみられます。



【日常生活圏域別】※選択肢から2つを抜粋

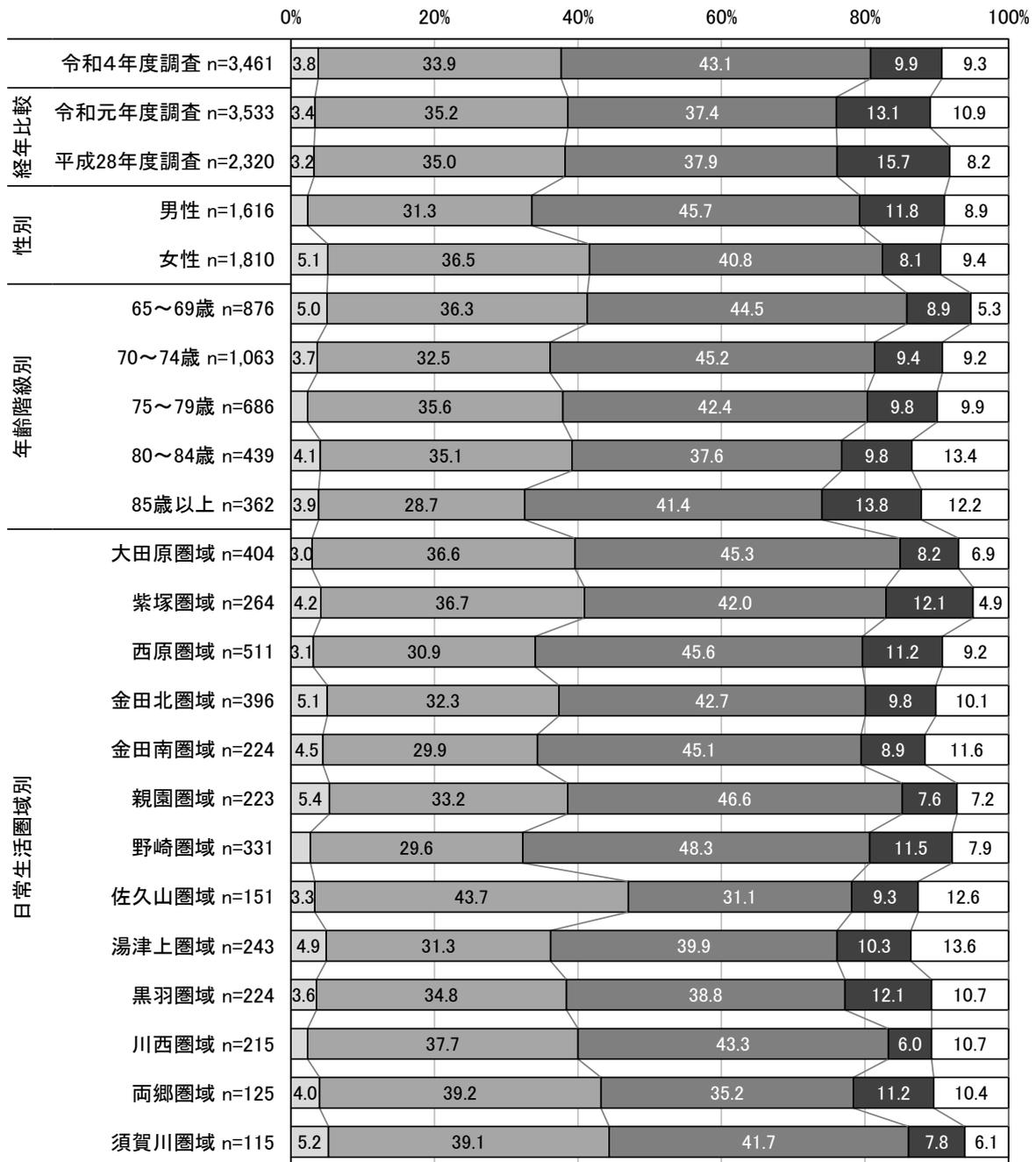
「家族に負担がかかるから」は、佐久山圏域で高くなっています。また、「急に病状が悪化した時の対応が不安だから」は、川西圏域で高くなっています。



(2) 在宅医療を支える仕組みのひとつに「訪問診療(※)」がありますが、あなたはこのサービスを知っていますか(回答は1つ)

在宅医療を支える仕組みのひとつに「訪問診療」がありますが、このサービスを知っているかについては、「内容は知らないが、聞いたことはある」が43.1%で最も高く、次いで「内容は知っているが、利用したことはない」が33.9%、「聞いたこともない」が9.9%となっています。

令和元年度調査と比較して、「聞いたこともない」が13.1%から9.9%へ3.2ポイント減少しています。



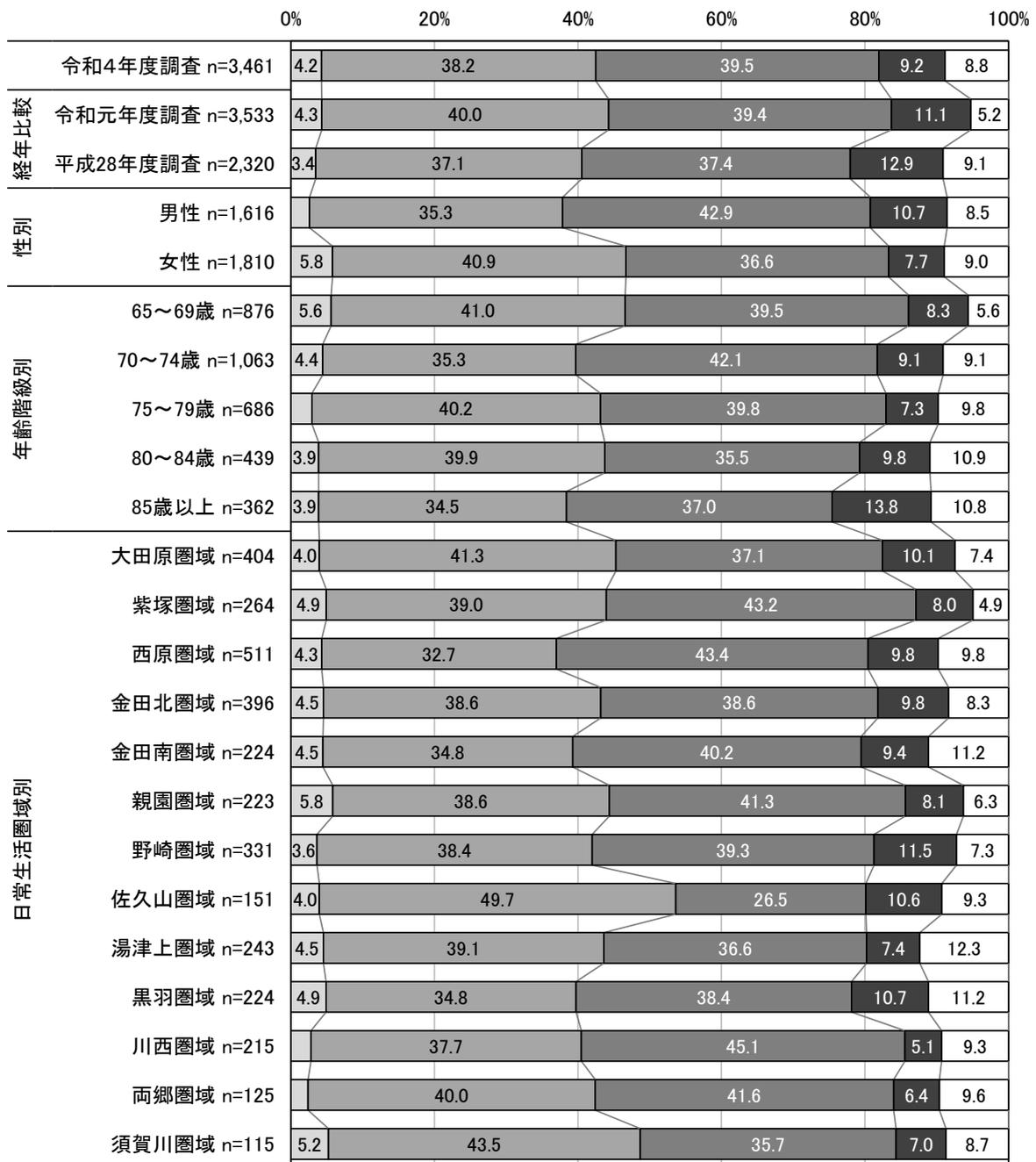
- 利用したことがある
- 内容は知っているが、利用したことはない
- 内容は知らないが、聞いたことはある
- 聞いたこともない
- 無回答

※「訪問診療」とは、通院が困難な患者の自宅等を医師が定期的に訪問して行う医療サービスのことです。

(3) 在宅医療を支える仕組みのひとつに「訪問看護(※)」がありますが、あなたはこのサービスを知っていますか(回答は1つ)

在宅医療を支える仕組みのひとつに「訪問看護」がありますが、このサービスを知っているかについては、「内容は知らないが、聞いたことはある」が39.5%で最も高く、次いで「内容は知っているが、利用したことはない」が38.2%、「聞いたこともない」が9.2%となっています。

令和元年度調査と比較して、「聞いたこともない」が11.1%から9.2%へ1.9ポイント減少しています。



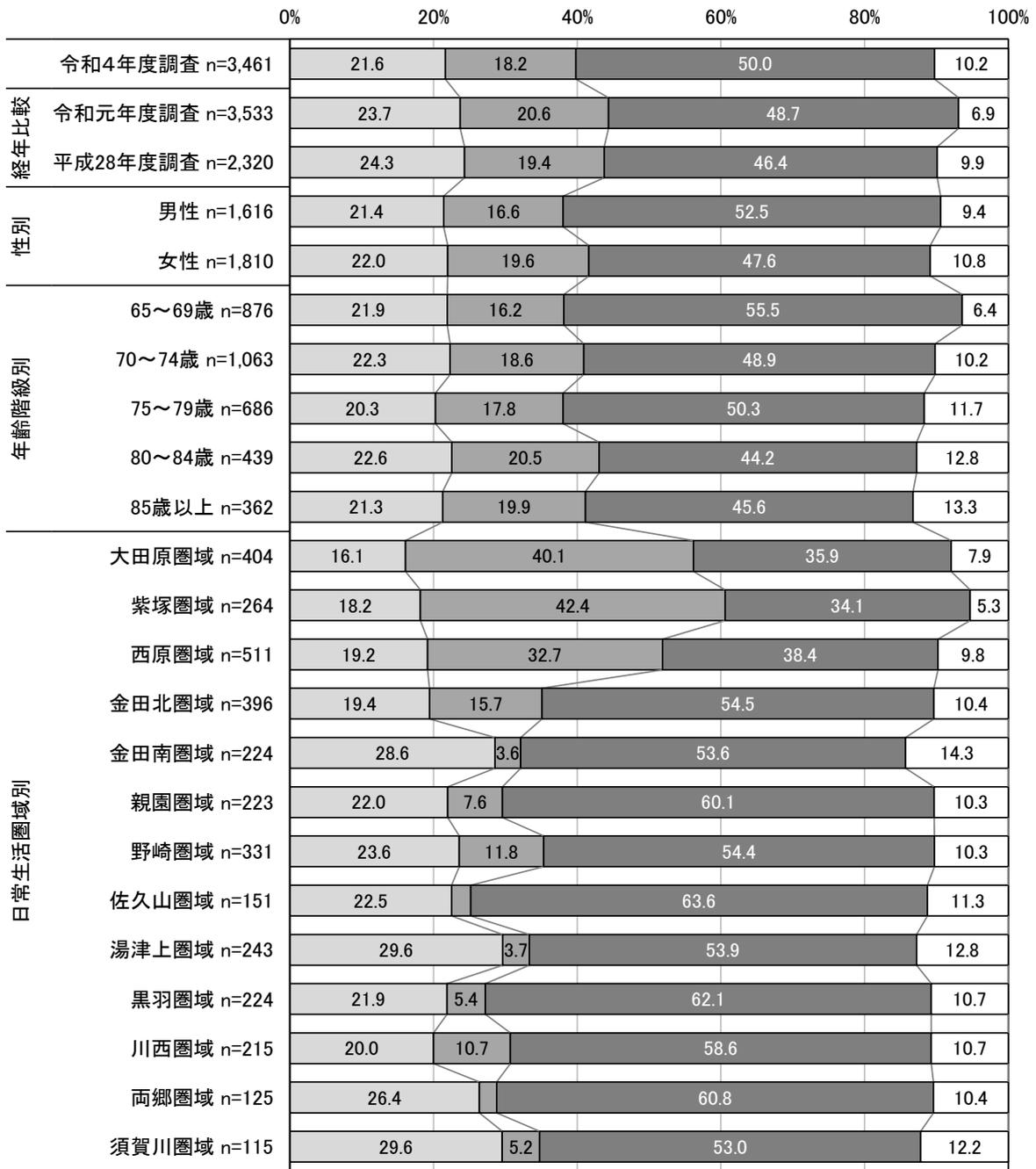
- 利用したことがある
- 内容は知っているが、利用したことはない
- 内容は知らないが、聞いたことはある
- 聞いたこともない
- 無回答

※「訪問看護」とは、看護師が医師の指示を受け、患者の自宅等を訪問して行う看護サービスのことです。

(4) あなたが病気やけがで長期の療養が必要になり、通院が困難になった場合、病院や介護事業所が近くにある地域（市内中心部など）に住み替えたいと思いますか（回答は1つ）

病気やけがで長期の療養が必要になり、通院が困難になった場合、病院や介護事業所が近くにある地域（市内中心部など）に住み替えたいと思うかについては、「そう思わない」が50.0%で最も高く、次いで「そう思う」が21.6%、「すでにそうした地域に住んでいる」が18.2%となっています。

令和元年度調査と比較して、「そう思わない」が48.7%から50.0%へ1.3ポイント増加しています。



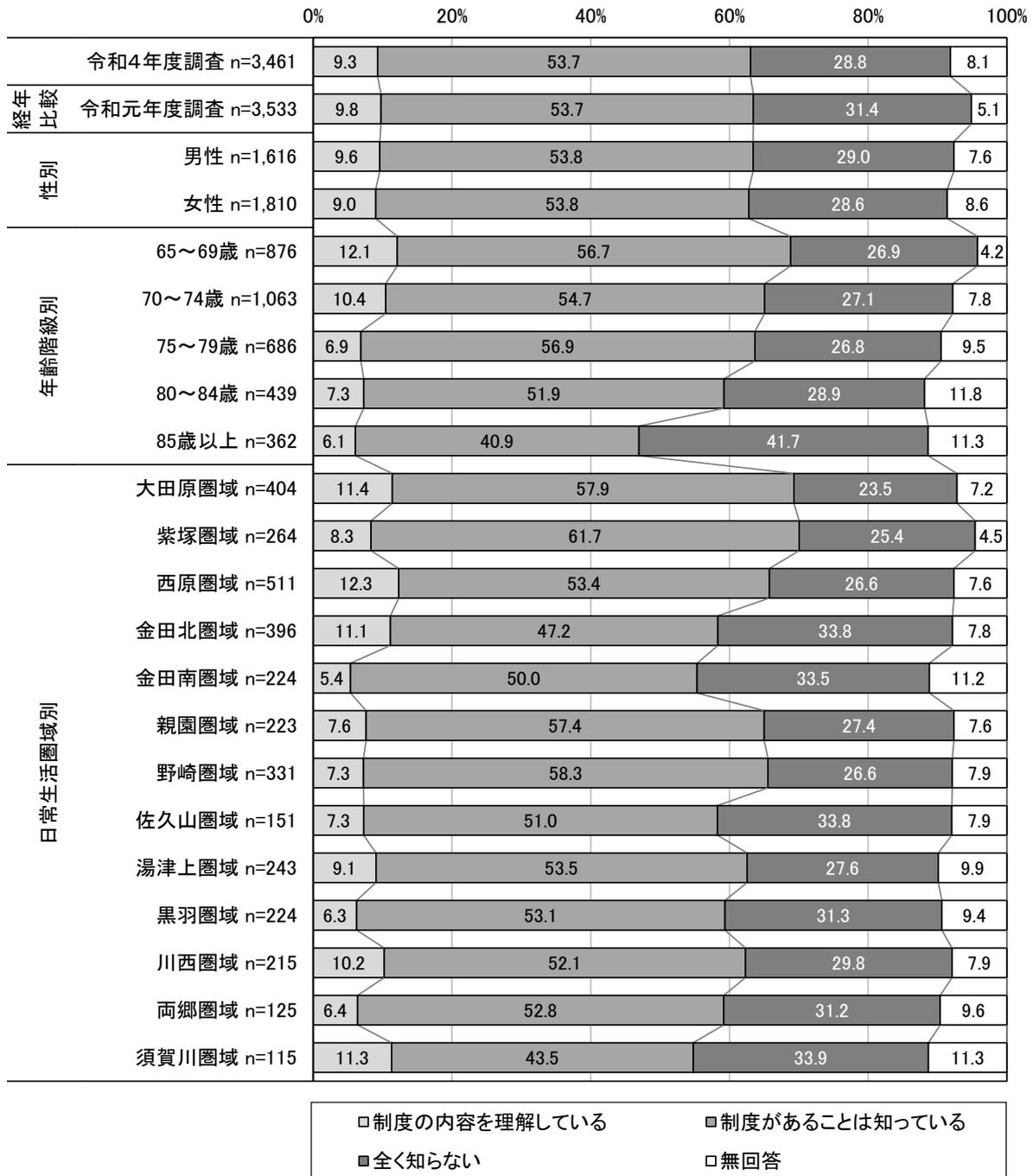
□そう思う □すでにそうした地域に住んでいる ■そう思わない □無回答

問 11 成年後見制度について

(1) 成年後見制度(※)を知っていますか(回答は1つ)

成年後見制度を知っているかについては、「制度があることは知っている」が53.7%で最も高く、次いで「全く知らない」が28.8%、「制度の内容を理解している」が9.3%となっています。

令和元年度調査と比較して、「全く知らない」が31.4%から28.8%へ2.6ポイント減少しています。



※令和元年度調査からの設問になります。

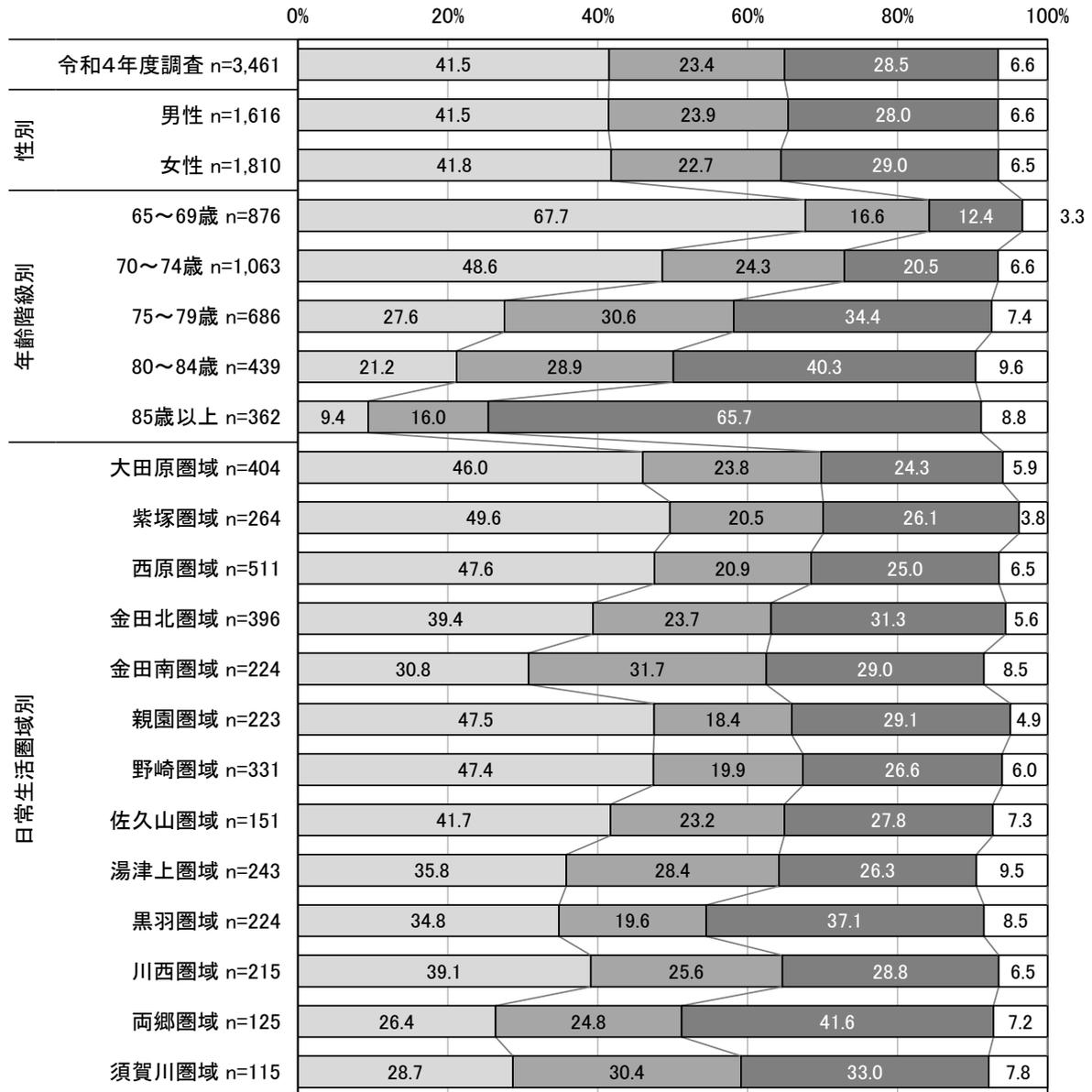
※成年後見制度とは、20歳以上の方が知的障害や精神障害、認知症などによって判断能力が不十分な場合、契約などで不利益を被ってしまうことを防ぐために保護・支援する制度です。

問 12 ICT機器の利用状況について

(1) あなたはスマートフォン（スマホ）を持っていますか（回答は1つ）

スマートフォン（スマホ）を持っているかについては、「持っている、電話以外の機能（インターネット、メール等）も利用している」が41.5%で最も高く、次いで「持っていない」が28.5%、「持っているが、電話機能しか使わない」が23.4%となっています。

年齢階級別でみると、「持っていない」は、85歳以上が65.7%で最も高く、次いで80～84歳が40.3%、75～79歳が34.4%となっています。

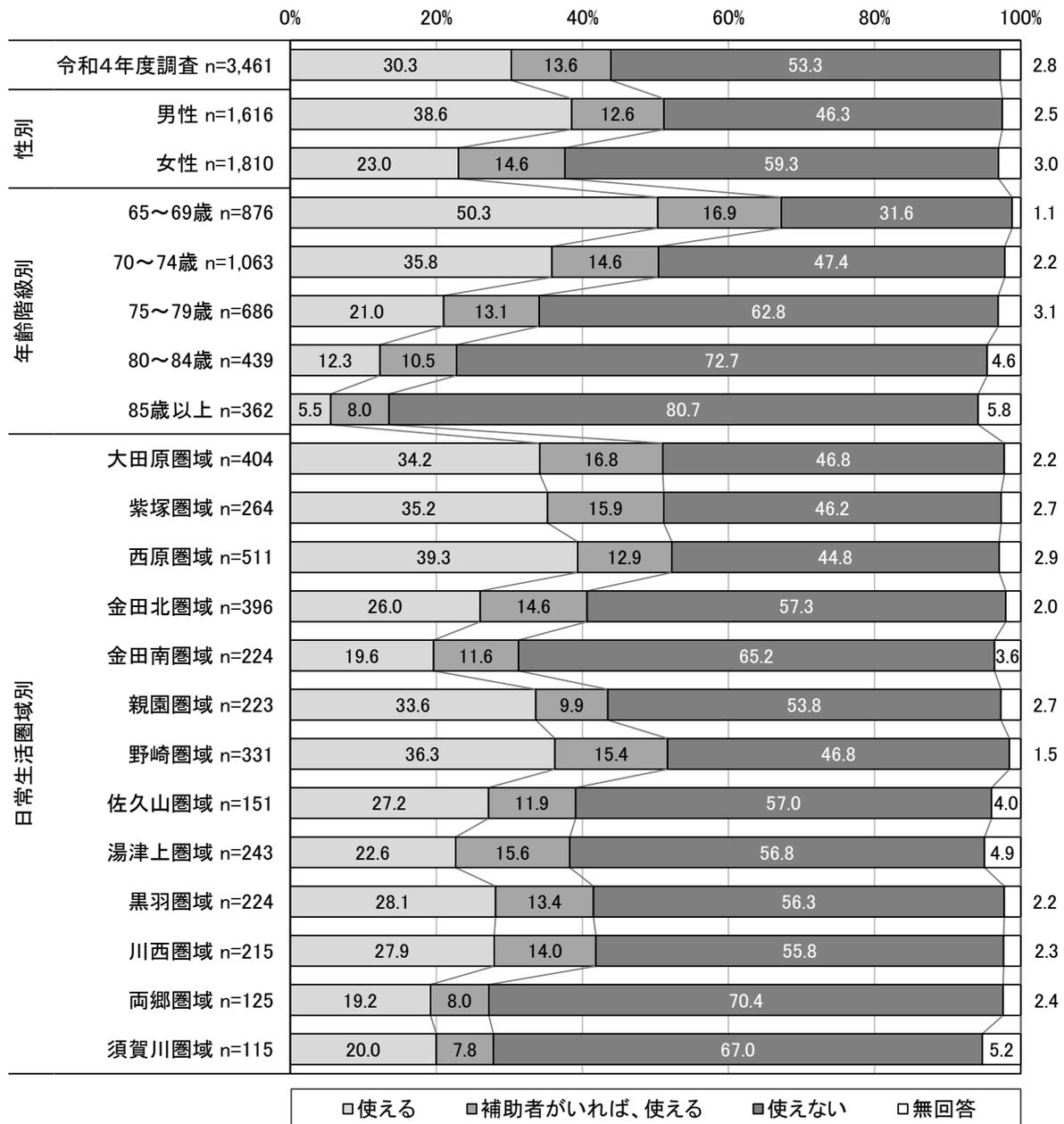


- 持っている、電話以外の機能（インターネット、メール等）も利用している
- 持っているが、電話機能しか使わない
- 持っていない
- 無回答

(2) あなたは、インターネットを使えますか(回答は1つ)

インターネットを使えるかについては、「使えない」が53.3%で最も高く、次いで「使える」が30.3%、「補助者がいれば、使える」が13.6%となっています。

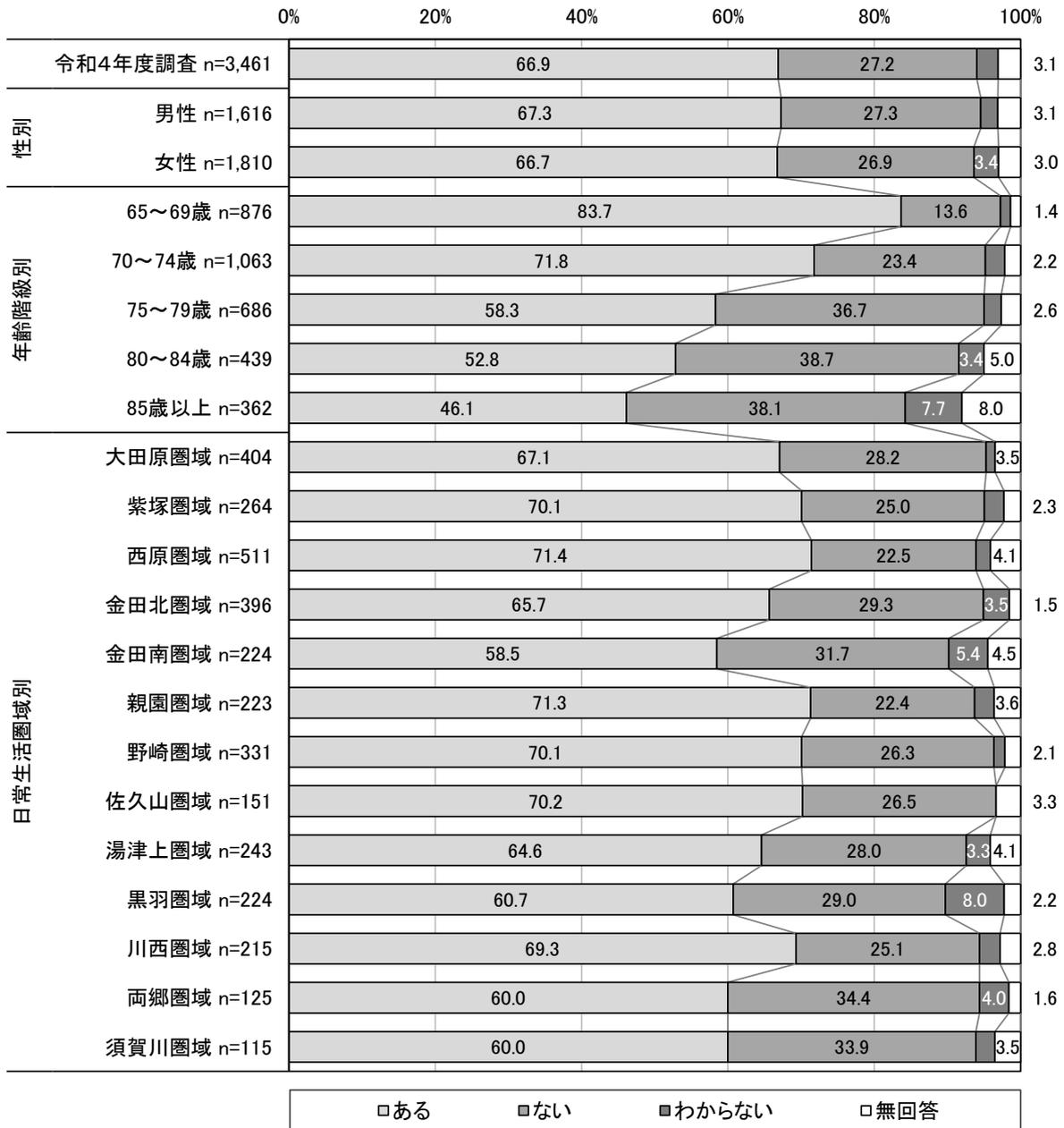
年齢階級別でみると、「使えない」は、85歳以上が80.7%で最も高く、次いで80~84歳が72.7%、75~79歳が62.8%となっています。



**(3) ご自宅にインターネットに接続できる環境（パソコン、スマートフォン（スマホ）、タブレット等）
がありますか（回答は1つ）**

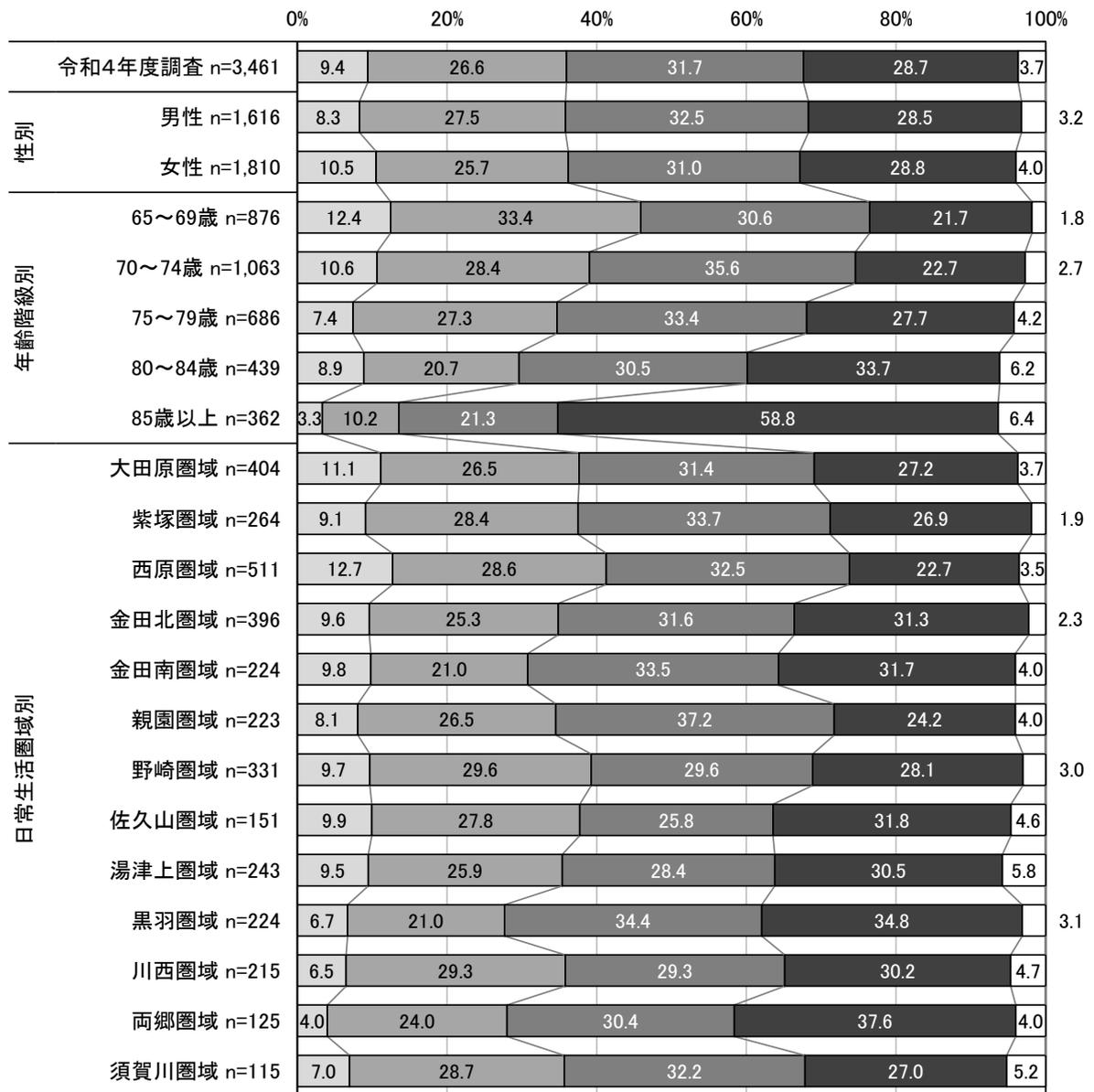
自宅にインターネットに接続できる環境（パソコン、スマートフォン（スマホ）、タブレット等）があるかについては、「ある」が66.9%で最も高く、次いで「ない」が27.2%、「わからない」が2.9%となっています。

年齢階級別でみると、「ある」は、65～69歳が83.7%で最も高く、次いで70～74歳が71.8%、75～79歳が58.3%となっています。



(4) ICT機器（インターネット、スマートフォン（スマホ）等）を利用するための教室等が開催された場合、参加したいと思いますか（回答は1つ）

ICT機器（インターネット、スマートフォン（スマホ）等）を利用するための教室等が開催された場合、参加したいと思うかについては、「どちらかと言えば参加したいとは思わない」が31.7%で最も高く、次いで「まったく参加したいとは思わない」が28.7%、「どちらかと言えば参加したい」が26.6%となっています。



- ぜひ参加したい
- どちらかと言えば参加したい
- どちらかと言えば参加したいとは思わない
- まったく参加したいとは思わない
- 無回答

IV 生活機能判定結果

IV 生活機能判定結果

1. 介護予防のための生活機能判定結果

今回実施した介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は、介護予防のための生活機能を評価する項目が設けられており、調査項目の回答結果をもとに、各機能を評価することができます。

○各機能の評価項目

項目	判定に用いた設問番号	評価方法
①生活機能	問2-(1)～(7) 問3-(1)～(4)・(7) 問4-(1)～(5)・(8)・(13)・(14) (計20問)	10問以上該当する選択肢が回答された場合は「該当」
②運動機能	問2-(1)～(5) (計5問)	3問以上該当する選択肢(後述参照)が回答された場合は「該当」
③栄養状態	問3-(1)・(7) (計2問)	全てで該当する選択肢が回答された場合は「該当」
④口腔機能	問3-(2)～(4) (計3問)	2問以上該当する選択肢が回答された場合は「該当」
⑤閉じこもり	問2-(6) (1問)	該当する選択肢が回答された場合は「該当」
⑥認知機能	問4-(1) (1問)	該当する選択肢が回答された場合は「該当」
⑦うつ	問7-(3)・(4) (計2問)	いずれかで該当する選択肢が回答された場合は「該当」

○介護予防のための生活機能判定に用いた設問と該当する選択肢

設問番号	判定に用いた設問	該当する選択肢
問2-(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「3. できない」
問2-(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「3. できない」
問2-(3)	15分位続けて歩いていますか	「3. できない」
問2-(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 「2. 1度ある」
問2-(5)	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」 「2. やや不安である」
問2-(6)	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」 「2. 週1回」
問2-(7)	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	「1. とても減っている」 「2. 減っている」
問3-(1)	身長・体重	BMI 18.5未満
問3-(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
問3-(3)	お茶や汁物等でむせることがありますか	「1. はい」
問3-(4)	口の渇きが気になりますか	「1. はい」
問3-(7)	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」
問4-(1)	物忘れが多いと感じますか	「1. はい」
問4-(2)	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	「2. いいえ」
問4-(3)	今日が何月何日かわからない時がありますか	「1. はい」
問4-(4)	バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	「2. できるけどしていない」 「3. できない」
問4-(5)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	「2. できるけどしていない」 「3. できない」
問4-(8)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	「2. できるけどしていない」 「3. できない」
問4-(13)	友人の家を訪ねていますか	「2. いいえ」
問4-(14)	家族や友人の相談にのっていますか	「2. いいえ」
問7-(3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「1. はい」
問7-(4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	「1. はい」

①生活機能

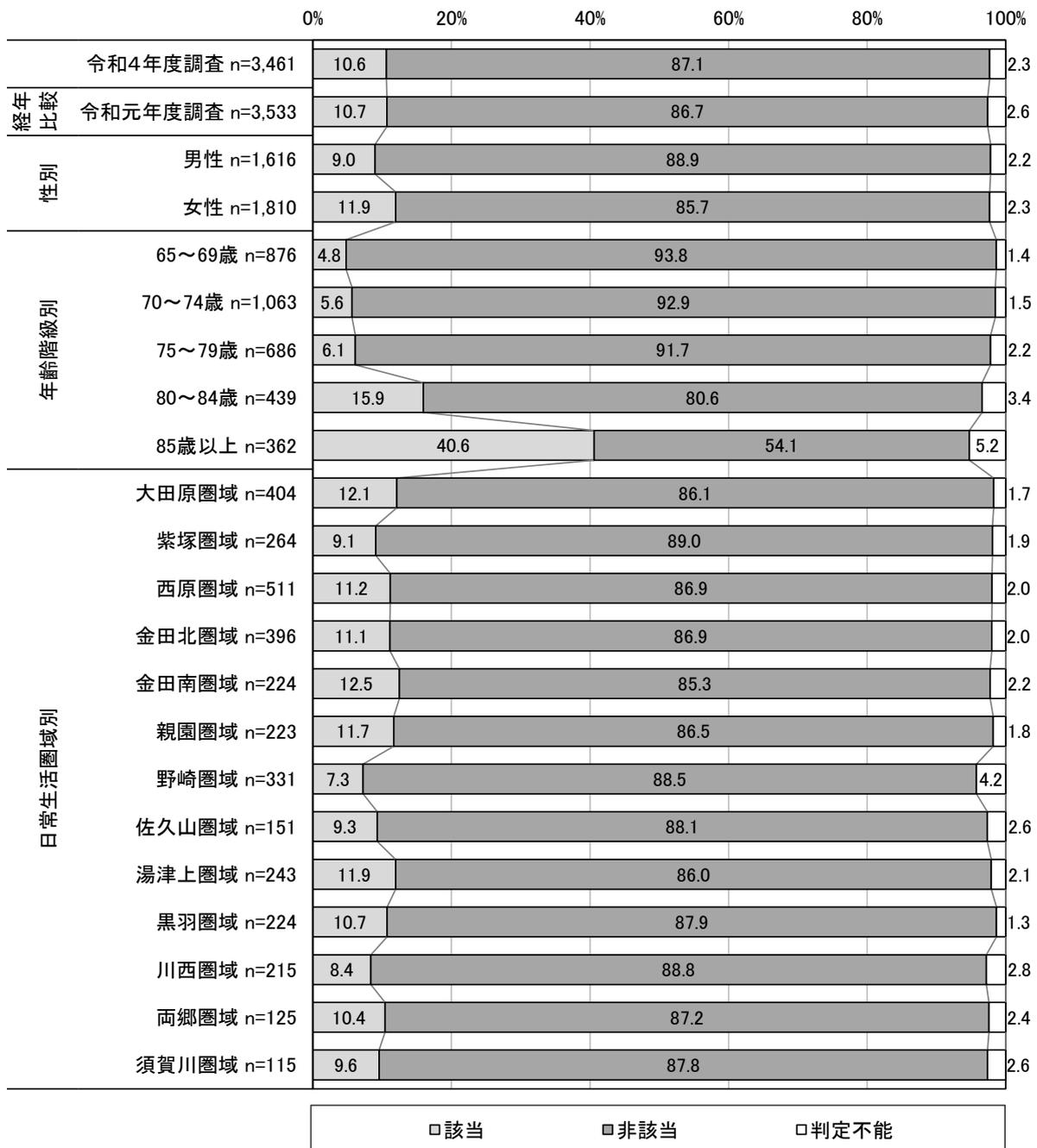
生活機能についての結果をみると、令和4年度調査では10.6%が該当者となっています。

性別では、該当者は、男性が9.0%、女性が11.9%で、男性に比べ女性のほうが2.9ポイント上回っています。

年齢階級別では、年齢が上がるにつれて該当者の割合が増加する傾向があり、85歳以上では該当者が4割を超えています。

日常生活圏域別では、該当者の割合は、金田南圏域が12.5%で最も高く、次いで大田原圏域が12.1%、湯津上圏域が11.9%となっています。

令和元年度調査と比較して、該当者は10.7%から10.6%へ0.1ポイント減少しています。



②運動機能

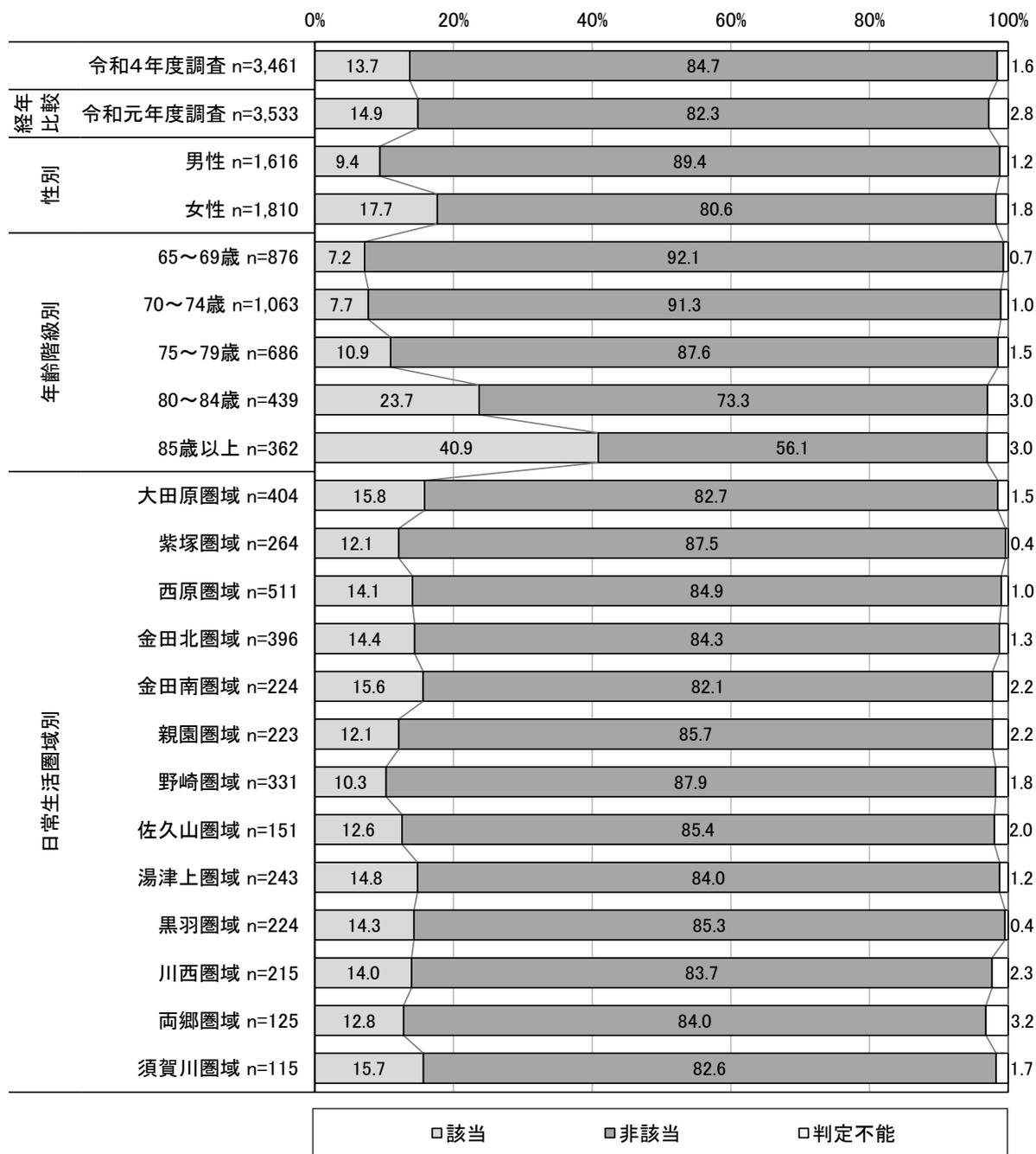
運動機能についての結果をみると、令和4年度調査では13.7%が該当者となっています。

性別では、該当者は、男性が9.4%、女性が17.7%で、男性に比べ女性のほうが8.3ポイント上回っています。

年齢階級別では、年齢が上がるにつれて該当者の割合が増加する傾向があり、85歳以上では該当者が4割を超えています。

日常生活圏域別では、該当者の割合は、大田原圏域が15.8%で最も高く、次いで須賀川圏域が15.7%、金田南圏域が15.6%となっています。

令和元年度調査と比較して、該当者は14.9%から13.7%へ1.2ポイント減少しています。



③栄養状態

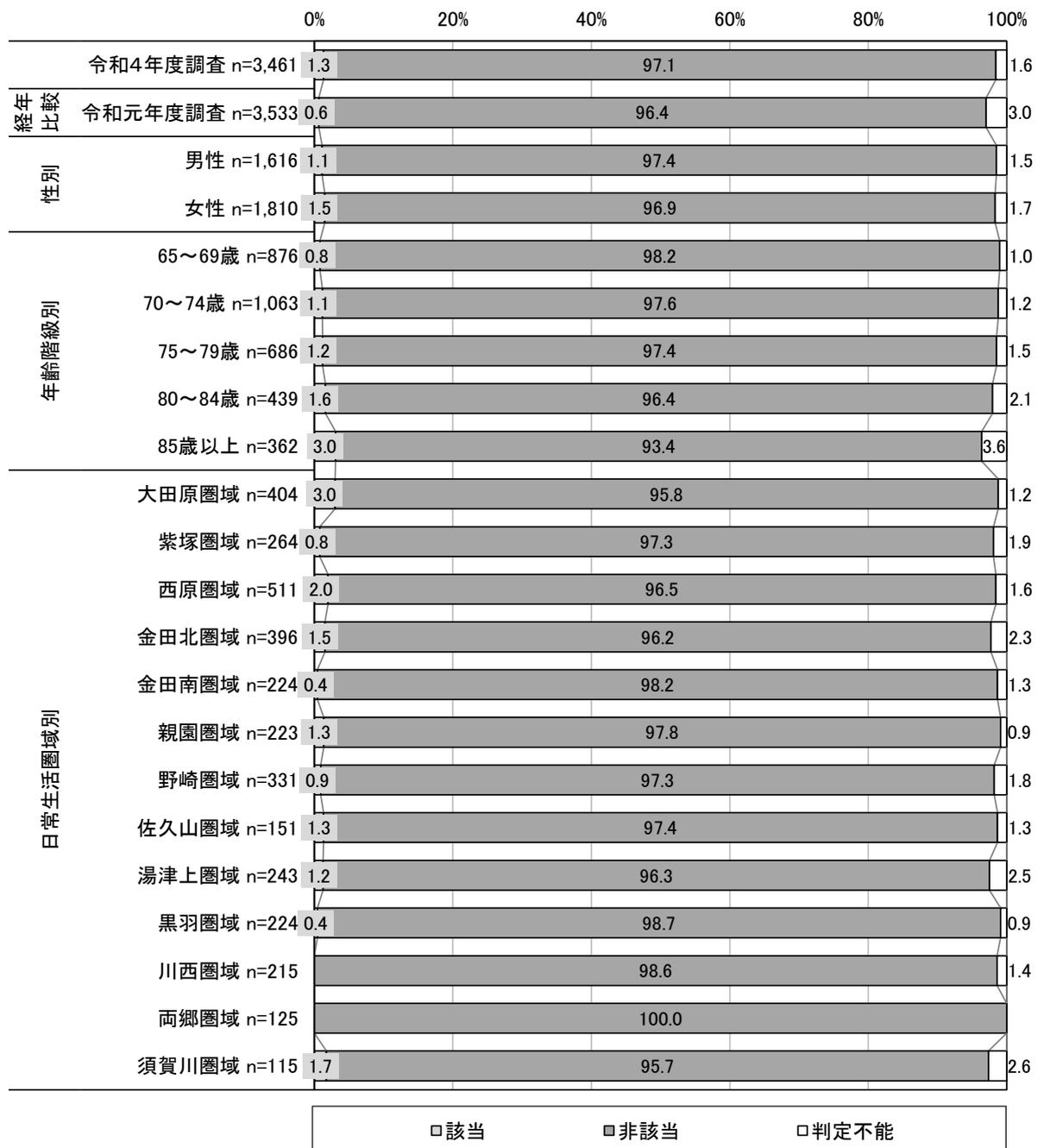
栄養状態についての結果をみると、令和4年度調査では1.3%が該当者となっています。

性別では、該当者は、男性が1.1%、女性が1.5%で、男性に比べ女性のほうが0.4ポイント上回っています。

年齢階級別では、85歳以上では該当者が3.0%と他の年齢階級に比べて高くなっています。

日常生活圏域別では、該当者の割合は、大田原圏域が3.0%で最も高く、次いで西原圏域が2.0%、須賀川圏域が1.7%となっています。

令和元年度調査と比較して、該当者は0.6%から1.3%へ0.7ポイント増加しています。



④口腔機能

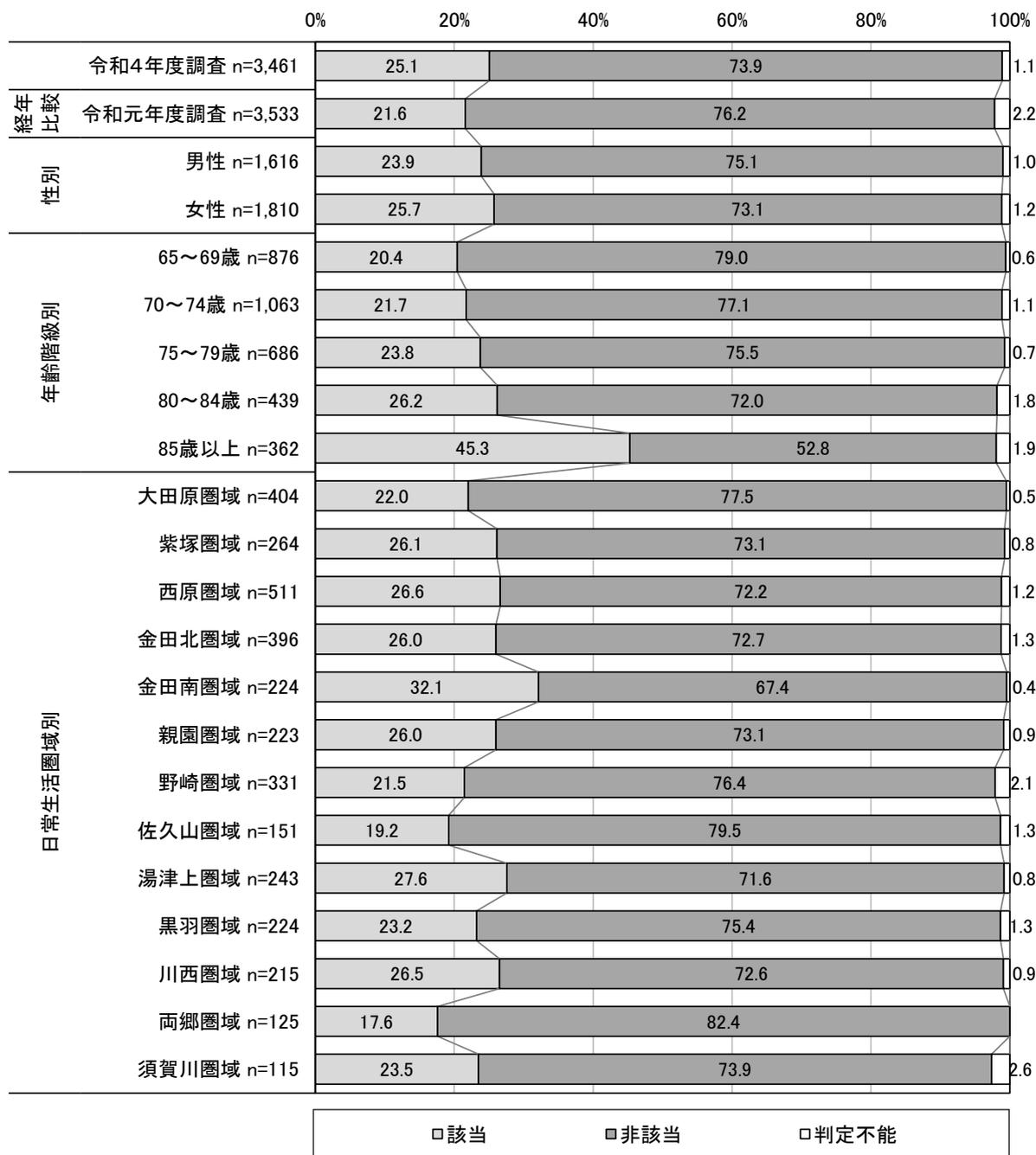
口腔機能についての結果をみると、令和4年度調査では25.1%が該当者となっています。

性別では、該当者は、男性が23.9%、女性が25.7%で、男性に比べ女性のほうが1.8ポイント上回っています。

年齢階級別では、年齢が上がるにつれて該当者の割合が増加する傾向があり、85歳以上では該当者が4割半ばを超えています。

日常生活圏域別では、該当者の割合は、金田南圏域が32.1%で最も高く、次いで湯津上圏域が27.6%、西原圏域が26.6%となっています。

令和元年度調査と比較して、該当者は21.6%から25.1%へ3.5ポイント増加しています。



⑤閉じこもり

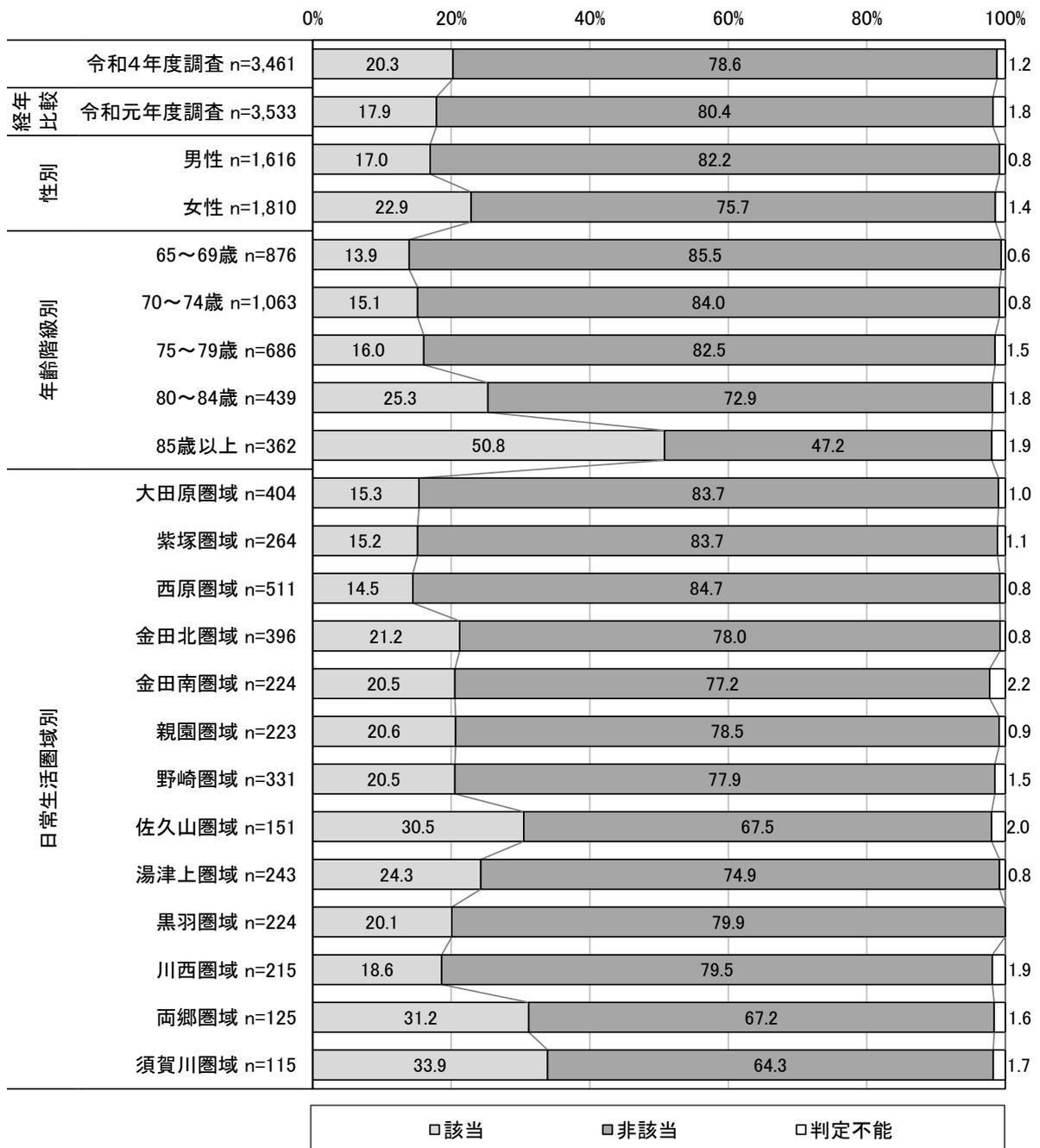
閉じこもりについての結果をみると、令和4年度調査では20.3%が該当者となっています。

性別では、該当者は、男性が17.0%、女性が22.9%で、男性に比べ女性のほうが5.9ポイント上回っています。

年齢階級別では、年齢が上がるにつれて該当者の割合が増加する傾向があり、85歳以上では該当者が5割を超えています。

日常生活圏域別では、該当者の割合は、須賀川圏域が33.9%で最も高く、次いで両郷圏域が31.2%、佐久山圏域が30.5%となっています。

令和元年度調査と比較して、該当者は17.9%から20.3%へ2.4ポイント増加しています。



◎認知機能

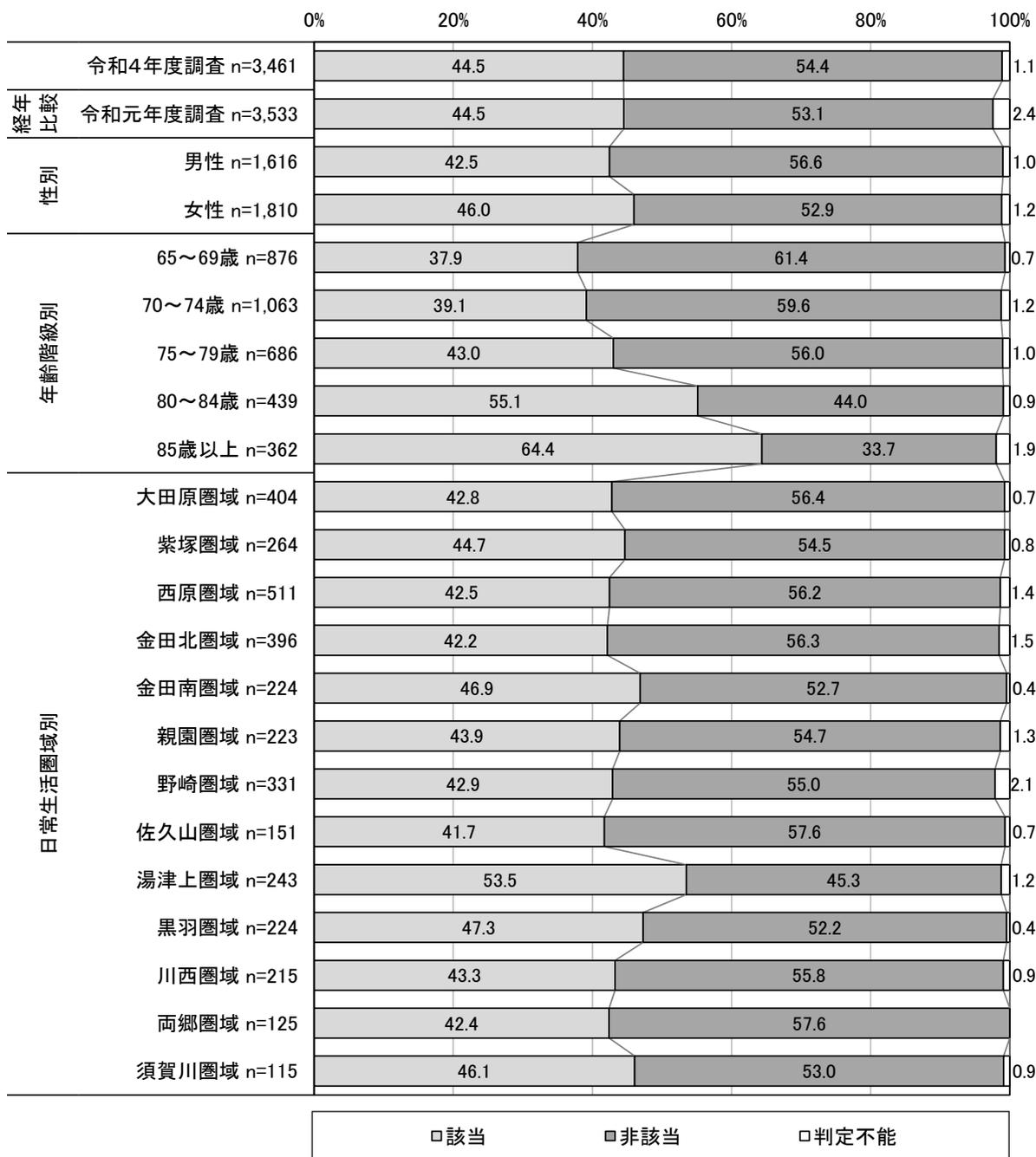
認知機能についての結果をみると、令和4年度調査では44.5%が該当者となっています。

性別では、該当者は、男性が42.5%、女性が46.0%で、男性に比べ女性のほうが3.5ポイント上回っています。

年齢階級別では、年齢が上がるにつれて該当者の割合が増加する傾向があり、85歳以上では該当者が6割を超えています。また、全ての年代で割合が高くなっています。

日常生活圏域別では、該当者の割合は、湯津上圏域で53.5%、次いで黒羽圏域が47.3%、金田南圏域が46.9%となっています。

令和元年度調査と比較して、該当者は44.5%で同じ割合となっています。



⑦うつ

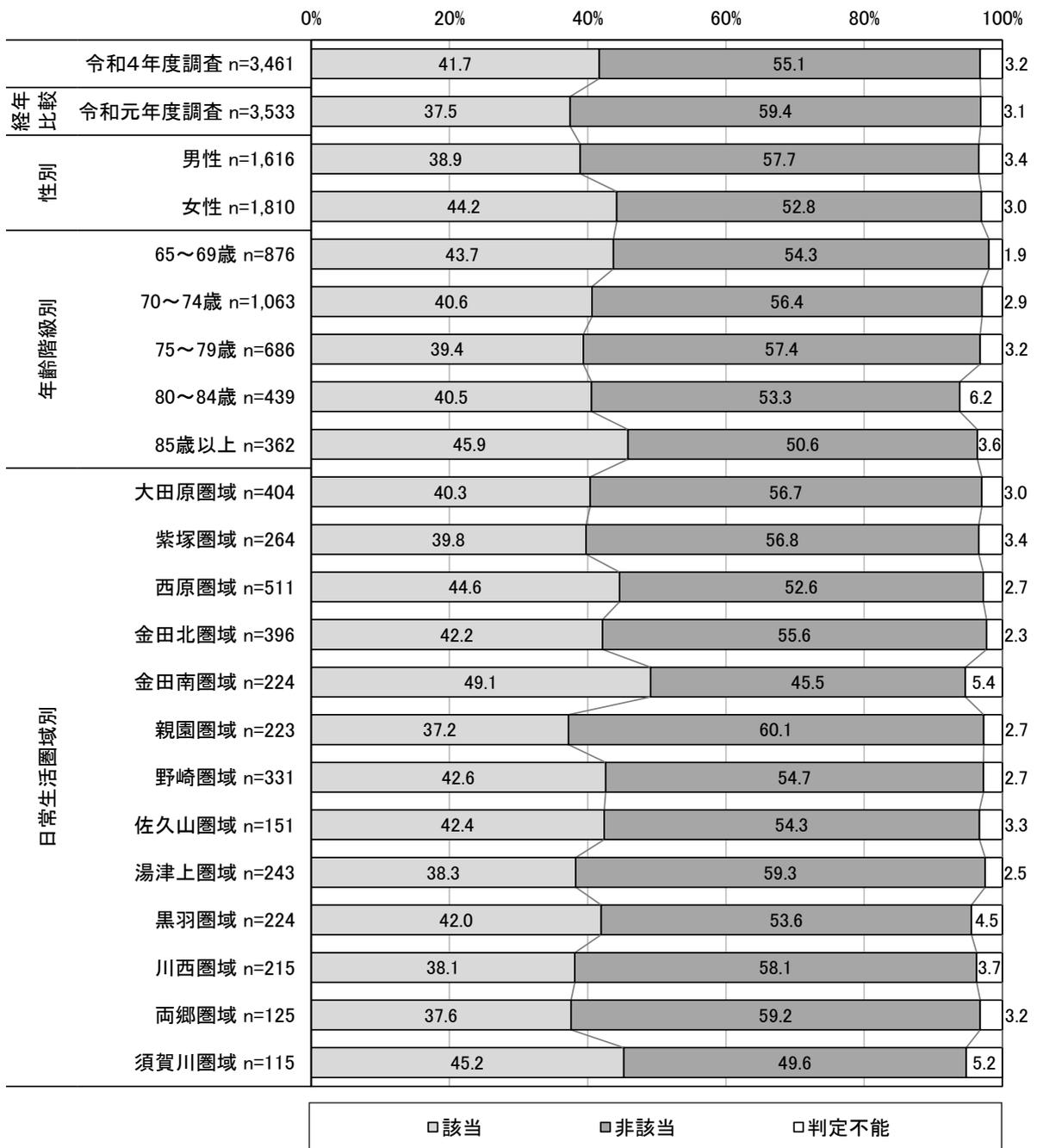
うつについての結果をみると、令和4年度調査では41.7%が該当者となっています。

性別では、該当者は、男性が38.9%、女性が44.2%で、男性に比べ女性のほうが5.3ポイント上回っています。

年齢階級別では、全ての年代で該当者の割合が高く、85歳以上が45.9%と最も高くなっています。

日常生活圏域別では、該当者の割合は、金田南圏域が49.1%で最も高く、次いで須賀川圏域が45.2%、西原圏域が44.6%となっています。

令和元年度調査と比較して、該当者は37.5%から41.7%へ4.2ポイント増加しています。



2. その他の生活機能判定

介護予防のための生活機能評価のほかに、本調査票には、下記の機能を評価するための設問が設けられています。

評価にあたっては、下記の評価方法で実施しています。

○各機能の評価方法

項目	判定に用いた設問番号	評価方法
①転倒リスク	問2-(4) (1問)	「何度もある」、「1度ある」と回答した場合、転倒のリスクのある高齢者とする
②手段的日常生活動作 (IADL)	問4-(4)~(8) (計5問)	「できるし、している」、「できるけどしていない」と回答した場合を1点とし、5点満点の5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」と評価する
③知的能動性	問4-(9)~(12) (計4問)	「はい」と回答した場合を1点とし、4点満点の4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価する
④社会的役割	問4-(13)~(16) (計4問)	「はい」と回答した場合を1点とし、4点満点の4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価する
⑤生活機能総合評価	問4-(4)~(16) (計13問)	「できるし、している」、「できるけどしていない」または「はい」と回答した場合を1点とし、13点満点の11点以上を「高い」、9~10点を「やや低い」、8点以下を「低い」と評価する

○その他の生活機能判定に用いた設問番号と評価方法

設問番号	判定に用いた設問	該当する選択肢
問2-(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 「2. 1度ある」
問4-(4)	バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問4-(5)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問4-(6)	自分で食事の用意をしていますか	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問4-(7)	自分で請求書の支払いをしていますか	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問4-(8)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問4-(9)	年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか	「1. はい」
問4-(10)	新聞を読んでいますか	「1. はい」
問4-(11)	本や雑誌を読んでいますか	「1. はい」
問4-(12)	健康についての記事や番組に関心がありますか	「1. はい」
問4-(13)	友人の家を訪ねていますか	「1. はい」
問4-(14)	家族や友人の相談にのっていますか	「1. はい」
問4-(15)	病人を見舞うことができますか	「1. はい」
問4-(16)	若い人に自分から話しかけることがありますか	「1. はい」

①転倒リスク

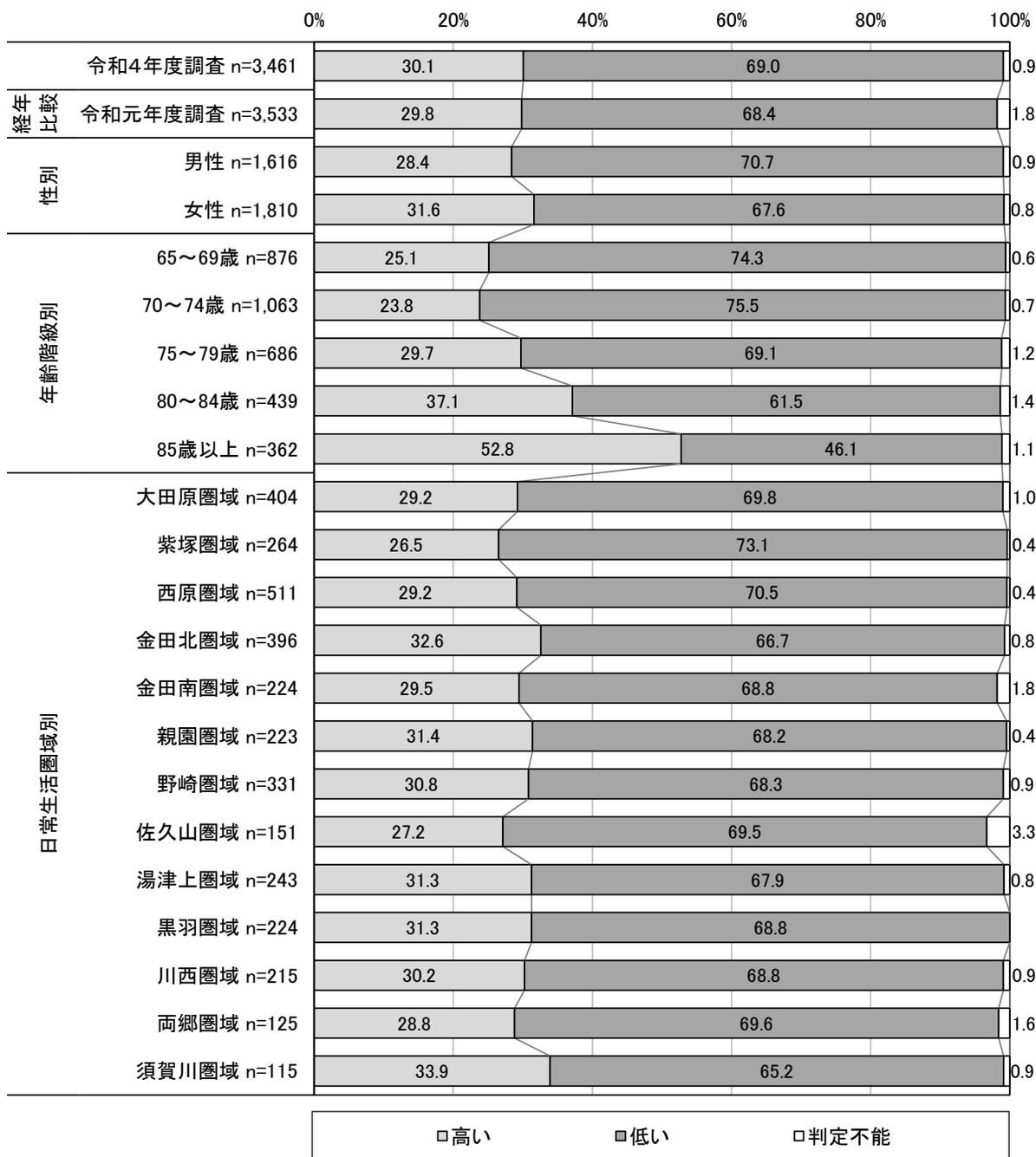
転倒リスクについての結果をみると、令和4年度調査では30.1%が「高い」となっています。

性別では、「高い」の割合は、男性が28.4%、女性が31.6%で、男性に比べ女性のほうが3.2ポイント上回っています。

年齢階級別では、年齢が上がるにつれて「高い」の割合が増加する傾向があり、85歳以上では5割を超えています。

日常生活圏域別では、「高い」の割合は、須賀川圏域が33.9%で最も高く、次いで金田北圏域が32.6%、親園圏域が31.4%となっています。

令和元年度調査と比較して、「高い」は29.8%から30.1%へ0.3ポイント増加しています。



②手段的日常生活動作（IADL）

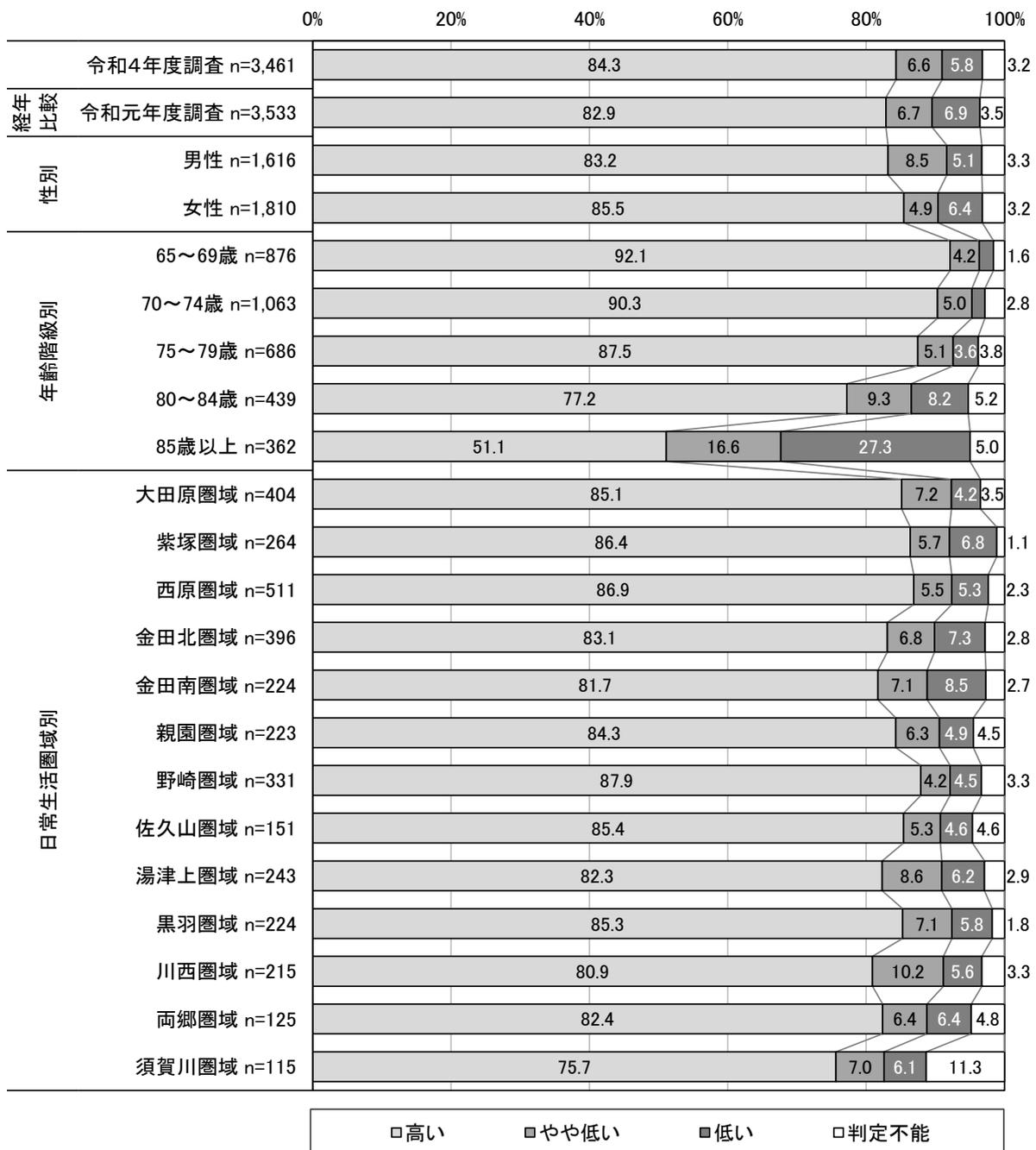
手段的日常生活動作（IADL）の「低い」の割合についてみると、令和4年度調査では5.8%となっています。

性別では、「低い」の割合は、男性が5.1%、女性が6.4%で、男性に比べ女性のほうが1.3ポイント上回っています。

年齢階級別では、年齢が上がるにつれて「低い」の割合が増加する傾向があり、85歳以上では2割半ばを超えています。

日常生活圏域別では、「低い」の割合は、金田南圏域が8.5%で最も高く、次いで金田北圏域が7.3%、紫塚圏域が6.8%となっています。

令和元年度調査と比較して、「低い」は6.9%から5.8%へ1.1ポイント減少しています。



③知的能動性

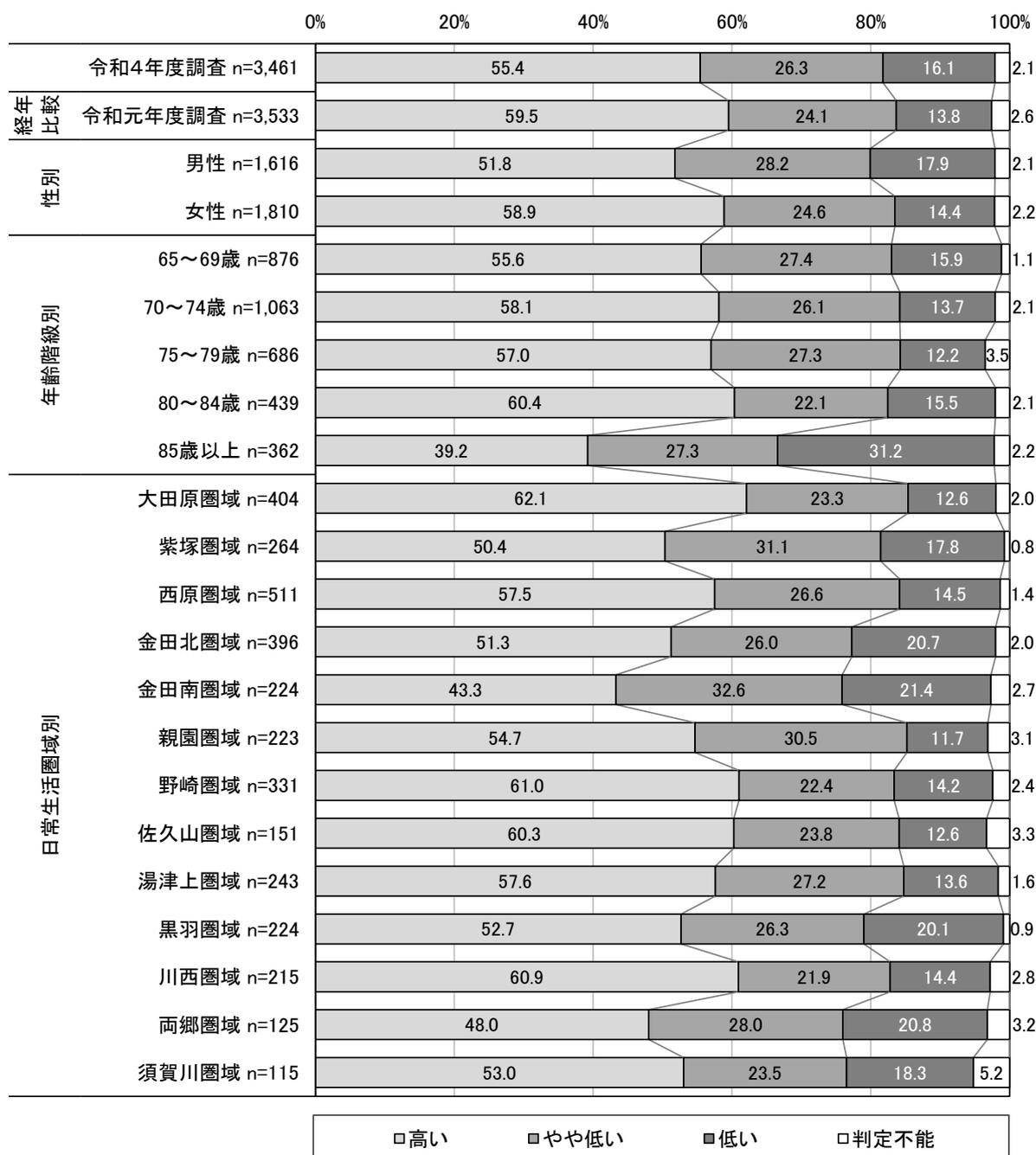
知的能動性の「低い」の割合についてみると、令和4年度調査では 16.1%となっています。

性別では、「低い」の割合は、男性が 17.9%、女性が 14.4%で、女性に比べ男性のほうが 3.5 ポイント上回っています。

年齢階級別では、「低い」の割合は、85 歳以上で 3 割を超えています。

日常生活圏域別では、「低い」の割合は、金田南圏域が 21.4%で最も高く、次いで両郷圏域が 20.8%、金田北圏域が 20.7%となっています。

令和元年度調査と比較して、「低い」は 13.8%から 16.1%へ 2.3 ポイント増加しています。



④社会的役割

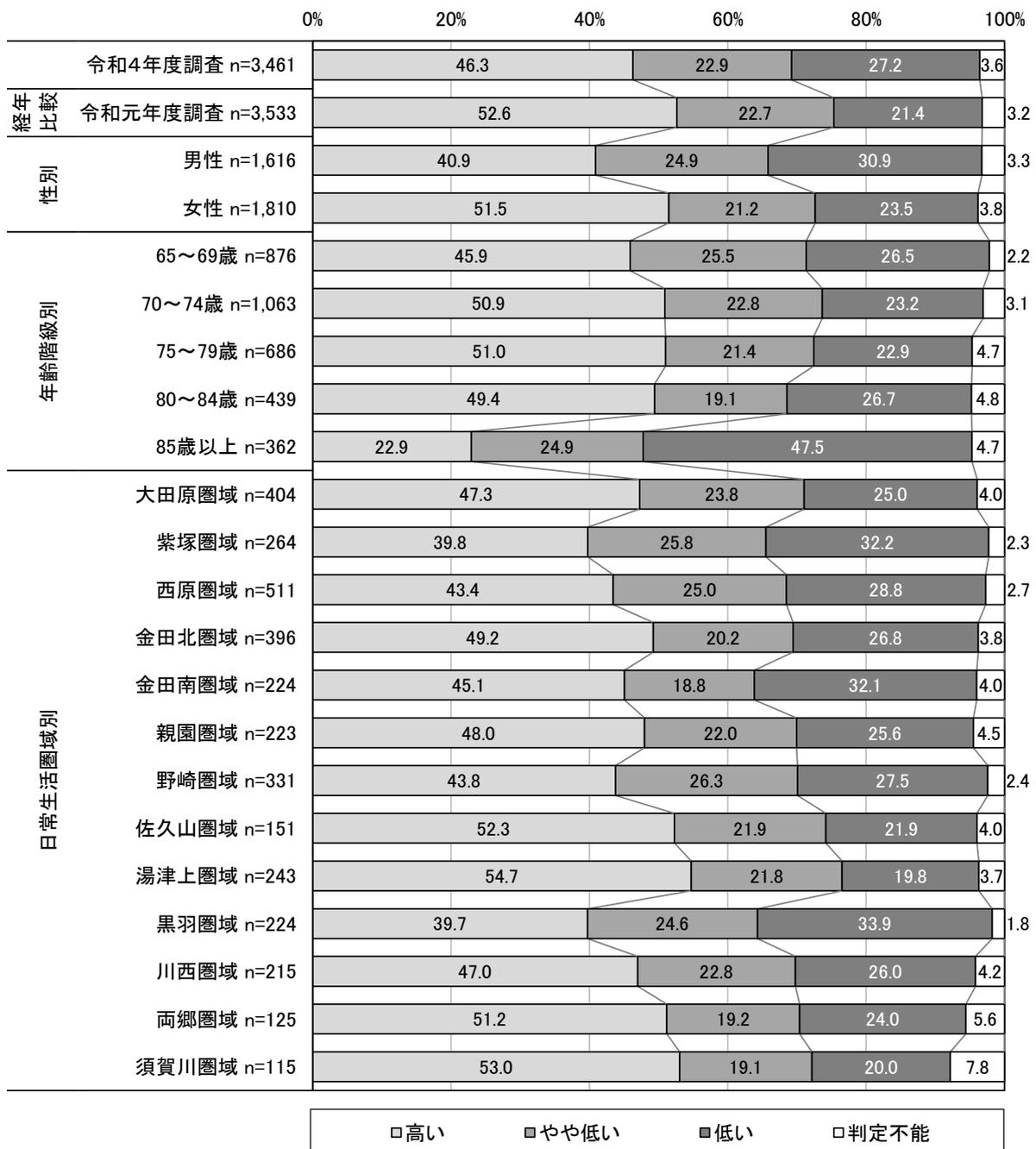
社会的役割の「低い」の割合についてみると、令和4年度調査では27.2%となっています。

性別では、「低い」の割合は、男性が30.9%、女性が23.5%で、女性に比べ男性のほうが7.4ポイント上回っています。

年齢階級別では、「低い」の割合は、85歳以上では4割半ばを超えています。

日常生活圏域別では、「低い」の割合は、黒羽圏域が33.9%で最も高く、次いで紫塚圏域が32.2%、金田南圏域が32.1%となっています。

令和元年度調査と比較して、「低い」は21.4%から27.2%へ5.8ポイント増加しています。



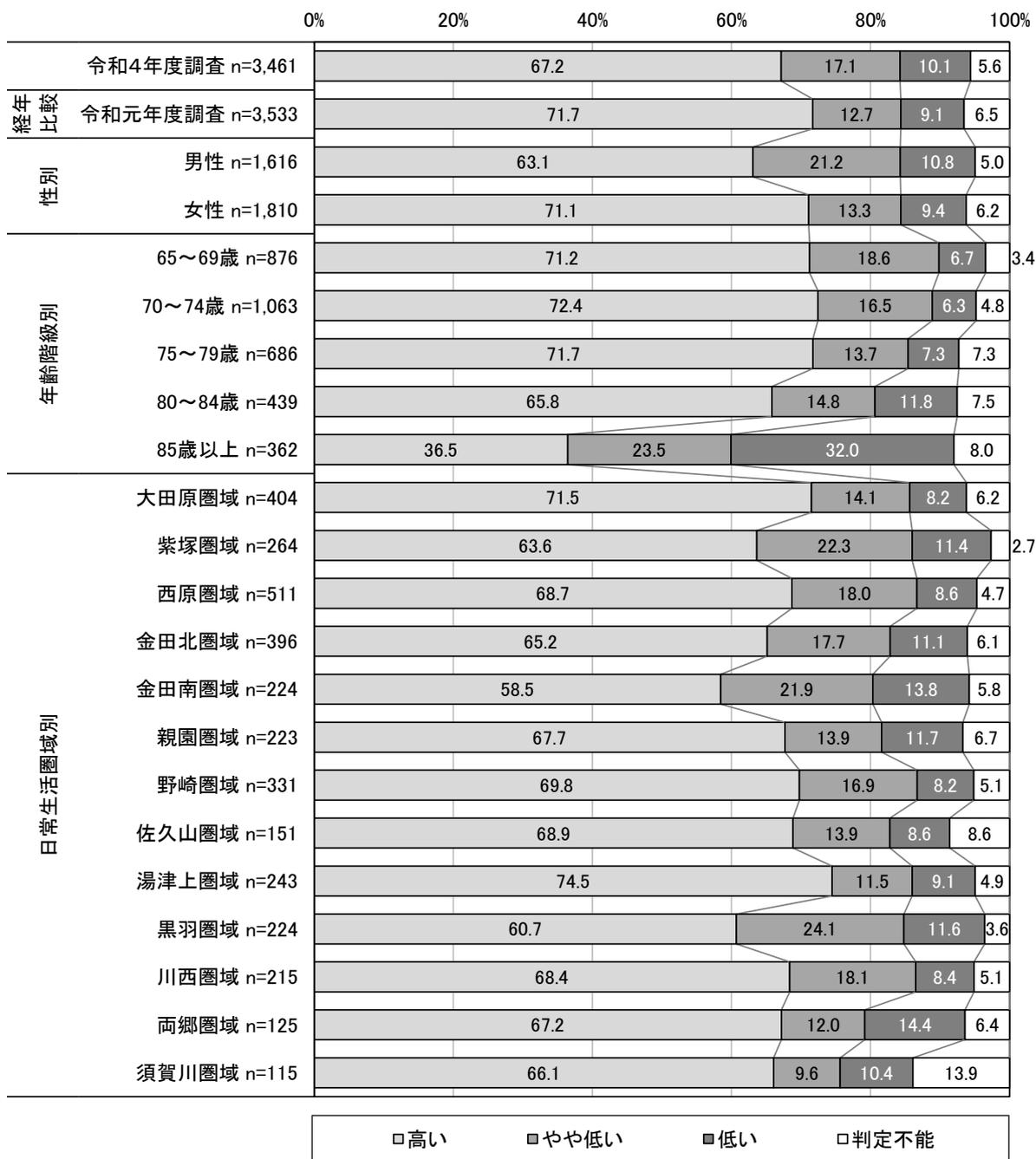
⑤生活機能総合評価

生活機能総合評価の「低い」の割合についてみると、令和4年度調査では 10.1%となっています。性別では、「低い」の割合は、男性が 10.8%、女性が 9.4%で、女性に比べ男性のほうが 1.4 ポイント上回っています。

年齢階級別では、年齢が上がるにつれて「低い」の割合が増加する傾向があり、85歳以上では3割を超えています。

日常生活圏域別では、「低い」の割合は、両郷圏域が 14.4%で最も高く、次いで金田南圏域が 13.8%、親園圏域が 11.7%となっています。

令和元年度調査と比較して、「低い」は 9.1%から 10.1%へ 1.0 ポイント増加しています。



V 資料編（使用した調査票）

V 資料編（使用した調査票）

大田原市 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 調査票

はじめに

市民の皆さまには、日頃から大田原市の市政発展のためご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

大田原市では、来年度「大田原市高齢者福祉計画・介護保険事業計画（あんしんプラン）第9期計画」（計画期間：令和6年度～令和8年度）の策定を予定しております。

計画策定に当たり、この計画がより実のあるものとなるよう、皆さまの日頃の生活状況や大田原市の介護保険制度に対するご意見やご要望をお聞かせいただく「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」を実施いたします。

調査対象は、市内にお住まいの要介護1～5以外の65歳以上の方々から、5,000人の方を無作為に選びました。

お答えいただきました内容は、全て統計的に処理し、調査目的以外に使用することはありません。

お忙しい中恐れ入りますが、調査の目的をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和4年11月

大田原市長 相馬 憲一

調査票記入後は、3つ折りにして、同封の返信用封筒に入れて、令和4年12月12日（月）までに投函（切手不要）してください。

大田原市 保健福祉部 高齢者幸福課

記入に際してのお願い

1. この調査の対象者は、令和4年10月1日現在、要介護1～5以外の65歳以上の方です。
2. ご回答にあたってはあて名のご本人についてお答えいただきますが、ご家族の方がご本人の代わりに回答されたり、ご一緒に回答されてもかまいません。
3. ご回答にあたっては質問をよくお読みいただき、該当する回答に☑（レ点チェック）をつけてください。また、その他（ ）には、具体的にご記入ください。
4. 数字を記入する欄は右詰め（例

0	6	2
---	---	---

 kg）でご記入ください。
5. この調査で使う用語の意味は、以下のとおりです。

介護…介護保険のサービスを受けている場合のほか、認定を受けていない場合でも、
常時ご家族などの援助を受けている状態

介助…ご自分の意思により、一時的に他人に援助を頼んでいる状態

個人情報の取扱いについて

個人情報の保護および活用目的は以下のとおりですので、ご確認ください。なお、本調査票のご返送をもちまして、下記にご同意いただいたものと見なさせていただきます。

【個人情報の保護および活用目的について】

- ◆この調査は、効果的な介護予防施策の立案と効果評価のために行うものです。本調査で得られた情報につきましては、大田原市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定と効果評価の目的以外には利用いたしません。また、当該情報については、大田原市が適切に管理いたします。
- ◆ただし、計画策定時および効果評価時に本調査で得られたデータを活用するにあたり、厚生労働省の管理するデータベース内に情報を登録し、必要に応じて集計・分析するなど、個人が識別されない形で利用することがあります。

【この調査のお問い合わせ先】

大田原市 保健福祉部 高齢者幸福課 介護管理係
〒324-8641 大田原市本町1丁目4番1号
電話：0287-23-8865

質問の該当する答えに☑（レ点チェック）をつけ、数字記入欄は数字を記入してください。

①. 記入日について、ご回答ください

令和4年 月 日

②. 調査票を記入されたのはどなたですか（回答は1つ）

- あて名のご本人が記入
- ご家族が記入（あて名のご本人からみた続柄 _____）
- その他

問1 あなたのご家族や生活状況について

(1) 家族構成をお教えてください（回答は1つ）

- 1人暮らし 夫婦2人暮らし（配偶者 65歳以上）
- 夫婦2人暮らし（配偶者 64歳以下） 息子・娘との2世帯
- その他

(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか（回答は1つ）

- 介護・介助は必要ない
- 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
- 現在、何らかの介護を受けている
（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）

<p>【(2) において「介護・介助は必要ない」以外の方のみ】</p> <p>①介護・介助が必要になった主な原因はなんですか (あてはまるものすべてに回答)</p>		
<input type="checkbox"/> 脳卒中 (脳出血・脳梗塞等) <small>のうそっちゅう のうしゅっけつ・のうこうそく</small>	<input type="checkbox"/> 心臓病	
<input type="checkbox"/> がん (悪性新生物)	<input type="checkbox"/> 呼吸器の病気 (肺気腫・肺炎等) <small>はいきしゅ</small>	
<input type="checkbox"/> 関節の病気 (リウマチ等)	<input type="checkbox"/> 認知症 (アルツハイマー病等) <small>にんちしょう</small>	
<input type="checkbox"/> パーキンソン病	<input type="checkbox"/> 糖尿病 <small>とうようびょう</small>	
<input type="checkbox"/> 腎疾患 (透析) <small>じんしつかん どうせき</small>	<input type="checkbox"/> 視覚・聴覚障害 <small>しかく ちょうかくしょうがい</small>	
<input type="checkbox"/> 骨折・転倒 <small>こっせつ てんとう</small>	<input type="checkbox"/> 脊椎損傷 <small>せきついそんしょう</small>	
<input type="checkbox"/> 高齢による衰弱 <small>すいじゃく</small>	<input type="checkbox"/> その他 ()	
<input type="checkbox"/> 不明		
<p>【(2) において「現在、何らかの介護を受けている」の方のみ】</p> <p>②主にどなたの介護・介助を受けていますか (あてはまるものすべてに回答)</p>		
<input type="checkbox"/> 配偶者 (夫・妻)	<input type="checkbox"/> 息子	<input type="checkbox"/> 娘
<input type="checkbox"/> 子の配偶者	<input type="checkbox"/> 孫	<input type="checkbox"/> 兄弟・姉妹
<input type="checkbox"/> 介護サービスのヘルパー	<input type="checkbox"/> その他 ()	
<p>(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか (回答は1つ)</p>		
<input type="checkbox"/> 大変苦しい	<input type="checkbox"/> やや苦しい	<input type="checkbox"/> ふつう
<input type="checkbox"/> ややゆとりがある	<input type="checkbox"/> 大変ゆとりがある	
<p>(4) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか (回答は1つ)</p>		
<input type="checkbox"/> 持家 (一戸建て)	<input type="checkbox"/> 持家 (集合住宅)	
<input type="checkbox"/> 公営賃貸住宅 <small>こうえいちんたいじゅうたく</small>	<input type="checkbox"/> 民間賃貸住宅 (一戸建て) <small>みんかんちんたいじゅうたく</small>	
<input type="checkbox"/> 民間賃貸住宅 (集合住宅) <small>みんかんちんたいじゅうたく</small>	<input type="checkbox"/> 借家	
<input type="checkbox"/> その他		

問2 からだを動かすことについて

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか（回答は1つ）

 できるし、している できるけどしていない できない

(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか（回答は1つ）

 できるし、している できるけどしていない できない

(3) 15分位続けて歩いていますか（回答は1つ）

 できるし、している できるけどしていない できない

(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか（回答は1つ）

 何度もある 1度ある ない

(5) 転倒に対する不安は大きいですか（回答は1つ）

 とても不安である やや不安である あまり不安でない 不安でない

(6) 週に1回以上は外出していますか（回答は1つ）

 ほとんど外出しない 週1回 週2～4回 週5回以上

(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか（回答は1つ）

 とても減っている 減っている あまり減っていない 減っていない

(8) 外出を控えていますか（回答は1つ）

 はい いいえ

（5）歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか（回答は1つ）		
<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ	
（6）歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください（回答は1つ） （成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です）		
<input type="checkbox"/> 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用	<input type="checkbox"/> 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし	
<input type="checkbox"/> 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用	<input type="checkbox"/> 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし	
①^か噛み合わせは良いですか（回答は1つ）		
<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ	
【（6）において「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の方のみ】		
②毎日入れ歯の手入れをしていますか（回答は1つ）		
<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ	
（7）6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか（回答は1つ）		
<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ	
（8）どなたかと食事をとにもする機会がありますか（回答は1つ）		
<input type="checkbox"/> 毎日ある	<input type="checkbox"/> 週に何度かある	<input type="checkbox"/> 月に何度かある
<input type="checkbox"/> 年に何度かある	<input type="checkbox"/> ほとんどない	

問4 毎日の生活について

（1）物忘れが多いと感じますか（回答は1つ）		
<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ	
（2）自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか（回答は1つ）		
<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ	

(3) 今日が何月何日かわからないときがありますか（回答は1つ）		
<input type="checkbox"/> はい		<input type="checkbox"/> いいえ
(4) バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可） （回答は1つ）		
<input type="checkbox"/> できるし、している	<input type="checkbox"/> できるけどしていない	<input type="checkbox"/> できない
(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか（回答は1つ）		
<input type="checkbox"/> できるし、している	<input type="checkbox"/> できるけどしていない	<input type="checkbox"/> できない
(6) 自分で食事の用意をしていますか（回答は1つ）		
<input type="checkbox"/> できるし、している	<input type="checkbox"/> できるけどしていない	<input type="checkbox"/> できない
(7) 自分で請求書の支払いをしていますか（回答は1つ）		
<input type="checkbox"/> できるし、している	<input type="checkbox"/> できるけどしていない	<input type="checkbox"/> できない
(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか（回答は1つ）		
<input type="checkbox"/> できるし、している	<input type="checkbox"/> できるけどしていない	<input type="checkbox"/> できない
(9) 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか（回答は1つ）		
<input type="checkbox"/> はい		<input type="checkbox"/> いいえ
(10) 新聞を読んでいますか（回答は1つ）		
<input type="checkbox"/> はい		<input type="checkbox"/> いいえ
(11) 本や雑誌を読んでいますか（回答は1つ）		
<input type="checkbox"/> はい		<input type="checkbox"/> いいえ
(12) 健康についての記事や番組に関心がありますか（回答は1つ）		
<input type="checkbox"/> はい		<input type="checkbox"/> いいえ

問5 地域での活動について

(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか
※①-⑧それぞれに回答してください（それぞれ回答は1つ）

	週4回 以上	週2 ~3回	週1回	月1 ~3回	年に 数回	参加して いない
① ボランティアのグループ	<input type="checkbox"/>					
② スポーツ関係のグループ やクラブ	<input type="checkbox"/>					
③ 趣味関係のグループ	<input type="checkbox"/>					
④ 学習・教養サークル	<input type="checkbox"/>					
⑤ ほほえみセンター・ささ え愛サロン	<input type="checkbox"/>					
⑥ 老人クラブ	<input type="checkbox"/>					
⑦ 町内会・自治会	<input type="checkbox"/>					
⑧ 収入のある仕事	<input type="checkbox"/>					

(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか（回答は1つ）

是非参加したい 参加してもよい 参加したくない 既に参加している

(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか（回答は1つ）

是非参加したい 参加してもよい 参加したくない 既に参加している

問6

たすけあいについて

あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします

(1) あなたの心配事や愚痴ぐちを聞いてくれる人（あてはまるものすべてに回答）

- 配偶者 同居の子ども 別居の子ども
 兄弟姉妹・親戚・親・孫 近隣 友人
 その他（ ） そのような人はいない

(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴ぐちを聞いてあげる人
（あてはまるものすべてに回答）

- 配偶者 同居の子ども 別居の子ども
 兄弟姉妹・親戚・親・孫 近隣 友人
 その他（ ） そのような人はいない

(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人
（あてはまるものすべてに回答）

- 配偶者 同居の子ども 別居の子ども
 兄弟姉妹・親戚・親・孫 近隣 友人
 その他（ ） そのような人はいない

(4) 反対に、看病や世話をしてあげる人（あてはまるものすべてに回答）

- 配偶者 同居の子ども 別居の子ども
 兄弟姉妹・親戚・親・孫 近隣 友人
 その他（ ） そのような人はいない

(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください
（あてはまるものすべてに回答）

- 自治会・町内会・老人クラブ 社会福祉協議会・民生委員
 ケアマネジャー 医師・歯科医師・看護師
 地域包括支援センター・市役所 その他
 そのような人はいない

(6) 友人・知人と会う ^{ひんど} 頻度はどれくらいですか（回答は1つ）		
<input type="checkbox"/> 毎日ある	<input type="checkbox"/> 週に何度かある	<input type="checkbox"/> 月に何度かある
<input type="checkbox"/> 年に何度かある	<input type="checkbox"/> ほとんどない	
(7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか 同じ人には何度会っても1人と数えることとします（回答は1つ）		
<input type="checkbox"/> 0人（いない）	<input type="checkbox"/> 1～2人	<input type="checkbox"/> 3～5人
<input type="checkbox"/> 6～9人	<input type="checkbox"/> 10人以上	
(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか（あてはまるものすべてに回答）		
<input type="checkbox"/> 近所・同じ地域の人	<input type="checkbox"/> 幼なじみ	
<input type="checkbox"/> 学生時代の友人	<input type="checkbox"/> 仕事での同僚・元同僚	
<input type="checkbox"/> 趣味や関心が同じ友人	<input type="checkbox"/> ボランティア等の活動での友人	
<input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> いない	

問7	健康について									
(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか（回答は1つ）										
<input type="checkbox"/> とてもよい	<input type="checkbox"/> まあよい	<input type="checkbox"/> あまりよくない	<input type="checkbox"/> よくない							
(2) あなたは、現在どの程度幸せですか（回答は1つ） （「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください）										
とても 不幸										とても 幸せ
0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあり ましたか（回答は1つ）										
<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ									

(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか（回答は1つ）

- はい いいえ

(5) お酒は飲みますか（回答は1つ）

- ほぼ毎日飲む 時々飲む ほとんど飲まない
 もともと飲まない

(6) タバコは吸っていますか（回答は1つ）

- ほぼ毎日吸っている 時々吸っている 吸っていたがやめた
 もともと吸っていない

(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか
（あてはまるものすべてに回答）

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> ない | <input type="checkbox"/> 高血圧 |
| <input type="checkbox"/> <small>のうそっちゅう</small> 脳卒中（ <small>のうしゅっけつ</small> 脳出血・ <small>のうこうそく</small> 脳梗塞等） | <input type="checkbox"/> 心臓病 |
| <input type="checkbox"/> <small>とうにょうびょう</small> 糖尿病 | <input type="checkbox"/> <small>こうしけっしょう</small> 高脂血症（ <small>しじついじょう</small> 脂質異常） |
| <input type="checkbox"/> 呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等） | <input type="checkbox"/> 胃腸・肝臓・胆のうの病気 |
| <input type="checkbox"/> <small>じんぞう</small> 腎臓・ <small>ぜんりつせん</small> 前立腺の病気 | <input type="checkbox"/> <small>きんこっかく</small> 筋骨格の病気（ <small>こつそ</small> 骨粗しょう症、 <small>しょう</small> 関節症等） |
| <input type="checkbox"/> <small>がいしょう</small> 外傷（ <small>てんとう</small> 転倒・ <small>こっせつ</small> 骨折等） | <input type="checkbox"/> がん（悪性新生物） |
| <input type="checkbox"/> <small>めんえき</small> 血液・免疫の病気 | <input type="checkbox"/> うつ病 |
| <input type="checkbox"/> <small>にんちしょう</small> 認知症（アルツハイマー病等） | <input type="checkbox"/> パーキンソン病 |
| <input type="checkbox"/> 目の病気 | <input type="checkbox"/> 耳の病気 |
| <input type="checkbox"/> その他（ | ） |

問8 認知症にかかる相談窓口の把握について

(1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか
（回答は1つ）

- はい いいえ

（４）介護保険制度をよくするため、あなたは次のうちどれに力を入れるべきだとお考えですか（回答は3つまで）

- 介護サービスの利用が増えるよう、啓発・PRを進めること
- 在宅生活が続けられるための在宅介護サービスを充実させること
- 生活機能の維持回復を図る予防サービスを充実させること
- 要介護認定の申請手続きやサービスを充実させること
- 困ったときに気軽に相談できる場所を増やすこと
- 介護支援専門員やヘルパーなどの人材を育成すること
- サービス事業者の質の向上に努めること
- 特別養護老人ホームなどの施設を増やしていくこと
- 生活が困難と認められる低所得者への対策を講じること
- その他（）
- わからない

問10 在宅医療について

（１）あなたが病気やけがで長期の療養が必要になり、通院が困難になった場合、自宅で療養したいと思いますか（回答は1つ）

- そう思う
- そう思わない

【（１）において「そう思う」の方のみ】

①自宅での療養は可能だと思いますか（回答は1つ）

- 実現可能だと思う
- 実現は難しいと思う

<p>【①において「実現は難しいと思う」の方のみ】</p>	
<p>②自宅での療養が難しいと思う理由は何ですか（回答は3つまで）</p>	
<p><input type="checkbox"/> 急に病状が悪化した時の対応が不安だから</p> <p><input type="checkbox"/> 家族に負担がかかるから</p> <p><input type="checkbox"/> 療養できる部屋やトイレなどの療養環境が整っていないから</p> <p><input type="checkbox"/> 自宅に往診してくれる医師や看護師が見つからないから</p> <p><input type="checkbox"/> 介護してくれる家族がないから</p> <p><input type="checkbox"/> 医師や看護師に自宅の中を見られたくないから</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	
<p>【(1)において「そう思わない」の方のみ】</p>	
<p>③自宅での療養を希望しない理由は何ですか（回答は3つまで）</p>	
<p><input type="checkbox"/> 急に病状が悪化した時の対応が不安だから</p> <p><input type="checkbox"/> 家族に負担がかかるから</p> <p><input type="checkbox"/> 療養できる部屋やトイレなどの療養環境が整っていないから</p> <p><input type="checkbox"/> 自宅に往診してくれる医師や看護師が見つからないから</p> <p><input type="checkbox"/> 介護してくれる家族がないから</p> <p><input type="checkbox"/> 医師や看護師に自宅の中を見られたくないから</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	
<p>(2) 在宅医療を支える仕組みのひとつに「訪問診療（※）」がありますが、あなたはこのサービスを知っていますか（回答は1つ）</p> <p>※「訪問診療」とは、通院が困難な患者の自宅等を医師が定期的に訪問して行う医療サービスのことです</p>	
<p><input type="checkbox"/> 利用したことがある</p> <p><input type="checkbox"/> 内容は知らないが、聞いたことはある</p>	<p><input type="checkbox"/> 内容は知っているが、利用したことはない</p> <p><input type="checkbox"/> 聞いたこともない</p>

(3) 在宅医療を支える仕組みのひとつに「訪問看護（※）」がありますが、あなたはこのサービスを知っていますか（回答は1つ）

※「訪問看護」とは、看護師が医師の指示を受け、患者の自宅等を訪問して行う看護サービスのことです

- 利用したことがある 内容は知っているが、利用したことはない
- 内容は知らないが、聞いたことはある 聞いたこともない

(4) あなたが病気やけがで長期の療養が必要になり、通院が困難になった場合、病院や介護事業所が近くにある地域（市内中心部など）に住み替えたいと思いますか（回答は1つ）

- そう思う すでにそうした地域に住んでいる
- そう思わない

問11 成年後見制度について

(1) 成年後見制度を知っていますか（回答は1つ）

※成年後見制度とは、18歳以上の方が知的障害や精神障害、認知症などによって判断能力が不十分な場合、契約などで不利益を被ってしまうことを防ぐために保護・支援する制度です

- 制度の内容を理解している 制度があることは知っている
- 全く知らない

問12 ICT機器の利用状況について

(1) あなたはスマートフォン（スマホ）を持っていますか（回答は1つ）

- 持っていて、電話以外の機能（インターネット、メール等）も利用している
- 持っているが、電話機能しか使わない
- 持っていない

（2）あなたは、インターネットを使えますか（回答は1つ）

- 使える
- 補助者がいれば、使える
- 使えない

（3）ご自宅にインターネットに接続できる環境（パソコン、スマートフォン（スマホ）、タブレット等）がありますか（回答は1つ）

- ある
- ない
- わからない

（4）ICT機器（インターネット、スマートフォン（スマホ）等）を利用するための教室等が開催された場合、参加したいと思いますか（回答は1つ）

- ぜひ参加したい
- どちらかと言えば参加したい
- どちらかと言えば参加したいとは思わない
- まったく参加したいとは思わない

以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました。
調査票を3つ折りにして、同封の返信用封筒に入れて、
令和4年12月12日（月）までに投函（切手不要）してください。

**令和4年度
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
【結果報告書】**

令和5年3月発行

発行 大田原市

編集 大田原市 高齢者幸福課

〒324-8641

栃木県大田原市本町1-4-1